

**葉山町障害者福祉に関するアンケート調査
結果報告書
(案)**

令和2年9月

葉山町

<目 次>

I	調査の概要.....	1
1	調査の目的.....	3
2	調査の方法.....	3
	(1) 調査対象者と抽出方法.....	3
	(2) 調査時期.....	3
	(3) 調査方法.....	3
3	回収状況.....	3
4	報告書の利用にあたって.....	4
II	障害のある方調査結果.....	5
1	基本属性.....	7
	(1) アンケート記入者.....	7
	(2) 居住する地区.....	8
	(3) 性別.....	9
	(4) 年齢.....	10
	(5) 身体障害者手帳の所持状況.....	12
	(6) 障害の種類.....	14
	①障害の種類.....	14
	②最も重い障害の種類.....	15
	(7) 療育手帳の所持状況.....	16
	(8) 精神障害者保健福祉手帳の所持状況.....	17
	(9) 難病診断.....	18
	(10) 発達障害診断.....	19
	(11) 高次脳機能障害としての受診.....	20
	①受診状況.....	20
	②関連障害.....	21
	(12) 治療の状況.....	22
	(13) 医療的ケア.....	23
	①医療的ケアの状況.....	23
	②医療的ケアの種類.....	24
	(14) 診療・健診・リハビリ等を受ける際の困りごと.....	26
	(15) 介護保険の要介護認定状況.....	30
	①介護保険の認定状況.....	30
	②要介護度.....	31
	(16) 日常生活の状況.....	33
	(17) 主な介助者.....	36

(18) 主な介助者の年齢.....	37
2 住まいや生活について	39
(1) 月収.....	39
(2) 暮らしの状況.....	41
①現在の暮らし	41
②同居者.....	42
(3) 地域での生活意向	43
(4) 地域で生活するための支援.....	44
(5) 5年後の過ごし方	48
(6) 日常生活における困りごとや不安に思うこと	52
3 日中活動や就労・通園・通学について	58
(1) 外出頻度	58
(2) 外出の際の同伴者	59
(3) 外出の目的.....	60
(4) 外出時の交通手段	62
(5) 外出時の困りごと	64
(6) 日中の過ごし方.....	68
(7) 日中の活動場所・内容	69
①勤務形態	69
②就労先をみつけた方法	70
③通園・通学先.....	72
④園や学校卒業後の進路	73
⑤その他の日中の過ごし方	74
(8) 就労意向	76
(9) 職業訓練意向.....	77
(10) 就労支援として必要なこと	78
(11) 日中の過ごし方の満足度	82
4 障害福祉サービス等の利用について	83
(1) 障害程度区分・障害支援区分の認定状況.....	83
(2) サービスの利用状況と今後の利用意向.....	85
(3) 地域生活支援事業のサービスの利用状況と今後の利用意向	88
(4) 計画相談支援について	89
(5) 障害福祉サービスの利用についての困りごと	91
5 相談相手について	95
(1) 差別や嫌な思いをした経験.....	95
(2) 差別や嫌な思いをした場所.....	96
(3) 困ったときの相談相手	98
(4) 相談するために必要なこと.....	100
(5) 障害や福祉サービスに関する情報の入手先.....	104
(6) 近所づきあいの程度	106
(7) 近所づきあいの必要度	107
(8) 成年後見制度の認知状況.....	108
(9) 障害者差別解消法の認知状況.....	109
(10) 「合理的配慮」の認知状況	110
6 災害時の避難等について	111
(1) 災害時の一人での避難	111

(2) 避難行動要支援者リストの認知状況.....	1 1 4
(3) 避難行動要支援者リストへの登録状況.....	1 1 5
(4) 近所に助けてくれる人の有無.....	1 1 6
(5) 災害時の困りごと.....	1 1 7
7 障害者施策について.....	1 2 1
(1) 葉山町の暮らしやすさ.....	1 2 1
(2) 障害者施策の充実のための重要な取り組み.....	1 2 8

Ⅲ 一般町民調査結果..... 130

1 基本属性.....	1 3 1
(1) 居住する地区.....	1 3 1
(2) 性別.....	1 3 1
(3) 年齢.....	1 3 2
2 障害者との関わりについて.....	1 3 3
(1) 身近な障害者の存在.....	1 3 3
(2) 身近な障害者との間柄.....	1 3 3
(3) 障害者との交流の機会.....	1 3 4
(4) 障害者との交流の種類.....	1 3 4
(5) 障害者への手伝い・支援の経験.....	1 3 5
(6) 障害者への手伝い・支援の種類.....	1 3 5
(7) 今後の障害者支援の意向について.....	1 3 6
(8) 障害者支援に積極的になれない理由.....	1 3 6
(9) 障害者支援に関心がない理由.....	1 3 7
(10) 相互の理解・交流の促進のために大切なこと.....	1 3 7
3 ボランティア活動について.....	1 3 8
(1) 障害者に関わるボランティア活動への関心.....	1 3 8
(2) これまでに参加したことのある活動.....	1 3 8
(3) ボランティア活動に参加してみて困ったこと.....	1 3 9
(4) 今後のボランティア活動への参加意向.....	1 3 9
(5) ボランティア活動に参加するために必要なこと.....	1 4 0
(6) 障害者に関わるボランティア活動への関心がない理由.....	1 4 0
4 障害児の教育について.....	1 4 1
(1) 発達障害の認知状況.....	1 4 1
(2) 特別支援教育の認知状況.....	1 4 1
(3) 障害児の学びの場について.....	1 4 2
(4) 障害児の健全な育成のために必要な取り組み.....	1 4 2
5 障害者の就労について.....	1 4 3
(1) 法定雇用率の認知状況.....	1 4 3
(2) ジョブコーチの認知状況.....	1 4 3
(3) 障害者の企業等での就労のために必要な取り組み.....	1 4 4
6 障害福祉に対する意識について.....	1 4 5
(1) 障害福祉に関わる言葉の認知状況.....	1 4 5
(2) 障害福祉に関わる言葉を知った媒体.....	1 4 6
(3) 成年後見制度の認知状況.....	1 4 6

(4) 障害者差別解消法の認知状況	147
(5) 合理的配慮の認知状況	147
(6) 障害を理由とした差別について	148
(7) とともに同じ社会で活動していくために大切なこと	150
7 葉山町の障害者施策について	151
(1) 総合的にみて、障害者が暮らしやすいと思うか	151
(2) 障害者施策の充実のために重要な取り組み	152
IV 事業所調査結果	157
1 事業所の運営状況について	155
(1) 事業所の種別	155
(2) 職員の過不足	155
(3) 職員の採用	156
(4) 職員定着のための取り組み	156
(5) 提供しているサービス内容と新規利用者の受け入れ	157
(6) 虐待防止のための、職員研修についての取り組み	159
(7) 虐待防止のための、体制づくりへの取り組み	160
(8) サービスの質の向上・適正な事業運営のための取り組み	161
(9) 事業運営上の問題点・課題	162
2 事業展開について	163
(1) 今後のサービス提供の方向性	163
(2) 新規参入・拡大を検討したサービス	165
(3) 新規参入・拡大にあたっての課題や問題点	165
(3) 地域生活支援拠点の認知状況	167
(4) 地域生活支援拠点の認知状況	168
(5) 地域生活支援拠点の認知状況	168
(6) 災害時に協力できること	169
3 一般就労・地域移行への取り組みについて	170
(1) 利用者意識を高めるための動機付け	170
(2) 地域移行に向けての必要条件	171
(3) 町内に不足していると感じるサービス	172
4 新型コロナウイルス感染症の影響について	173
(1) 利用者数への影響	173
(2) 感染症拡大による利用者数への影響	173
(3) 緊急事態宣言解除後の影響	174
(4) 利用者の状態の変化	174
V 自由記述まとめ	179
1 自由記述のまとめについて	181

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、次期葉山町障害者福祉計画（計画期間：令和3年から令和8年）の策定や施策推進の基礎資料として、町民の皆さまの障害や障害のある方に対する意識、今後の障害者施策に対する意向などを把握することを目的に実施しました。

2 調査の方法

(1) 調査対象者と抽出方法

- ◎障害のある方：町内在住の身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳を所持している方及び自立支援医療（精神通院）の受給者の方
- ◎一般町民：町内在住の18歳以上の町民から無作為に抽出した300人
- ◎障害福祉サービス事業者：葉山町に届け出・登録のある事業所の事業者

(2) 調査時期

令和2年7月

(3) 調査方法

郵送調査

3 回収状況

	発送数	回収数	回収率
障害のある方	1,433	684	47.7%
身体障害者手帳の所持者	892	434	
療育手帳の所持者	171	73	
精神障害者保健福祉手帳の所持者	207	82	
自立支援医療受給者 （精神障害者保健福祉手帳所持者は除く）	196	95	
一般町民	300	150	50.0%
障害福祉サービス事業者	100	46	46.0%

※手帳や自立支援医療を重複で所持している方がいるため、所持人数の延べ数と実数が異なります。

4 報告書の利用にあたって

- (1) 選択肢の語句が長い場合、本文や表・グラフ中では省略した表現を用いていることがあります。
- (2) 調査結果の比率は、その設問の回答者数を母数（ n と表記）として、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合があります。
- (3) 複数回答形式の場合は、すべての回答者が1つの回答しか選択しなかったという特殊な場合を除き、回答比率の合計が100%を超えます。
- (4) 表中の「全体」は回答者数となっており、複数回答の場合、回答数の合計とは異なります。

Ⅱ 障害のある方調査結果

1 基本属性

(1) アンケート記入者

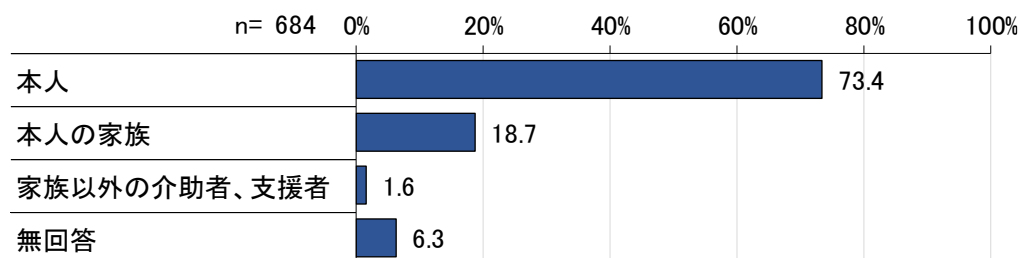
この調査票にご回答いただく方は、どなたですか

(○はひとつだけ)

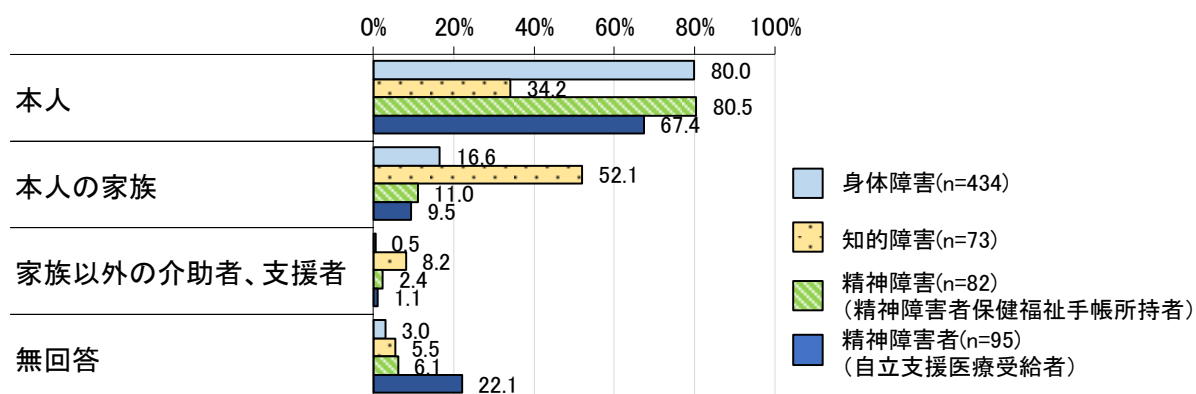
アンケートの記入者は、全体では「本人」が7割以上を占め、「本人の家族」が18.7%、「家族以外の介護者、支援者」が1.6%となっています。

障害種別にみると、知的障害では「本人の家族」が記入した割合が高くなっています。

全 体



クロス集計 (障害種別)



(2)居住する地区

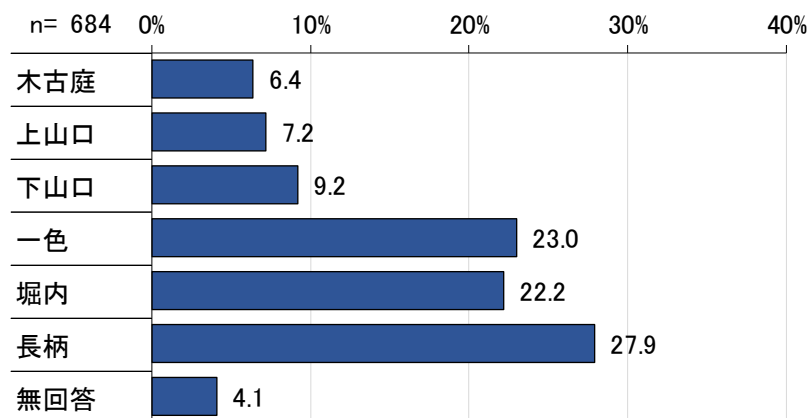
問1 お住まいの地区はどちらですか

(○はひとつだけ)

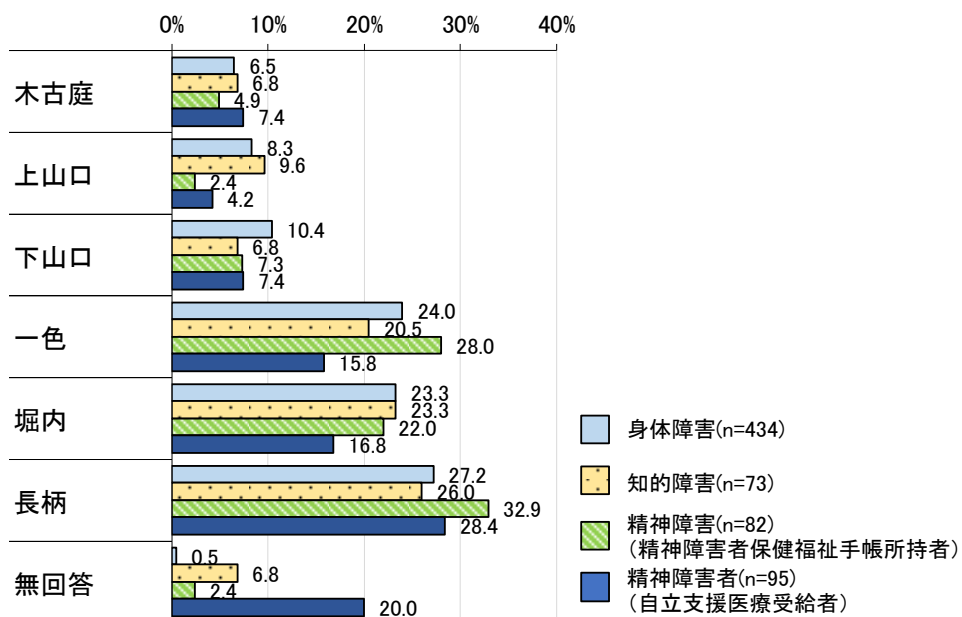
住まいの地区は、全体では「長柄」が27.9%で最も多く、次いで「一色」が23.0%、「堀内」が22.2%と続いています。

障害種別にみると、精神障害者保健福祉手帳所持者では「長柄」に住んでいる方が3割以上を占めています。

全 体



クロス集計 (障害種別)



(3)性別

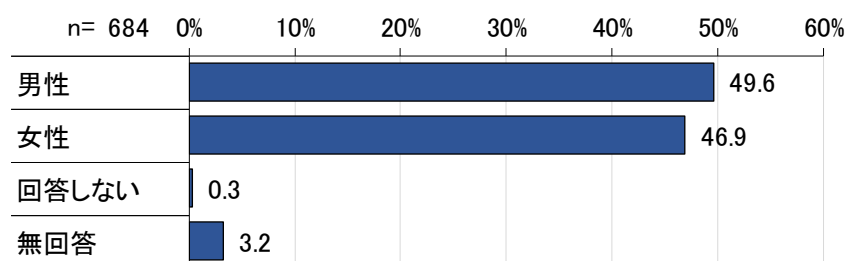
問2 性別はどちらですか

(〇はひとつだけ)

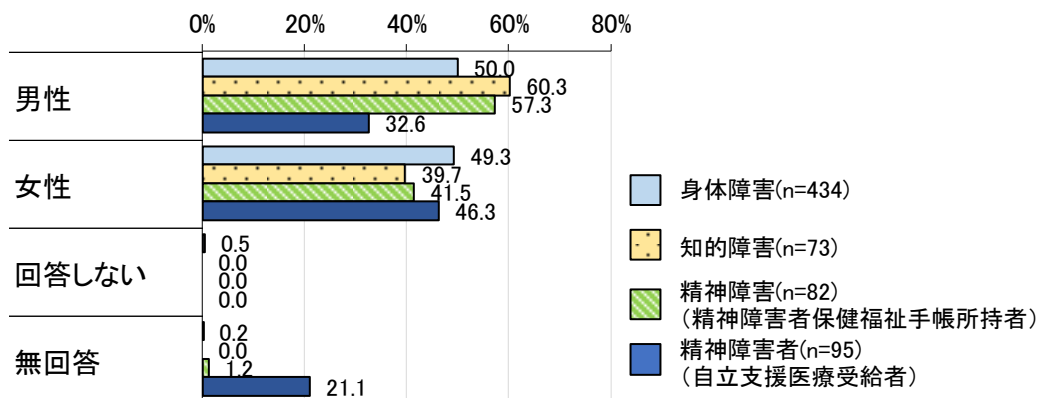
性別は、全体では「男性」が 49.6%、「女性」が 46.9%とほぼ同じ割合となっています。

障害種別にみると、知的障害(60.3%)、精神障害者保健福祉手帳所持者(57.3%)では「男性」、自立支援医療受給者では「女性」(46.3%)の割合が高くなっています。

全 体



クロス集計 (障害種別)



(4)年齢

問3 年齢はおいくつですか

(○はひとつだけ)

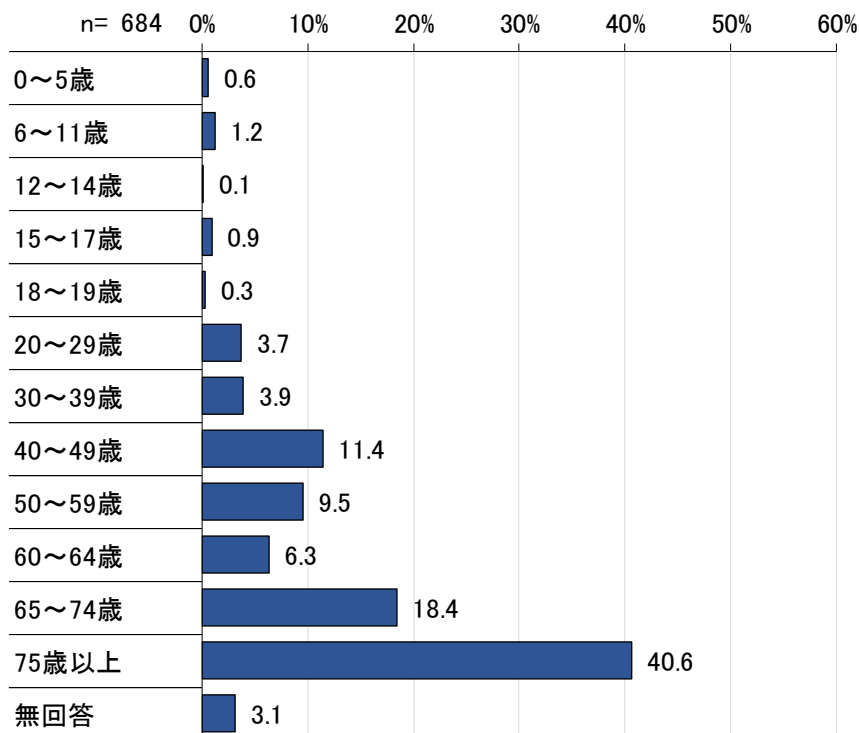
年齢は、全体では「75 歳以上」の後期高齢者が約4割を占め、「65～74 歳」の前期高齢者が 18.4%、「40～49 歳」が 11.4%、他の年齢は1割を下回っています。

障害種別にみると、身体障害の方では 75 歳以上の高齢者が6割近くを占めています。

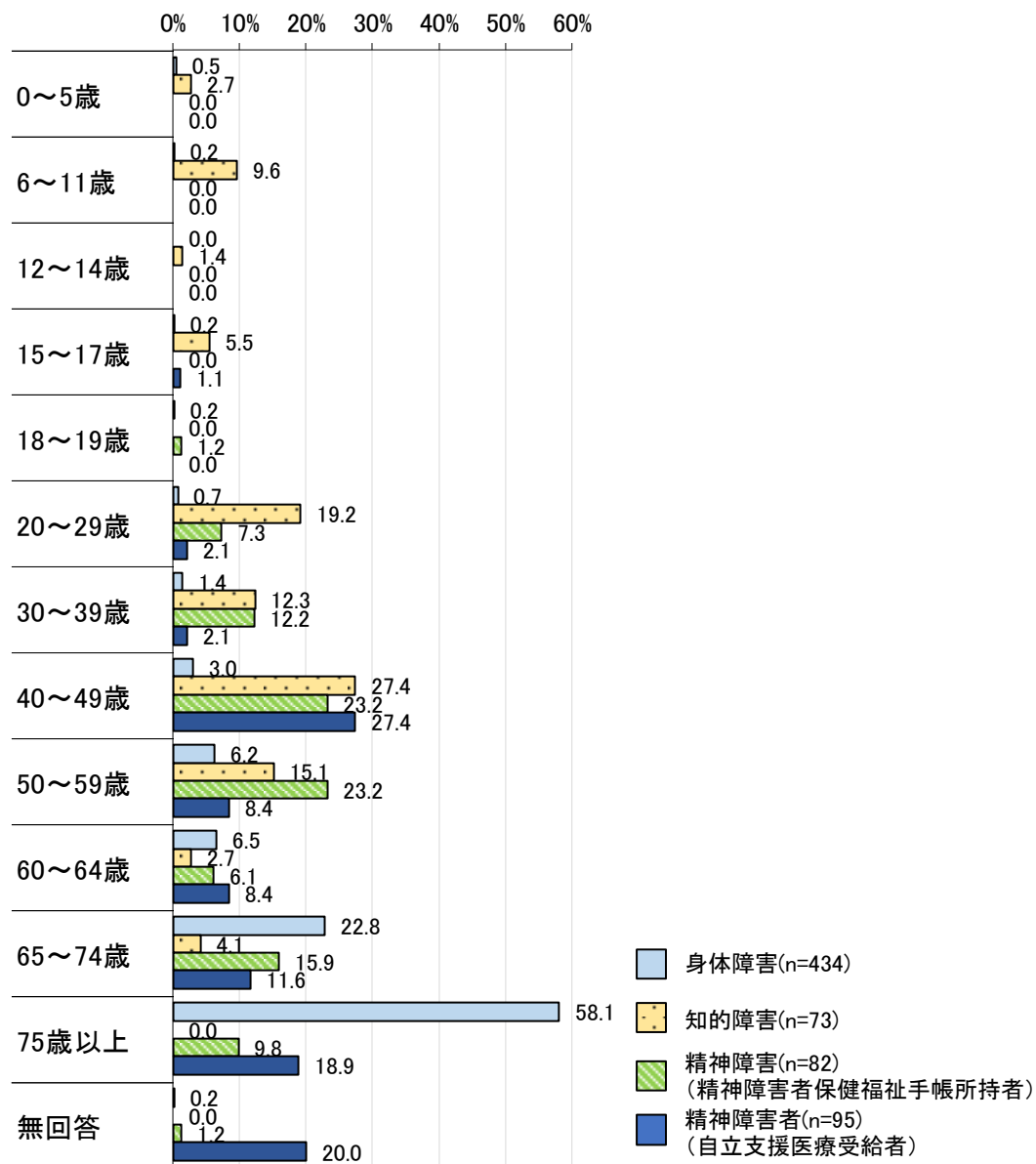
知的障害、自立支援医療受給者では「40～49 歳」が 27.4%、精神障害者保健福祉手帳所持者では「40～49 歳」「50～59 歳」の割合が各 23.2%と高くなっています。

知的障害では「20～29 歳」の割合が 19.2%と他の障害種別に比べて高くなっています。

全 体



クロス集計（障害種別）



(5) 身体障害者手帳の所持状況

問 4 身体障害者手帳をお持ちですか

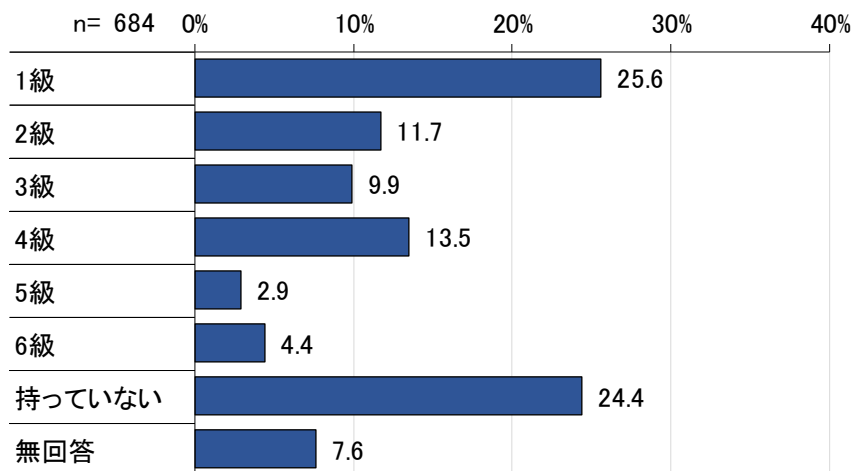
(○はひとつだけ)

身体障害者手帳を所持している方の割合は、全体では 68.0%で、知的障害の方は 15.0%、精神障害者保健福祉手帳所持者の方は 24.4%、自立支援医療受給者の方は所持していないという結果となっています。

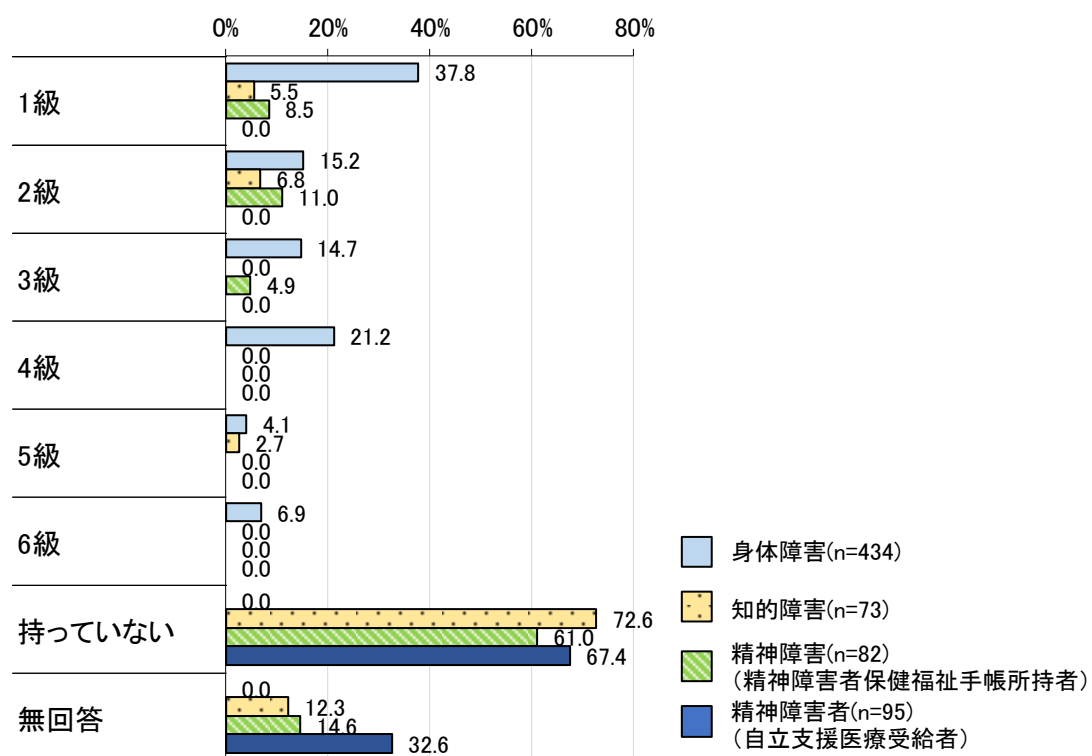
身体障害者手帳の等級は、全体では「1 級」が 25.6%で最も多く、次いで「4級」が 13.5%、「2級」が 11.7%、「3級」は 9.9%となっています。

身体障害では「1 級」が約4割を占めています。

全 体



クロス集計（障害種別）



(6)障害の種類

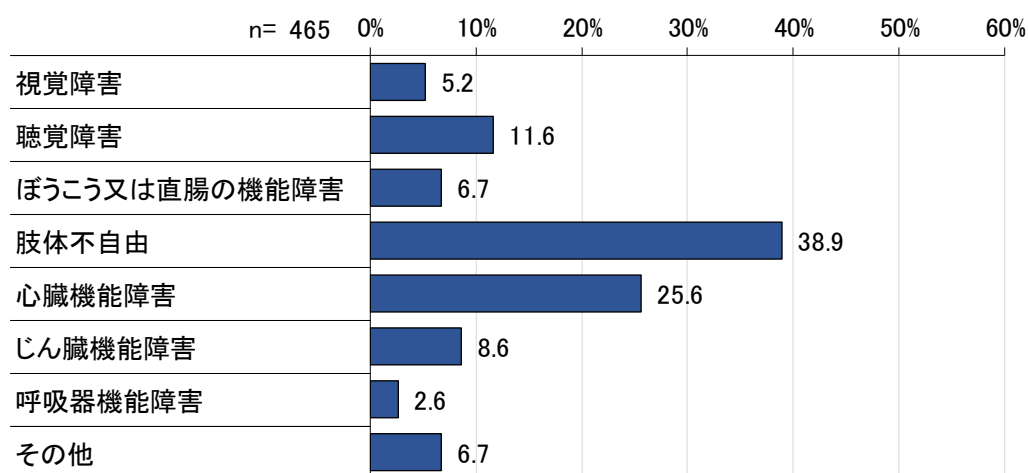
①障害の種類

問5 身体障害者手帳をお持ちの場合、障害の種類は何ですか

(〇はいくつでも)

身体障害者手帳を所持している方の障害の種類について全体では、「肢体不自由」が38.9%と最も多く、次いで「心臓機能障害」が25.6%、「聴覚障害」が11.6%と続いています。

全 体



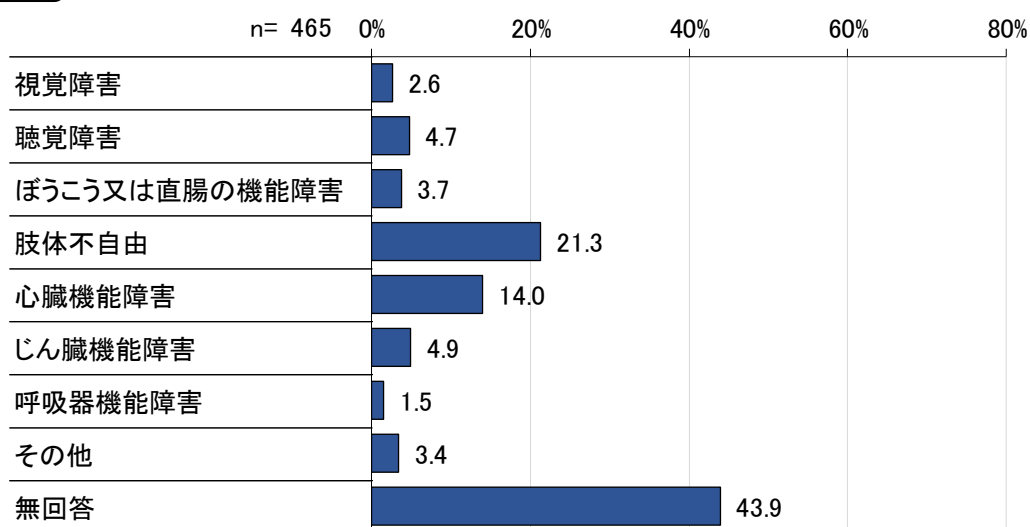
②最も重い障害の種類

問5（2） 問5（1）の選択肢（上記1.～8.）の障害のうち
最も重いものの番号を記入してください

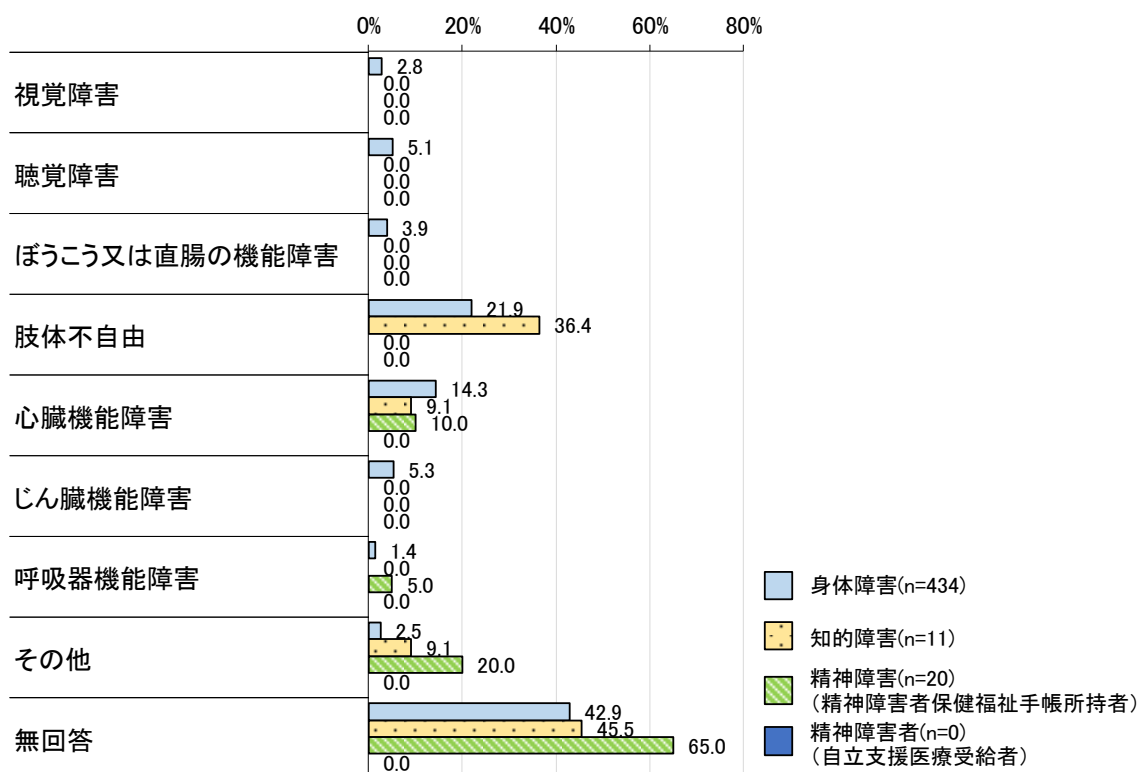
（○はひとつだけ）

身体障害者手帳を所持している方のうち、最も重い障害の種類は、「肢体不自由」が身体障害(21.9%)、知的障害(36.4%)と最も高く、次いで、「心臓機能障害」が身体障害では14.3%、知的障害では9.1%と続いています。

全 体



クロス集計（障害種別）



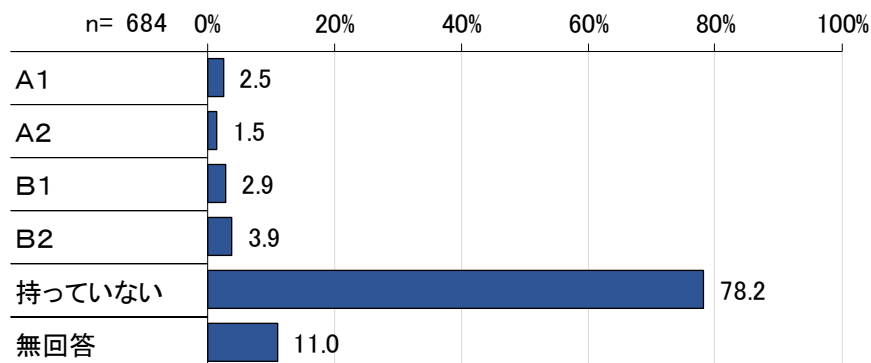
(7)療育手帳の所持状況

問6 療育手帳をお持ちですか

(○はひとつだけ)

療育手帳の所持状況をみると、A1～B2までを合計した全体の所持率は10.8%で、「持っていない」と回答された方は78.2%となっています。

全 体



(8)精神障害者保健福祉手帳の所持状況

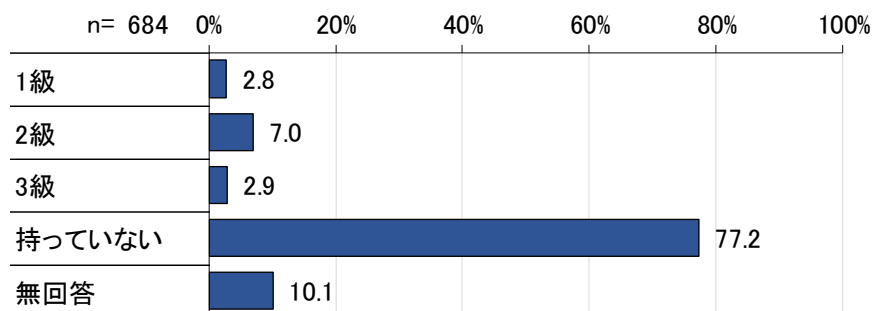
問7 精神障害者保健福祉手帳をお持ちですか

(○はひとつだけ)

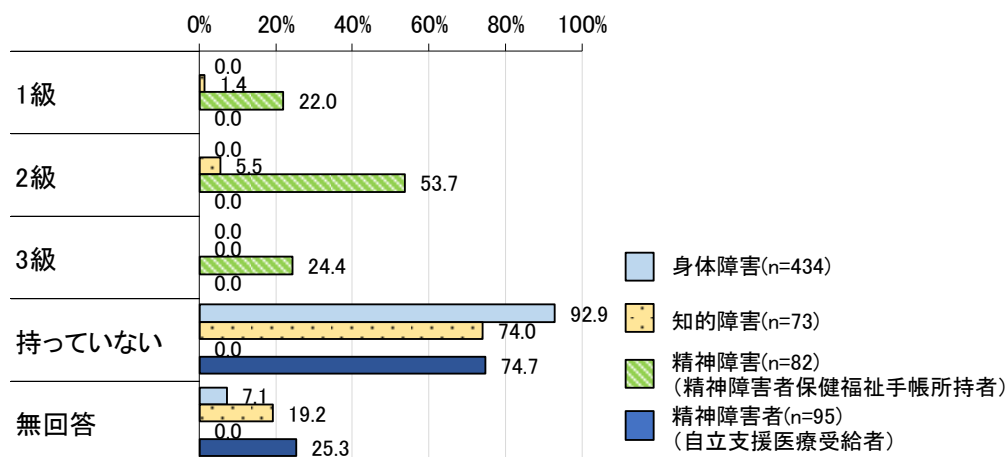
精神障害者保健福祉手帳の所持状況をみると、全体の所持率は12.7%で、等級は、「2級」が7.0%、「3級」が2.9%、「1級」が2.8%となっています。

障害種別にみると、知的障害の方は6.9%となっています。

全 体



クロス集計 (障害種別)



(9) 難病診断

問8 難病の診断を受けていますか

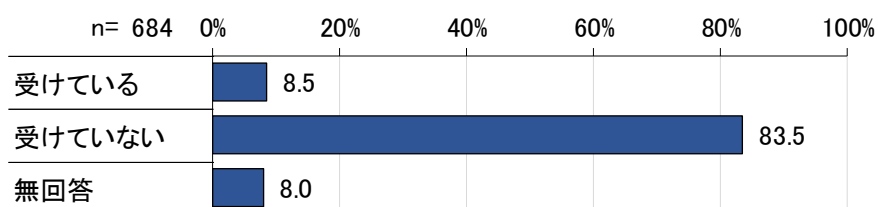
(○はひとつだけ)

難病の診断を受けているかを聞いたところ、全体では「受けている」と回答した方は 8.5%、「受けていない」方が8割以上を占めています。

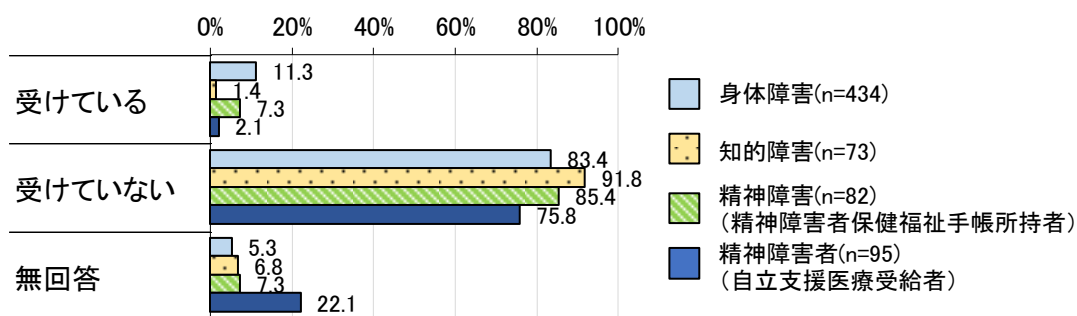
障害種別にみると、身体障害、知的障害、精神障害者保健福祉手帳所持者では「受けていない」方の割合が8割を超え、特に知的障害の方の割合は高くなっています。

「受けている」方の割合は、身体障害の方は 11.3%、知的障害の方が 1.4%、精神障害者保健福祉手帳所持者は 7.3%、自立支援医療受給者は 2.1%となっています。

全 体



クロス集計 (障害種別)



(10)発達障害診断

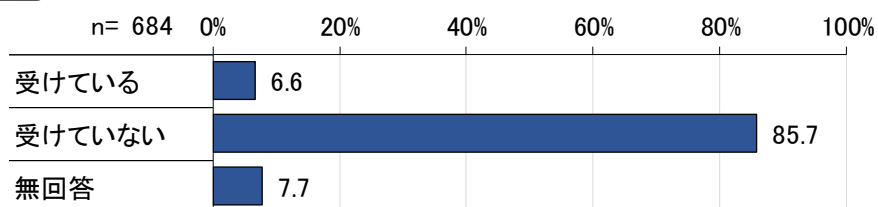
問9 発達障害の診断を受けていますか

(○はひとつだけ)

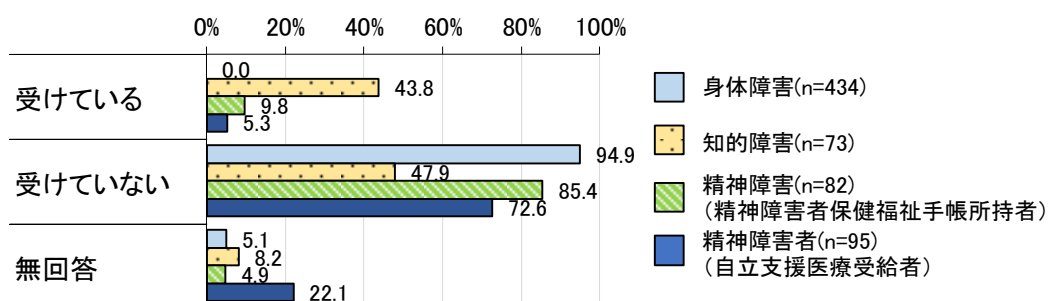
発達障害の診断を受けているかを聞いたところ、全体では「受けている」と回答した方は6.6%、「受けていない」が8割以上を占めています。

障害種別にみると、知的障害では発達障害の診断を「受けている」方の割合が4割以上と他の障害種別に比べて高くなっています。

全 体



クロス集計 (障害種別)



(11)高次脳機能障害としての受診

①受診状況

問 10 あなたは高次脳機能障害として受診されたことがありますか

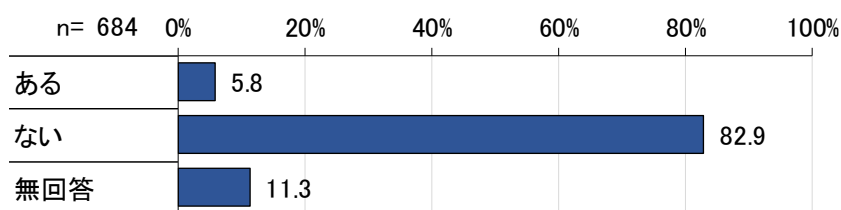
(○はひとつだけ)

高次脳機能障害として受診したことがあるかを聞いたところ、全体では「ある」と回答した方は5.8%、「ない」が8割以上を占めています。

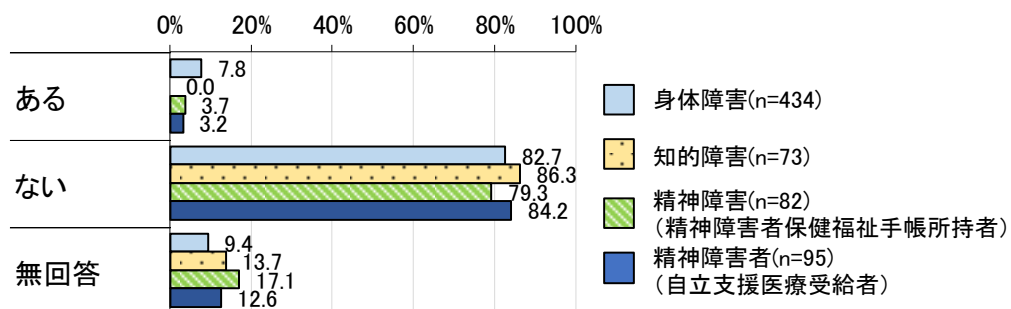
障害種別にみると、身体障害では「ある」と答えた方の割合が7.8%と、他の障害種別に比べて高くなっています。

知的障害では、「ある」と答えた方はいない結果となっています。

全 体



クロス集計 (障害種別)



②関連障害

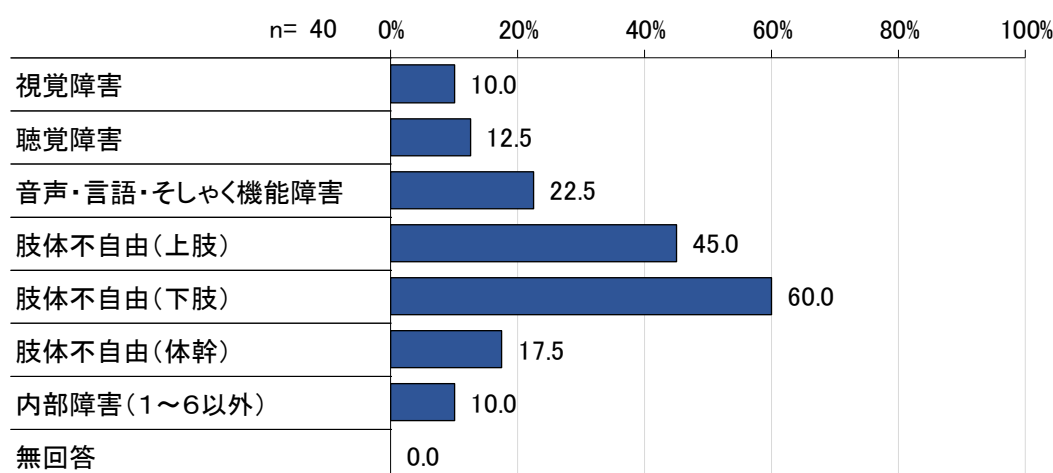
問 11 その関連障害をお答えください

(〇はいくつでも)

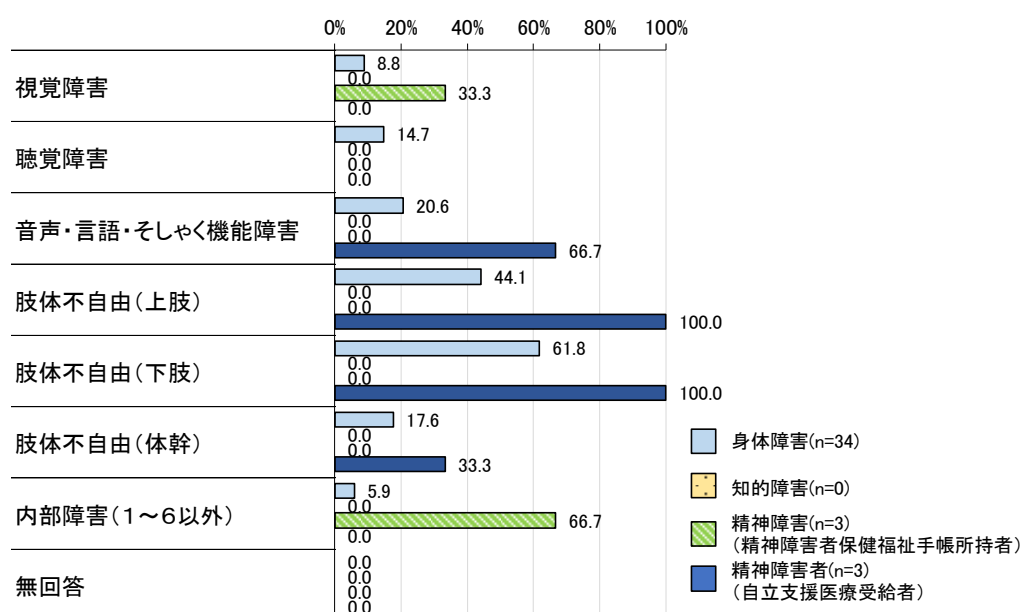
高次脳機能障害での受診があった方の関連障害について聞いてみると、全体では「肢体不自由(下肢)」が60.0%、次いで「肢体不自由(上肢)」が45.0%と続いています。

障害種別にみると、身体障害では「肢体不自由(下肢)」(61.8%)、精神障害者保健福祉手帳所持者では「内部障害(1～6以外)」(66.7%)、自立支援医療受給者では「肢体不自由(上肢)」(100%)「肢体不自由(下肢)」(100%)が最も多い割合となっています。

全 体



クロス集計 (障害種別)



(12)治療の状況

問 12 現在、何らかの医師の治療を受けていますか

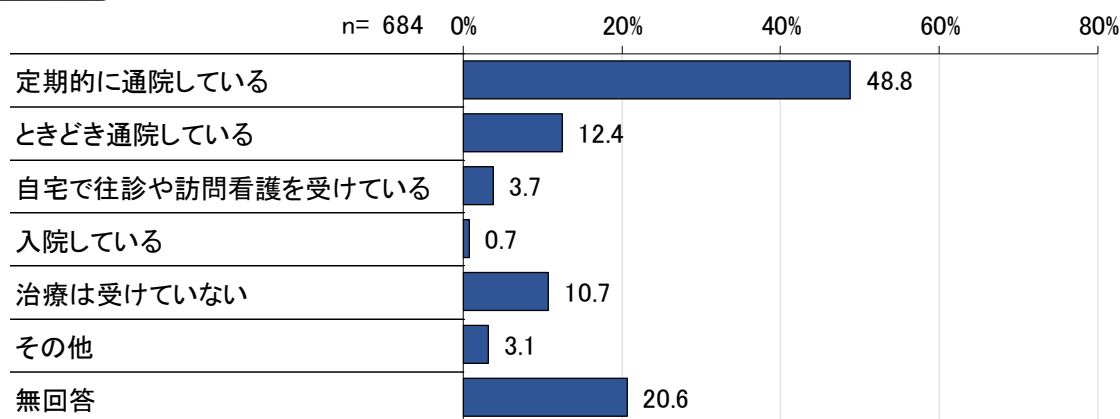
(○はひとつだけ)

現在、何らかの医師の治療を受けているかについては、全体では「定期的に通院している」方が約5割を占め、「ときどき通院している」方が12.4%となっています。

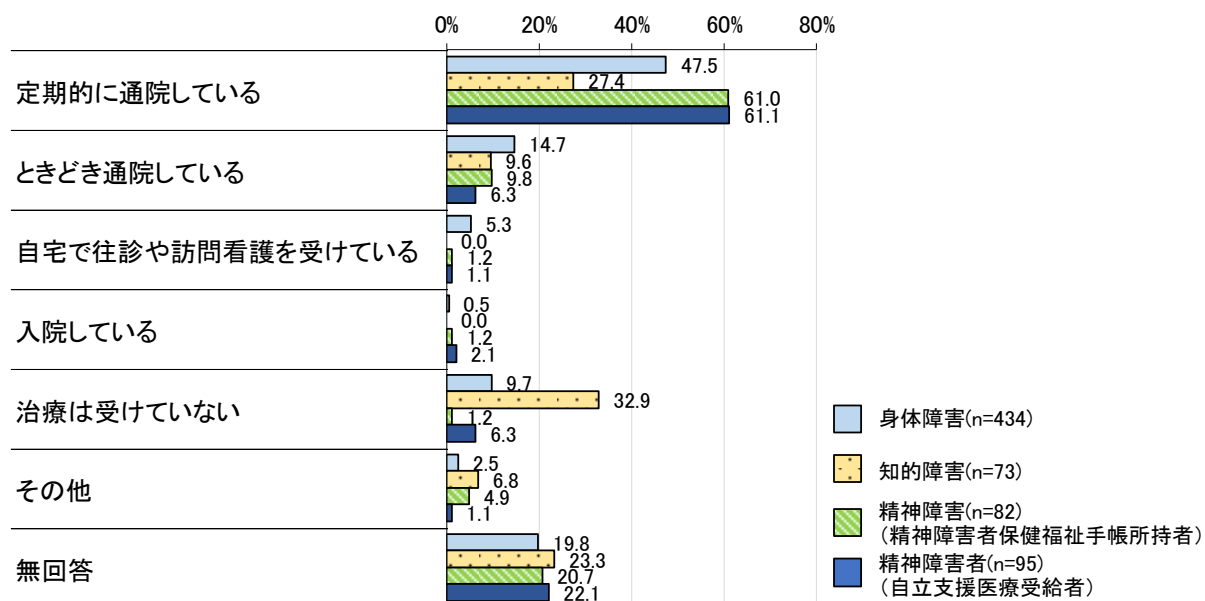
障害種別にみると、精神障害者保健福祉手帳所持者、自立支援医療受給者ではともに「定期的に通院している」方の割合が6割以上と他の障害の方に比べて高くなっています。

知的障害では「定期的に通院している」方は27.4%に留まり、「治療は受けていない」方の割合が32.9%と他の障害種別に比べて高くなっています。

全 体



クロス集計（障害種別）



(13)医療的ケア

①医療的ケアの状況

問 13 あなたは現在医療的ケアを受けていますか

(○はひとつだけ)

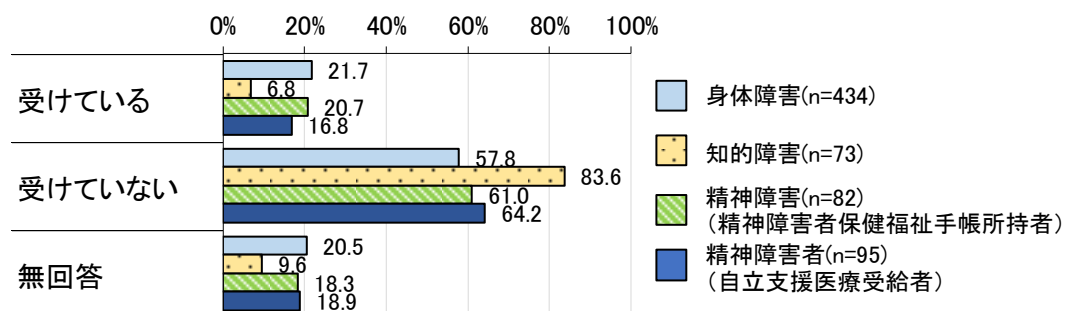
現在医療的ケアを受けているかを聞いたところ、全体では「受けている」と回答した方は19.3%、「受けていない」が6割以上を占めています。

障害種別にみると、「受けている」方の割合は身体障害では21.7%、知的障害では6.8%、精神障害者保健福祉手帳所持者では20.7%、自立支援医療受給者では16.8%となっています。

全 体



クロス集計 (障害種別)



②医療的ケアの種類

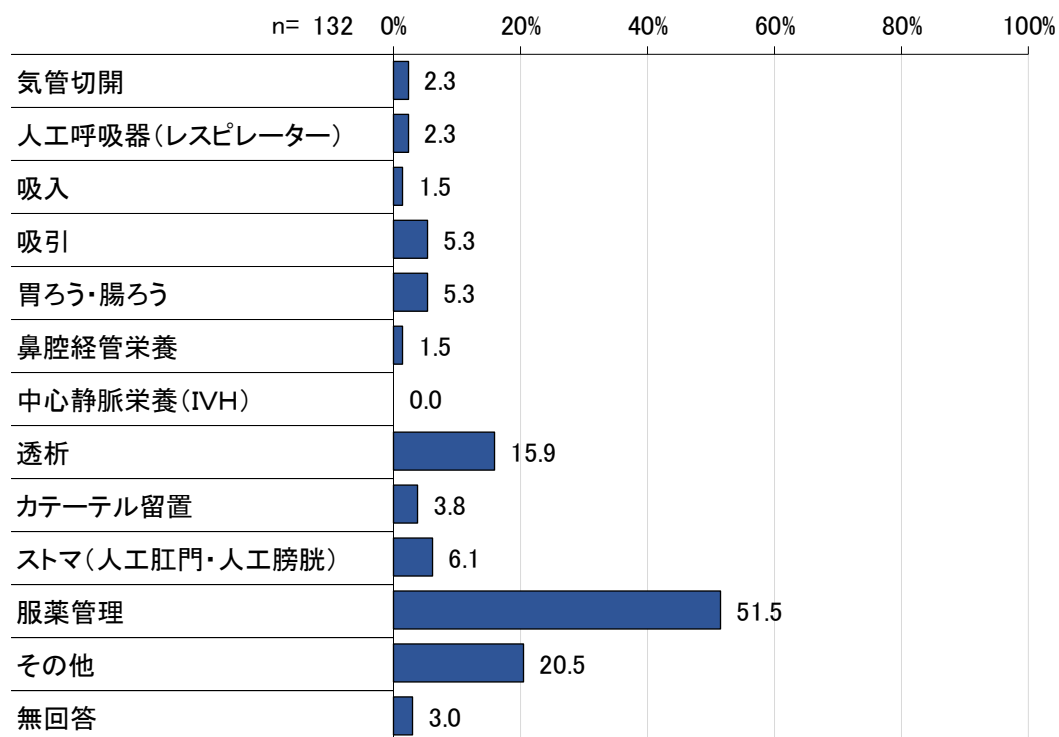
問 14 あなたが現在受けている医療的ケアをご回答ください

(〇はいくつでも)

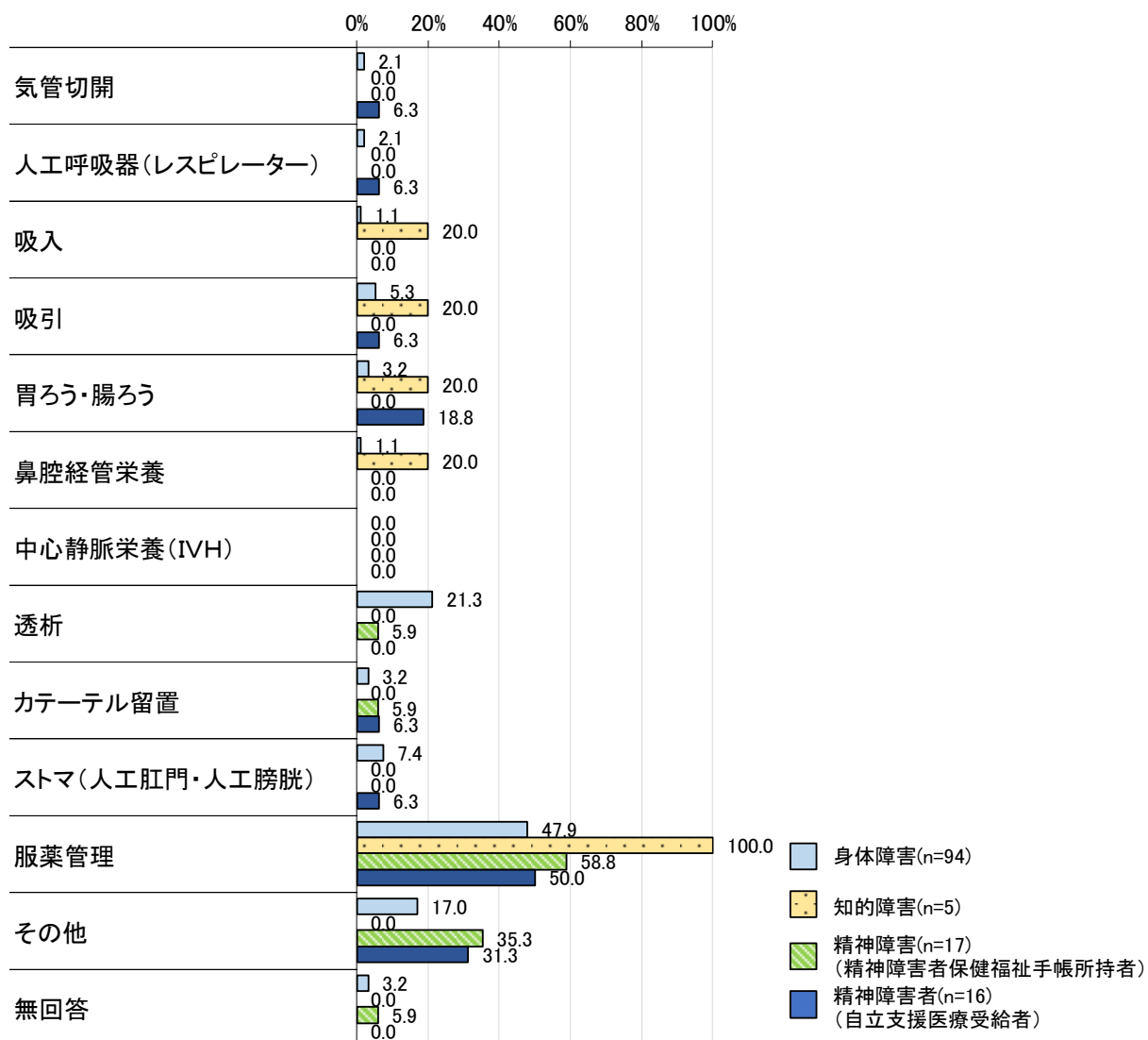
医療的ケアを受けている方の種別について聞いてみると、全体では「服薬管理」が51.5%、次いで「その他」(20.5%)、「透析」(15.9%)と続いています。

障害種別にみると、身体障害では「透析」(21.3%)と多く、知的障害では「服薬管理」が100%と突出しています。

全 体



クロス集計（障害種別）



(14)診療・健診・リハビリ等を受ける際の困りごと

問 15 診療や定期健診、リハビリを受けるにあたってお困りのことがありますか

(〇はいくつでも)

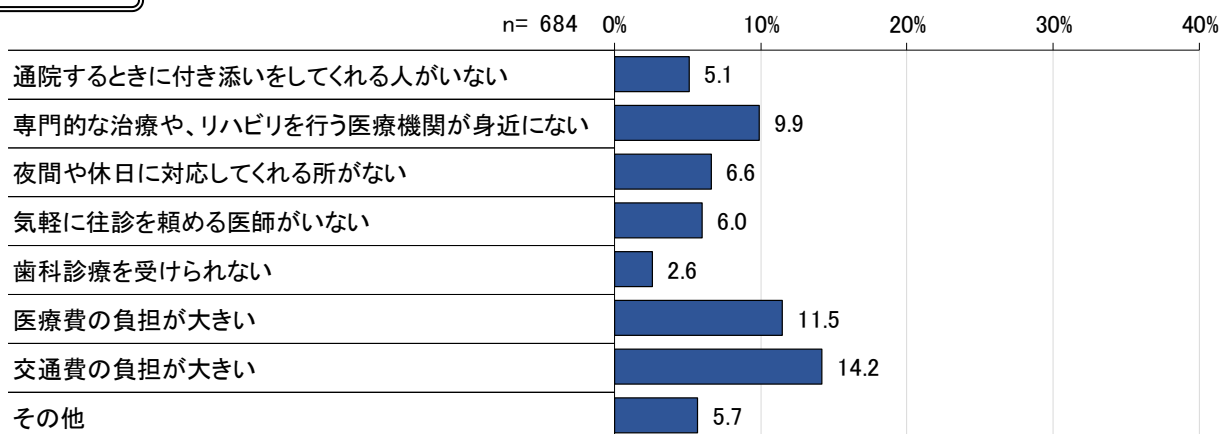
医療や診療や定期健診、リハビリを受ける際に困っていることは、「交通費の負担が大きい」が14.2%で最も多く、次いで「医療費の負担が大きい」が11.5%と続いています。

障害種別にみると、知的障害では「歯科診療を受けられない」(5.5%)、精神障害者保健福祉手帳所持者、自立支援医療受給者の方ではともに「交通費の負担が大きい」(精:19.5%・自:18.9%)をあげる人の割合が他の障害の方に比べてやや高くなっています。

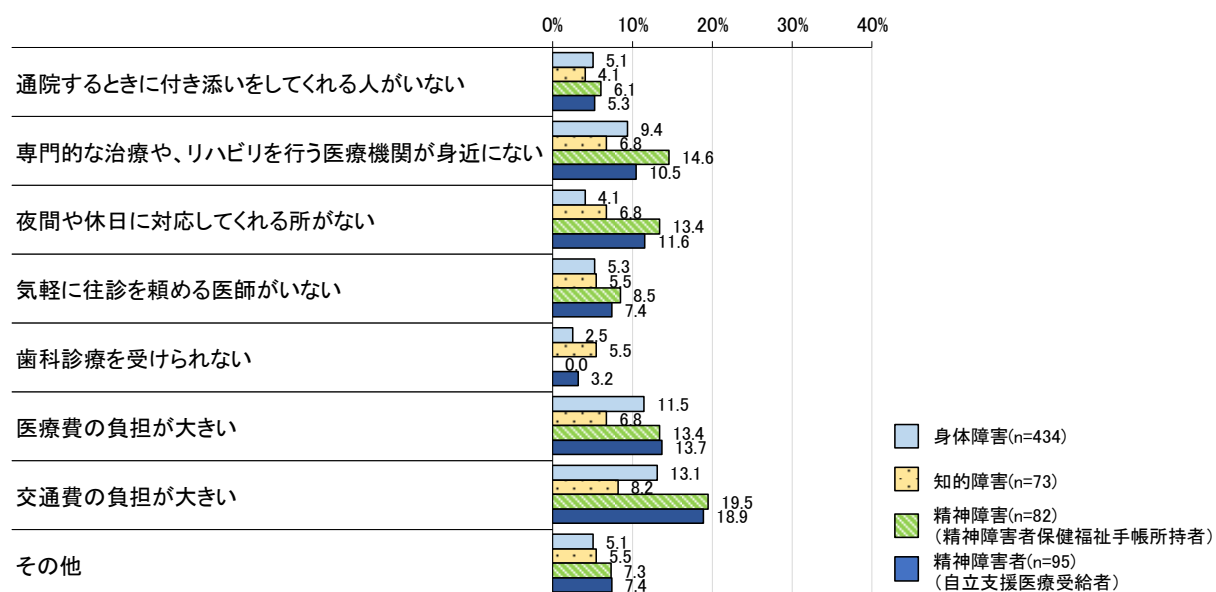
年齢別にみると、身体障害の18歳未満、知的障害の65歳以上、精神障害者保健福祉手帳所持者・自立支援医療受給者の18～64歳では、「交通費の負担が大きい」をあげる方の割合が高くなっています。

その他、身体障害の18～64歳では「専門的な治療や、リハビリを行う医療機関が身近にない」(12.8%)、知的障害の65歳以上では「歯科診療を受けられない」(33.3%)、精神障害者保健福祉手帳所持者の18～64歳では「夜間や休日に対応してくれる所がない」「交通費の負担が大きい」(各18.3%)、自立支援医療受給者の18～64歳では「夜間や休日に対応してくれる所がない」(19.6%)をあげる方の割合が、他の年齢層に比べてそれぞれ高くなっています。

全 体



クロス集計（障害種別）



【身体障害・年齢別】

	n	通院するときに付き添いをしてくれる人がいない	専門的な治療や、リハビリを行う医療機関が身近にない	夜間や休日に対応してくれる所がない	気軽に往診を頼める医師がいない	歯科診療を受けられない	医療費の負担が大きい
全体	434 人	5.1%	9.4%	4.1%	5.3%	2.5%	11.5%
18 歳未満	4 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
18～64 歳	78 人	5.1%	12.8%	5.1%	5.1%	3.8%	11.5%
65 歳以上	351 人	4.8%	8.5%	4.0%	5.4%	2.0%	11.7%
	n	交通費の負担が大きい	その他	特にない	無回答		
全体	434 人	13.1%	5.1%	51.8%	16.4%		
18 歳未満	4 人	25.0%	0.0%	75.0%	0.0%		
18～64 歳	78 人	17.9%	6.4%	48.7%	12.8%		
65 歳以上	351 人	11.7%	4.8%	52.4%	17.4%		

【知的障害・年齢別】

	n	通院するときに付き添いをしてくれる人がいない	専門的な治療や、リハビリを行う医療機関が身近にない	夜間や休日に対応してくれる所がない	気軽に往診を頼める医師がいない	歯科診療を受けられない	医療費の負担が大きい
全体	73 人	4.1%	6.8%	6.8%	5.5%	5.5%	6.8%
18 歳未満	14 人	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%	7.1%	7.1%
18～64 歳	56 人	5.4%	7.1%	8.9%	7.1%	3.6%	7.1%
65 歳以上	3 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%
	n	交通費の負担が大きい	その他	特にない	無回答		
全体	73 人	8.2%	5.5%	57.5%	13.7%		
18 歳未満	14 人	7.1%	7.1%	64.3%	0.0%		
18～64 歳	56 人	7.1%	3.6%	57.1%	17.9%		
65 歳以上	3 人	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%		

【精神障害者保健福祉手帳所持者・年齢別】

	n	通院するときに付き添いをしてくれる人がいない	専門的な治療や、リハビリを行う医療機関が身近にない	夜間や休日に対応してくれる所がない	気軽に往診を頼める医師がいない	歯科診療を受けられない	医療費の負担が大きい
全体	82 人	6.1%	14.6%	13.4%	8.5%	0.0%	13.4%
18 歳未満	0 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
18～64 歳	60 人	6.7%	15.0%	18.3%	6.7%	0.0%	18.3%
65 歳以上	21 人	0.0%	14.3%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%
	n	交通費の負担が大きい	その他	特にない	無回答		
全体	82 人	19.5%	7.3%	47.6%	12.2%		
18 歳未満	0 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
18～64 歳	60 人	23.3%	10.0%	50.0%	5.0%		
65 歳以上	21 人	9.5%	0.0%	42.9%	33.3%		

【自立支援医療受給者・年齢別】

	n	通院するときに付き添いをしてくれる人がいない	専門的な治療や、リハビリを行う医療機関が身近にない	夜間や休日に対応してくれる所がない	気軽に往診を頼める医師がいない	歯科診療を受けられない	医療費の負担が大きい
全体	95 人	5.3%	10.5%	11.6%	7.4%	3.2%	13.7%
18 歳未満	1 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
18～64 歳	46 人	4.3%	13.0%	19.6%	8.7%	6.5%	17.4%
65 歳以上	29 人	6.9%	6.9%	6.9%	3.4%	0.0%	6.9%
	n	交通費の負担が大きい	その他	特にない	無回答		
全体	95 人	18.9%	7.4%	43.2%	22.1%		
18 歳未満	1 人	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%		
18～64 歳	46 人	28.3%	8.7%	41.3%	15.2%		
65 歳以上	29 人	10.3%	6.9%	51.7%	24.1%		

(15)介護保険の要介護認定状況

①介護保険の認定状況

問 16 年齢が 40 歳以上の方に伺います。介護保険の認定を受けていますか

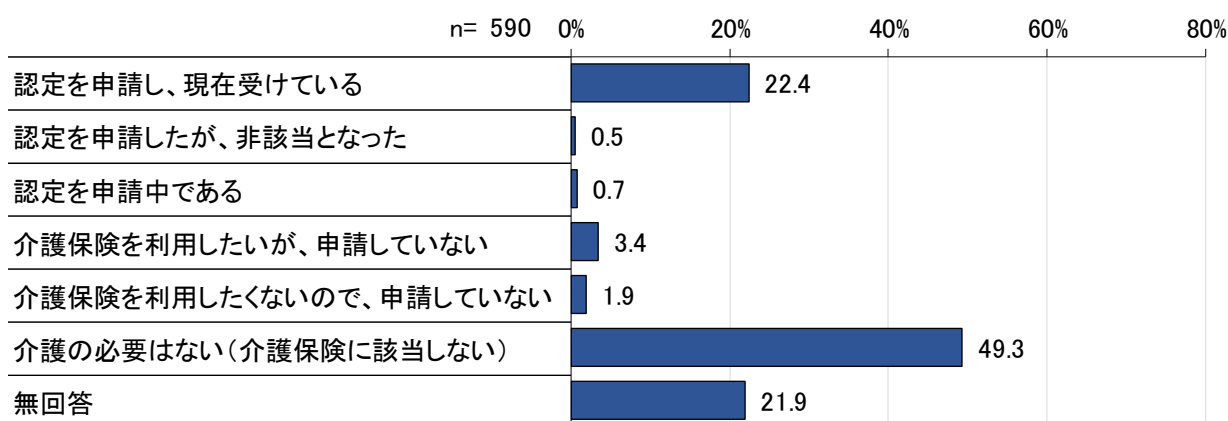
(○はひとつだけ)

40 歳以上の方の介護保険の認定状況をみると、全体では「介護の必要はない」と回答した方が4割以上を占め、「認定を申請し、現在受けている」方が 20.5%となっています。

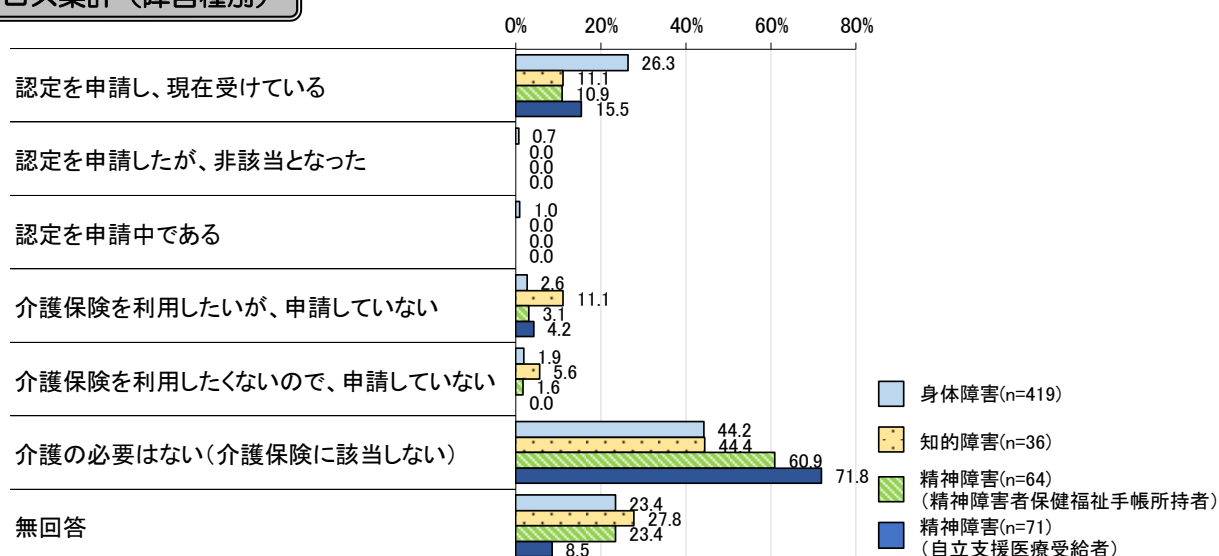
障害種別にみると、精神障害者保健福祉手帳所持者では「介護の必要はない」と回答した方の割合が他の障害種別に比べて高いのが目立ちます。

「認定を申請し、現在受けている」方は、身体障害では 25.8%、自立支援医療受給者では 17.9%を占め、他の障害の方は1割を下回っています。

全 体



クロス集計 (障害種別)



②要介護度

問 16-1 要介護度は次のどれですか

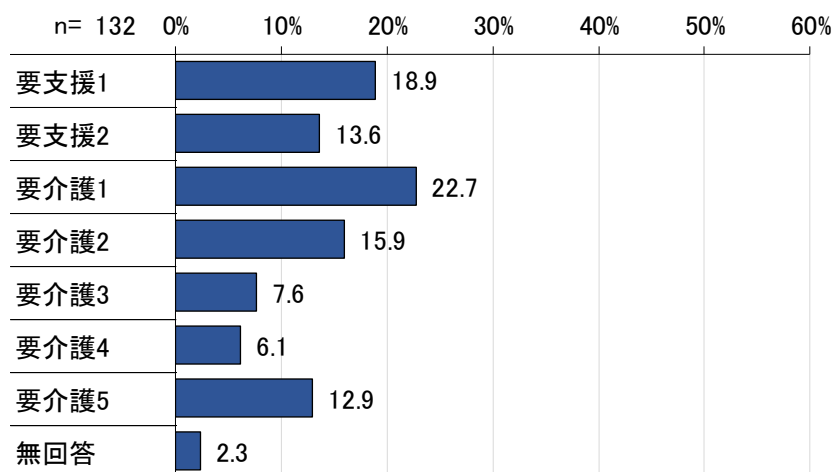
(○はひとつだけ)

介護認定を申請し、現在受けていると回答した方の要介護度をみると、全体では「要介護1」が22.1%と最も多く、次いで「要支援1」(18.6%)、「要介護2」(15.7%)、「要介護5」(12.1%)と続いています。

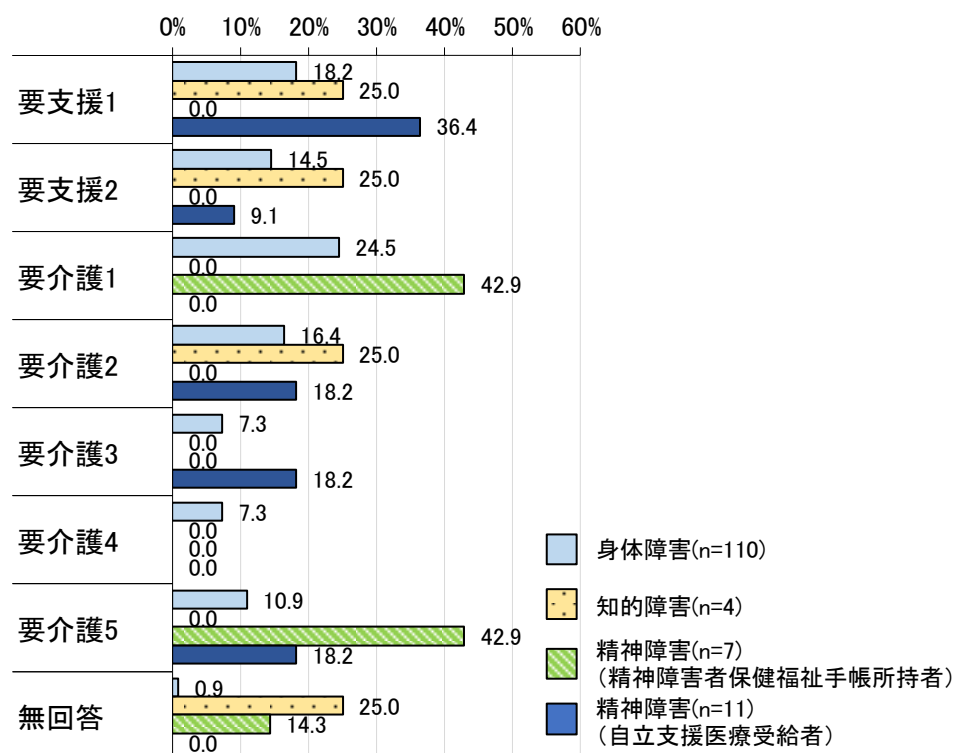
また、「要支援1」と「要支援2」(15.0%)を合わせると、“要支援”の方が33.6%と3人に1人の割合となっています。

また障害種別にみると、精神障害者保健福祉手帳所持者では「要介護度 1」、「要介護度 5」で各 42.9%と他の障害種別と比べても高い割合となっています。

全 体



クロス集計（障害種別）



(16) 日常生活の状況

問 17 日常生活で、次のことをどのようにしていますか

(①～⑩それぞれに、○をひとつずつ)

日常生活の状況をみると、「一人で行える」と回答した方は、全体では①食事、②トイレ、⑥家の中の移動などは8割を超え、③入浴、④衣服の着脱、⑤身だしなみ、⑧家族以外の人との意思疎通、などは7割台となっています。

⑦外出は 60.4%で「一部介助が必要」と「全部介助が必要」を合わせた“介助が必要”な方が 30.3%と3割を占めています。

身体障害では、①食事、②トイレ、⑥家の中の移動が8割を超え、③入浴、④衣服の着脱、⑤身だしなみ、⑧家族以外の人との意思疎通、⑨お金の管理、⑩薬の管理は7割以上となり、⑦外出は 60.1%の方が「一人で行える」としています。

知的障害では、「一人で行える」と回答した方は⑥家の中の移動は8割を超え、①食事、②トイレが7割台、③入浴、④衣服の着脱は6割台となっています。

逆に⑨お金の管理は 46.6%の方、⑩薬の管理は 45.2%の方、⑦外出は3割近くの方が「全部介助が必要」としています。

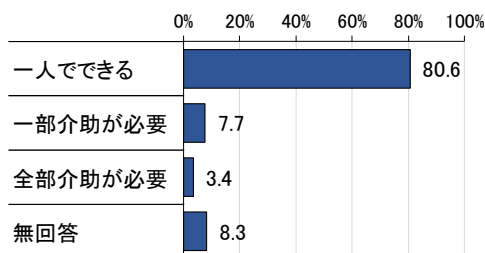
精神障害(精神障害者保健福祉手帳所持者)では、②トイレ、⑥家の中の移動については8割以上、①食事、③入浴、④衣服の着脱、⑤身だしなみはいずれも7割以上、⑦外出、⑧家族以外の人との意思疎通、⑩薬の管理は6割以上、⑨お金の管理は5割以上の方が「一人で行える」としています。

精神障害(自立支援医療受給者)では、①食事、②トイレ、④衣服の着脱、⑥家の中の移動は8割以上の方が、③入浴、⑤身だしなみ、⑦外出、⑧家族以外の人との意思疎通、⑨お金の管理、⑩薬の管理は7割以上の方が「一人で行える」としています。

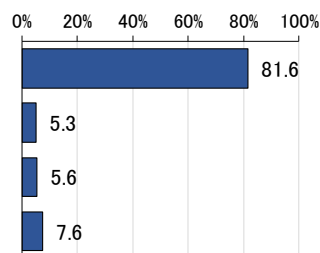
Ⅱ 障害のある方調査結果

全 体

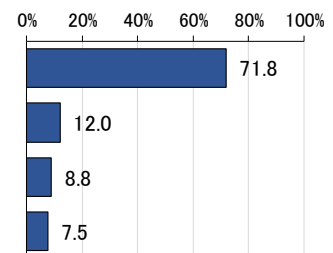
【①食事】



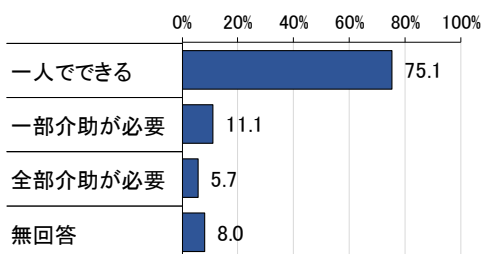
【②トイレ】



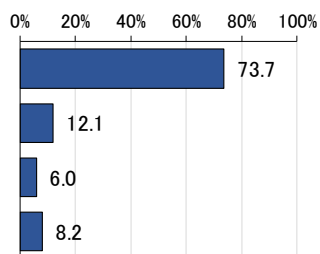
【③入浴】



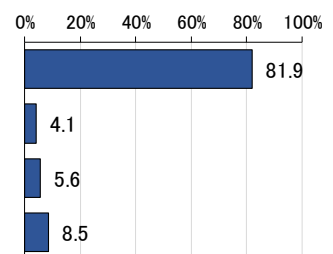
【④衣服の着脱】



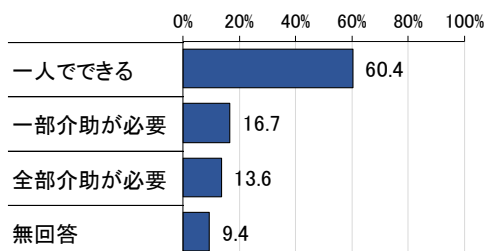
【⑤身だしなみ】



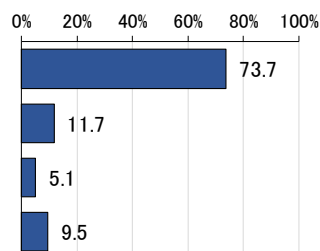
【⑥家の中の移動】



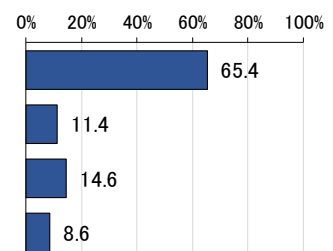
【⑦外出】



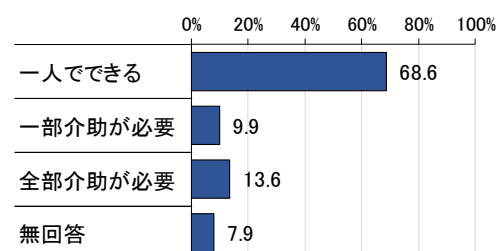
【⑧家族以外の人との
意思疎通】



【⑨お金の管理】



【⑩薬の管理】



クロス集計（障害種別）

(%)

		1 食 事	2 ト イ レ	3 入 浴	4 衣 服 の 着 脱	5 身 だ し な み	6 家 の 中 の 移 動	7 外 出	8 意 家 族 疎 以 外 の 人 と の 通	9 お 金 の 管 理	10 薬 の 管 理
身体 障 害 (n=434)	一人で行える	82.9	82.7	71.2	74.2	76.3	81.1	60.1	77.6	72.1	74.7
	一部介助が必要	6.5	4.6	12.4	12.4	10.8	4.6	17.7	9.9	9.0	8.5
	全部介助が必要	2.8	5.5	9.4	5.8	5.3	5.8	13.4	3.2	10.6	9.9
	無回答	7.8	7.1	6.9	7.6	7.6	8.5	8.8	9.2	8.3	6.9
知的 障 害 (n=73)	一人で行える	76.7	74.0	61.6	69.9	52.1	84.9	45.2	53.4	23.3	27.4
	一部介助が必要	13.7	15.1	27.4	20.5	32.9	5.5	21.9	24.7	26.0	24.7
	全部介助が必要	6.8	8.2	8.2	6.8	11.0	5.5	28.8	16.4	46.6	45.2
	無回答	2.7	2.7	2.7	2.7	4.1	4.1	4.1	5.5	4.1	2.7
保 健 福 祉 手 帳 所 持 者 (n=82)	一人で行える	70.7	80.5	75.6	78.0	73.2	80.5	63.4	64.6	58.5	64.6
	一部介助が必要	9.8	1.2	6.1	3.7	8.5	2.4	13.4	15.9	17.1	9.8
	全部介助が必要	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	3.7	6.1	4.9	9.8	9.8
	無回答	14.6	13.4	13.4	13.4	13.4	13.4	17.1	14.6	14.6	15.9
自 立 支 援 医 療 受 給 者 (n=95)	一人で行える	81.1	83.2	78.9	81.1	78.9	84.2	70.5	78.9	72.6	75.8
	一部介助が必要	7.4	4.2	3.2	4.2	5.3	2.1	10.5	6.3	6.3	5.3
	全部介助が必要	2.1	4.2	9.5	5.3	6.3	6.3	9.5	5.3	12.6	9.5
	無回答	9.5	8.4	8.4	9.5	9.5	7.4	9.5	9.5	8.4	9.5

(17)主な介助者

問 18 あなたを介助してくれる方は主に誰ですか

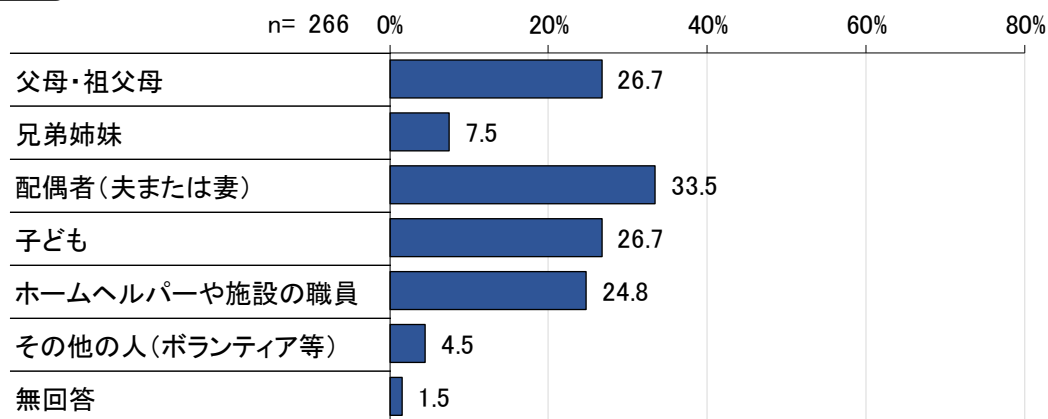
(○はいくつでも)

主な介助者をみると、「配偶者」が 33.5%で最も多く、次いで「子ども」「父母、祖父母」(各 26.7%)、「ホームヘルパーや施設の職員」(24.8%)と続いています。

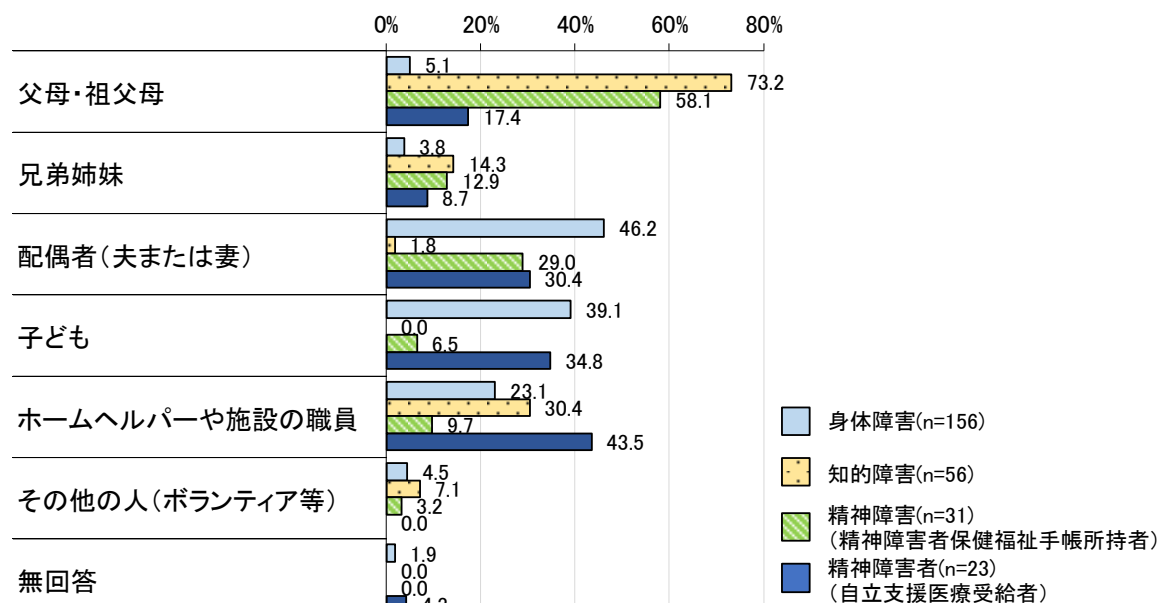
障害種別にみると、身体障害では「配偶者」、知的障害、精神障害者福祉手帳所持者では「父母・祖父母」、自立支援医療受給者では「ホームヘルパーや施設の職員」が最も多くなっています。

知的障害、精神障害者保健福祉手帳所持者では「兄弟・姉妹」の割合が他の障害種別に比べて高くなっています。

全 体



クロス集計 (障害種別)



(18)主な介助者の年齢

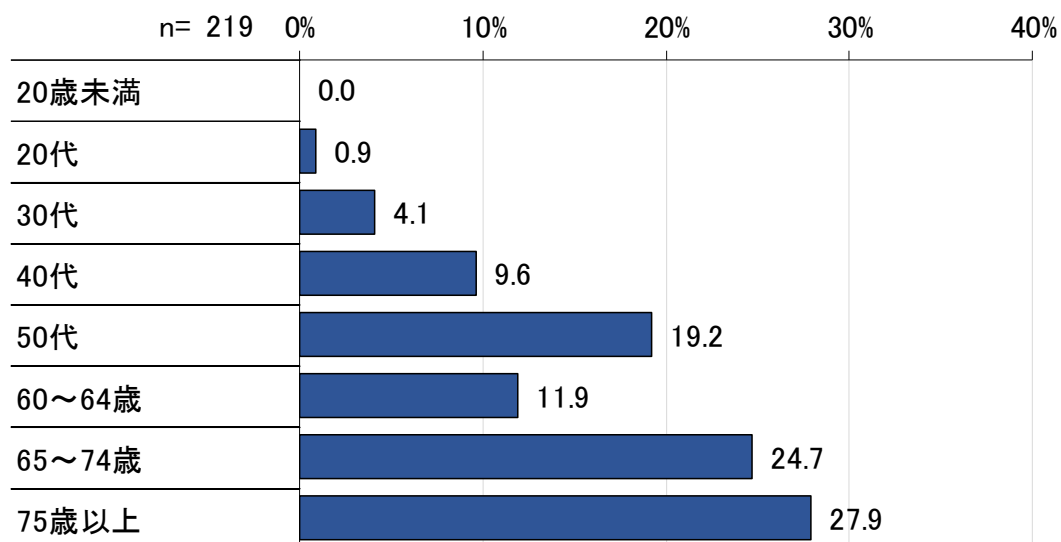
問 18-1 あなたを介助してくれる家族で、特に中心となっている方の年齢は
おいくつですか

(○はひとつだけ)

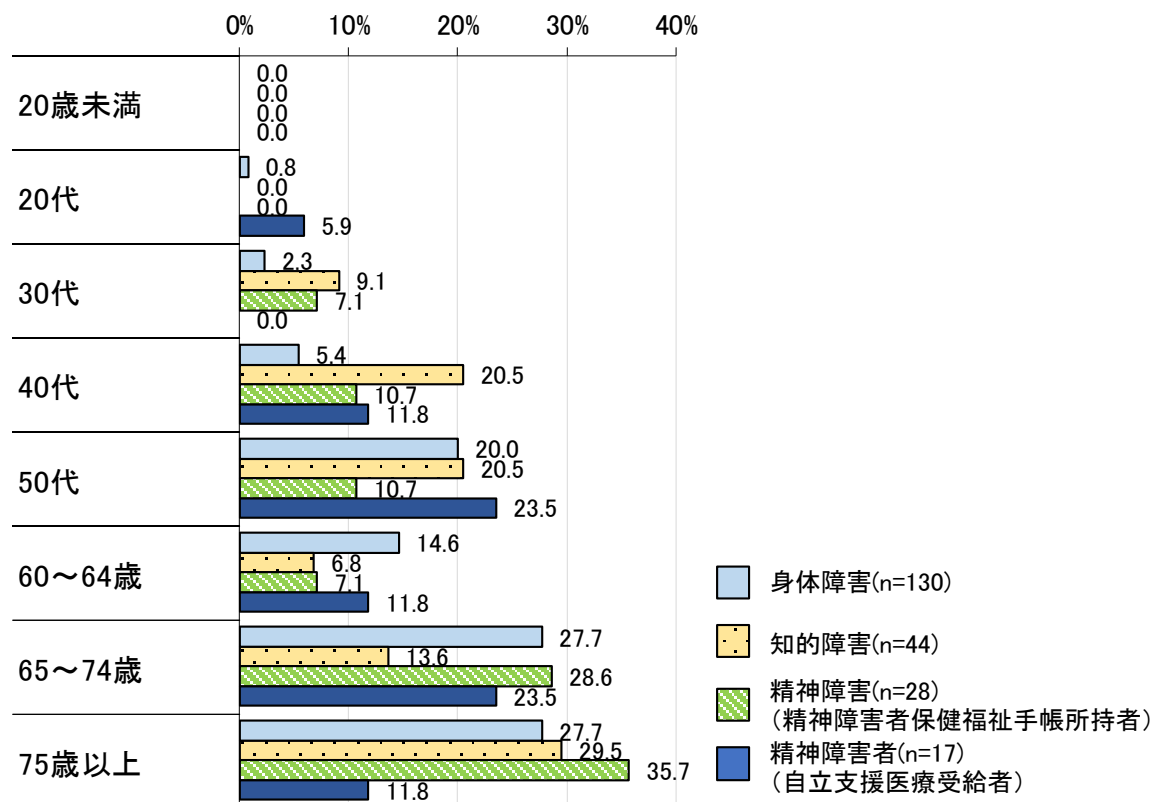
介助してくれる家族の中で特に中心となっている方の年齢は、全体では「65～74 歳」が 24.7%、「75 歳以上」が 27.9%となっており、両者を合わせると 52.6%と介助者の半数以上が 65 歳以上の高齢者という状況となっています。

障害種別にみても、身体障害で約5割以上、知的障害で4割、精神障害者保健福祉手帳所持者で6割、自立支援医療受給者でも3割を超える介助者が 65 歳以上の高齢者となっています。

全 体



クロス集計（障害種別）



2 住まいや生活について

(1) 月収

問 19 月の収入はいくらですか。(年金や手当を含む)

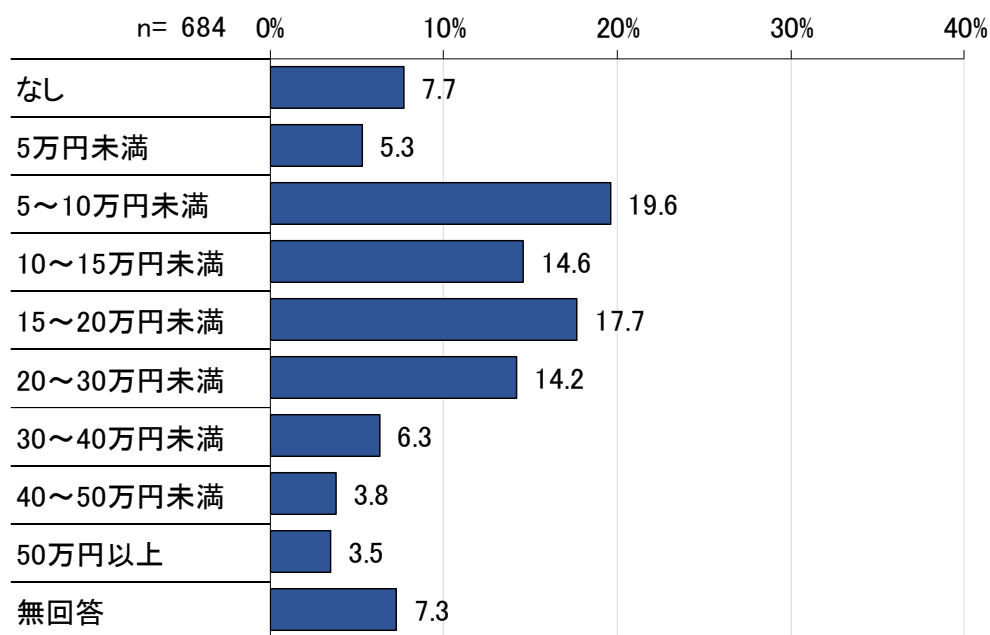
(○はひとつだけ)

月の収入は、身体障害の方では「15～20 万円未満」が 20.7%で最も多く、次いで「20～30 万円未満」が 16.8%となっています。

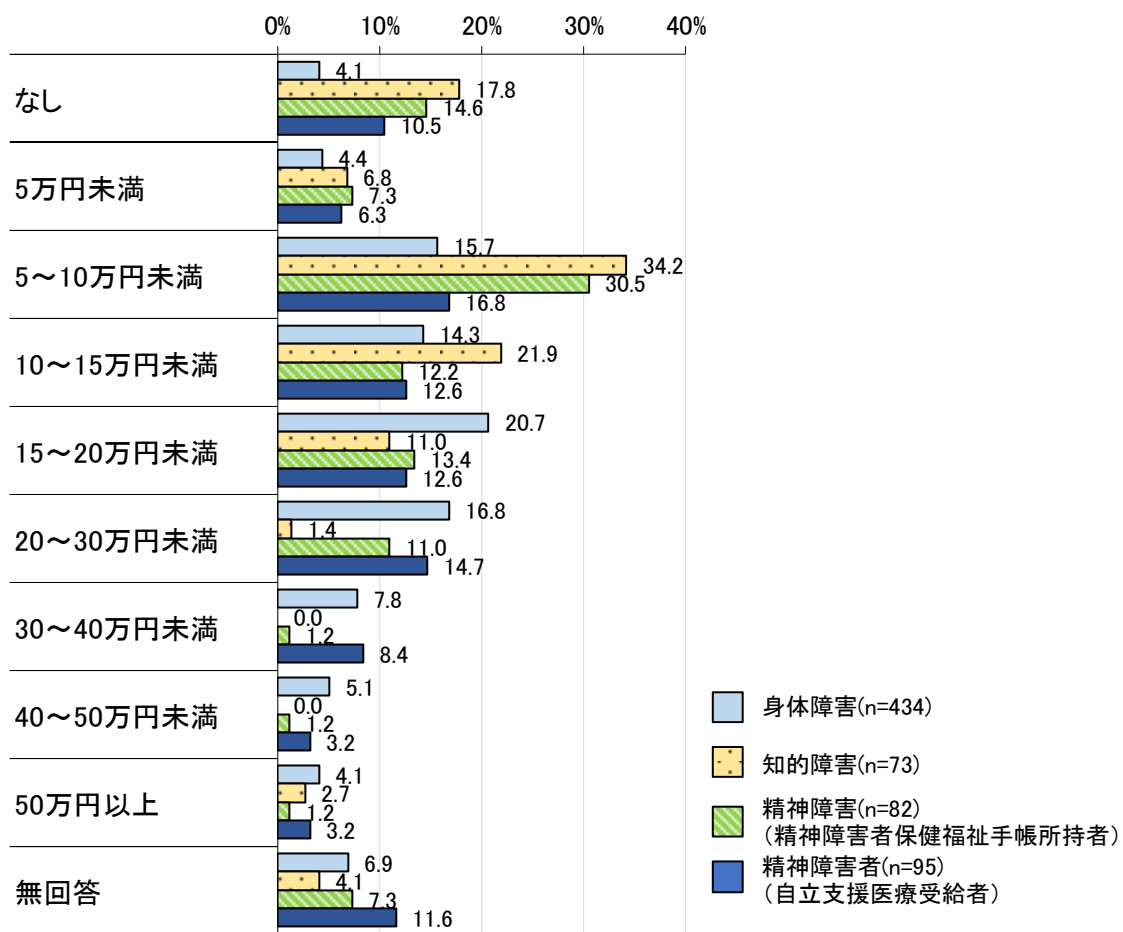
知的障害の方では「5～10 万円未満」が 34.2%、次いで「10～15 万円未満」が 21.9%と続き、精神障害者保健福祉手帳所持者(30.5%)、自立支援医療受給者(16.8%)では「5～10 万円未満」が最も多い結果となっています。

その一方で「なし」と答えた方の割合は、身体障害(4.1%)、知的障害(17.8%)、精神障害者保健福祉手帳所持者(14.6%)、自立支援医療受給者(10.5%)となりました。

全 体



クロス集計（障害種別）



(2)暮らしの状況

①現在の暮らし

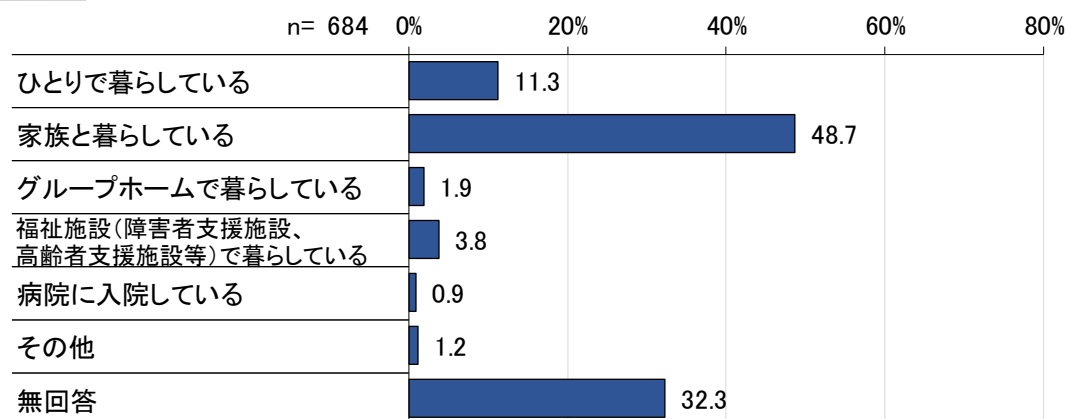
問 20 現在どのように暮らしていますか

(○はひとつだけ)

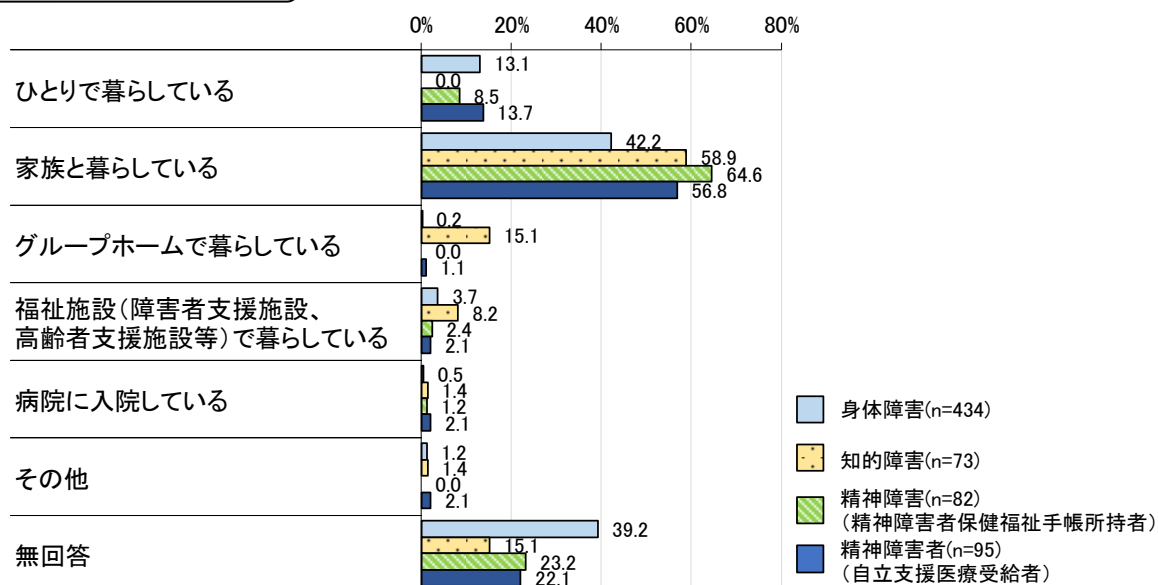
現在どのように暮らしているかについては、全体では「家族と暮らしている」方が5割近くを占め、「ひとりで暮らしている」方は11.3%となっています。

障害種別にみると、身体障害、自立支援医療受給者では「ひとりで暮らしている」方、知的障害では「グループホームで暮らしている」方、「福祉施設で暮らしている」方の割合が他の障害種別に比べてやや高くなっています。

全 体



クロス集計 (障害種別)



②同居者

問 20 【2. 家族と暮らしている】一緒に暮らしている方

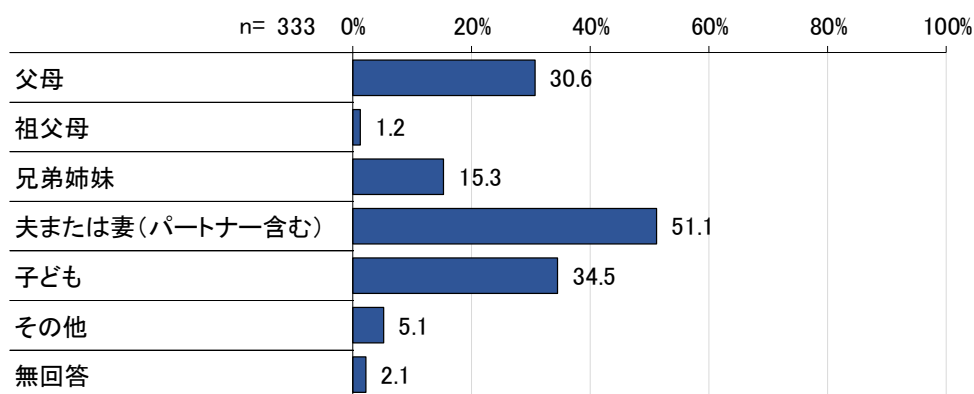
(暮らしている方すべてに○)

現在、家族と暮らしている方の同居者は、身体障害の方は「夫または妻(パートナー含む)」が66.1%で最も多く、次いで「子ども」が43.2%となっています。

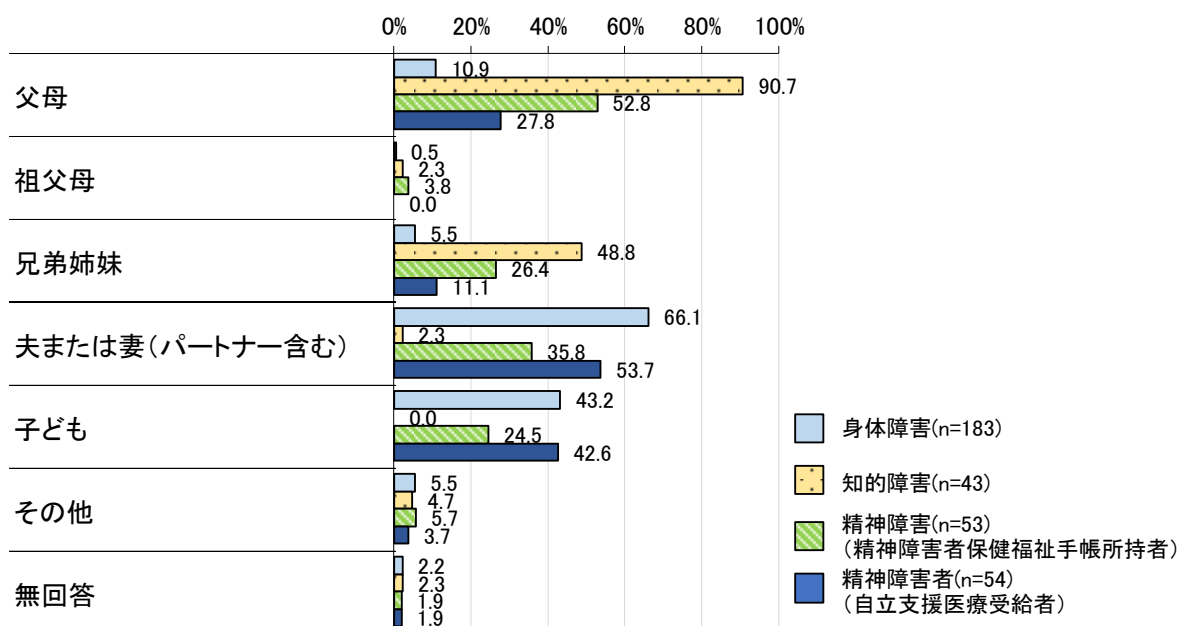
知的障害の方は「父母」が90.7%、「兄弟姉妹」が48.8%、精神障害者保健福祉手帳所持者も「父母」が52.8%で最も多くなっています。

自立支援医療受給者では「夫または妻(パートナー含む)」が53.7%、「子ども」が42.6%となっています。

全 体



クロス集計 (障害種別)



(3)地域での生活意向

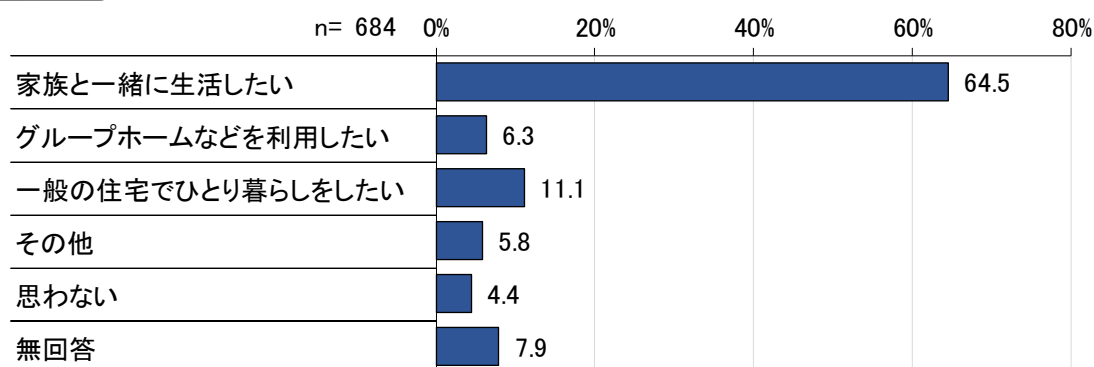
問 21 将来、現在暮らしている地域で生活したいと思いますか

(○はひとつだけ)

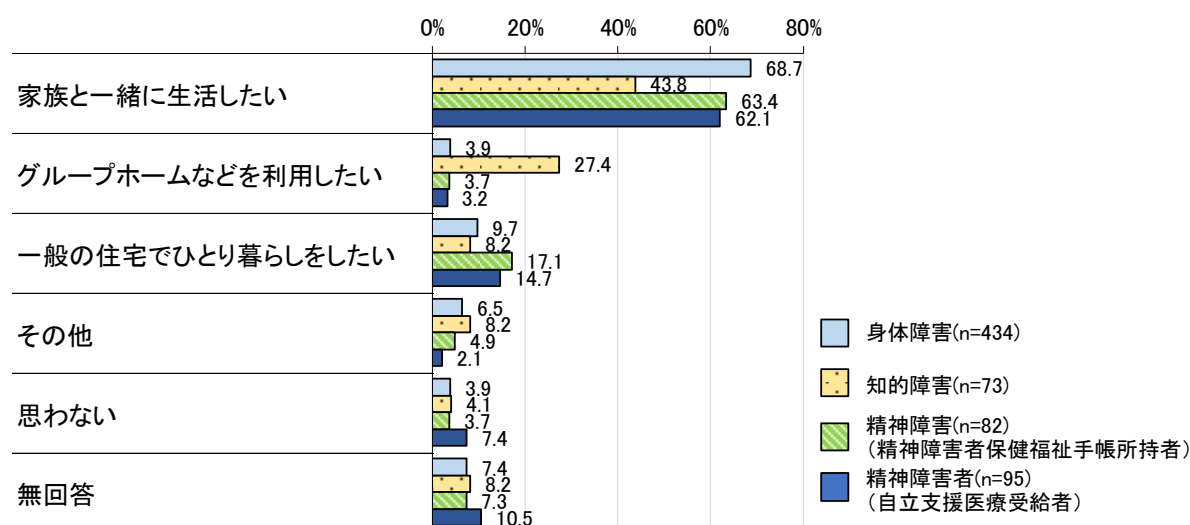
将来、地域で生活したいと思うかを聞いたところ、全体では「家族と一緒に生活したい」と回答した方が6割以上を占め、「一般の住宅でひとり暮らしをしたい」が11.1%、他の項目は1割を下回っています。

障害種別にみると、知的障害では「グループホームなどを利用したい」と回答した方が2割以上を占めています。精神障害者保健福祉手帳所持者、自立支援医療受給者では「一般の住宅でひとり暮らしをしたい」と回答した方(精神:17.1%・自立:14.7%)が他の障害種別に比べてやや高くなっています。

全 体



クロス集計 (障害種別)



(4) 地域で生活するための支援

問 22 施設や病院ではなく、現在暮らしている地域で生活するためには、
どのような支援があればよいと思いますか

(○はいくつでも)

施設や病院ではなく、地域で生活するために、あればよいと思う支援としては、全体では「必要な在宅サービスが適切に利用できること」が 46.9%で最も多く、次いで「経済的な負担の軽減」(45.6%)、「在宅で医療ケアなどが適切に得られること」(42.5%)と続いています。

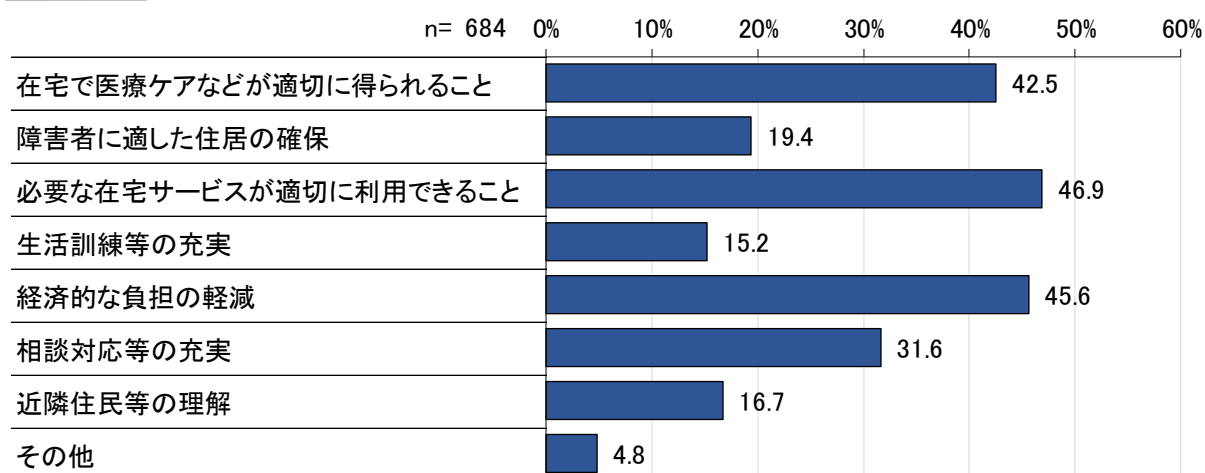
障害種別にみると、「経済的な負担の軽減」と回答した方が自立支援医療受給者(58.9%)、精神障害者保健福祉手帳所持者(57.3%)、知的障害(45.2%)で大きな割合を占めており、身体障害では「必要な在宅サービスが適切に利用できること」(50.5%)、知的障害では「近隣住民等の理解」(43.8%)、「障害者に適した住居の確保」(35.6%)をあげる人の割合が他の障害種別に比べて高くなっています。

年齢別にみると、身体障害の 18～64 歳では「経済的な負担の軽減」(56.4%)、65 歳以上では「在宅で医療ケアなどが適切に得られること」(53.3%)、「必要な在宅サービスが適切に利用できること」(52.7%)をあげる方の割合が高くなっています。

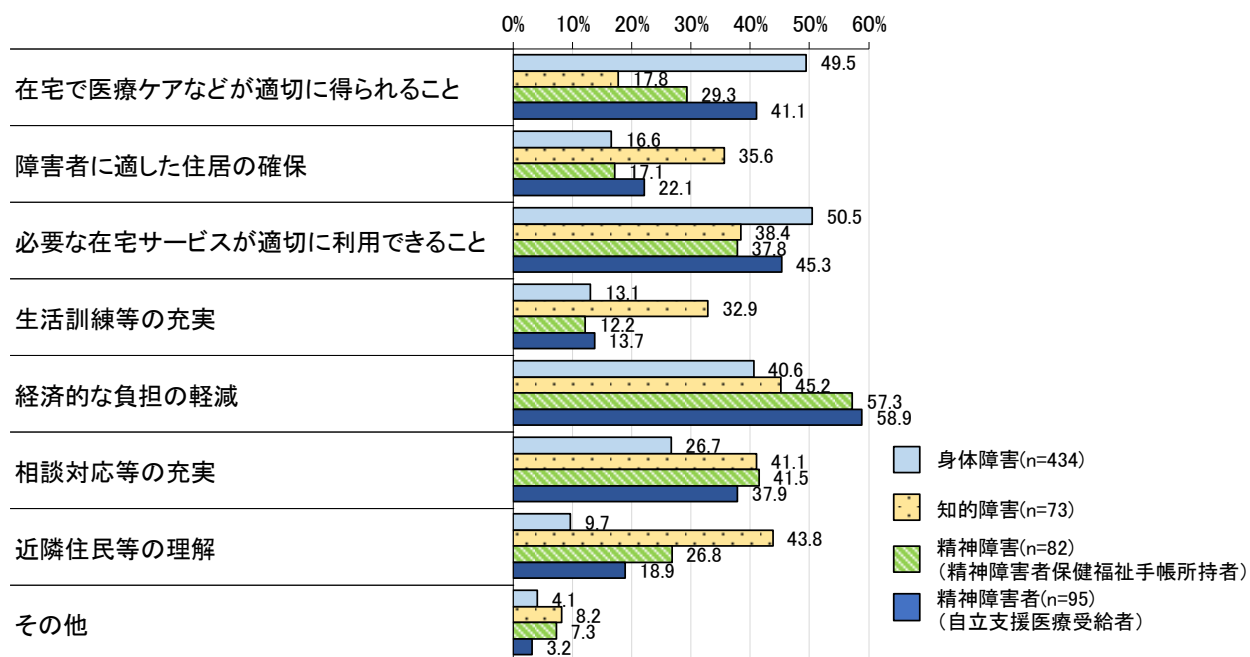
知的障害の 18 歳未満では「地域住民等の理解」(71.4%)、18～64 歳では「経済的な負担の軽減」(42.9%)、65 歳以上では「必要な在宅サービスが適切に利用できること」(66.7%)と回答された方が多くなっています。

自立支援医療受給者の 18～64 歳では「経済的な負担の軽減」(73.9%)、65 歳以上では「必要な在宅サービスが適切に利用できること」(58.6%)と回答された方の割合が高くなっています。

全 体



クロス集計（障害種別）



【身体障害・年齢別】

	n	在宅で医療ケアなどが適切に得られること	障害者に適した住居の確保	必要な在宅サービスが適切に利用できること	生活訓練等の充実	経済的な負担の軽減	相談対応等の充実
全体	434 人	49.5%	16.6%	50.5%	13.1%	40.6%	26.7%
18 歳未満	4 人	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	100.0%	75.0%
18～64 歳	78 人	33.3%	34.6%	42.3%	12.8%	56.4%	33.3%
65 歳以上	351 人	53.3%	12.5%	52.7%	13.4%	36.5%	24.8%
	n	地域住民等の理解	その他	無回答			
全体	434 人	9.7%	4.1%	13.1%			
18 歳未満	4 人	50.0%	0.0%	0.0%			
18～64 歳	78 人	15.4%	3.8%	12.8%			
65 歳以上	351 人	8.0%	4.3%	13.4%			

【知的障害・年齢別】

	n	在宅で医療ケアなどが適切に得られること	障害者に適した住居の確保	必要な在宅サービスが適切に利用できること	生活訓練等の充実	経済的な負担の軽減	相談対応等の充実
全体	73 人	17.8%	35.6%	38.4%	32.9%	45.2%	41.1%
18 歳未満	14 人	0.0%	28.6%	42.9%	64.3%	57.1%	64.3%
18～64 歳	56 人	23.2%	37.5%	35.7%	26.8%	42.9%	35.7%
65 歳以上	3 人	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	33.3%	33.3%
	n	地域住民等の理解	その他	無回答			
全体	73 人	43.8%	8.2%	11.0%			
18 歳未満	14 人	71.4%	7.1%	0.0%			
18～64 歳	56 人	39.3%	8.9%	12.5%			
65 歳以上	3 人	0.0%	0.0%	33.3%			

【精神障害者保健福祉手帳所持者・年齢別】

	n	在宅で医療ケアなどが適切に得られること	障害者に適した住居の確保	必要な在宅サービスが適切に利用できること	生活訓練等の充実	経済的な負担の軽減	相談対応等の充実
全体	82 人	29.3%	17.1%	37.8%	12.2%	57.3%	41.5%
18 歳未満	0 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
18～64 歳	60 人	26.7%	16.7%	35.0%	11.7%	70.0%	48.3%
65 歳以上	21 人	38.1%	14.3%	47.6%	9.5%	23.8%	23.8%
	n	地域住民等の理解	その他	無回答			
全体	82 人	26.8%	7.3%	8.5%			
18 歳未満	0 人	0.0%	0.0%	0.0%			
18～64 歳	60 人	26.7%	6.7%	8.3%			
65 歳以上	21 人	28.6%	9.5%	9.5%			

【自立支援医療受給者・年齢別】

	n	在宅で医療ケアなどが適切に得られること	障害者に適した住居の確保	必要な在宅サービスが適切に利用できること	生活訓練等の充実	経済的な負担の軽減	相談対応等の充実
全体	95 人	41.1%	22.1%	45.3%	13.7%	58.9%	37.9%
18 歳未満	1 人	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
18～64 歳	46 人	37.0%	28.3%	43.5%	13.0%	73.9%	52.2%
65 歳以上	29 人	51.7%	6.9%	58.6%	17.2%	41.4%	31.0%
	n	地域住民等の理解	その他	無回答			
全体	95 人	18.9%	3.2%	13.7%			
18 歳未満	1 人	0.0%	0.0%	0.0%			
18～64 歳	46 人	28.3%	4.3%	8.7%			
65 歳以上	29 人	10.3%	0.0%	13.8%			

(5)5年後の過ごし方

問 23 5年後、どのように過ごしたいですか

(〇は3つまで)

5年後、どのように暮らしたいかを聞いたところ、全体では「自宅でゆっくり過ごしたい」が56.9%で最も多く、次いで「趣味の活動や地域活動をしたい」(23.4%)と続いています。

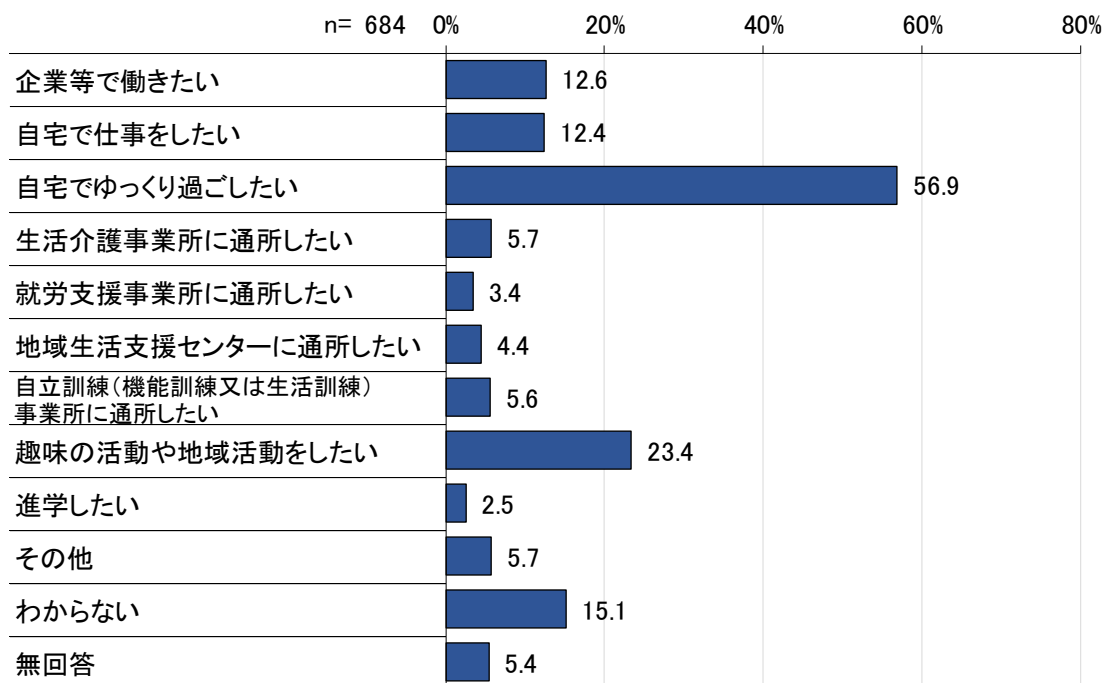
障害種別にみると、身体障害の方では6割を超える方が、精神障害者保健福祉手帳所持者、自立支援医療受給者でも5割近くの方が「自宅でゆっくり過ごしたい」と回答し、最も多くなっています。

知的障害の方では「企業で働きたい」との回答が21.9%と最も多くなっています。

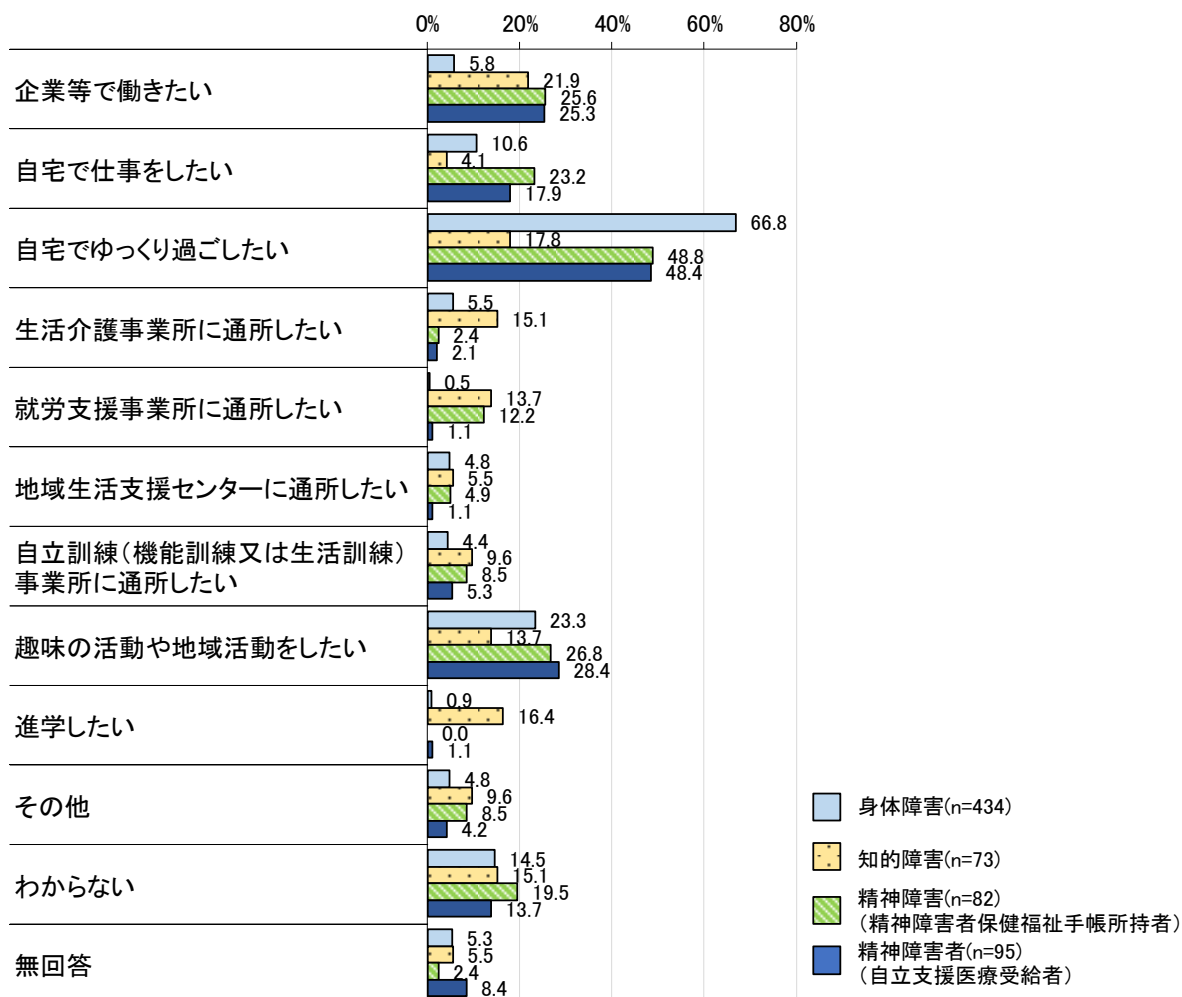
その他、知的障害では「進学したい」(16.4%)、「生活介護事業所に通所したい」(15.1%)、「就労支援事業所に通所したい」(13.7%)の割合、精神障害者保健福祉手帳所持者では「自宅で仕事をしたい」(23.2%)をあげる人の割合がやや高くなっています。

年齢別にみると、いずれの障害種別でも65歳以上では「自宅でゆっくり過ごしたい」と回答する方の割合が高く、18歳未満では、身体障害(75.0%)、知的障害(71.4%)で「進学したい」と回答した方が多くなっています。

全 体



クロス集計（障害種別）



【身体障害・年齢別】

	n	企業等で働きたい	自宅で仕事をしたい	自宅でゆっくり過ごしたい	生活介護事業所に通所したい	就労支援事業所に通所したい	地域生活支援センターに通所したい
全体	434 人	5.8%	10.6%	66.8%	5.5%	0.5%	4.8%
18 歳未満	4 人	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%
18～64 歳	78 人	21.8%	24.4%	60.3%	0.0%	0.0%	6.4%
65 歳以上	351 人	2.0%	7.7%	68.7%	6.8%	0.6%	4.6%
	n	自立訓練事業所に通所したい	趣味の活動や地域活動をしたい	進学したい	その他	わからない	無回答
全体	434 人	4.4%	23.3%	0.9%	4.8%	14.5%	5.3%
18 歳未満	4 人	0.0%	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%
18～64 歳	78 人	2.6%	29.5%	1.3%	10.3%	14.1%	1.3%
65 歳以上	351 人	4.8%	21.9%	0.0%	3.7%	14.8%	6.3%

【知的障害・年齢別】

	n	企業等で働きたい	自宅で仕事をしたい	自宅でゆっくり過ごしたい	生活介護事業所に通所したい	就労支援事業所に通所したい	地域生活支援センターに通所したい
全体	73 人	21.9%	4.1%	17.8%	15.1%	13.7%	5.5%
18 歳未満	14 人	14.3%	0.0%	0.0%	7.1%	14.3%	0.0%
18～64 歳	56 人	25.0%	5.4%	21.4%	16.1%	14.3%	7.1%
65 歳以上	3 人	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%
	n	自立訓練事業所に通所したい	趣味の活動や地域活動をしたい	進学したい	その他	わからない	無回答
全体	73 人	9.6%	13.7%	16.4%	9.6%	15.1%	5.5%
18 歳未満	14 人	7.1%	21.4%	71.4%	21.4%	7.1%	0.0%
18～64 歳	56 人	10.7%	12.5%	3.6%	5.4%	16.1%	7.1%
65 歳以上	3 人	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%

【精神障害者保健福祉手帳所持者・年齢別】

	n	企業等で働きたい	自宅で仕事をしたい	自宅でゆっくり過ごしたい	生活介護事業所に通所したい	就労支援事業所に通所したい	地域生活支援センターに通所したい
全体	82 人	25.6%	23.2%	48.8%	2.4%	12.2%	4.9%
18 歳未満	0 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
18～64 歳	60 人	35.0%	30.0%	41.7%	0.0%	13.3%	5.0%
65 歳以上	21 人	0.0%	4.8%	71.4%	9.5%	4.8%	4.8%
	n	自立訓練事業所に通所したい	趣味の活動や地域活動をしたい	進学したい	その他	わからない	無回答
全体	82 人	8.5%	26.8%	0.0%	8.5%	19.5%	2.4%
18 歳未満	0 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
18～64 歳	60 人	10.0%	33.3%	0.0%	10.0%	21.7%	3.3%
65 歳以上	21 人	0.0%	9.5%	0.0%	4.8%	14.3%	0.0%

【自立支援医療受給者・年齢別】

	n	企業等で働きたい	自宅で仕事をしたい	自宅でゆっくり過ごしたい	生活介護事業所に通所したい	就労支援事業所に通所したい	地域生活支援センターに通所したい
全体	95 人	25.3%	17.9%	48.4%	2.1%	1.1%	1.1%
18 歳未満	1 人	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
18～64 歳	46 人	47.8%	26.1%	37.0%	0.0%	2.2%	0.0%
65 歳以上	29 人	3.4%	6.9%	65.5%	3.4%	0.0%	0.0%
	n	自立訓練事業所に通所したい	趣味の活動や地域活動をしたい	進学したい	その他	わからない	無回答
全体	95 人	5.3%	28.4%	1.1%	4.2%	13.7%	8.4%
18 歳未満	1 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
18～64 歳	46 人	0.0%	41.3%	0.0%	4.3%	10.9%	4.3%
65 歳以上	29 人	10.3%	20.7%	3.4%	3.4%	13.8%	10.3%

(6) 日常生活における困りごとや不安に思うこと

問 24 普段の生活で、特に困ったり不安に思っていることは何ですか

(〇はいくつでも)

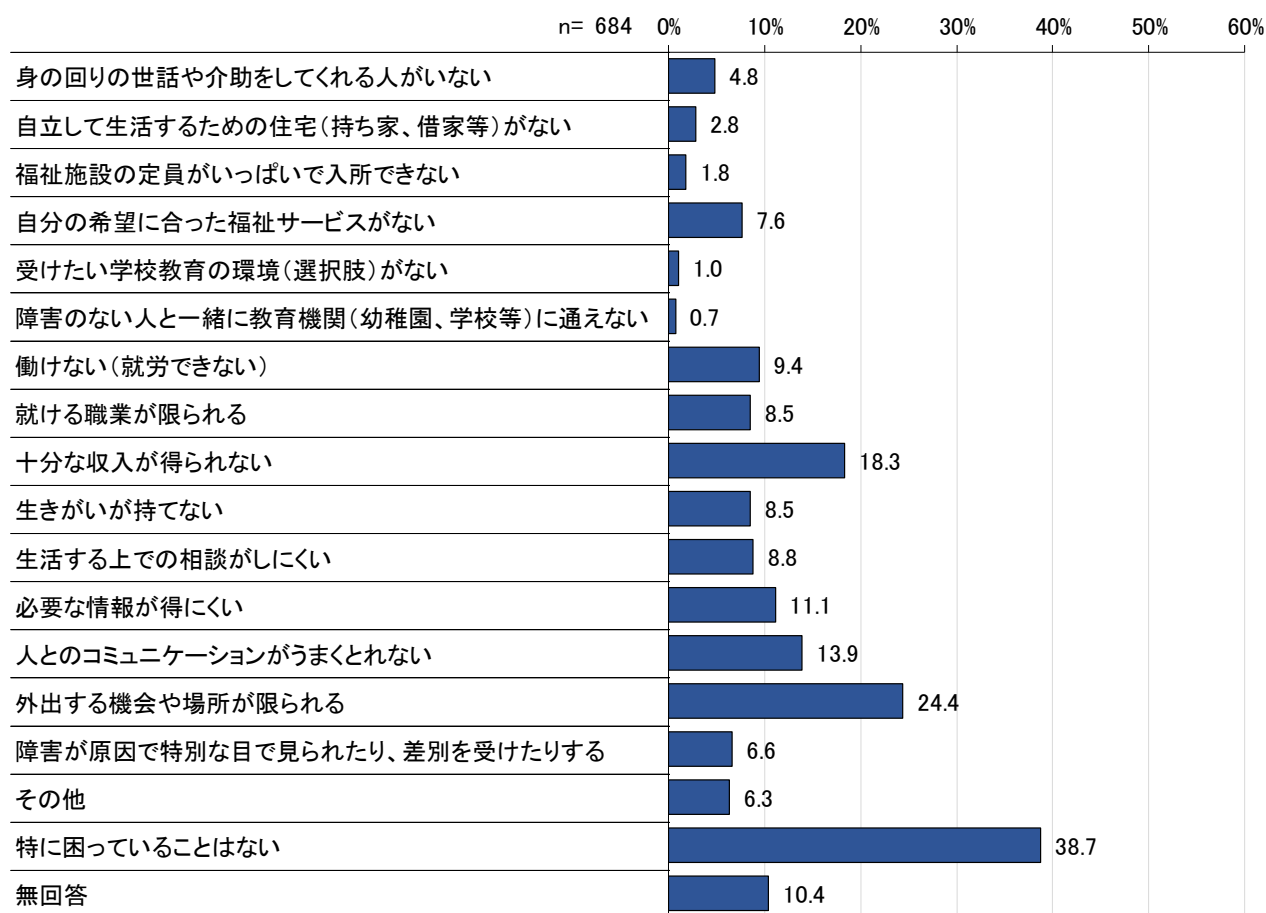
普段の生活で特に困ったり、不安に思っていることは、「特に困っていることはない」との回答が 38.7%で最も多く、身体障害では 46.3%と5割近くを占めています。

困りごとや不安に思うこととしては、全体では「外出する機会や場所が限られる」が 24.4%で最も多く、次いで「十分な収入が得られない」が 18.3%、「人とのコミュニケーションがうまくとれない」が 13.9%と続いています。

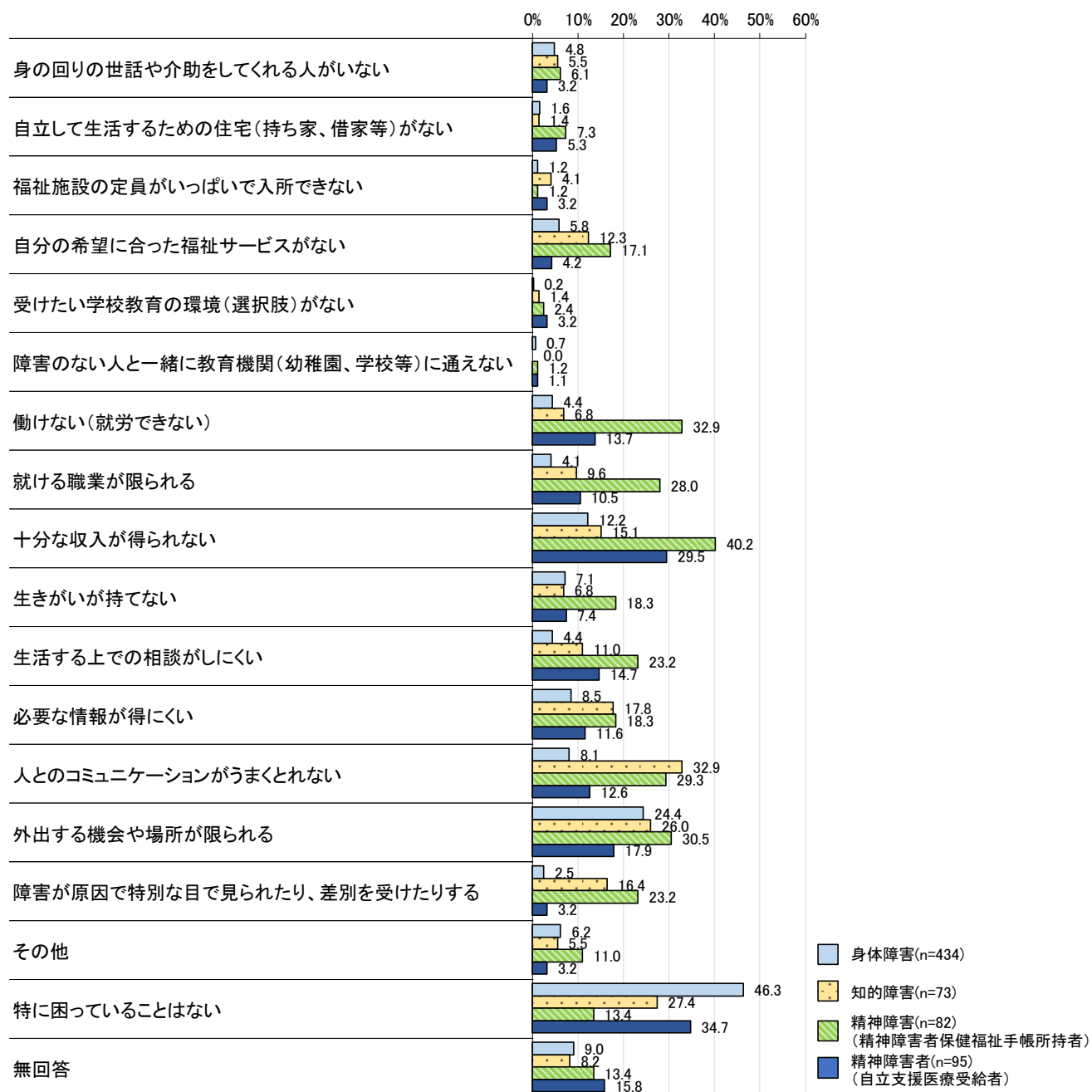
障害種別にみると、身体障害では「外出する機会や場所が限られる」(24.4%)を、自立支援医療受給者では「十分な収入が得られない」(29.5%)をあげる方が最も多くなっています。

知的障害では「人とのコミュニケーションがうまくとれない」(32.9%)、精神障害者保健福祉手帳所持者では「十分な収入が得られない」(40.2%)、「働けない(就労できない)」(32.9%)、「人とのコミュニケーションがうまくとれない」(29.3%)をあげる方の割合が他の障害種別に比べて高くなっています。

全 体



クロス集計（障害種別）



【身体障害・年齢別】

	n	身の回りの世話や介助をしてくれる人がいない	自立して生活するための住宅（持ち家、借家等）がない	福祉施設の定員がいっぱいで入所できない	自分の希望に合った福祉サービスがない	受たい学校教育の環境（選択肢）がない	障害のない人と一緒に教育機関（幼稚園、学校等）に通えない
全体	434 人	4.8%	1.6%	1.2%	5.8%	0.2%	0.7%
18 歳未満	4 人	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%
18～64 歳	78 人	1.3%	5.1%	1.3%	9.0%	1.3%	1.3%
65 歳以上	351 人	5.7%	0.9%	1.1%	4.8%	0.0%	0.3%
	n	働けない（就労できない）	就ける職業が限られる	十分な収入が得られない	生きがいがない	生活する上での相談がにくい	必要な情報が得にくい
全体	434 人	4.4%	4.1%	12.2%	7.1%	4.4%	8.5%
18 歳未満	4 人	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%	50.0%
18～64 歳	78 人	15.4%	14.1%	32.1%	6.4%	9.0%	15.4%
65 歳以上	351 人	2.0%	1.7%	7.7%	7.4%	3.1%	6.6%
	n	人とのコミュニケーションがうまくとれない	外出する機会や場所が限られる	障害が原因で特別な目で見られたり、差別を受けたりする	その他	特に困っていることはない	無回答
全体	434 人	8.1%	24.4%	2.5%	6.2%	46.3%	9.0%
18 歳未満	4 人	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%
18～64 歳	78 人	7.7%	25.6%	10.3%	6.4%	34.6%	3.8%
65 歳以上	351 人	8.0%	24.5%	0.9%	6.3%	49.0%	10.0%

普段の生活で、特に困ったり不安に思っていることとしては、身体障害の 65 歳以上では全体同様「外出する機会や場所が限られる」、18 歳未満では「必要な情報が得にくい」、18～64 歳では「十分な収入が得られない」との回答が最も多くなっています。

【知的障害・年齢別】

	n	身の回りの世話や介助をしてくれる人がいない	自立して生活するための住宅（持ち家、借家等）がない	福祉施設の定員がいっぱいで入所できない	自分の希望に合った福祉サービスがない	受たい学校教育の環境（選択肢）がない	障害のない人と一緒に教育機関（幼稚園、学校等）に通えない
全体	73 人	5.5%	1.4%	4.1%	12.3%	1.4%	0.0%
18 歳未満	14 人	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	7.1%	0.0%
18～64 歳	56 人	5.4%	1.8%	5.4%	10.7%	0.0%	0.0%
65 歳以上	3 人	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%
	n	働けない（就労できない）	就ける職業が限られる	十分な収入が得られない	生きがいがない	生活する上での相談がにくい	必要な情報が得にくい
全体	73 人	6.8%	9.6%	15.1%	6.8%	11.0%	17.8%
18 歳未満	14 人	0.0%	7.1%	0.0%	7.1%	21.4%	28.6%
18～64 歳	56 人	8.9%	10.7%	17.9%	7.1%	8.9%	16.1%
65 歳以上	3 人	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	n	人とのコミュニケーションがうまくとれない	外出する機会や場所が限られる	障害が原因で特別な目で見られたり、差別を受けたりする	その他	特に困っていることはない	無回答
全体	73 人	32.9%	26.0%	16.4%	5.5%	27.4%	8.2%
18 歳未満	14 人	28.6%	14.3%	14.3%	0.0%	14.3%	0.0%
18～64 歳	56 人	35.7%	28.6%	17.9%	7.1%	28.6%	10.7%
65 歳以上	3 人	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%

普段の生活で、特に困ったり不安に思っていることとしては、知的障害の 18 歳未満では「必要な情報が得にくい」「人とのコミュニケーションがうまくとれない」、18～64 歳でも「人とのコミュニケーションがうまくとれない」との回答が最も多くなっています。

【精神障害者保健福祉手帳所持者・年齢別】

	n	身の回りの世話や介助をしてくれる人がいない	自立して生活するための住宅（持ち家、借家等）がない	福祉施設の定員がいっぱいで入所できない	自分の希望に合った福祉サービスがない	受けたい学校教育の環境（選択肢）がない	障害のない人と一緒に教育機関（幼稚園、学校等）に通えない
全体	82 人	6.1%	7.3%	1.2%	17.1%	2.4%	1.2%
18 歳未満	0 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
18～64 歳	60 人	8.3%	8.3%	1.7%	20.0%	3.3%	1.7%
65 歳以上	21 人	0.0%	4.8%	0.0%	9.5%	0.0%	0.0%
	n	働けない（就労できない）	就ける職業が限られる	十分な収入が得られない	生きがいがない	生活する上で相談がにくい	必要な情報が得にくい
全体	82 人	32.9%	28.0%	40.2%	18.3%	23.2%	18.3%
18 歳未満	0 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
18～64 歳	60 人	40.0%	36.7%	48.3%	21.7%	30.0%	21.7%
65 歳以上	21 人	14.3%	4.8%	19.0%	9.5%	4.8%	9.5%
	n	人とのコミュニケーションがうまくとれない	外出する機会や場所が限られる	障害が原因で特別な目で見られたり、差別を受けたりする	その他	特に困っていることはない	無回答
全体	82 人	29.3%	30.5%	23.2%	11.0%	13.4%	13.4%
18 歳未満	0 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
18～64 歳	60 人	35.0%	30.0%	30.0%	13.3%	8.3%	8.3%
65 歳以上	21 人	14.3%	33.3%	4.8%	4.8%	28.6%	23.8%

普段の生活で、特に困ったり不安に思っていることとしては、精神障害者保健福祉手帳所持者の 18～64 歳では、「十分な収入が得られない」、「働けない（就労できない）」、をあげる人の割合が4割以上を占め、65 歳以上に比べて高いのが目立ちます。

65 歳以上では、「外出する機会や場所が限られる」が最も多くなっています。

【自立支援医療受給者・年齢別】

	n	身の回りの世話や介助をしてくれる人がいない	自立して生活するための住宅（持ち家、借家等）がない	福祉施設の定員がいっぱいで入所できない	自分の希望に合った福祉サービスがない	受けたい学校教育の環境（選択肢）がない	障害のない人と一緒に教育機関（幼稚園、学校等）に通えない
全体	95 人	3.2%	5.3%	3.2%	4.2%	3.2%	1.1%
18 歳未満	1 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
18～64 歳	46 人	2.2%	10.9%	4.3%	6.5%	2.2%	2.2%
65 歳以上	29 人	3.4%	0.0%	3.4%	3.4%	6.9%	0.0%
	n	働けない（就労できない）	就ける職業が限られる	十分な収入が得られない	生きがいがない	生活する上での相談がにくい	必要な情報が得にくい
全体	95 人	13.7%	10.5%	29.5%	7.4%	14.7%	11.6%
18 歳未満	1 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
18～64 歳	46 人	21.7%	15.2%	43.5%	10.9%	19.6%	17.4%
65 歳以上	29 人	6.9%	6.9%	20.7%	3.4%	13.8%	10.3%
	n	人とのコミュニケーションがうまくとれない	外出する機会や場所が限られる	障害が原因で特別な目で見られたり、差別を受けたりする	その他	特に困っていることはない	無回答
全体	95 人	12.6%	17.9%	3.2%	3.2%	34.7%	15.8%
18 歳未満	1 人	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
18～64 歳	46 人	19.6%	17.4%	6.5%	4.3%	30.4%	6.5%
65 歳以上	29 人	6.9%	20.7%	0.0%	0.0%	37.9%	17.2%

普段の生活で、特に困ったり不安に思っていることとしては、自立支援医療受給者の 18～64 歳では「十分な収入が得られない」との回答が最も多く、65 歳以上では、「十分な収入が得られない」「外出する機会や場所が限られる」、18 歳未満では「外出する機会や場所が限られる」となっています。

3 日中活動や就労・通園・通学について

(1)外出頻度

問 25 1 週間にどの程度外出しますか

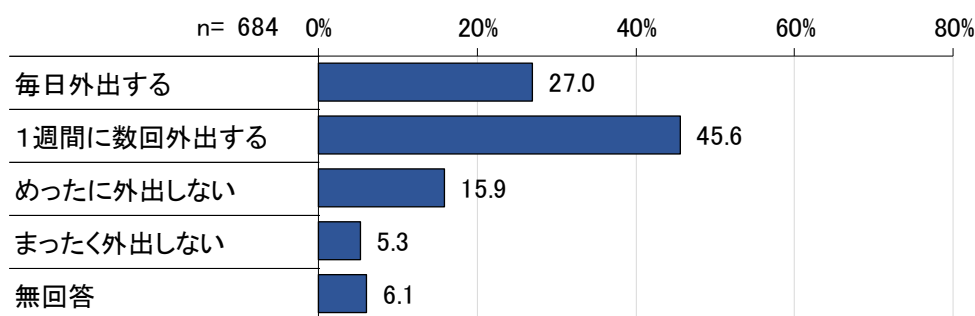
(○はひとつだけ)

外出の頻度をみると、全体では「1週間に数回外出する」方が4割以上を占め、「毎日外出する」方は 27.0%と4人に1人以上の割合となっています。

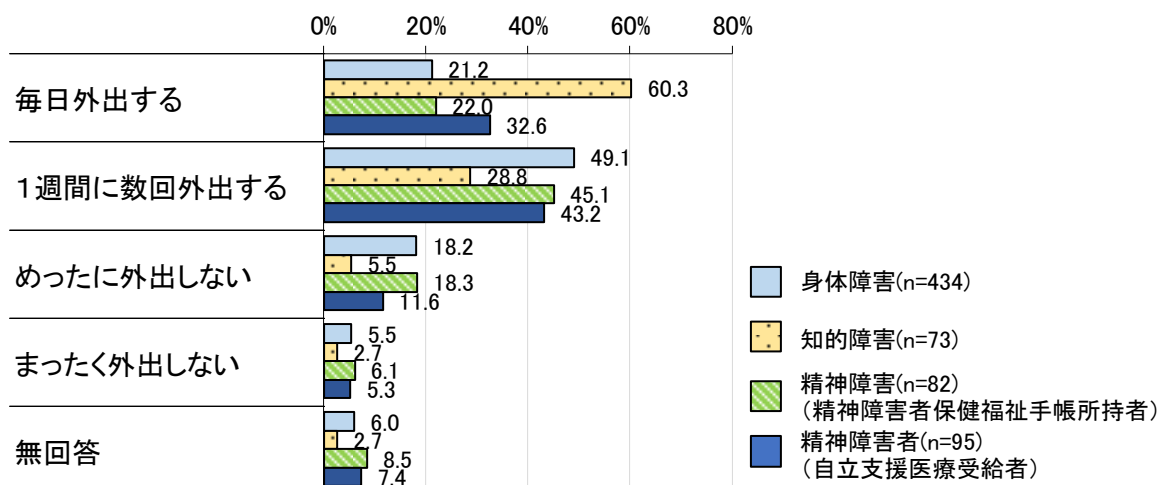
一方、「めったに外出しない」方は 15.9%、「まったく外出しない」方は 5.3%となっています。

障害種別にみると、知的障害では「毎日外出する」と回答した方の割合が6割を超え、他の障害種別に比べて高くなっています。

全 体



クロス集計 (障害種別)



(2)外出の際の同伴者

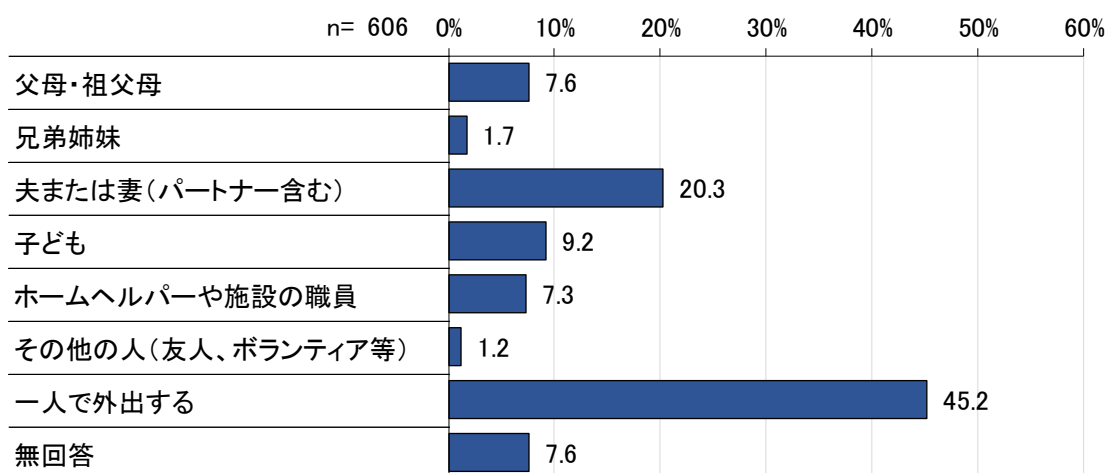
問 26 外出する際の主な同伴者は誰ですか

(○はひとつだけ)

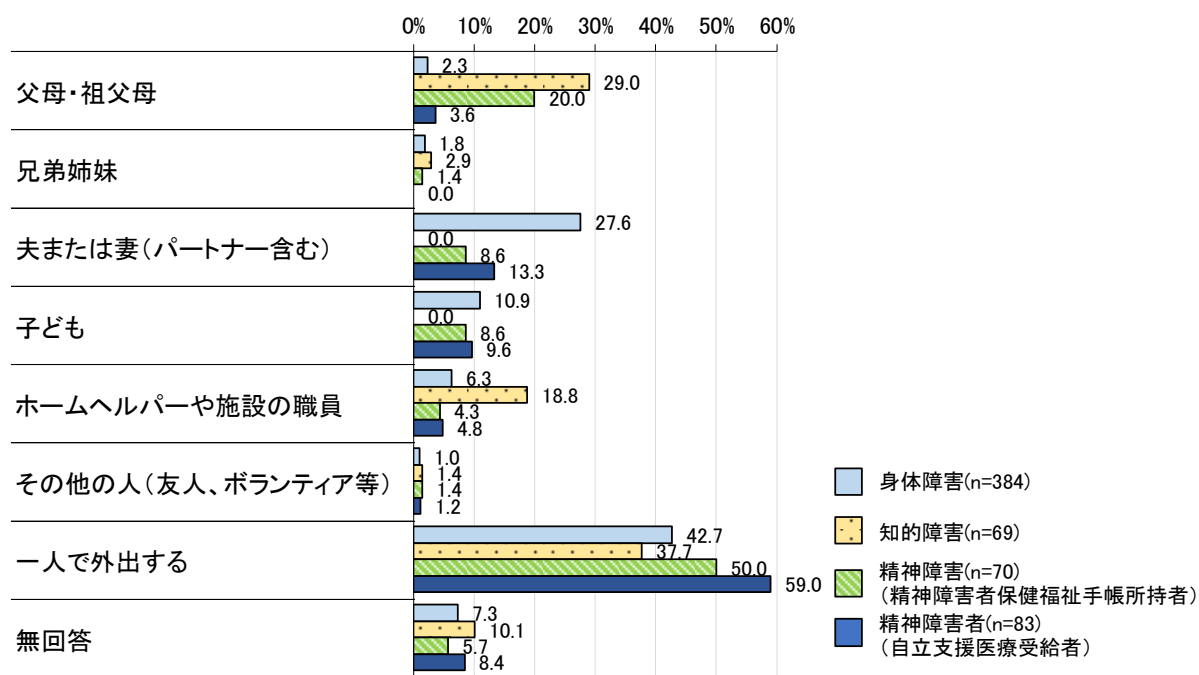
外出の際の主な同伴者をみると、全体では「一人で外出する」との回答が4割以上を占め、「夫または妻」(20.3%)、「子ども」(9.2%)、「父母・祖父母」(7.6%)と続いています。

障害種別にみると、身体障害では「夫または妻」、知的障害では「父母・祖父母」、「ホームヘルパーや施設の職員」の割合が他の障害種別に比べて高く、精神障害者保健福祉手帳所持者では5割以上、自立支援医療受給者では6割近くの方が「一人で外出できる」としています。

全 体



クロス集計 (障害種別)



(3)外出の目的

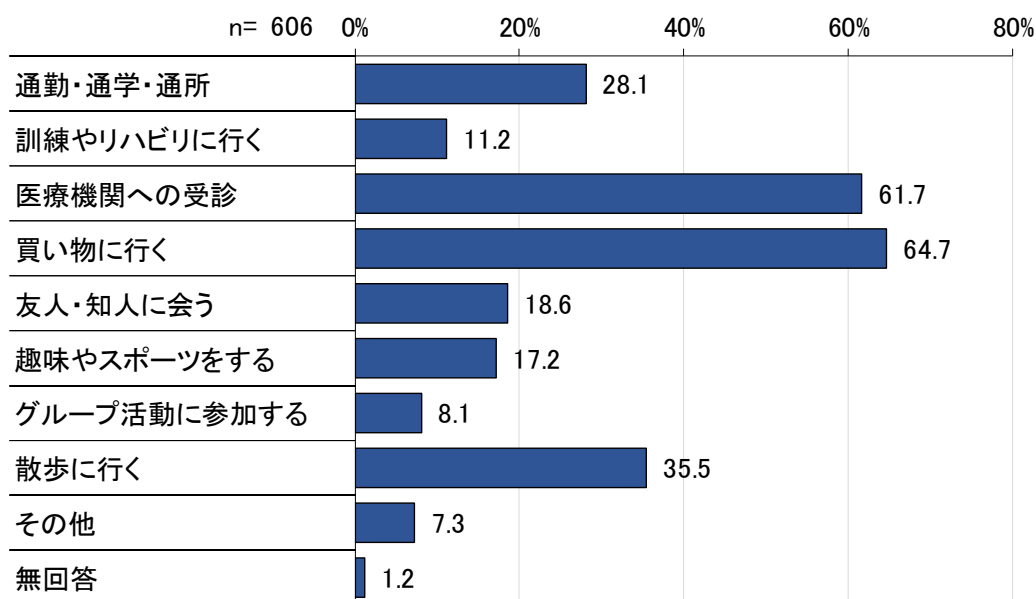
問 27 どのような目的で外出することが多いですか

(〇はいくつでも)

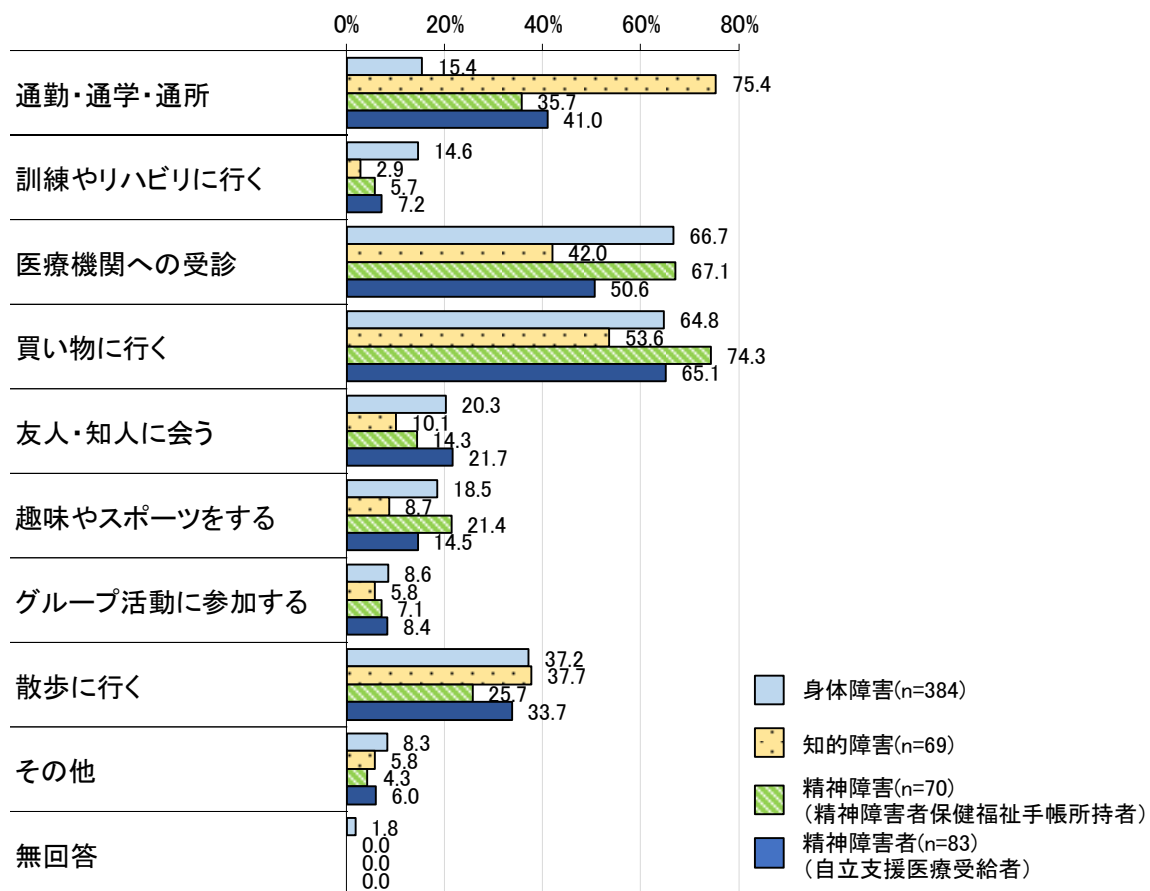
外出の目的は、全体では「買い物に行く」、「医療機関への受診」が6割を超えています。

障害種別にみると、知的障害では「通勤・通学・通所」の割合が75.4%と、他の障害種別に比べて特に高くなっています。

全 体



クロス集計（障害種別）



(4)外出時の交通手段

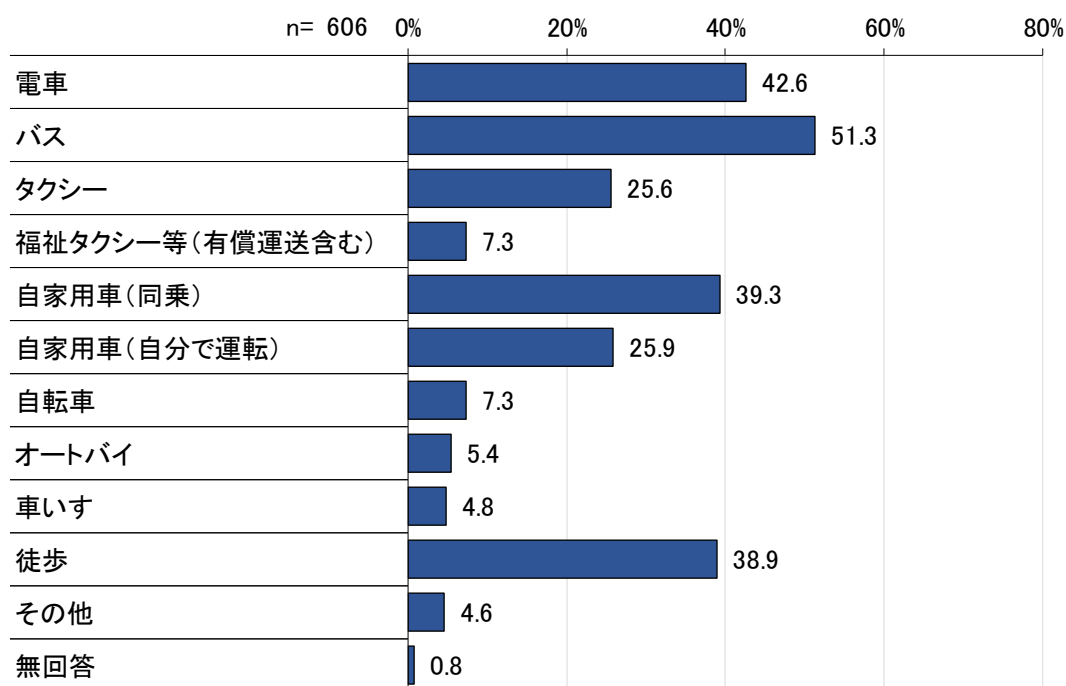
問 28 あなたが外出する場合の交通手段は何ですか

(○はいくつでも)

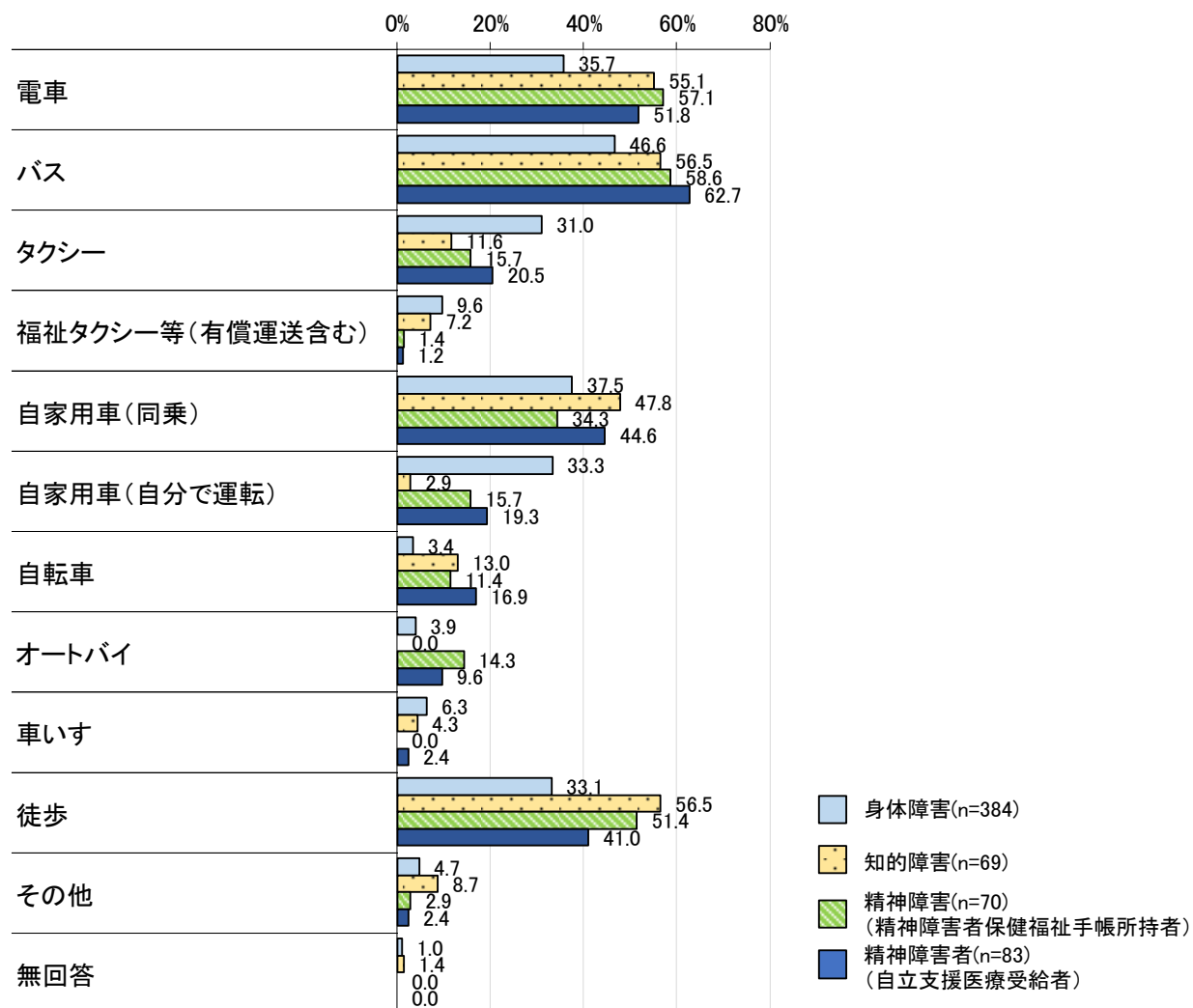
外出時の交通手段は、全体では「バス」が51.3%で最も多く、次いで「電車」(42.6%)、「自家用車(同乗)」(39.3%)、「徒歩」(38.9%)と続いています。

障害種別にみると、知的障害、自立支援医療受給者、精神障害者保健福祉手帳所持者ともに、「バス」「電車」の割合が5割以上と他の障害種別に比べて高くなっています。

全 体



クロス集計（障害種別）



(5)外出時の困りごと

問 29 外出する時に困ることは何ですか

(〇はいくつでも)

外出をする時に困ることとしては、全体では「特に困ることはない」が 32.6%で最も多く、次いで「路上に障害物、階段や段差が多い」(23.1%)、「移動の経費がかかる」(22.8%)、「交通機関の乗り降りが不便である」(18.0%)と続いています。

障害種別にみると、身体障害では「路上に障害物、階段や段差が多い」(29.0%)、知的障害では「人とのコミュニケーションがとりにくい」(42.5%)、精神障害者保健福祉手帳所持者では「移動の経費がかかる」(39.0%)、「人とのコミュニケーションがとりにくい」(30.5%)をあげる方が他の障害種別に比べて高くなっています。

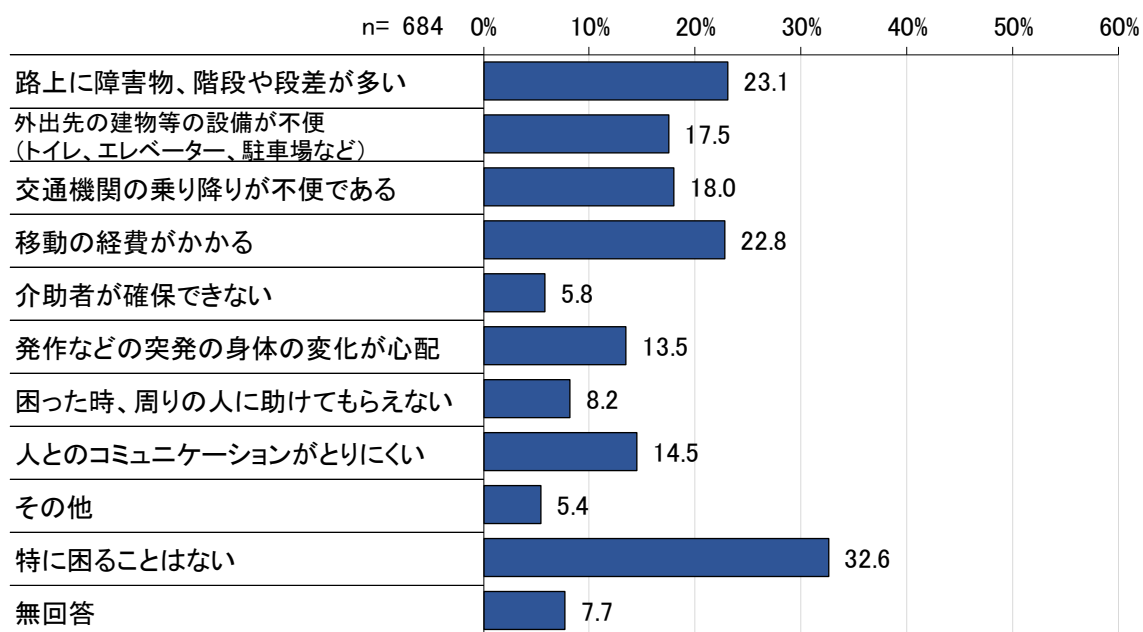
年齢別にみると、身体障害者では 18 歳未満では「発作などの突発の身体の変化が心配」、18～64 歳では「外出先の建物等の設備が不便」、65 歳以上では「路上に障害物、階段や段差が多い」との回答が多くなっています。

知的障害では、18 歳未満、18～64 歳では、「人とのコミュニケーションがうまくとれない」、65 歳以上では「交通機関の乗り降りが不便である」と回答した方の割合が高くなっています。

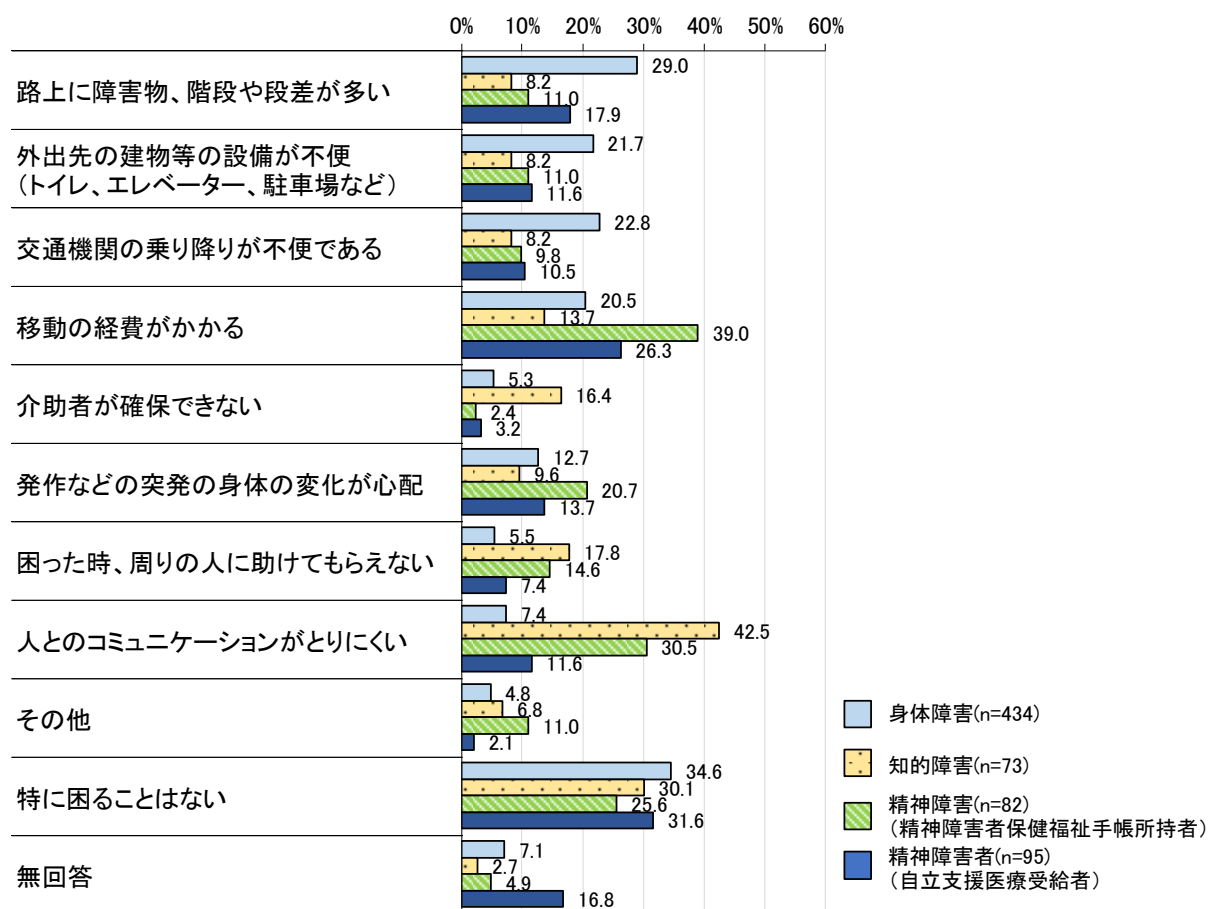
精神障害者保健福祉手帳所持者の 18～64 歳では「移動の経費がかかる」が4割以上、65 歳以上では「路上に障害物、階段や段差が多い」との回答が最も多くなっています。

自立支援医療受給者の 18 歳未満では「外出先の建物等の設備が不便」、18～64 歳では「移動の経費がかかる」、65 歳以上では「路上に障害物、階段や段差が多い」が最も多い回答となっています。

全 体



クロス集計（障害種別）



【身体障害・年齢別】

	n	路上に障害物、階段や段差が多い	外出先の建物等の設備が不便	交通機関の乗り降りが不便である	移動の経費がかかる	介助者が確保できない	発作などの突発の身体の変化が心配
全体	434 人	29.0%	21.7%	22.8%	20.5%	5.3%	12.7%
18 歳未満	4 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
18～64 歳	78 人	35.9%	38.5%	25.6%	21.8%	6.4%	14.1%
65 歳以上	351 人	27.9%	18.2%	22.5%	20.2%	5.1%	12.0%
	n	困った時、周りの人に助けてもらえない	人とのコミュニケーションがとりにくい	その他	特に困ることはない	無回答	
全体	434 人	5.5%	7.4%	4.8%	34.6%	7.1%	
18 歳未満	4 人	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	
18～64 歳	78 人	11.5%	14.1%	2.6%	21.8%	11.5%	
65 歳以上	351 人	4.0%	5.7%	5.1%	37.6%	6.3%	

【知的障害・年齢別】

	n	路上に障害物、階段や段差が多い	外出先の建物等の設備が不便	交通機関の乗り降りが不便である	移動の経費がかかる	介助者が確保できない	発作などの突発の身体の変化が心配
全体	73 人	8.2%	8.2%	8.2%	13.7%	16.4%	9.6%
18 歳未満	14 人	14.3%	0.0%	7.1%	14.3%	7.1%	0.0%
18～64 歳	56 人	7.1%	10.7%	5.4%	12.5%	19.6%	12.5%
65 歳以上	3 人	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
	n	困った時、周りの人に助けてもらえない	人とのコミュニケーションがとりにくい	その他	特に困ることはない	無回答	
全体	73 人	17.8%	42.5%	6.8%	30.1%	2.7%	
18 歳未満	14 人	28.6%	71.4%	7.1%	7.1%	0.0%	
18～64 歳	56 人	16.1%	37.5%	5.4%	37.5%	3.6%	
65 歳以上	3 人	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	

【精神障害者保健福祉手帳所持者・年齢別】

	n	路上に障害物、階段や段差が多い	外出先の建物等の設備が不便	交通機関の乗り降りが不便である	移動の経費がかかる	介助者が確保できない	発作などの突発の身体の変化が心配
全体	82 人	11.0%	11.0%	9.8%	39.0%	2.4%	20.7%
18 歳未満	0 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
18～64 歳	60 人	6.7%	10.0%	6.7%	46.7%	1.7%	25.0%
65 歳以上	21 人	23.8%	14.3%	19.0%	19.0%	4.8%	9.5%
	n	困った時、周りの人に助けてもらえない	人とのコミュニケーションがとりにくい	その他	特に困ることはない	無回答	
全体	82 人	14.6%	30.5%	11.0%	25.6%	4.9%	
18 歳未満	0 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
18～64 歳	60 人	20.0%	33.3%	10.0%	26.7%	3.3%	
65 歳以上	21 人	0.0%	19.0%	14.3%	23.8%	9.5%	

【自立支援医療受給者・年齢別】

	n	路上に障害物、階段や段差が多い	外出先の建物等の設備が不便	交通機関の乗り降りが不便である	移動の経費がかかる	介助者が確保できない	発作などの突発の身体の変化が心配
全体	95 人	17.9%	11.6%	10.5%	26.3%	3.2%	13.7%
18 歳未満	1 人	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
18～64 歳	46 人	10.9%	8.7%	10.9%	43.5%	2.2%	17.4%
65 歳以上	29 人	20.7%	13.8%	10.3%	10.3%	6.9%	13.8%
	n	困った時、周りの人に助けてもらえない	人とのコミュニケーションがとりにくい	その他	特に困ることはない	無回答	
全体	95 人	7.4%	11.6%	2.1%	31.6%	16.8%	
18 歳未満	1 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
18～64 歳	46 人	8.7%	10.9%	2.2%	34.8%	6.5%	
65 歳以上	29 人	10.3%	10.3%	0.0%	37.9%	20.7%	

(6) 日中の過ごし方

問 30 平日の日中を主にどのように過ごしていますか

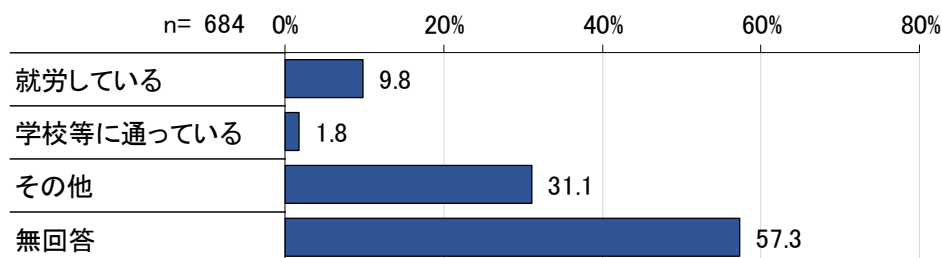
(○はひとつだけ)

平日の日中の主な過ごし方をみると、全体では「就労している」方は 9.8%、「学校等に通っている」方は 1.8%、「その他」が3割を占めています。

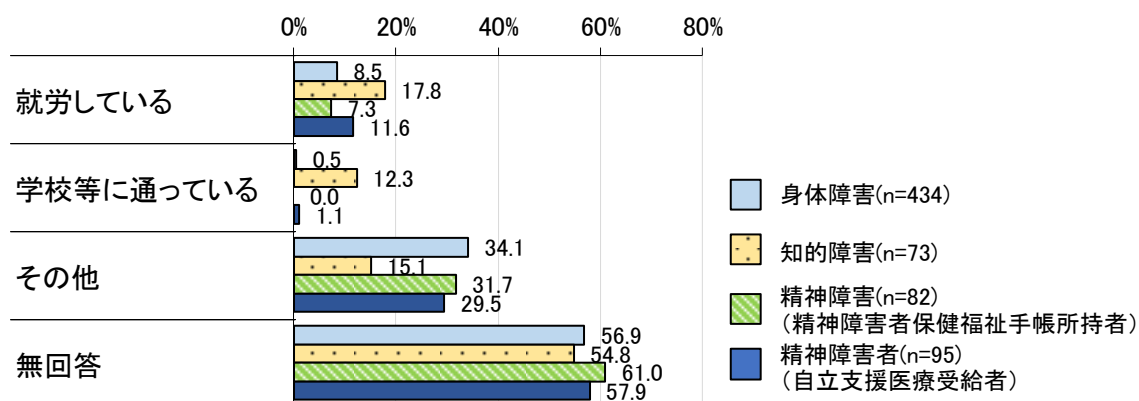
障害種別にみると、知的障害では「学校等に通っている」方の割合が高いのが目立ちます。

現在「就労している」方は、知的障害は 17.8%、自立支援医療受給者が 11.6%、身体障害が 8.5%、精神障害者保健福祉手帳所持者が 7.3%となっています。

全 体



クロス集計 (障害種別)



(7) 日中の活動場所・内容

① 勤務形態

問 31-1 【就労している】 どのような勤務形態で働いていますか

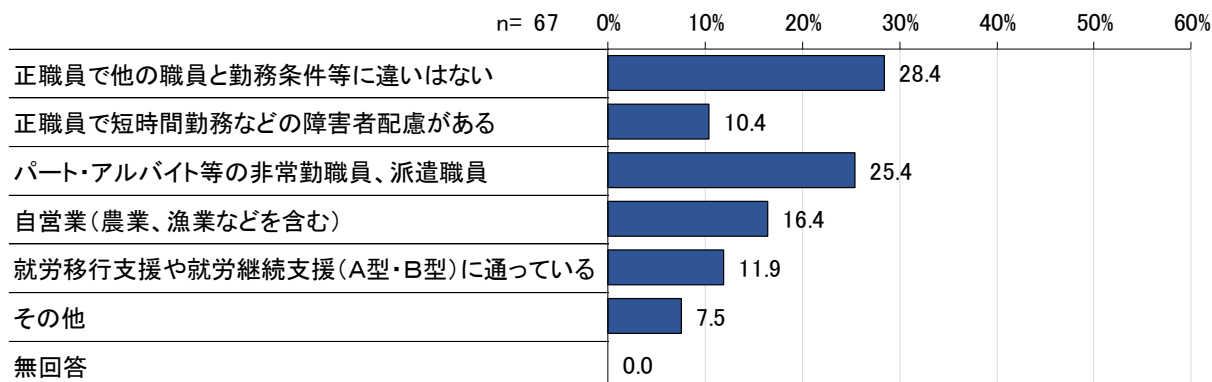
(○はひとつだけ)

現在就労している方の勤務形態をみると、全体では「正職員で他の職員と勤務条件等に違いはない」が28.4%で最も多く、次いで「パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員」(25.4%)、「自営業(農業、漁業などを含む)」(16.4%)と続いています。

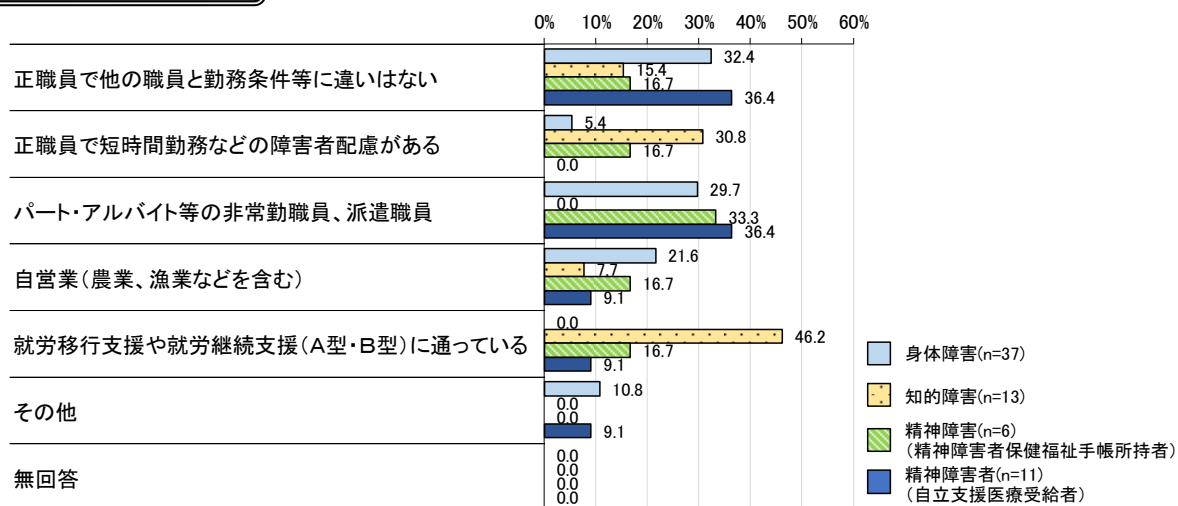
現在就労している方の勤務形態をみると、身体障害、自立支援医療受給者では「正職員で他の職員と勤務条件等に違いはない」の割合が3割以上と他の障害種別に比べて高く、知的障害以外の障害種別では「パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員」も3割前後を占めています。

知的障害では、「就労移行支援や就労継続支援(A型・B型)に通っている」が4割以上と、他の障害種別と比べて高い割合となっています。

全 体



クロス集計 (障害種別)



②就労先をみつけた方法

問 32-1 【就労している】 現在の就労先はどのような方法でみつけましたか

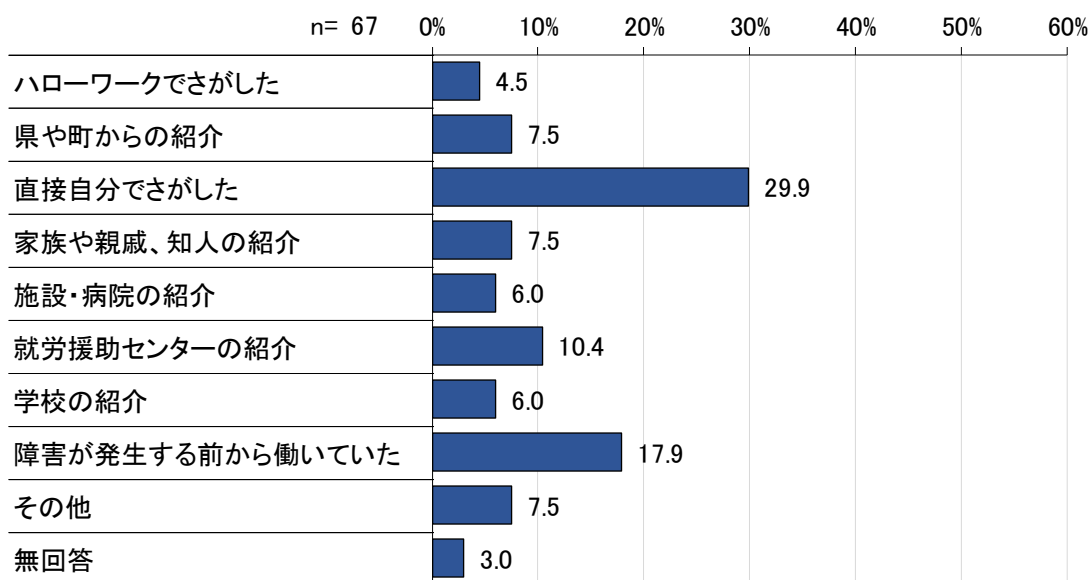
(〇はひとつだけ)

現在就労している方の、就労先をみつけた方法をみると、全体では「直接自分でさがした」方が29.9%、「障害が発生する前から働いていた」方が17.9%、「就労援助センターの紹介」が10.4%、他の方法は1割を下回っています。

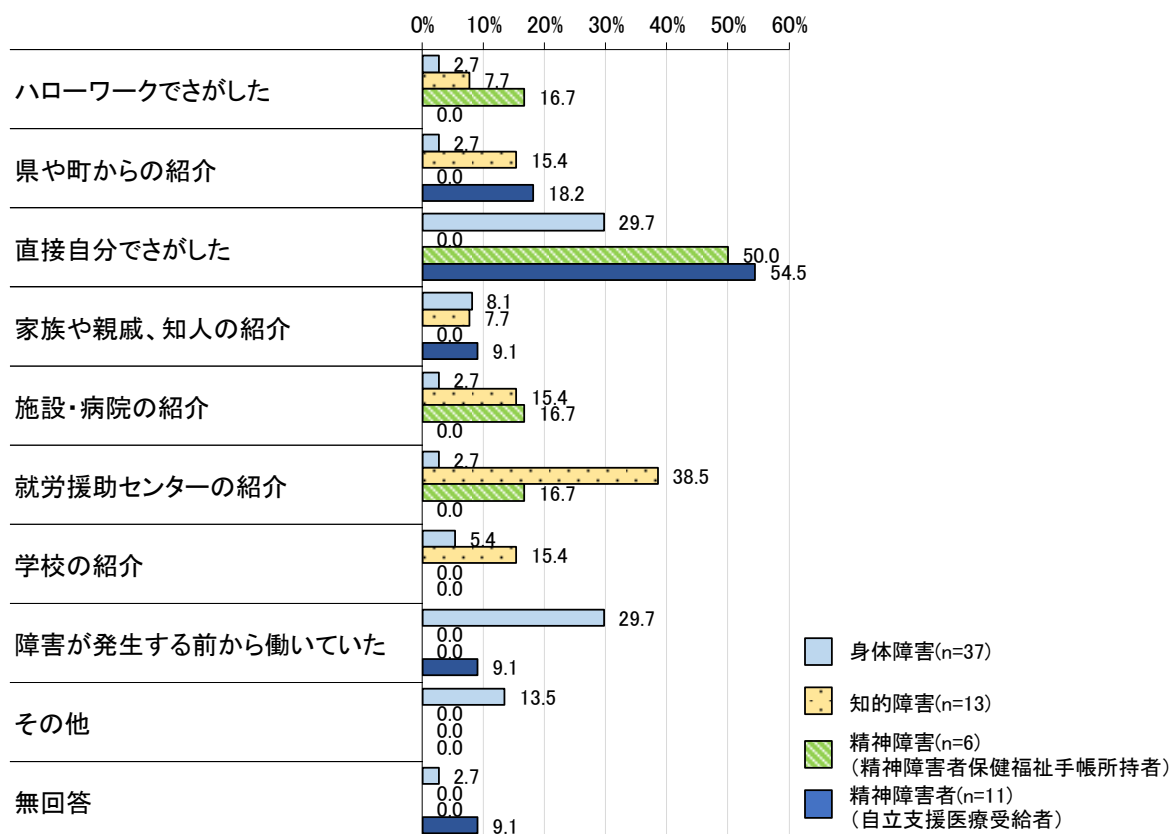
障害種別にみると、身体障害では「障害が発生する前から働いていた」(29.7%)、知的障害では「就労援助センターの紹介」(38.5%)の割合が他の障害種別に比べて高くなっています。

精神障害者保健福祉手帳所持者では「直接自分でさがした」(50.0%)、自立支援医療受給者では「直接自分でさがした」(54.5%)と回答した方の割合が高くなっています。

全 体



クロス集計（障害種別）



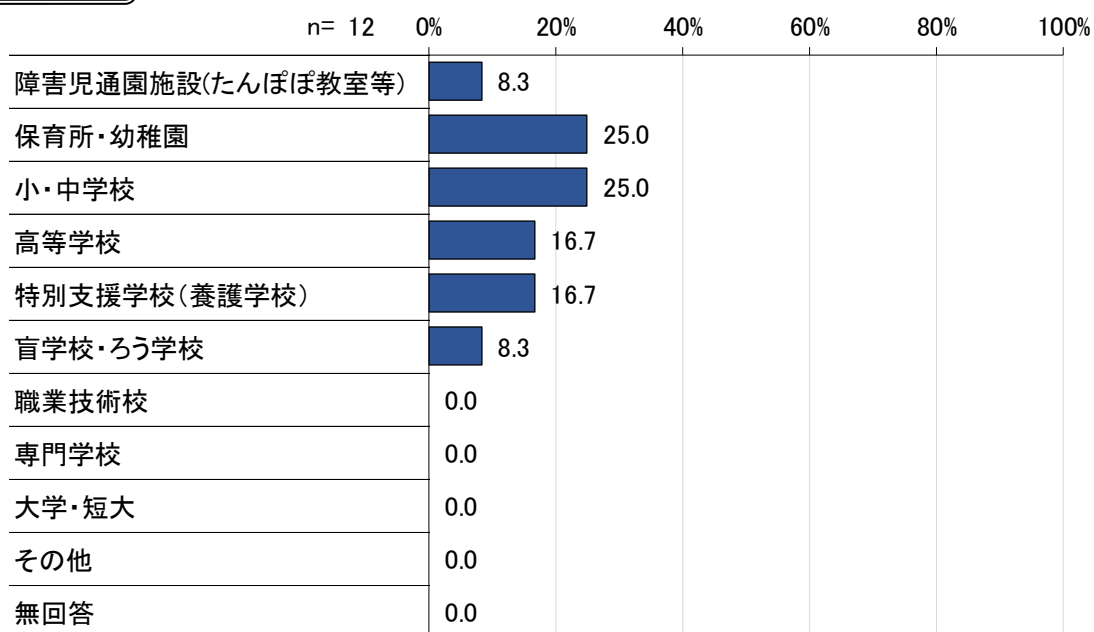
③通園・通学先

問 31-2 【学校等に通っている】 通っているところはどこですか

(○はひとつだけ)

平日の日中、学校等に通っている方の通園・通学先は、全体では「保育所・幼稚園」「小・中学校」が各 25.0%、「高等学校」「特別支援学校(養護学校)」が、各 16.7%、「障害児通園施設」「盲学校・ろう学校」が各 8.3%となっています。

全 体



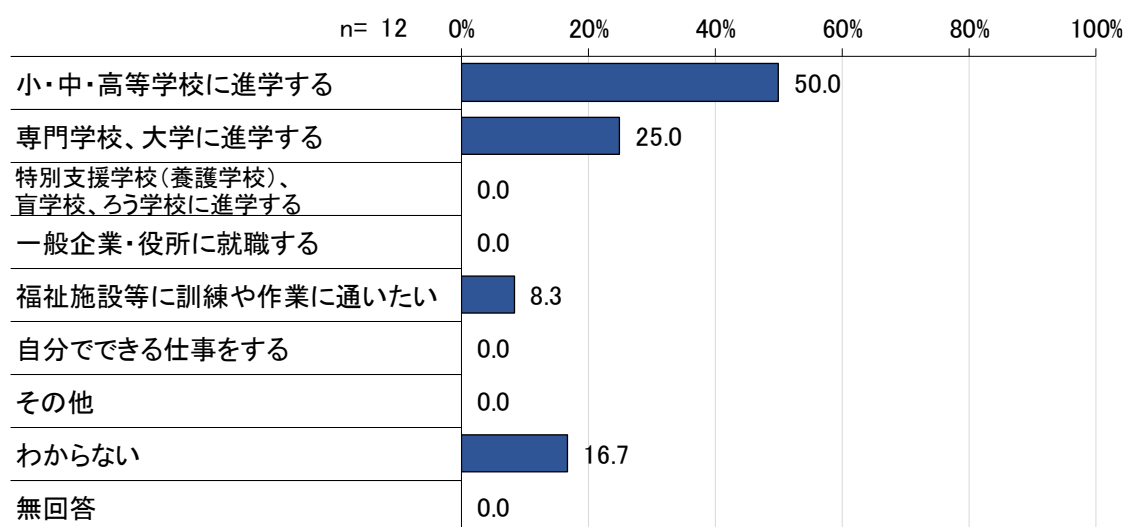
④園や学校卒業後の進路

問 32-2 【学校等に通っている】 現在の園、学校の卒業後の
進路についてどのようにお考えですか

(○はひとつだけ)

今後の進路については、全体では「小・中・高等学校に進学する」が 50.0%、「専門学校、大学に進学する」が 25.0%、「福祉施設等に訓練や作業に通いたい」が 8.3%、「わからない」が 16.7%となっています。

全 体



⑤その他の日中の過ごし方

問 31-3 【その他】 どのように過ごしていますか

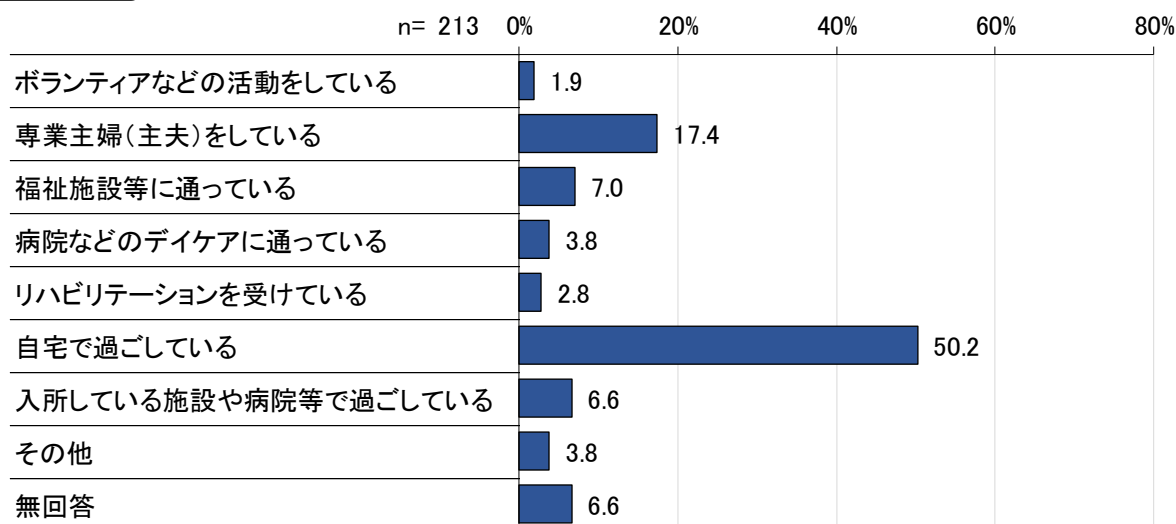
(○はひとつだけ)

現在、就労していない、または学校等に通っていない方の過ごし方をみると、全体では「自宅で過ごしている」が 50.2%と最も多く、次いで「専業主婦(主夫)をしている」(17.4%)、「福祉施設等に通っている」(7.0%)と続いています。

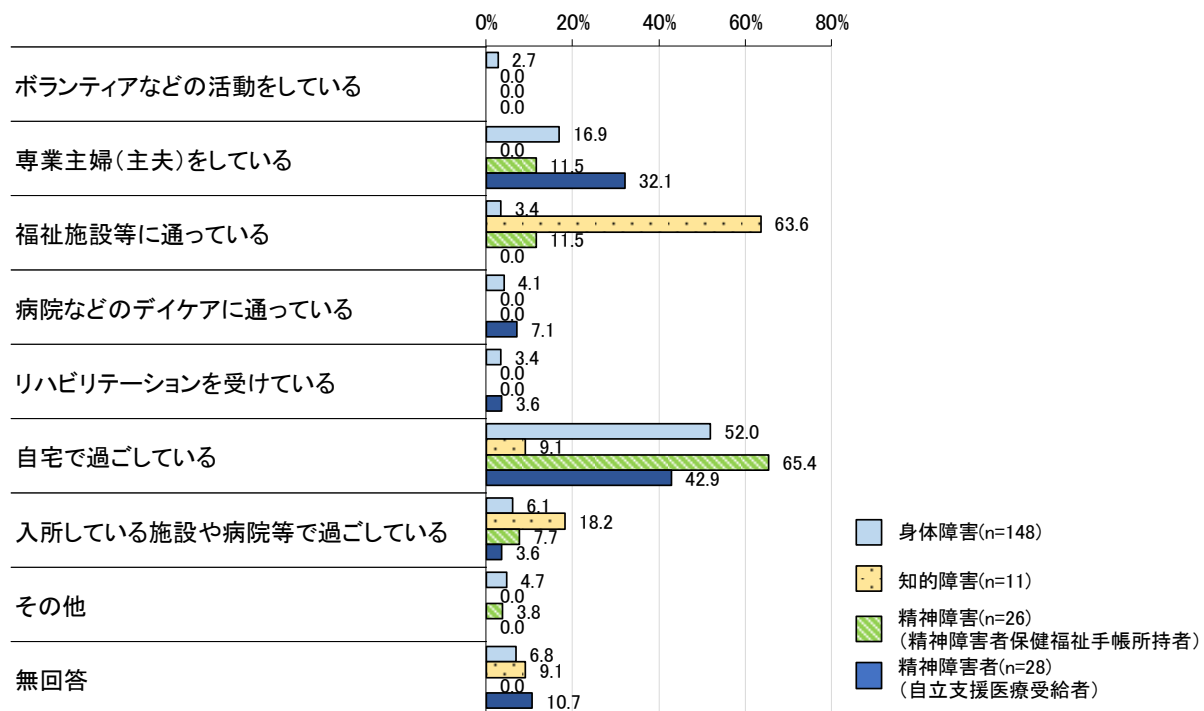
障害種別にみると、知的障害では「福祉施設等に通っている」方が6割を超え、「入所している施設や病院等で過ごしている」が 18.2%となっています。

身体障害では「自宅で過ごしている」方が半数を超え、精神障害者保健福祉手帳所持者も6割以上を占めています。

全 体



クロス集計（障害種別）



(8)就労意向

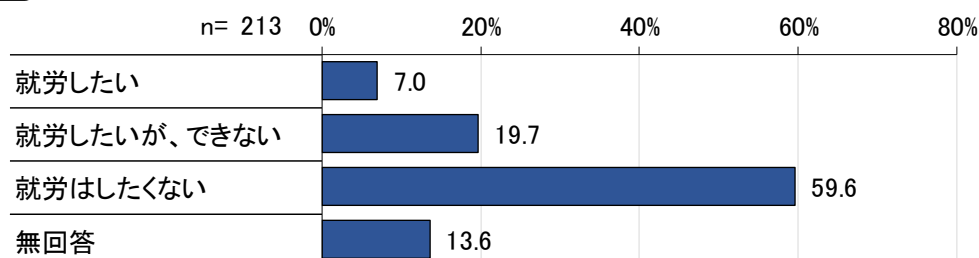
問 32-3-1 【その他】 今後、就労をしたいと思いますか

(○はひとつだけ)

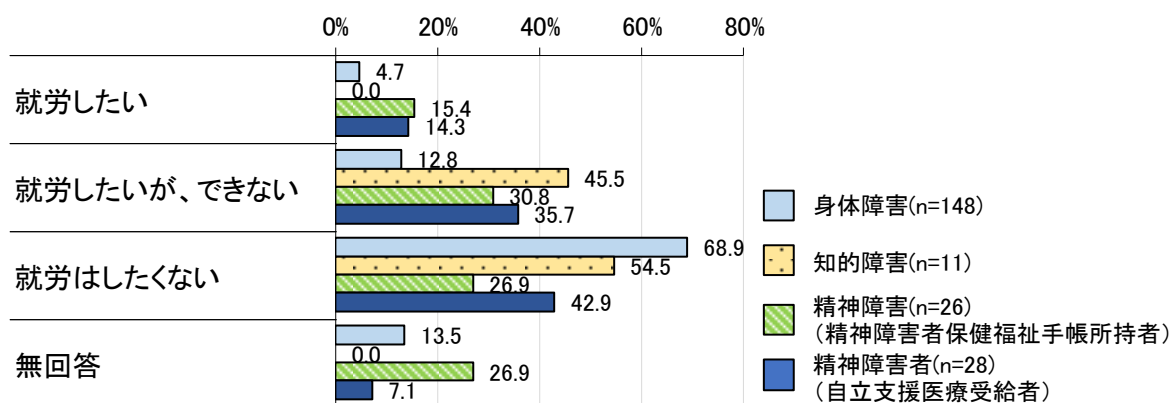
就労、通園・通学していない方に就労をしたいと思うかを聞いたところ、全体では「就労したい」と回答した方が7.0%、「就労したいが、できない」方が19.7%、「就労はしたくない」方が59.6%を占めています。

障害種別にみると、「就労したい」では精神障害者保健福祉手帳所持者(15.4%)、「就労したいが、できない」では知的障害(45.5%)、「就労はしたくない」では身体障害(68.9%)の方の回答が多くなっています。

全 体



クロス集計 (障害種別)



(9)職業訓練意向

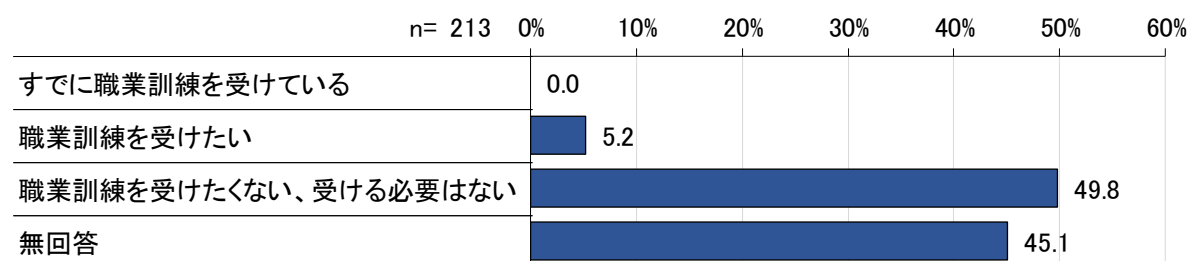
問 32-3-2 【その他】 職業訓練などを受けたいと思いますか

(○はひとつだけ)

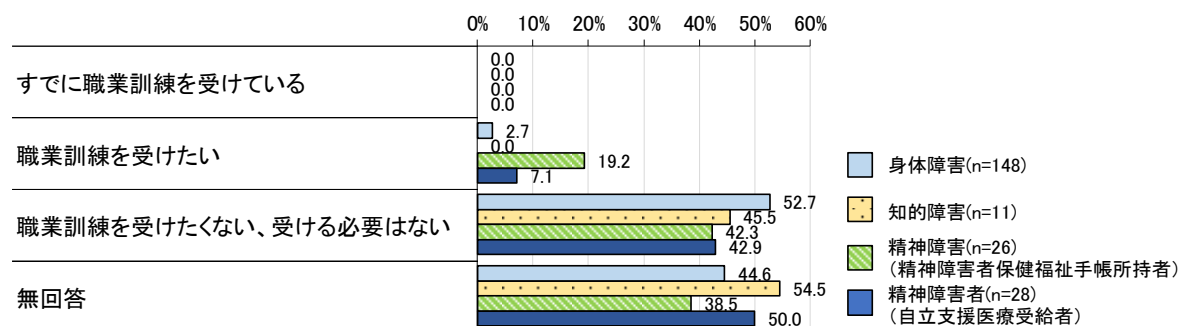
就労、通園・通学していない方に、職業訓練などを受けたいと思うかを聞いたところ、全体では「すでに職業訓練を受けている」と回答した方はおらず、「職業訓練を受けたい」方は 5.2%、「職業訓練を受けたくない、受ける必要はない」方が 49.8%と5割近くを占めています。

障害種別にみると、精神障害者保健福祉手帳所持者では「職業訓練を受けたい」と回答する方の割合が 19.2%と他の障害種別に比べて高いのが目立ちます。

全 体



クロス集計 (障害種別)



(10)就労支援として必要なこと

問 33 障害者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか

(〇はいくつでも)

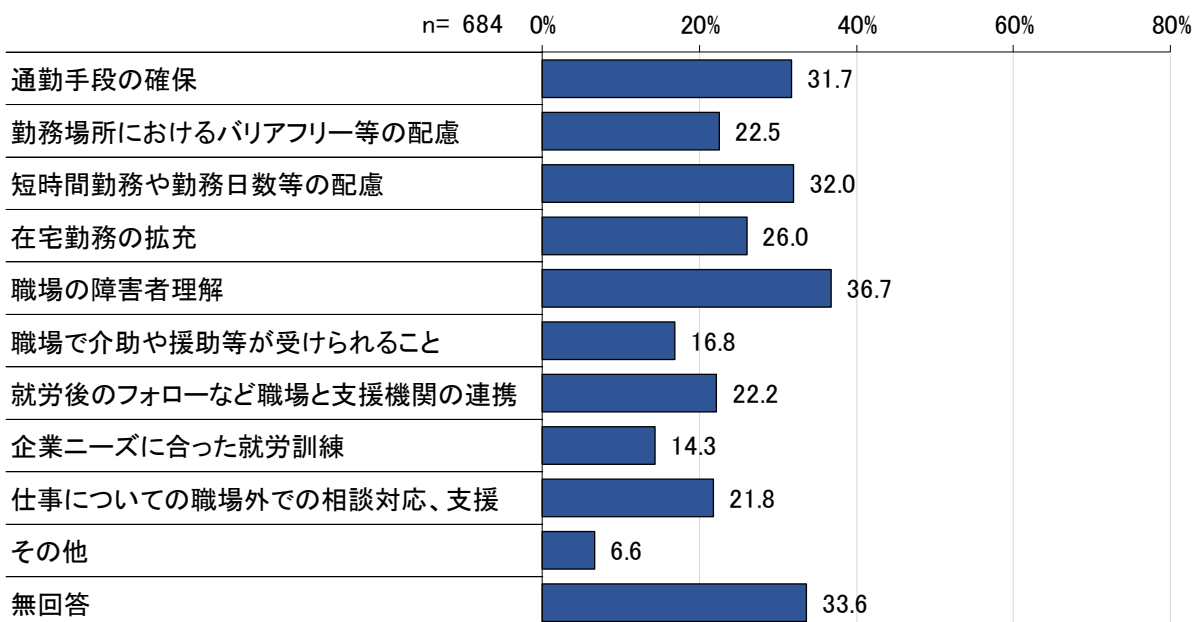
障害者の就労支援として必要だと思うことは、全体では「職場の障害者理解」(36.7%)、「短時間勤務や勤務日数等の配慮」(32.0%)、「通勤手段の確保」(31.7%)をあげる人が3割以上と多くなっています。

障害種別にみると、知的障害では「職場の障害者理解」(63.0%)、精神障害者保健福祉手帳所持者でも「職場の障害者理解」(53.7%)をあげる人の割合が特に高く、その他、知的障害では「就労後のフォローなど職場と支援機関の連携」、精神障害者保健福祉手帳所持者では「短時間勤務や勤務日数等の配慮」が4割以上と、他の障害種別に比べて高くなっています。

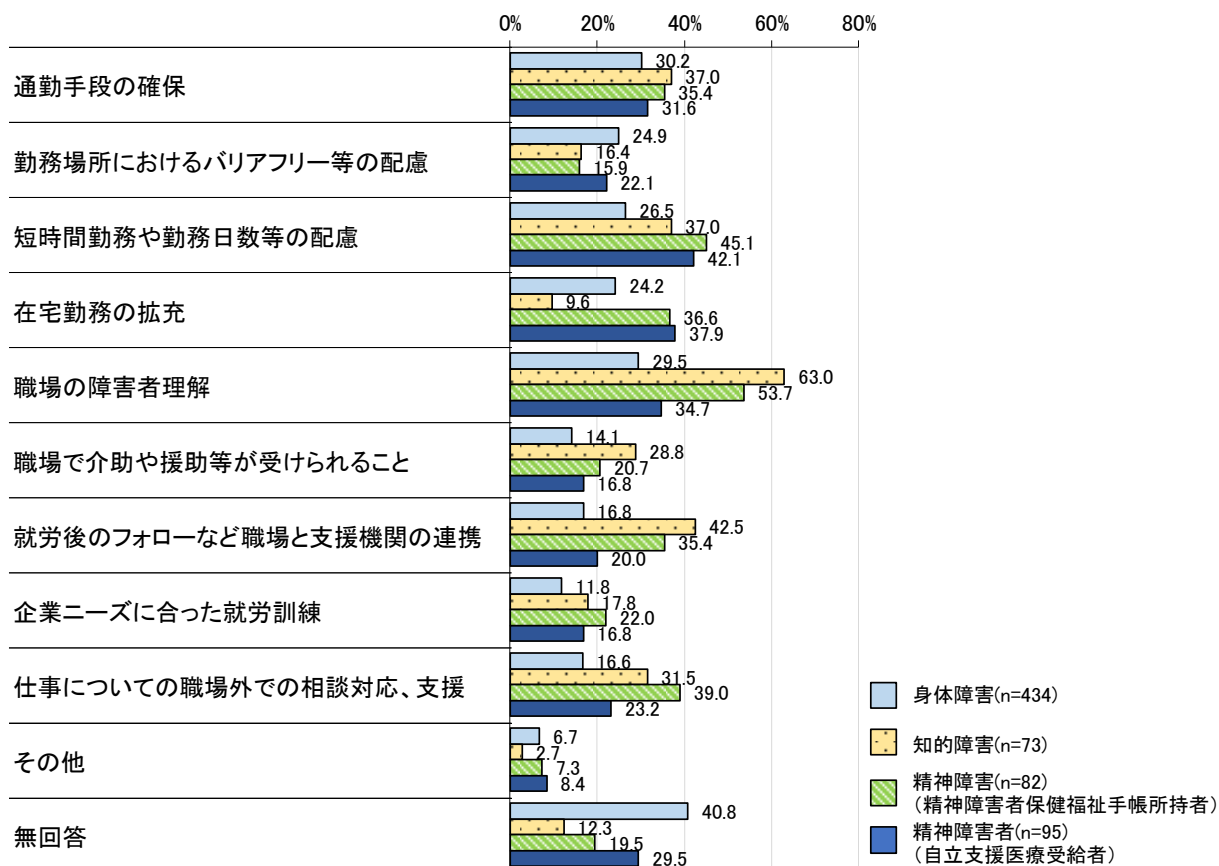
年齢層別にみると、身体障害の18～64歳で5割近くの方が、回答者のいない年齢層を除く全ての障害種別の18歳未満～64歳で5割以上の方が「職場の障害者理解」をあげています。

その他、身体障害の18歳未満では「就労後のフォローなど職場と支援機関の連携」「仕事についての職場外での相談対応、支援」、知的障害の65歳以上では「通勤手段の確保」、知的障害の18歳未満では「職場で介助や援助等が受けられること」「就労後のフォローなど職場と支援機関の連携」、精神障害者保健福祉手帳所持者、自立支援医療受給者の18～64歳では「短時間勤務や勤務日数等の配慮」をあげる方が5割から7割以上と多くなっています。

全 体



クロス集計（障害種別）



【身体障害・年齢別】

	n	通勤手段の確保	勤務場所におけるバリアフリー等の配慮	短時間勤務や勤務日数等の配慮	在宅勤務の拡充	職場の障害者理解	職場で介助や援助等が受けられること
全体	434 人	30.2%	24.9%	26.5%	24.2%	29.5%	14.1%
18 歳未満	4 人	0.0%	0.0%	25.0%	50.0%	50.0%	50.0%
18～64 歳	78 人	47.4%	38.5%	39.7%	38.5%	48.7%	12.8%
65 歳以上	351 人	26.8%	22.2%	23.6%	20.8%	25.1%	14.0%
	n	就労後のフォローなど職場と支援機関の連携	企業ニーズに合った就労訓練	仕事についての職場外での相談対応、支援	その他	無回答	
全体	434 人	16.8%	11.8%	16.6%	6.7%	40.8%	
18 歳未満	4 人	75.0%	0.0%	75.0%	0.0%	0.0%	
18～64 歳	78 人	23.1%	12.8%	29.5%	3.8%	12.8%	
65 歳以上	351 人	14.8%	11.7%	13.1%	7.4%	47.3%	

【知的障害・年齢別】

	n	通勤手段の確保	勤務場所におけるバリアフリー等の配慮	短時間勤務や勤務日数等の配慮	在宅勤務の拡充	職場の障害者理解	職場で介助や援助等が受けられること
全体	73 人	37.0%	16.4%	37.0%	9.6%	63.0%	28.8%
18 歳未満	14 人	28.6%	14.3%	42.9%	35.7%	100.0%	57.1%
18～64 歳	56 人	37.5%	16.1%	37.5%	3.6%	57.1%	23.2%
65 歳以上	3 人	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	n	就労後のフォローなど職場と支援機関の連携	企業ニーズに合った就労訓練	仕事についての職場外での相談対応、支援	その他	無回答	
全体	73 人	42.5%	17.8%	31.5%	2.7%	12.3%	
18 歳未満	14 人	71.4%	35.7%	50.0%	7.1%	0.0%	
18～64 歳	56 人	37.5%	14.3%	28.6%	1.8%	14.3%	
65 歳以上	3 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	

【精神障害者保健福祉手帳所持者・年齢別】

	n	通勤手段の確保	勤務場所におけるバリアフリー等の配慮	短時間勤務や勤務日数等の配慮	在宅勤務の拡充	職場の障害者理解	職場で介助や援助等が受けられること
全体	82 人	35.4%	15.9%	45.1%	36.6%	53.7%	20.7%
18 歳未満	0 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
18～64 歳	60 人	40.0%	18.3%	53.3%	41.7%	63.3%	23.3%
65 歳以上	21 人	23.8%	9.5%	19.0%	23.8%	28.6%	14.3%
	n	就労後のフォローなど職場と支援機関の連携	企業ニーズに合った就労訓練	仕事についての職場外での相談対応、支援	その他	無回答	
全体	82 人	35.4%	22.0%	39.0%	7.3%	19.5%	
18 歳未満	0 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
18～64 歳	60 人	46.7%	28.3%	45.0%	5.0%	13.3%	
65 歳以上	21 人	4.8%	4.8%	23.8%	14.3%	38.1%	

【自立支援医療受給者・年齢別】

	n	通勤手段の確保	勤務場所におけるバリアフリー等の配慮	短時間勤務や勤務日数等の配慮	在宅勤務の拡充	職場の障害者理解	職場で介助や援助等が受けられること
全体	95 人	31.6%	22.1%	42.1%	37.9%	34.7%	16.8%
18 歳未満	1 人	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%
18～64 歳	46 人	45.7%	28.3%	69.6%	54.3%	56.5%	26.1%
65 歳以上	29 人	20.7%	17.2%	20.7%	24.1%	17.2%	10.3%
	n	就労後のフォローなど職場と支援機関の連携	企業ニーズに合った就労訓練	仕事についての職場外での相談対応、支援	その他	無回答	
全体	95 人	20.0%	16.8%	23.2%	8.4%	29.5%	
18 歳未満	1 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
18～64 歳	46 人	30.4%	23.9%	39.1%	6.5%	2.2%	
65 歳以上	29 人	10.3%	10.3%	10.3%	10.3%	48.3%	

(11) 日中の過ごし方の満足度

問 34 現在の日中の過ごし方に満足していますか

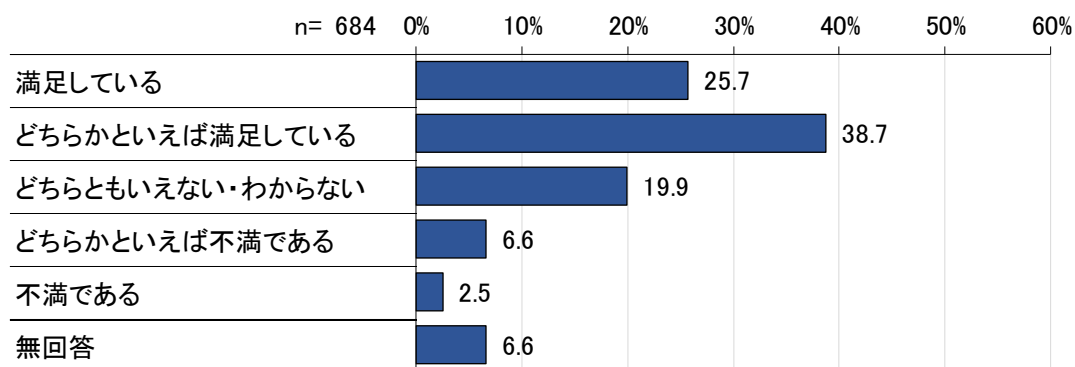
(○はひとつだけ)

現在の日中の過ごし方に満足しているかを聞いたところ、全体では「どちらかといえば満足している」が4割近くを占め、「満足している」と合わせると、“満足”と回答した方が64.4%と半数を超えています。

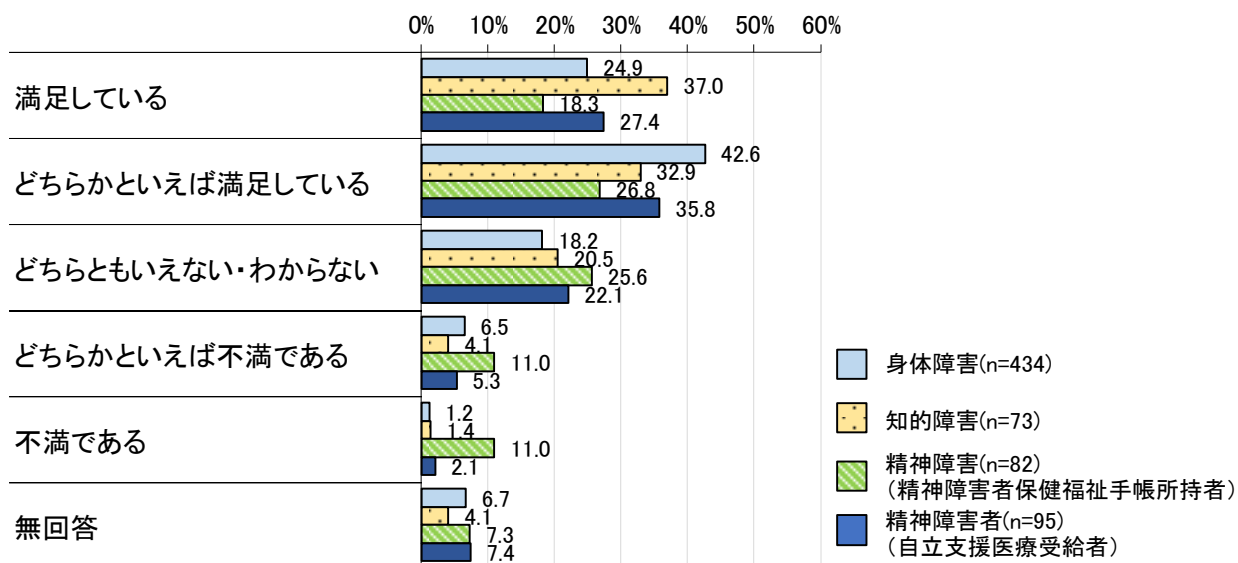
障害種別にみると、“満足”と回答した方は身体障害(67.5%)と知的障害(69.9%)はともに7割近くを占め、自立支援医療受給者は63.2%となっています。

精神障害者保健福祉手帳所持者では「不満である」と回答した方の割合が22.0%と他の障害種別に比べて高くなっています。

全 体



クロス集計 (障害種別)



4 障害福祉サービス等の利用について

(1) 障害程度区分・障害支援区分の認定状況

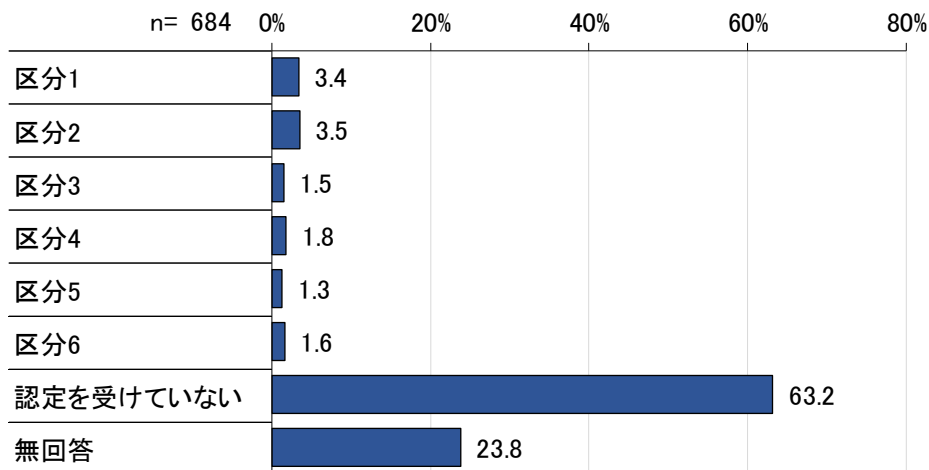
問 35 障害程度区分または障害支援区分の認定を受けていますか

(○はひとつだけ)

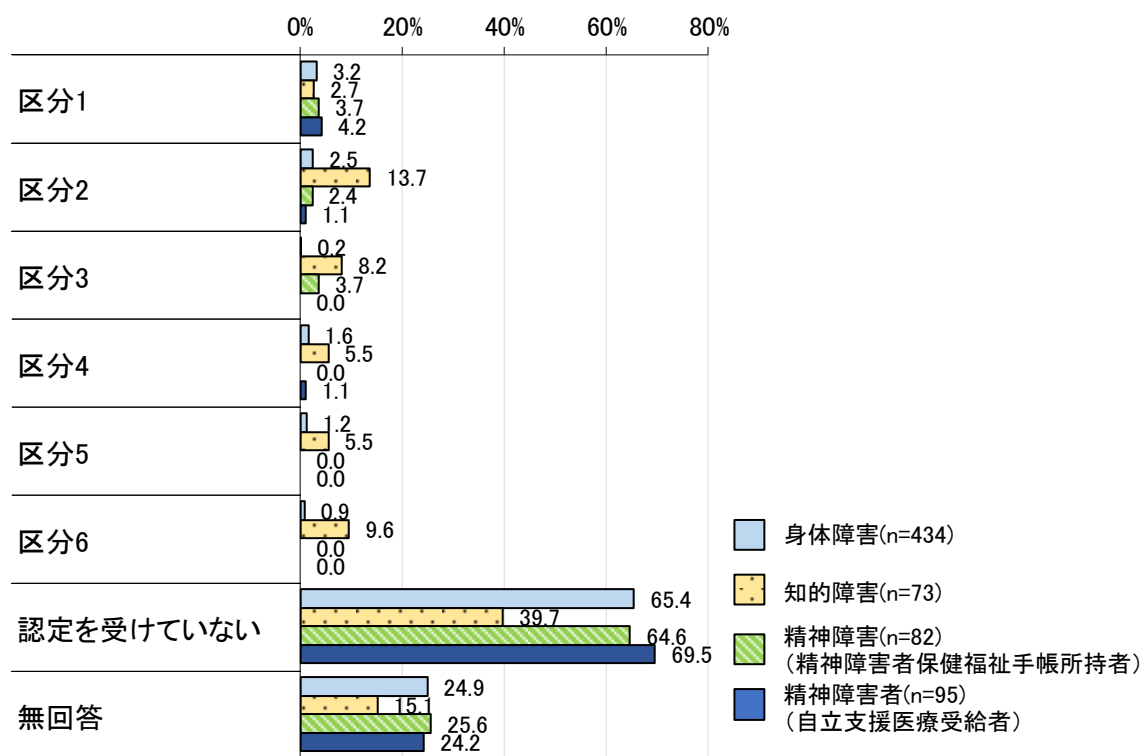
障害程度区分または障害支援区分の認定を受けているかについては、全体では「受けていない」が6割を占め、認定者率は13.1%となっています。

障害種別にみると、自立支援医療受給者では「受けていない」方の割合が約7割と他の障害種別に比べて高いのが目立ちます。知的障害の方の認定者率は45.2%で、「区分2」が13.7%で最も多くなっています。

全 体



クロス集計（障害種別）



(2)サービスの利用状況と今後の利用意向

問 36 あなたは次のサービスを利用していますか。また、これから利用する予定はありますか

(①から⑳のサービスごとに、「現在の利用」と「今後3年以内の利用予定」の両方の、それぞれあてはまる番号に○をしてください)。

※⑱～㉔のサービスは18歳未満の方のみお答えください。

※「利用していない」「利用予定がない」に○をされた方は、さらに別表から、その理由も選んでお答えください。

(○はひとつだけ・別表の理由はいくつでも)

サービスの利用状況を見ると、全体では⑯「計画相談支援」が11.4%と最も利用率が高く、次いで⑫「自立訓練(機能訓練・生活訓練)」(5.4%)、⑨「生活介護」(4.2%)、①「居宅介護(ホームヘルプ)」(3.2%)、⑦「短期入所(ショートステイ)」(3.1%)と続いています。

今後の利用意向を見ると、全体では⑯「計画相談支援」(9.9%)、⑱「地域定着支援」(5.3%)で今後利用予定ありと回答した方の割合が高くなっています。

Ⅱ 障害のある方調査結果

(%)

	サービスの利用有無			サービスを利用していない理由								
	利用している	利用していない	無回答	要サービスを受ける必要がないため	含まれない対象者に含まれないため	既に別のサービスを受けているため	都合が合わない時間帯のため	地域にサービス提供がないため	利用料金がかかるため	サービスがあることを知らなかったため	その他	無回答
① 居宅介護(ホームヘルプ)	3.2	34.2	62.6	68.8	5.6	3.8	0.9	0.0	1.3	0.9	1.7	17.1
② 重度訪問介護	0.3	34.6	65.1	67.1	8.0	4.6	0.4	0.0	0.8	0.4	1.3	17.3
③ 同行援護	0.0	34.8	65.2	66.8	10.1	2.1	0.4	0.0	0.8	0.4	2.1	17.2
④ 行動援護	1.9	33.9	64.2	64.7	8.6	2.2	0.4	0.4	0.9	3.0	2.2	17.7
⑤ 重度障害者等包括支援	0.6	34.2	65.2	68.8	8.1	2.6	0.4	0.0	0.9	0.4	1.7	17.1
⑥ 施設入所支援	2.2	33.8	64.0	70.6	5.2	2.2	0.0	0.4	0.9	0.4	2.6	17.7
⑦ 短期入所(ショートステイ)	3.1	33.0	63.9	69.0	5.3	3.1	0.9	0.0	0.9	0.4	2.7	17.7
⑧ 療養介護	0.9	33.8	65.4	70.1	6.1	2.2	0.0	0.0	0.9	0.9	3.0	16.9
⑨ 生活介護	4.2	32.0	63.7	69.9	5.0	1.8	0.0	0.5	0.9	0.9	3.2	17.8
⑩ 自立生活援助	2.8	32.6	64.6	67.3	6.3	2.7	0.0	0.0	2.2	3.6	3.1	14.8
⑪ 共同生活援助(グループホーム)	2.5	33.2	64.3	68.7	4.8	2.2	0.4	1.3	2.2	1.3	3.5	15.4
⑫ 自立訓練(機能訓練、生活訓練)	5.4	31.7	62.9	66.4	5.5	1.8	0.0	1.8	1.4	4.6	3.2	15.2
⑬ 就労移行支援	0.9	34.6	64.5	62.9	6.3	2.1	0.8	0.4	2.1	3.0	4.6	17.7
⑭ 就労継続支援(A型、B型)	2.8	33.5	63.7	64.6	6.1	2.2	1.3	0.9	1.3	2.2	4.4	17.0
⑮ 就労定着支援	1.5	33.9	64.6	64.2	7.3	1.7	0.9	0.9	1.3	2.6	4.3	16.8
⑯ 計画相談支援	11.4	27.8	60.8	61.1	5.3	2.1	0.5	0.0	1.6	8.4	4.2	16.8
⑰ 地域移行支援	1.9	34.1	64.0	60.9	5.2	2.6	0.0	0.9	1.7	7.7	4.3	16.7
⑱ 地域定着支援	2.3	32.9	64.8	60.0	2.7	2.7	0.0	1.8	0.9	8.9	5.8	17.3
⑲ 児童発達支援	1.2	20.6	78.2	58.2	17.7	0.7	0.0	0.0	0.7	1.4	2.1	19.1
⑳ 医療型児童発達支援	0.3	21.1	78.7	59.0	17.4	0.0	0.0	0.0	0.7	2.1	1.4	19.4
㉑ 放課後等デイサービス	1.3	20.5	78.2	57.9	17.9	0.0	0.0	0.0	0.7	1.4	2.9	19.3
㉒ 障害児相談支援	1.5	20.6	77.9	58.2	17.0	0.0	0.0	0.0	0.7	2.1	2.1	19.9
㉓ 居宅訪問型児童発達支援	0.1	21.2	78.7	60.0	17.9	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	1.4	20.0
㉔ 保育所等訪問支援	0.3	21.1	78.7	58.3	18.8	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	1.4	20.8
㉕ 福祉型児童入所施設	0.0	21.2	78.8	58.6	18.6	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	1.4	20.7
㉖ 医療型児童入所施設	0.1	21.1	78.8	59.0	18.1	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	1.4	20.8

(%)

	今後3年以内の利用予定					サービス利用予定がない理由									
	増 や す 予 定	今 よ り も 利 用 を す る 予 定	今 と 同 じ く ら い	減 ら す 予 定	利 用 予 定 が な い	無 回 答	要 が な い た め	サ ー ビ ス の 対 象 者 に 含 ま れ な い た め	め 提 供 に 別 の サ ー ビ ス の 受 け て い る た め	都 合 が 合 わ な い 時 間 の た め	場 所 が な い た め	地 域 に サ ー ビ ス 提 供 が な い た め	利 用 料 金 が か か る た め	を サ ー ビ ス が あ る こ と を 知 ら な か つ た た め	そ の 他
① 居宅介護(ホームヘルプ)	2.6	2.2	0.1	30.1	64.9	70.9	9.7	2.9	1.0	0.0	1.5	0.0	3.9	10.2	
② 重度訪問介護	0.9	0.6	0.0	31.1	67.4	70.4	11.7	3.3	0.5	0.0	0.9	0.0	4.2	8.9	
③ 同行援護	1.0	0.6	0.0	31.1	67.3	70.4	13.1	1.9	0.5	0.0	0.9	0.0	4.2	8.9	
④ 行動援護	1.9	0.9	0.0	30.7	66.5	68.6	11.9	1.9	0.5	0.5	1.0	1.4	5.2	9.0	
⑤ 重度障害者等包括支援	0.9	0.3	0.0	31.3	67.5	71.0	12.1	1.9	0.5	0.0	0.9	0.0	4.2	9.3	
⑥ 施設入所支援	2.8(利用予定あり)				30.0	67.3	72.2	8.3	2.0	0.0	0.5	1.5	0.5	5.4	9.8
⑦ 短期入所(ショートステイ)	4.1	1.5	0.0	29.2	65.2	68.0	9.5	2.5	0.0	1.0	2.0	0.5	6.5	10.0	
⑧ 療養介護	1.9	0.4	0.1	30.8	66.7	70.1	10.4	1.9	0.0	0.9	1.4	0.9	5.7	8.5	
⑨ 生活介護	2.6	1.8	0.0	29.7	65.9	70.4	8.9	2.0	0.0	1.0	1.5	0.5	5.9	9.9	
⑩ 自立生活援助	3.1	1.8	0.1	29.1	65.9	68.3	8.0	3.0	0.0	0.0	3.5	1.5	6.5	9.0	
⑪ 共同生活援助(グループホーム)	2.3(利用予定あり)				29.8	67.8	67.2	8.8	2.0	0.0	0.5	2.9	1.5	6.9	10.3
⑫ 自立訓練(機能訓練、生活訓練)	2.6	2.5	0.1	28.5	66.2	68.7	8.2	2.1	0.0	0.5	1.5	2.1	7.2	9.7	
⑬ 就労移行支援	1.3	0.3	0.0	30.8	67.5	66.8	10.0	2.8	0.0	0.0	1.4	2.4	6.6	10.0	
⑭ 就労継続支援(A型、B型)	1.5	1.0	0.0	29.8	67.7	67.6	8.8	2.0	0.5	0.0	1.5	2.5	7.4	9.8	
⑮ 就労定着支援	1.2	0.7	0.0	30.6	67.5	66.5	9.1	2.4	0.0	1.0	1.4	2.9	6.2	10.5	
⑯ 計画相談支援	9.9(利用予定あり)				24.3	65.8	65.7	7.8	2.4	0.0	0.0	1.2	3.6	7.2	12.0
⑰ 地域移行支援	3.8(利用予定あり)				28.9	67.3	66.7	9.1	3.0	0.0	1.0	1.0	3.5	6.1	9.6
⑱ 地域定着支援	5.3(利用予定あり)				27.6	67.1	65.1	8.5	2.6	0.0	1.6	1.1	4.8	6.9	9.5
⑲ 児童発達支援	0.7	0.4	0.0	20.3	78.5	59.0	21.6	0.7	0.0	0.0	0.7	2.2	2.2	13.7	
⑳ 医療型児童発達支援	0.6	0.1	0.0	20.2	79.1	63.0	20.3	0.0	0.0	0.0	0.7	1.4	1.4	13.0	
㉑ 放課後等デイサービス	0.6	0.7	0.1	19.7	78.8	60.0	21.5	0.0	0.0	0.0	0.7	2.2	2.2	13.3	
㉒ 障害児相談支援	1.2(利用予定あり)				19.9	78.9	59.6	20.6	0.0	0.0	0.0	0.7	2.2	2.9	14.0
㉓ 居宅訪問型児童発達支援	0.3	0.0	0.0	21.2	78.5	62.1	21.4	0.0	0.0	0.0	0.7	1.4	1.4	13.1	
㉔ 保育所等訪問支援	0.4	0.0	0.0	20.9	78.7	60.8	21.7	0.0	0.0	0.0	0.7	1.4	2.1	13.3	
㉕ 福祉型児童入所施設	0.0(利用予定あり)				21.1	78.9	61.1	21.5	0.0	0.0	0.0	0.7	1.4	2.1	13.2
㉖ 医療型児童入所施設	0.1(利用予定あり)				20.9	78.9	60.8	21.7	0.0	0.0	0.0	0.7	1.4	2.1	13.3

(3)地域生活支援事業のサービスの利用状況と今後の利用意向

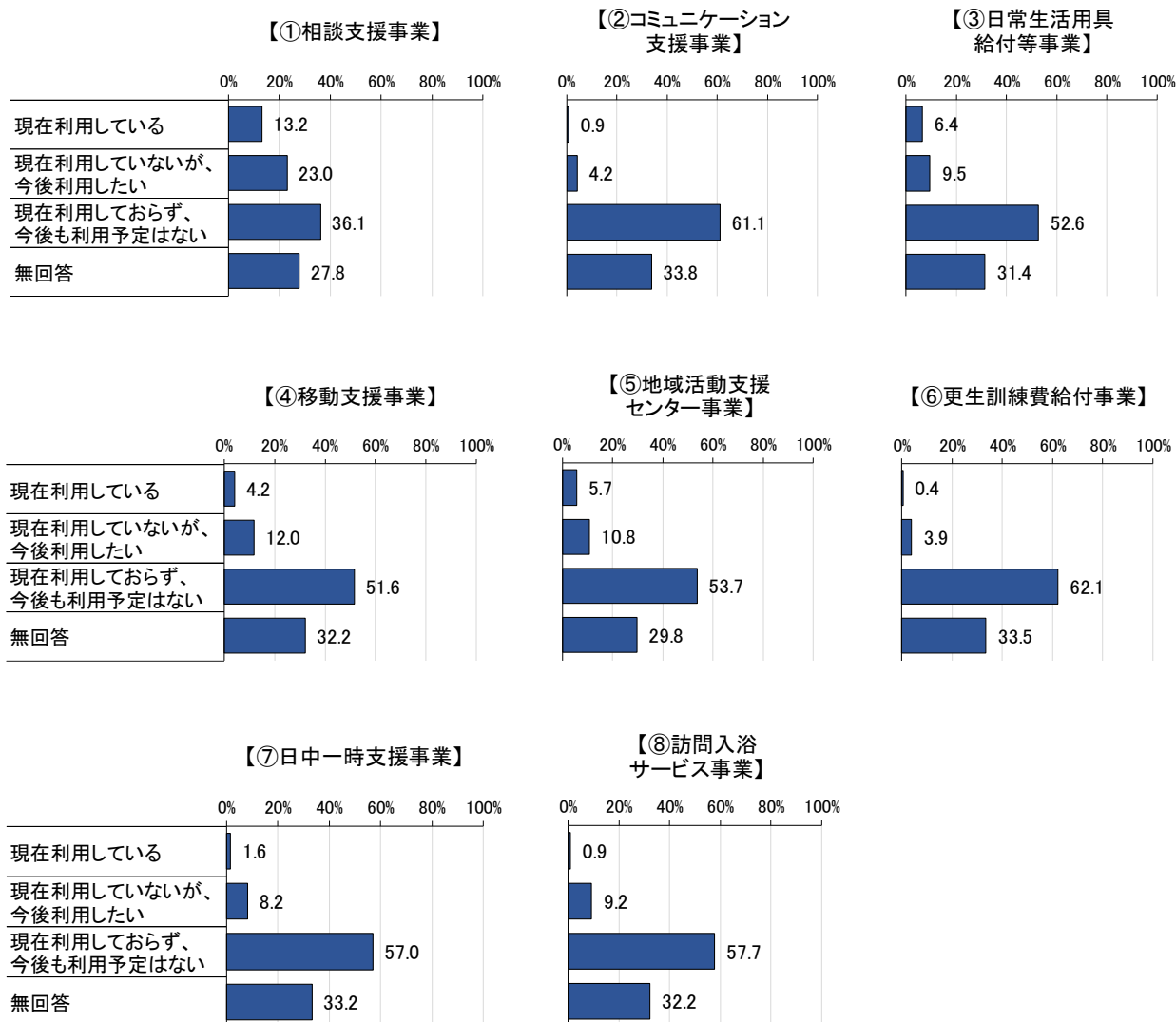
問 37 次の地域生活支援事業のサービスについて、現在利用しているものと、今後利用したいものについて教えてください。

(①から⑧について、それぞれ1～3ののひとつだけに○)

地域生活支援事業のサービスの現在の利用状況をみると、全体では①「相談支援事業」を利用している方の割合が13.2%で最も多く、次いで③「日常生活用具給付等事業」が6.4%、⑤「地域活動支援センター事業」が5.7%が続いています。

今後の利用意向をみると、全体では①「相談支援事業」を利用したいと回答した方が23.0%で最も多く、次いで④「移動支援事業」(12.0%)、⑤「地域活動支援センター事業」(10.8%)、③「日常生活用具給付等事業」(9.5%)、⑧「訪問入浴サービス事業」(9.2%)が続いています。

全 体



(4) 計画相談支援について

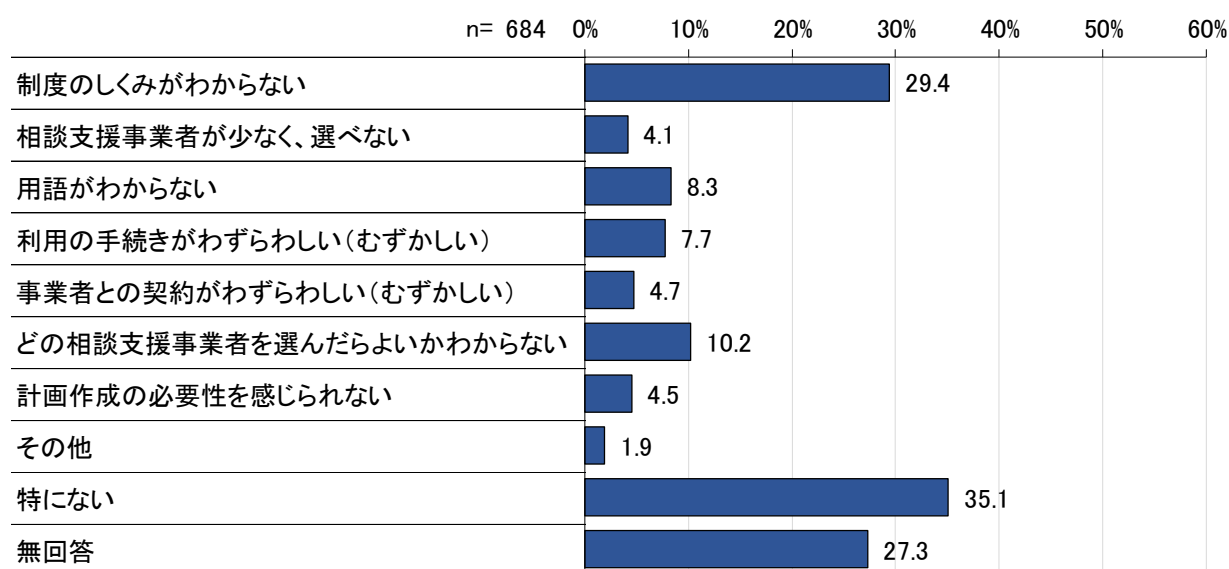
問 38 計画相談支援（サービス等利用計画）について、どのように感じていますか

（〇はいくつでも）

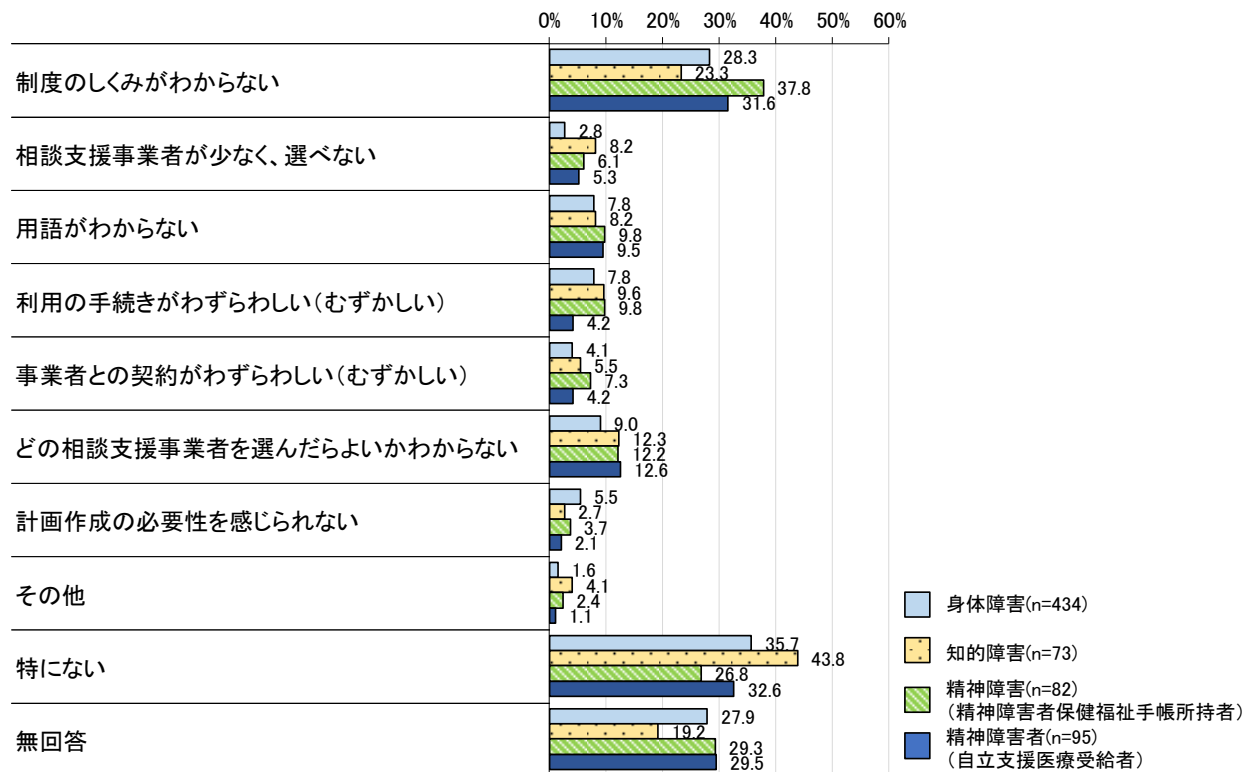
計画相談支援について聞いたところ、全体では「制度のしくみがわからない」(29.4%)、次いで、「どの相談支援事業者を選んだらよいかわからない」(10.2%)、「用語がわからない」(8.3%)、「利用の手続きがわずらわしい」(7.7%)などが続いています。

障害種別にみると、精神障害者保健福祉手帳所持者では「制度のしくみがわからない」と回答した方の割合が 37.8%と他の障害種別に比べ高くなっています。

全 体



クロス集計（障害種別）



(5)障害福祉サービスの利用についての困りごと

問 39 障害福祉サービスの利用について、何か困っていることはありますか

(〇はいくつでも)

障害福祉サービスの利用について困っていることは、全体では「制度のしくみがわからない」との回答が 26.6%で最も多く、「どのサービス提供者事業者を選んだらよいかわからない」(7.3%)、「新しい用語がわからない」(6.0%)と続いています。

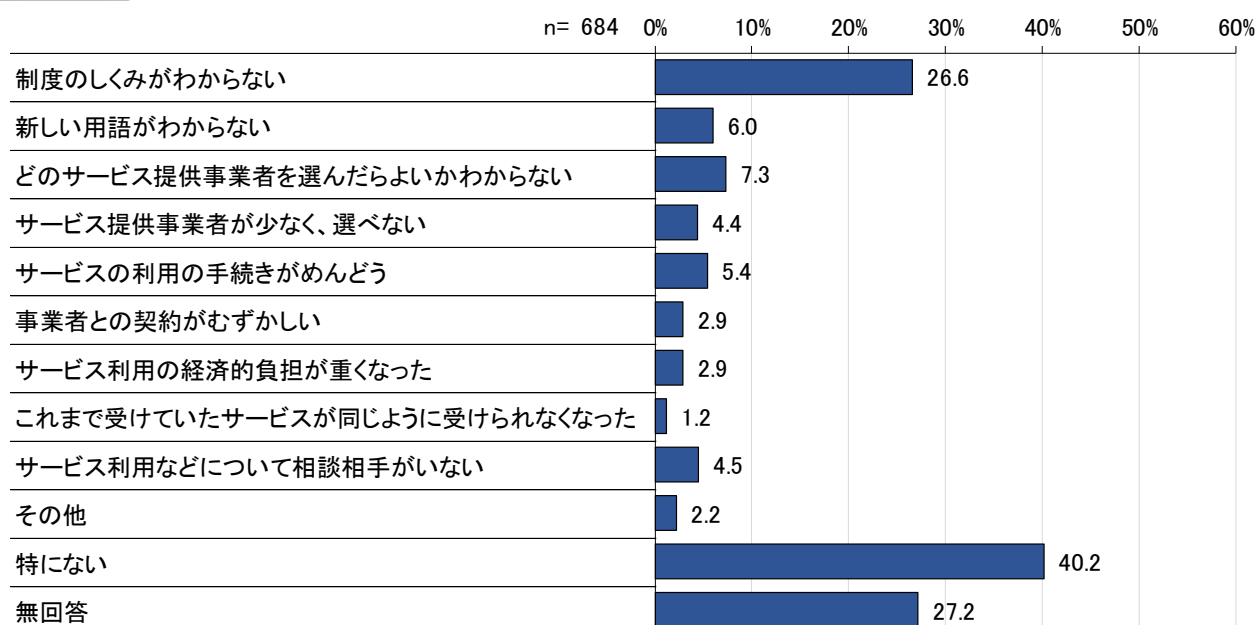
障害種別にみると、精神障害者保健福祉手帳所持者では「どのサービス提供者事業者を選んだらよいかわからない」「サービス利用などについて相談相手がいない」と回答する方が各 12.2%と他の障害種別に比べて高いのが目立ちます。

また、知的障害では「制度のしくみがわからない」(35.6%)、「サービス提供事業者が少なく、選べない」(12.3%)が他の障害種別に比べて高くなっています。

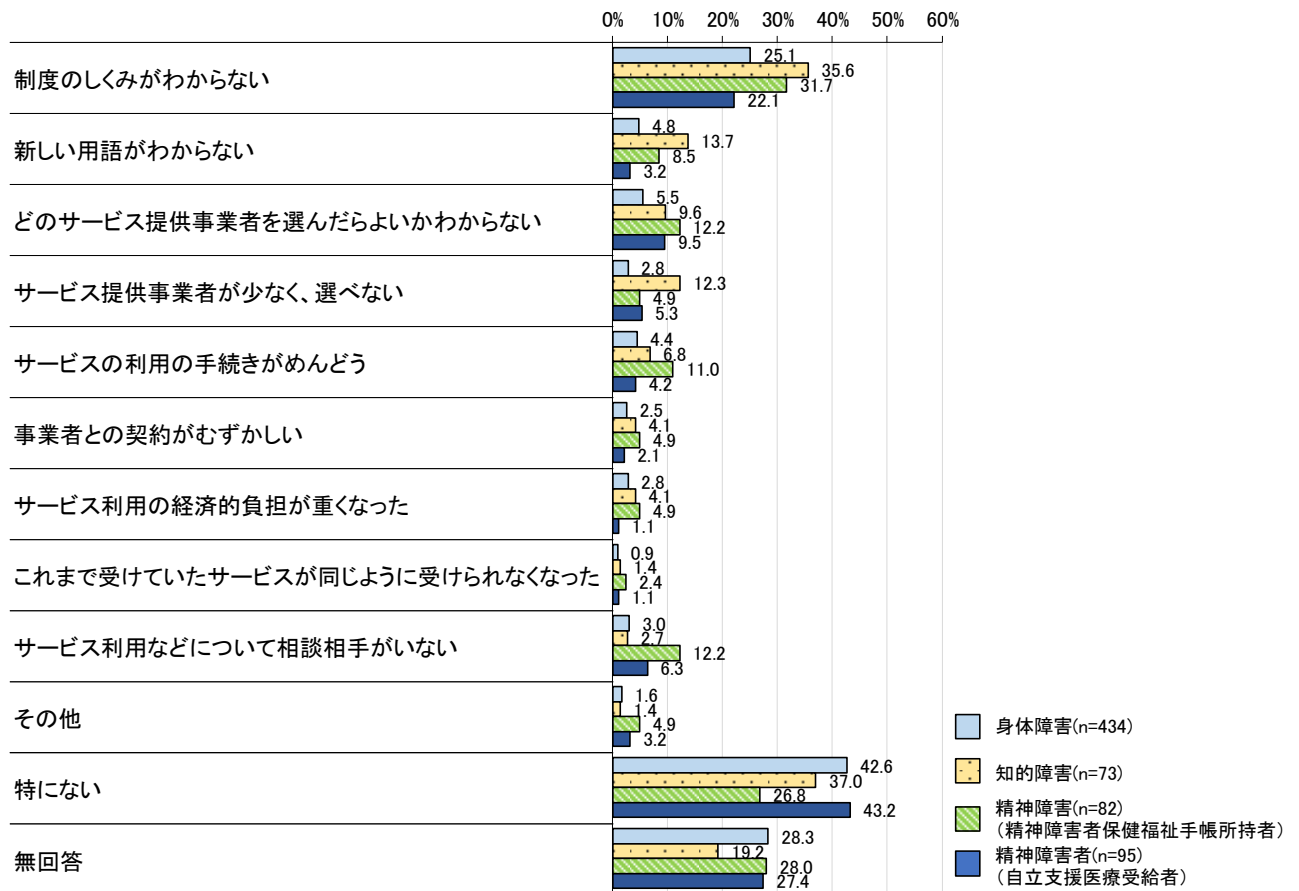
年齢別にみると、知的障害の 18 歳未満では「制度の仕組みがわからない」との回答が5割を超え、身体障害の 18～64 歳では約4割、知的障害と精神障害者保健福祉手帳所持者の 18～64 歳も3割以上の回答がみられます。

その他、知的障害の 65 歳以上では「サービスの手続きがめんどろ」、同じく知的障害の 18 歳未満で「新しい用語がわからない」と回答する方の割合が他の年齢層に比べて高くなっています。

全 体



クロス集計（障害種別）



【身体障害・年齢別】

	n	制度のしくみが わからない	新しい用語が わからない	どのサービス提 供事業者を選 んだらよいかわ からない	サービス提供 事業者が少な く、選べない	サービスの利用 の手続きがめ んどう	事業者との契 約がむずかしい
全体	434 人	25.1%	4.8%	5.5%	2.8%	4.4%	2.5%
18 歳未満	4 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
18～64 歳	78 人	39.7%	6.4%	11.5%	7.7%	10.3%	5.1%
65 歳以上	351 人	22.2%	4.6%	4.3%	1.7%	3.1%	2.0%
	n	サービス利用の 経済的負担が 重くなった	これまで受けて いたサービスが 同じように受け られなくなった	サービス利用な どについて相談 相手がいない	その他	特にない	無回答
全体	434 人	2.8%	0.9%	3.0%	1.6%	42.6%	28.3%
18 歳未満	4 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
18～64 歳	78 人	3.8%	1.3%	6.4%	1.3%	42.3%	14.1%
65 歳以上	351 人	2.6%	0.9%	2.3%	1.7%	42.2%	31.6%

【知的障害・年齢別】

	n	制度のしくみが わからない	新しい用語が わからない	どのサービス提 供事業者を選 んだらよいかわ からない	サービス提供 事業者が少な く、選べない	サービスの利用 の手続きがめ んどう	事業者との契 約がむずかしい
全体	73 人	35.6%	13.7%	9.6%	12.3%	6.8%	4.1%
18 歳未満	14 人	57.1%	21.4%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%
18～64 歳	56 人	32.1%	12.5%	10.7%	16.1%	7.1%	5.4%
65 歳以上	3 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%
	n	サービス利用の 経済的負担が 重くなった	これまで受けて いたサービスが 同じように受け られなくなった	サービス利用な どについて相談 相手がいない	その他	特にない	無回答
全体	73 人	4.1%	1.4%	2.7%	1.4%	37.0%	19.2%
18 歳未満	14 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%	7.1%
18～64 歳	56 人	5.4%	1.8%	3.6%	1.8%	39.3%	21.4%
65 歳以上	3 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%

【精神障害者保健福祉手帳所持者・年齢別】

	n	制度のしくみが わからない	新しい用語が わからない	どのサービス提 供事業者を選 んだらよいかわ からない	サービス提供 事業者が少な く、選べない	サービスの利用 の手続きがめ んどう	事業者との契 約がむずかしい
全体	82 人	31.7%	8.5%	12.2%	4.9%	11.0%	4.9%
18 歳未満	0 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
18～64 歳	60 人	35.0%	10.0%	13.3%	6.7%	13.3%	6.7%
65 歳以上	21 人	23.8%	4.8%	4.8%	0.0%	4.8%	0.0%
	n	サービス利用の 経済的負担が 重くなった	これまで受けて いたサービスが 同じように受け られなくなった	サービス利用な どについて相談 相手がいない	その他	特にない	無回答
全体	82 人	4.9%	2.4%	12.2%	4.9%	26.8%	28.0%
18 歳未満	0 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
18～64 歳	60 人	5.0%	3.3%	15.0%	6.7%	30.0%	20.0%
65 歳以上	21 人	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%	19.0%	52.4%

【自立支援医療受給者・年齢別】

	n	制度のしくみが わからない	新しい用語が わからない	どのサービス提 供事業者を選 んだらよいかわ からない	サービス提供 事業者が少な く、選べない	サービスの利 用の手続きが めんどう	事業者との契 約がむずかしい
全体	95 人	22.1%	3.2%	9.5%	5.3%	4.2%	2.1%
18 歳未満	1 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
18～64 歳	46 人	26.1%	4.3%	13.0%	6.5%	4.3%	2.2%
65 歳以上	29 人	10.3%	3.4%	3.4%	3.4%	0.0%	0.0%
	n	サービス利用 の経済的負担 が重くなった	これまで受けて いたサービスが 同じように受け られなくなった	サービス利用 などについて相 談相手がいな い	その他	特にない	無回答
全体	95 人	1.1%	1.1%	6.3%	3.2%	43.2%	27.4%
18 歳未満	1 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
18～64 歳	46 人	0.0%	2.2%	8.7%	0.0%	54.3%	13.0%
65 歳以上	29 人	0.0%	0.0%	3.4%	6.9%	34.5%	44.8%

5 相談相手について

(1) 差別や嫌な思いをした経験

問 40 障害があることで差別や嫌な思いをする（した）ことがありますか

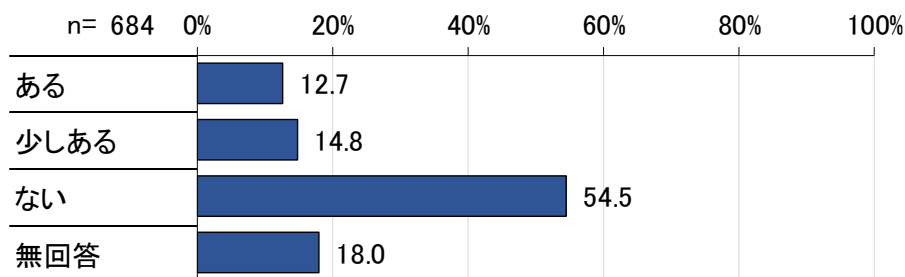
（○はひとつだけ）

障害があることで差別や嫌な思いをする、したことがあるかを聞いたところ、全体では「ある」が12.7%、「少しある」が14.8%、「ない」が54.5%と約半数を占めています。

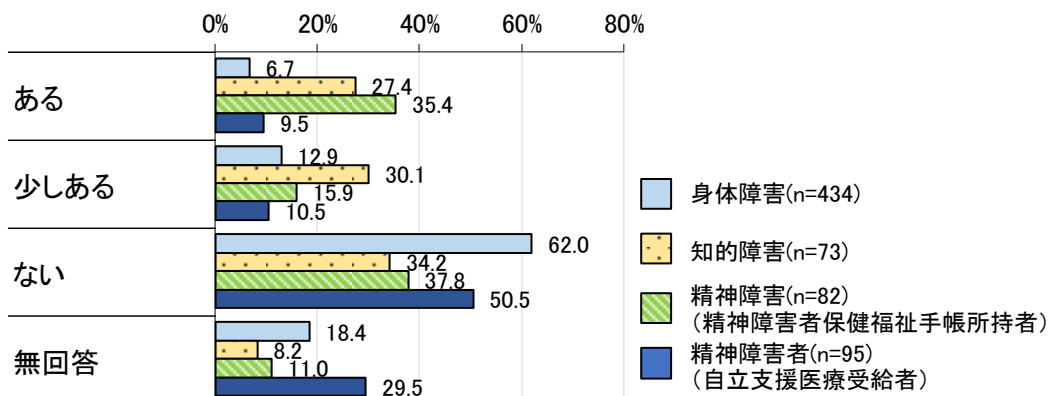
障害種別にみると、知的障害(27.4%)、精神障害者保健福祉手帳所持者(35.4%)では「ある」との回答が多くみられます。

また知的障害では「少しある」が30.1%、身体障害では「ない」(62.0%)と回答した方の割合が他の障害種別に比べて高くなっています。

全 体



クロス集計（障害種別）



(2) 差別や嫌な思いをした場所

問 40-1 どのような場所で差別や嫌な思いをしましたか

(○はいくつでも)

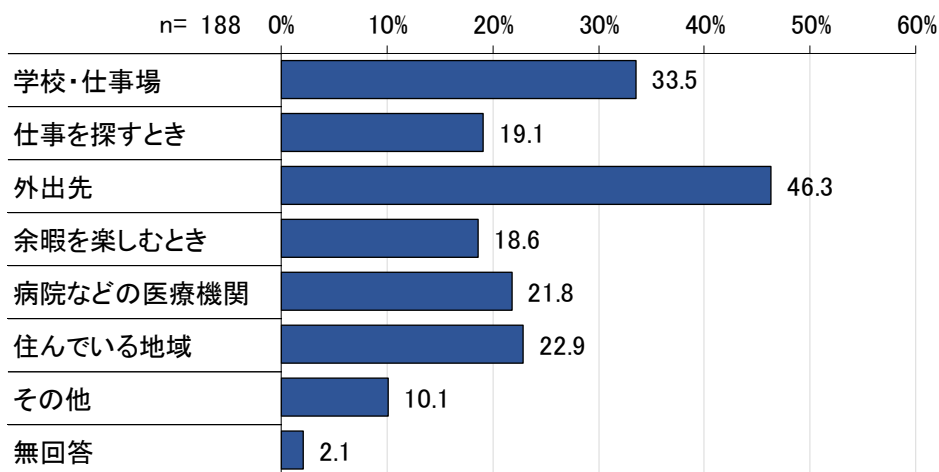
障害があることで差別や嫌な思いをした場所について、全体では「外出先」が46.3%で最も多く、「学校・仕事場」(33.5%)、「住んでいる地域」(22.9%)が続いています。

障害種別にみると、身体障害の方は「外出先」(54.1%)、知的障害の方は「学校・仕事場」(45.2%)、精神障害者保健福祉手帳所持者では「外出先」(42.9%)、自立支援医療受給者では「学校・仕事場」「仕事を探すとき」(各 52.6%)が最も多くなっています。

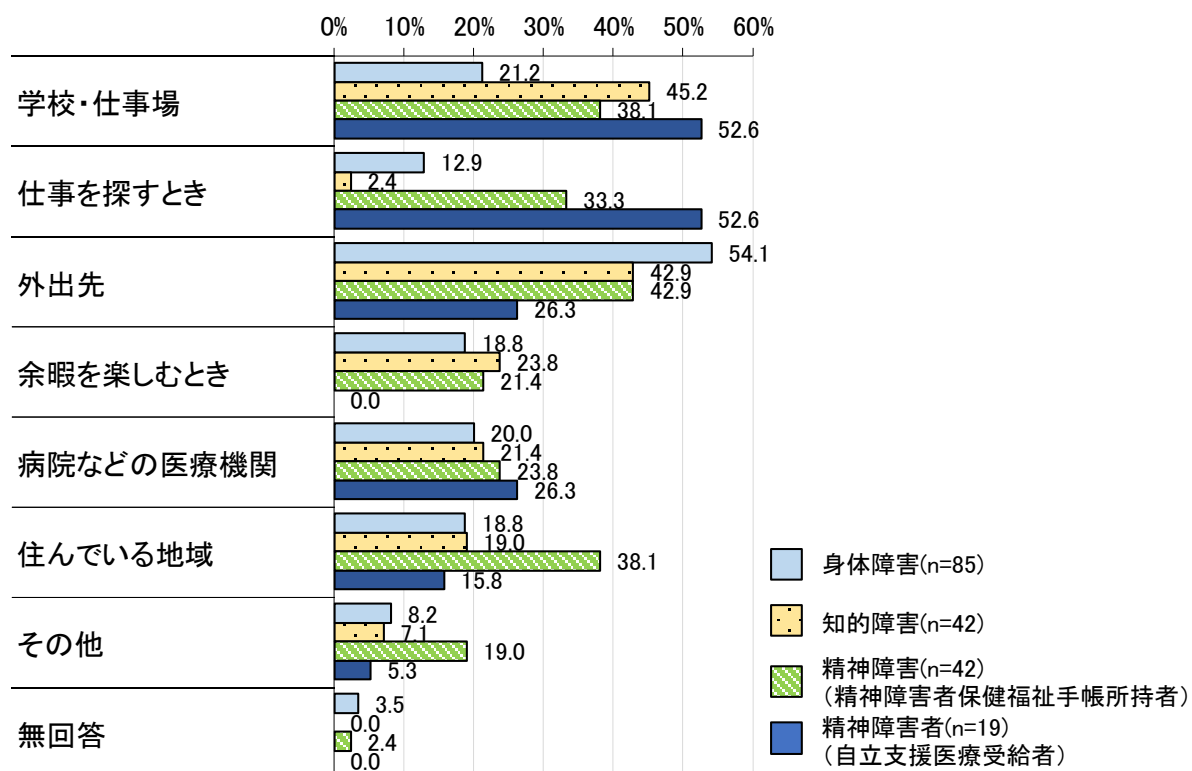
「学校・仕事場」については、知的障害、精神障害者保健福祉手帳所持者も4割前後と多くなっています。

その他、精神障害者保健福祉手帳所持者では「住んでいる地域」、自立支援医療受給者では「病院などの医療機関」と回答した方の割合が他の障害種別に比べて高くなっています。

全 体



クロス集計（障害種別）



(3) 困ったときの相談相手

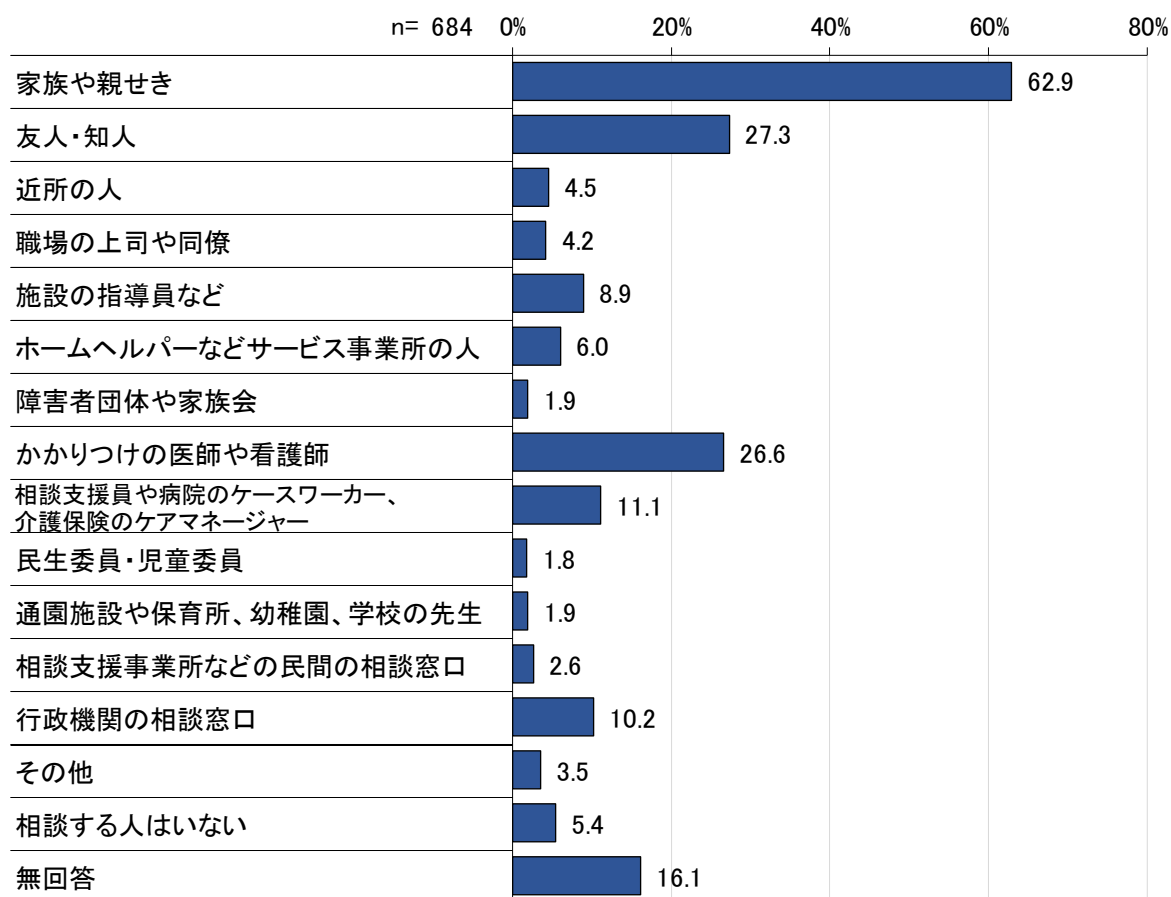
問 41 悩みや困ったことをどなたに相談しますか

(〇はいくつでも)

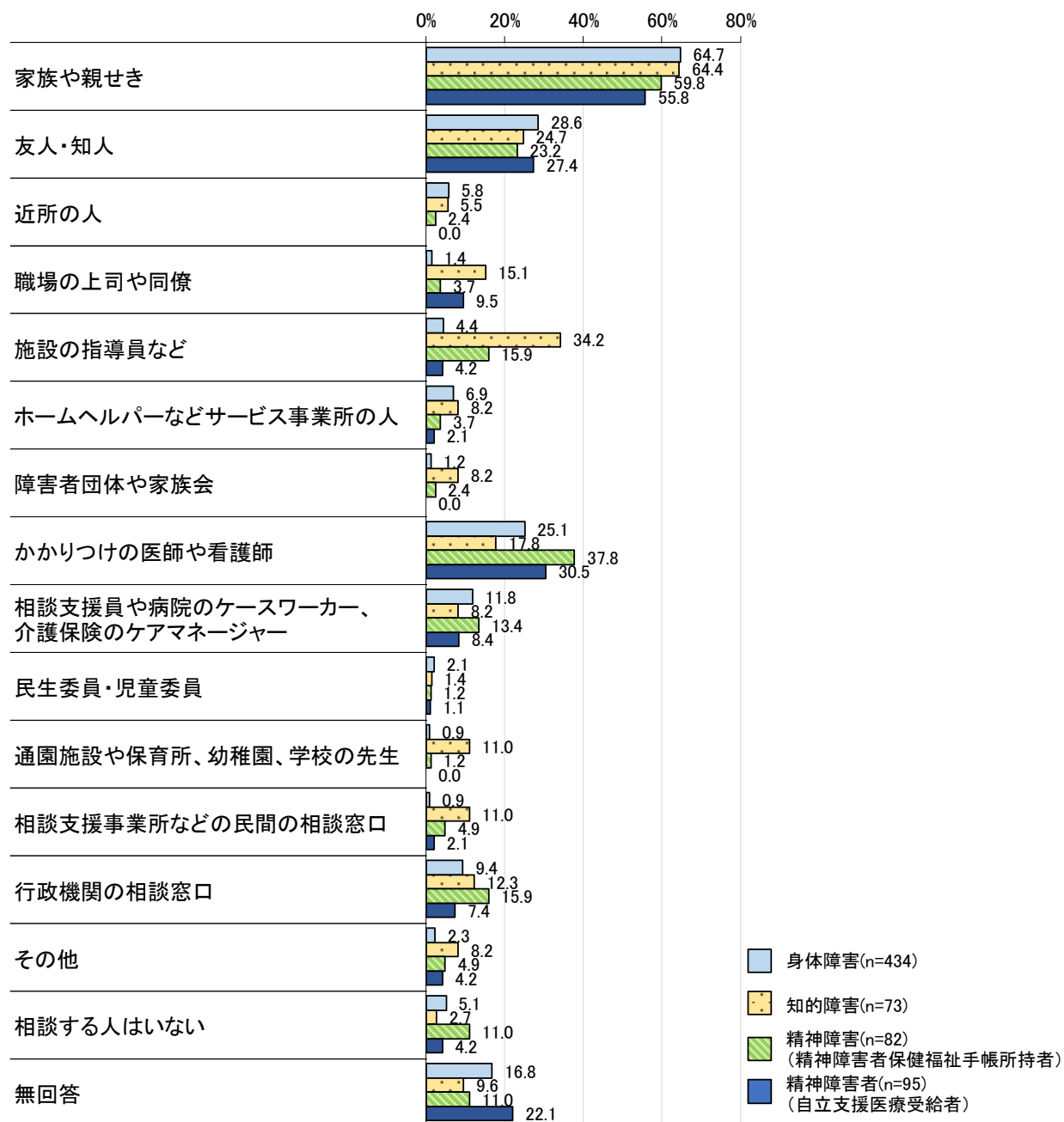
悩みや困ったことなどを相談する相手は、「家族や親せき」が 62.9%と突出して多く、「友人・知人」が 27.3%、「かかりつけの医師や看護師」が 26.6%で続いています。

障害種別にみると、精神障害者保健福祉手帳所持者、自立支援医療受給者では「かかりつけの医師や看護師」、知的障害では「施設の指導員など」と回答した方の割合が他の障害種別に比べて高いのが目立ちます。

全 体



クロス集計（障害種別）



(4) 相談するために必要なこと

問 42 困ったときの相談等について、どのようなことをしてほしいですか

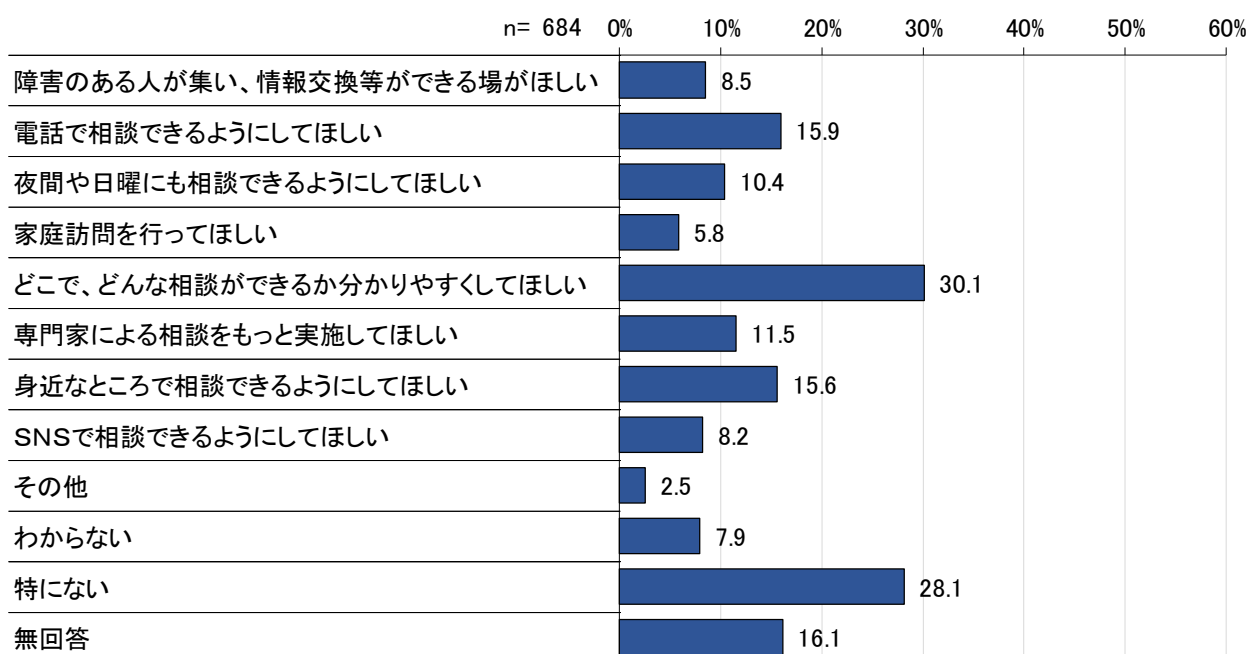
(〇はいくつでも)

困ったときの相談等の際にしてほしいこととしては、いずれの障害種別でも「どこで、どんな相談ができるか分かりやすくしてほしい」をあげる方が最も多くなっています。特に精神障害者保健福祉手帳所持者、自立支援医療受給者では4割以上と他の障害種別に比べて高く、また自立支援医療受給者の3割近くの方が「電話で相談できるようにしてほしい」としています。

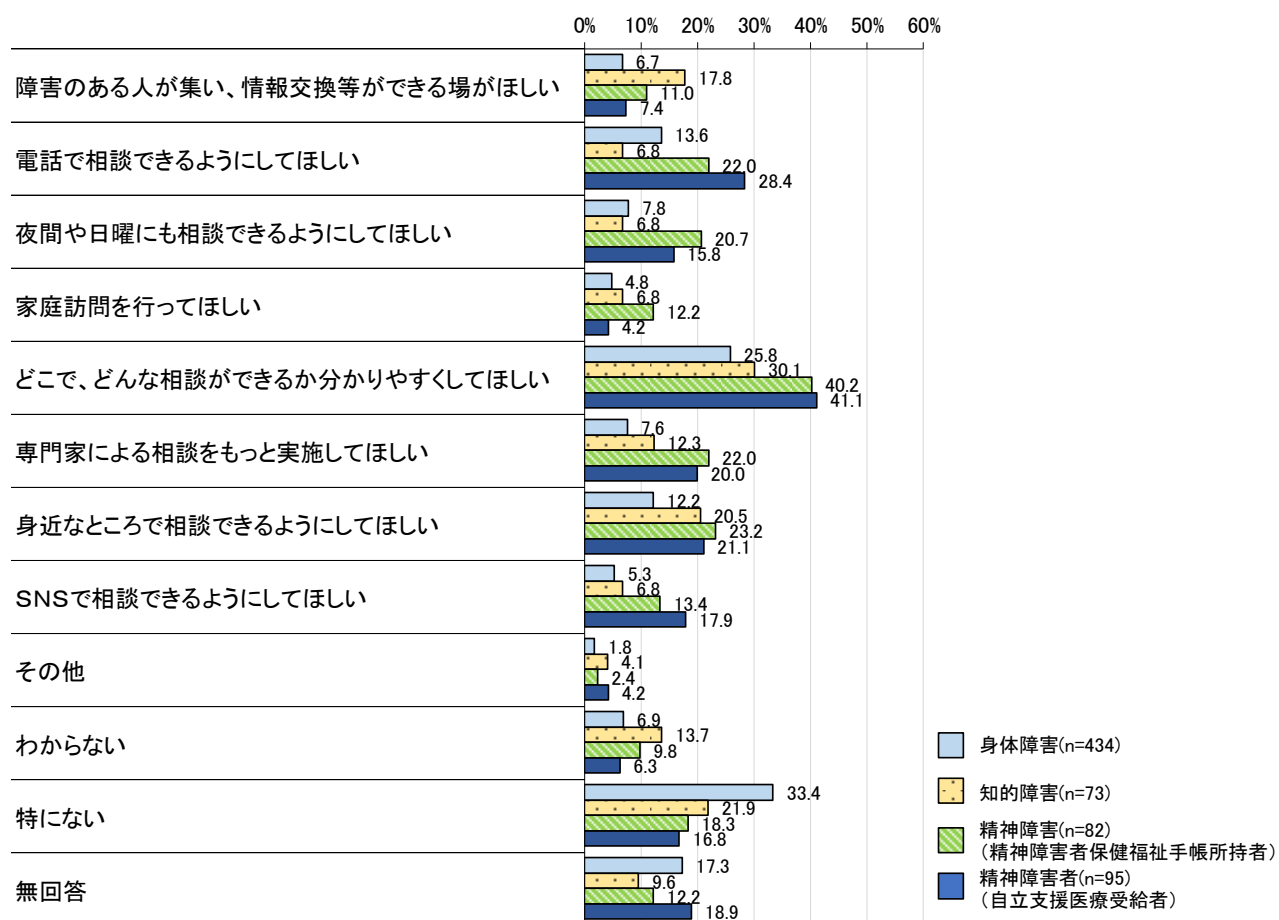
障害種別にみると、精神障害者保健福祉手帳所持者と自立支援医療受給者では、「どこで、どんな相談ができるか分かりやすくしてほしい」の割合が4割を超え、他の障害種別に比べて高くなっています。

年齢別にみると、身体障害の18歳未満の方では「障害のある人が集い、情報交換ができる場がほしい」(50.0%)、知的障害の18歳未満の方では「どこで、どんな相談ができるか分かりやすくしてほしい」(50.0%)、「身近なところで相談できるようにしてほしい」(35.7%)、精神障害者保健福祉手帳所持者の18～64歳の方では「どこで、どんな相談ができるか分かりやすくしてほしい」(40.0%)、自立支援医療受給者の18～64歳の方では「電話で相談できるようにしてほしい」(47.8%)をあげる方の割合が、それぞれ他の年齢層に比べて高くなっています。

全 体



クロス集計（障害種別）



【身体障害・年齢別】

	n	障害のある人が集い、情報交換等ができる場がほしい	電話でおこなえるようにしてほしい	夜間や日曜にも行ってほしい	家庭訪問を行ってほしい	どこで、どんな相談ができるか分かりやすくしてほしい	専門家による相談をもっと実施してほしい
全体	434 人	6.7%	13.6%	7.8%	4.8%	25.8%	7.6%
18 歳未満	4 人	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	25.0%
18～64 歳	78 人	11.5%	16.7%	12.8%	2.6%	44.9%	7.7%
65 歳以上	351 人	5.1%	13.1%	6.3%	5.4%	21.7%	7.4%
	n	身近なところで相談できるようにしてほしい	S N S で相談できるようにしてほしい	その他	わからない	特にない	無回答
全体	434 人	12.2%	5.3%	1.8%	6.9%	33.4%	17.3%
18 歳未満	4 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%
18～64 歳	78 人	20.5%	21.8%	2.6%	5.1%	25.6%	7.7%
65 歳以上	351 人	10.5%	1.7%	1.7%	7.4%	35.3%	19.7%

【知的障害・年齢別】

	n	障害のある人が集い、情報交換等ができる場がほしい	電話でおこなえるようにしてほしい	夜間や日曜にも行ってほしい	家庭訪問を行ってほしい	どこで、どんな相談ができるか分かりやすくしてほしい	専門家による相談をもっと実施してほしい
全体	73 人	17.8%	6.8%	6.8%	6.8%	30.1%	12.3%
18 歳未満	14 人	21.4%	7.1%	0.0%	0.0%	50.0%	28.6%
18～64 歳	56 人	17.9%	7.1%	8.9%	8.9%	26.8%	8.9%
65 歳以上	3 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	n	身近なところで相談できるようにしてほしい	S N S で相談できるようにしてほしい	その他	わからない	特にない	無回答
全体	73 人	20.5%	6.8%	4.1%	13.7%	21.9%	9.6%
18 歳未満	14 人	35.7%	14.3%	7.1%	7.1%	7.1%	0.0%
18～64 歳	56 人	17.9%	5.4%	3.6%	12.5%	26.8%	10.7%
65 歳以上	3 人	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%

【精神障害者保健福祉手帳所持者・年齢別】

	n	障害のある人が集い、情報交換等ができる場がほしい	電話でおこなえるようにしてほしい	夜間や日曜にも行ってほしい	家庭訪問を行ってほしい	どこで、どんな相談ができるか分かりやすくしてほしい	専門家による相談をもっと実施してほしい
全体	82 人	11.0%	22.0%	20.7%	12.2%	40.2%	22.0%
18 歳未満	0 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
18～64 歳	60 人	10.0%	23.3%	25.0%	10.0%	40.0%	26.7%
65 歳以上	21 人	14.3%	19.0%	4.8%	19.0%	38.1%	9.5%
	n	身近なところで相談できるようにしてほしい	S N S で相談できるようにしてほしい	その他	わからない	特にない	無回答
全体	82 人	23.2%	13.4%	2.4%	9.8%	18.3%	12.2%
18 歳未満	0 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
18～64 歳	60 人	25.0%	15.0%	3.3%	8.3%	20.0%	15.0%
65 歳以上	21 人	14.3%	9.5%	0.0%	14.3%	14.3%	4.8%

【自立支援医療受給者・年齢別】

	n	障害のある人が集い、情報交換等ができる場がほしい	電話でおこなえるようにしてほしい	夜間や日曜にも行ってほしい	家庭訪問を行ってほしい	どこで、どんな相談ができるか分かりやすくしてほしい	専門家による相談をもっと実施してほしい
全体	95 人	7.4%	28.4%	15.8%	4.2%	41.1%	20.0%
18 歳未満	1 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
18～64 歳	46 人	15.2%	47.8%	23.9%	4.3%	56.5%	32.6%
65 歳以上	29 人	0.0%	17.2%	10.3%	3.4%	31.0%	10.3%
	n	身近なところで相談できるようにしてほしい	S N S で相談できるようにしてほしい	その他	わからない	特にない	無回答
全体	95 人	21.1%	17.9%	4.2%	6.3%	16.8%	18.9%
18 歳未満	1 人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
18～64 歳	46 人	30.4%	30.4%	6.5%	6.5%	10.9%	4.3%
65 歳以上	29 人	10.3%	6.9%	0.0%	3.4%	24.1%	27.6%

(5)障害や福祉サービスに関する情報の入手先

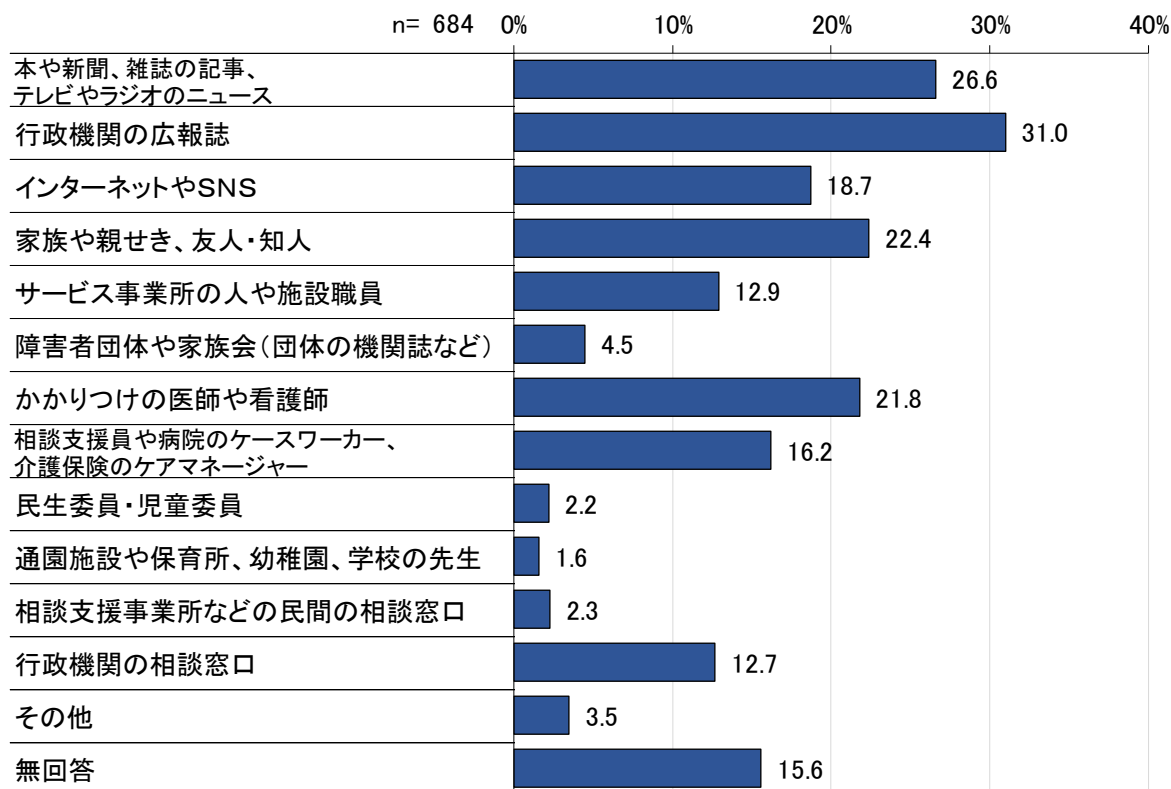
問 43 障害のことや福祉サービスなどに関する情報を、どこから知ることが多いですか

(〇はいくつでも)

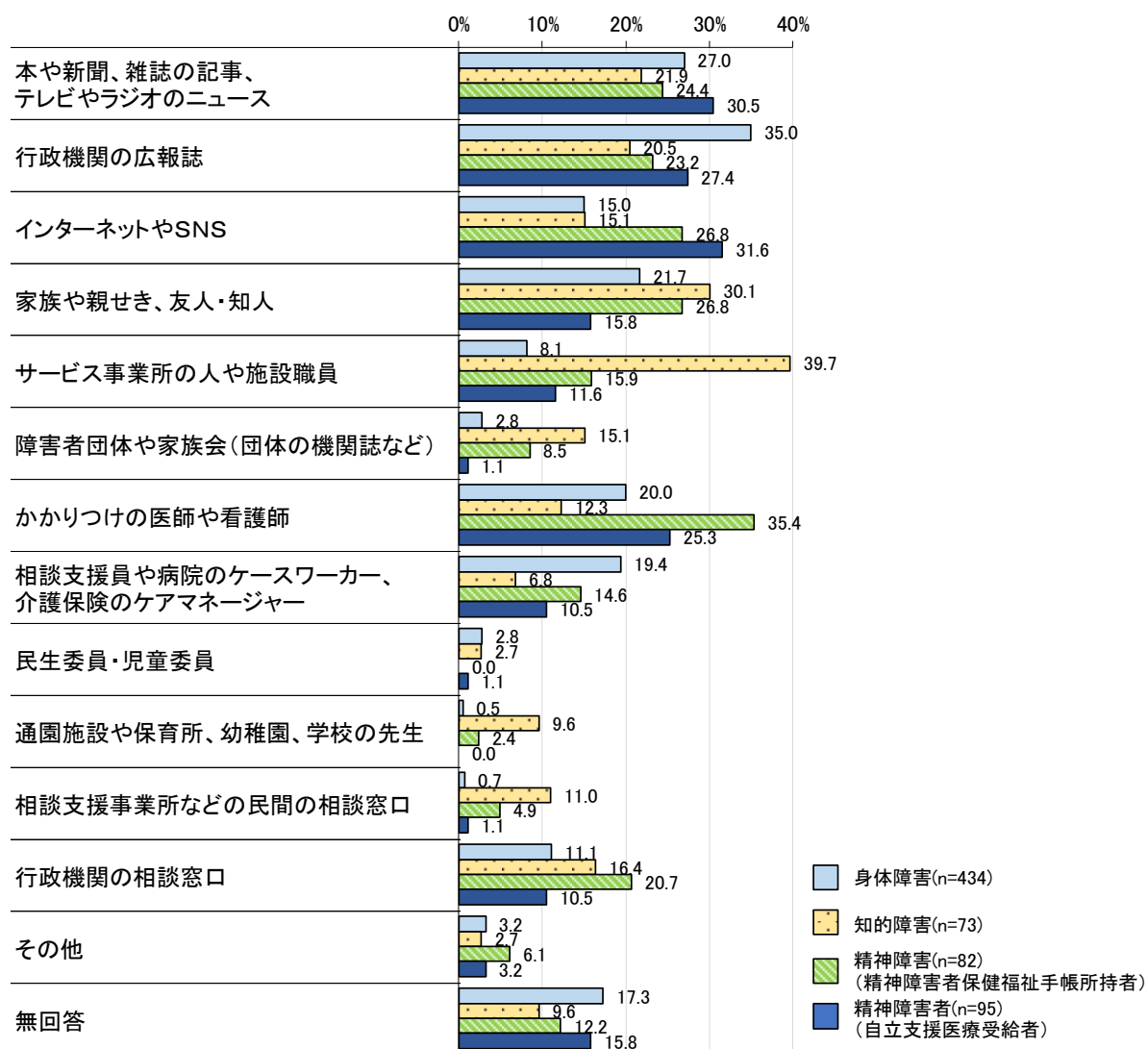
障害のことや福祉サービスなどに関する情報の入手先は、全体では「行政機関の広報誌」が31.0%で最も多く、次いで「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」が26.6%、「家族や親せき、友人・知人」が22.4%、「かかりつけの医師や看護師」が21.8%が続いています。

障害種別にみると、知的障害では「サービス事業所の人や施設職員」(39.7%)、「障害者団体や家族会(団体の機関誌など)」(15.1%)とした方の割合が他の障害種別に比べて高くなっています。

全 体



クロス集計（障害種別）



(6) 近所づきあいの程度

問 44 あなたは近所づきあいをどの程度していますか

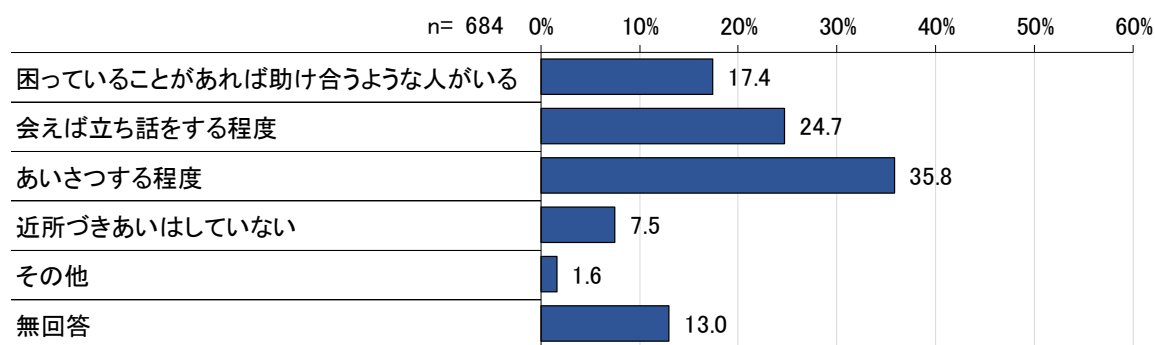
(○はひとつだけ)

近所づきあいをどの程度しているかについては、「あいさつする程度」が 35.8%と最も多く、次に「会えば立ち話をする程度」(24.7%)、「困っていることがあれば助け合うような人がある」(17.4%)と続いています。

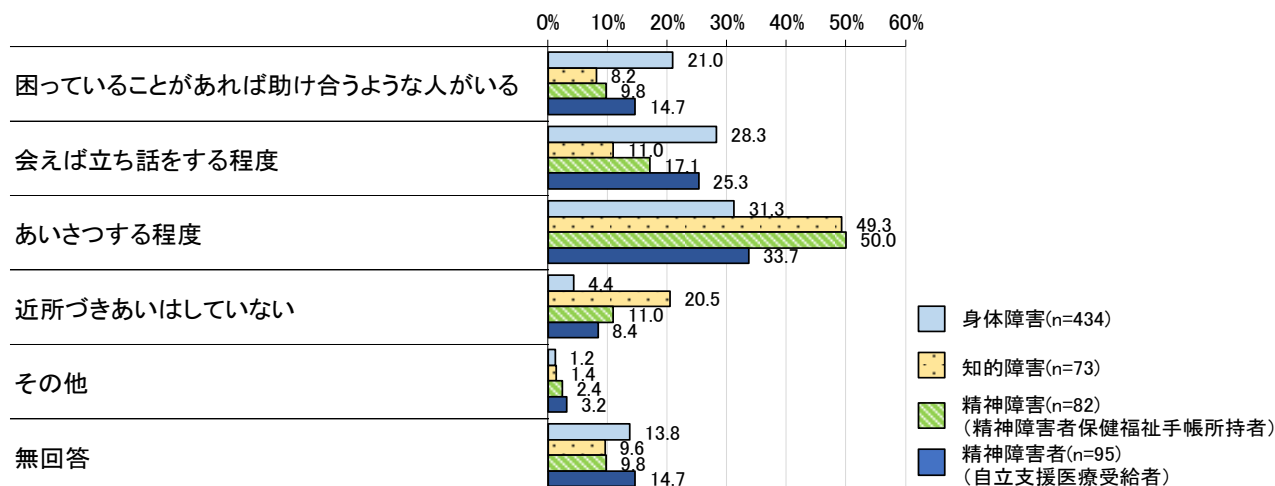
障害種別にみると、「あいさつする程度」がいずれの種別でも最も高い割合を占めていて、身体障害では「会えば立ち話をする程度」(28.3%)、「困っていることがあれば助け合うような人がある」(21.0%)が他の障害種別に比べて高くなっています。

知的障害では「近所づきあいはしていない」(20.5%)が他の種別に比べて高く、「会えば立ち話をする程度」(11.0%)と「困っていることがあれば助け合うような人がある」(8.2%)は低い割合にとどまっています。

全 体



クロス集計 (障害種別)



(7)近所づきあいの必要度

問 45 あなたにとって、近所づきあいは必要ですか

(○はひとつだけ)

近所づきあいの必要度については、「必要だと思う」が42.4%と最も多く、「どちらかといえば必要だと思う」(32.9%)と合わせると、“必要”と思う方が7割を超えています。

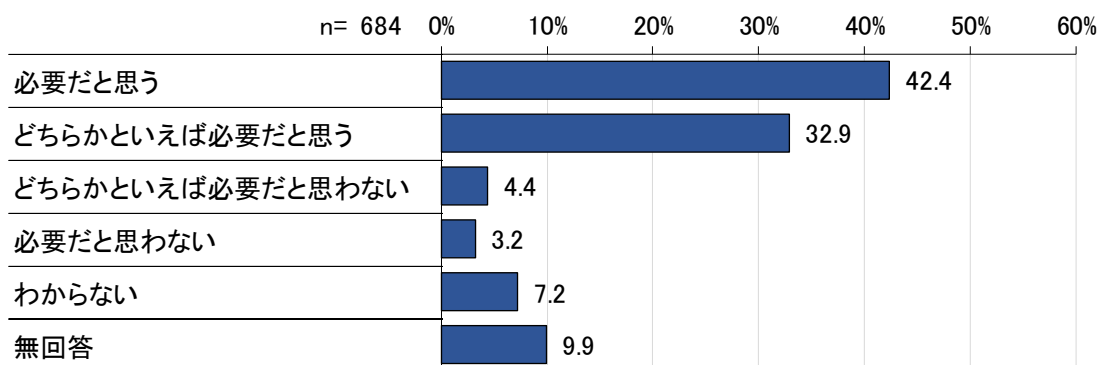
その一方で、「どちらかといえば必要だと思わない」(4.4%)と「必要だと思わない」(3.2%)を合わせた“不要”と思う方は1割を下回っています。

障害種別にみると、身体障害では「必要だと思う」と回答した方が46.8%と最も多く、“必要”と思う方は8割近くにのぼります。

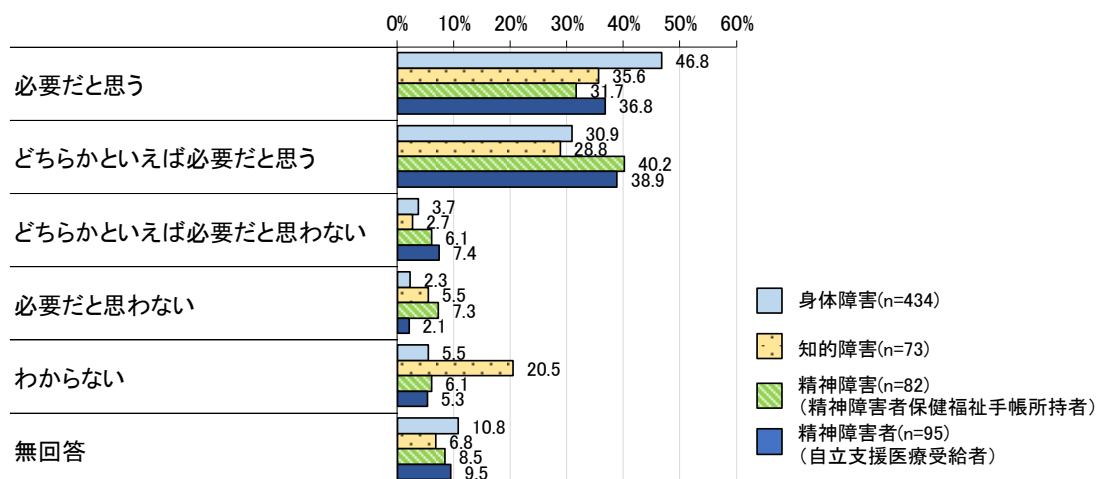
知的障害でも“必要”と回答した方は64.4%と高いものの、「わからない」(20.5%)が他の障害種別に比べて高いのも目立っています。

精神障害者保健福祉手帳所持者と自立支援医療受給者では、“必要”と回答した方の割合がいずれも7割を超えている一方で、精神障害者保健福祉手帳所持者で“不要”と思う方の割合が13.4%と、他の障害種別と比べて高くなっています。

全 体



クロス集計 (障害種別)



(8) 成年後見制度の認知状況

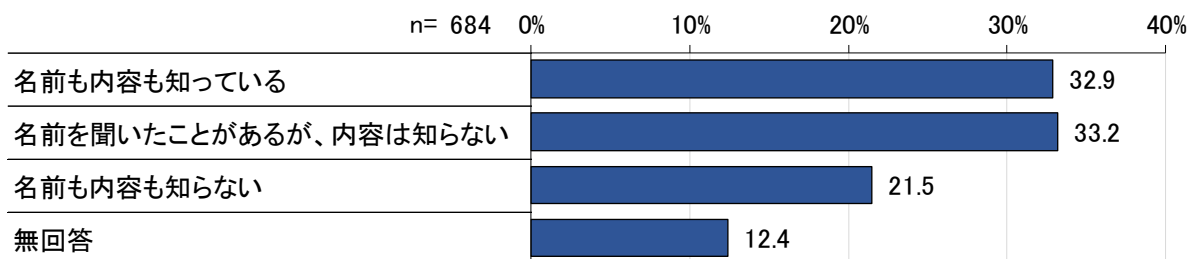
問 46 成年後見制度についてご存じですか

(○はひとつだけ)

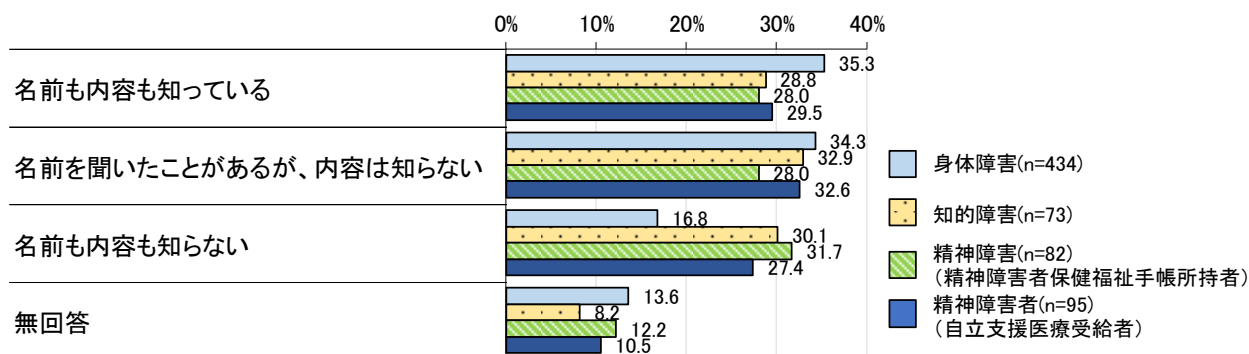
成年後見制度の認知状況をみると、全体では「名前も内容も知っている」が 32.9%、「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が 33.2%、「名前も内容も知らない」が 21.5%となっています。

障害種別にみると、身体障害では「名前も内容も知っている」(35.3%)、精神障害者保健福祉手帳所持者では「名前も内容も知らない」(31.7%)、知的障害と精神障害自立支援医療受給者は「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」(知:32.9%・自:32.6%)と回答した方の割合が他の障害種別に比べて高くなっています。

全 体



クロス集計 (障害種別)



(9)障害者差別解消法の認知状況

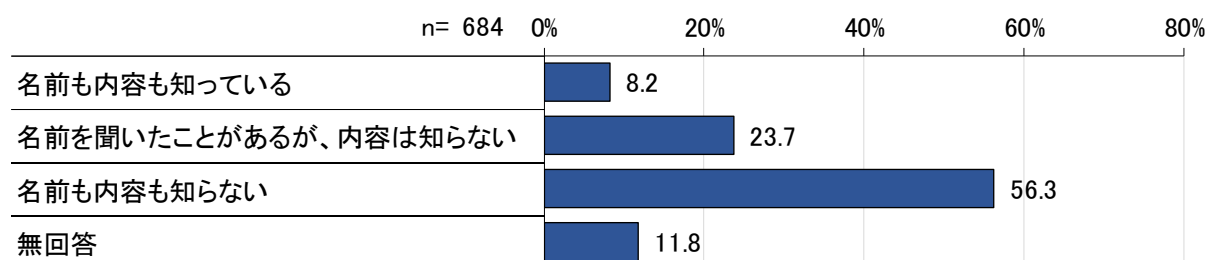
問 47 あなたは「障害者差別解消法」についてご存じですか

(○はひとつだけ)

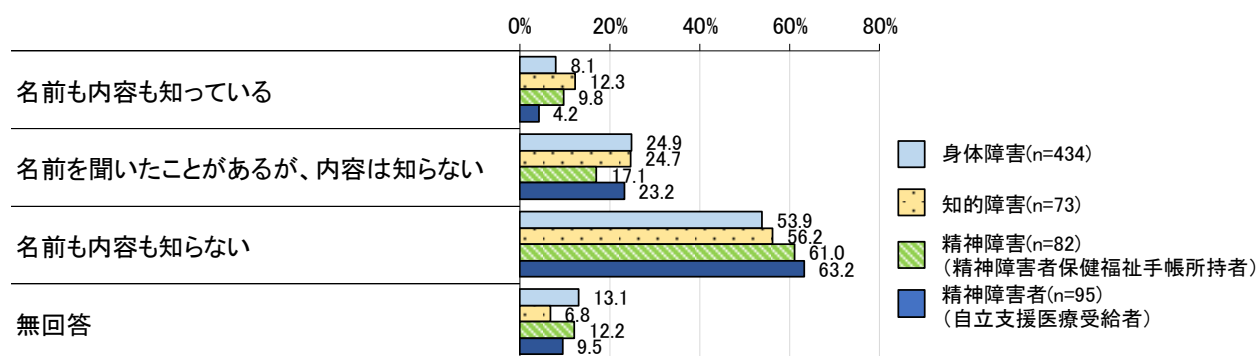
障害者差別解消法の認知状況については、全体では「名前も内容も知らない」(56.3%)が最も多く、「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」(23.7%)、「名前も内容も知っている」(8.2%)と続いています。

障害種別にみると、知的障害では「名前も内容も知っている」が12.3%と、他の障害種別と比べて高くなっています。

全 体



クロス集計 (障害種別)



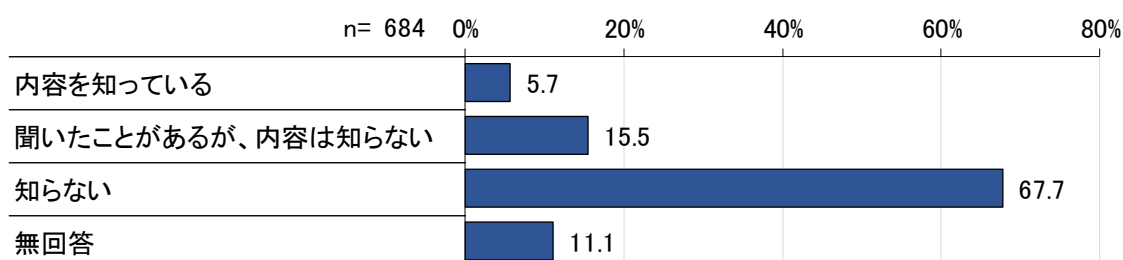
(10)「合理的配慮」の認知状況

問 48 あなたは障害者差別解消法で求められる「合理的配慮」についてご存じですか
(○はひとつだけ)

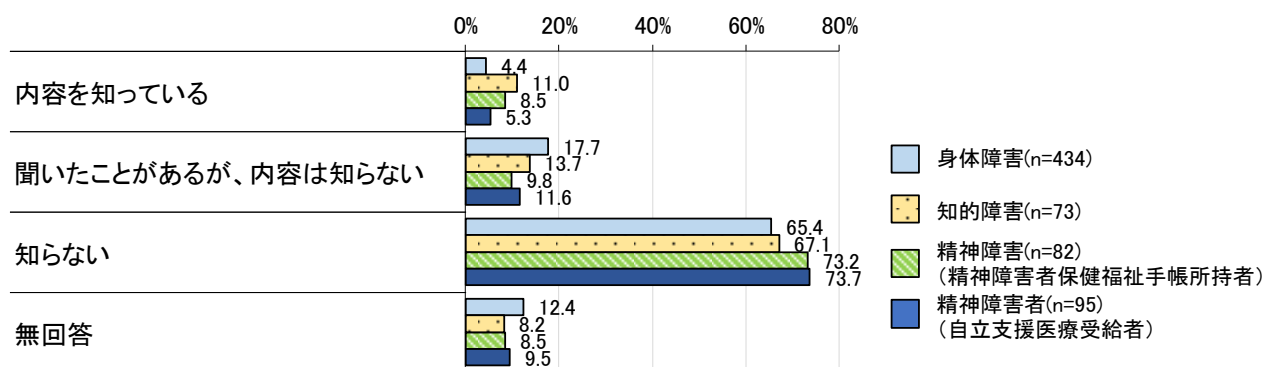
合理的配慮の認知状況については、全体では「知らない」(67.7%)が最も多く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」(15.5%)、「内容を知っている」(5.7%)の順となっています。

障害種別にみると、障害者差別解消法の認知状況と同様の結果となっていますが、全ての種別で「知らない」と回答した方の割合が 10 ポイント以上高くなっています。

全 体



クロス集計 (障害種別)



6 災害時の避難等について

(1) 災害時の一人での避難

問 49 火事や地震等の災害時に一人で避難できますか

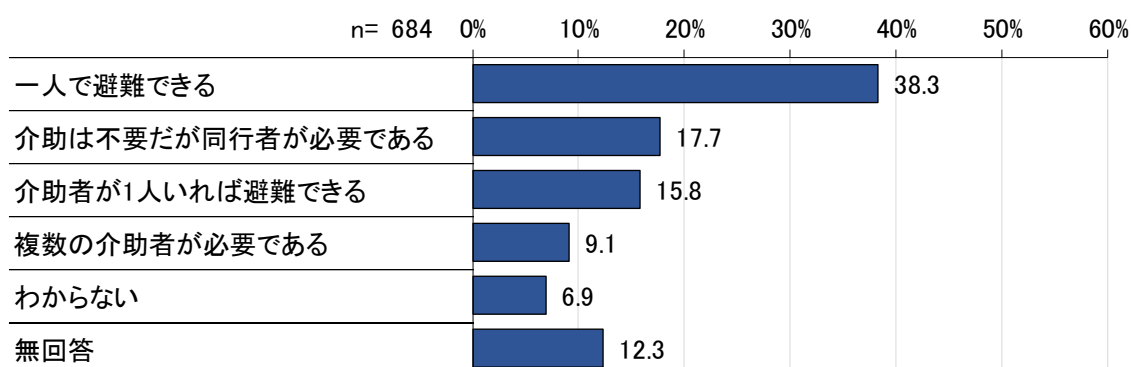
(○はひとつだけ)

火事や地震等の災害時に一人で避難できるかについて、全体では「一人で避難できる」と回答した方が 38.3%、「介助は不要だが同行者が必要である」が 17.7%となっています。

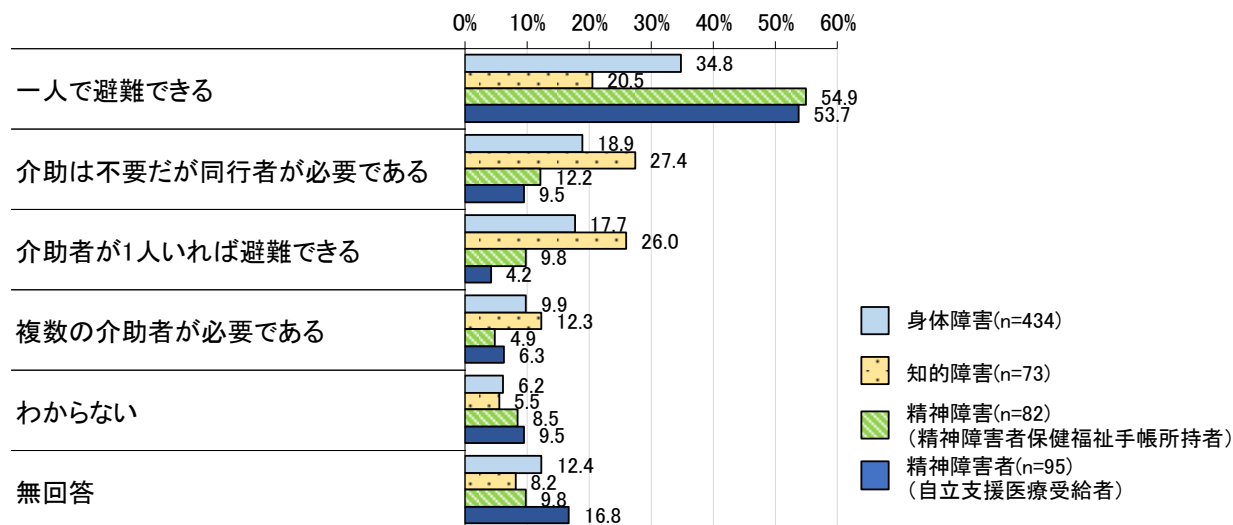
次に「介助者が1人いれば避難できる」(15.8%)、「複数の介助者が必要である」(9.1%)、「わからない」(6.9%)と続き、同行者・介護者が必要な割合は4割を超えています。

障害種別にみると、自立支援医療受給者・精神障害者保健福祉手帳所持者ともに5割以上の方が「できる」としています。知的障害では「できる」が 20.5%にとどまり、「同行者が必要」「介護者が必要」と回答した方の合計が半数以上を占めています。

全 体



クロス集計（障害種別）



年齢層別にみると、知的障害の18歳未満では「介助は不要だが同行者が必要である」(50.0%)、「介助者が1人いれば避難できる」(35.7%)と、合わせると8割以上の方が“何らかの助けが必要”と回答しています。

精神障害者保健福祉手帳所持者の18～64歳では「一人で避難できる」と回答された方が63.3%と最も高くなっています。65歳以上ではおよそ3人に1人が「一人で避難できる」と回答している一方で、「介助は不要だが同行者が必要である」(19.0%)、「介助者が1人いれば避難できる」(19.0%)、「複数の介助者が必要である」(14.3%)と、合計で5割以上の方が“何らかの助けが必要”と回答しています。

自立支援医療受給者では、18～64歳は80.4%、65歳以上は31.0%の方が「一人で避難できる」と回答しています。

【身体障害・年齢別】

	n	一人で避難できる	介助は不要だが同行者が必要である	介助者が1人いれば避難できる	複数の介助者が必要である	わからない	無回答
全体	434 人	34.8%	18.9%	17.7%	9.9%	6.2%	12.4%
18 歳未満	4 人	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%
18～64 歳	78 人	41.0%	16.7%	20.5%	6.4%	10.3%	5.1%
65 歳以上	351 人	33.9%	19.4%	16.8%	10.5%	5.1%	14.2%

【知的障害・年齢別】

	n	一人で避難できる	介助は不要だが同行者が必要である	介助者が1人いれば避難できる	複数の介助者が必要である	わからない	無回答
全体	73 人	20.5%	27.4%	26.0%	12.3%	5.5%	8.2%
18 歳未満	14 人	14.3%	50.0%	35.7%	0.0%	0.0%	0.0%
18～64 歳	56 人	21.4%	23.2%	23.2%	16.1%	7.1%	8.9%
65 歳以上	3 人	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%

【精神障害者保健福祉手帳所持者・年齢別】

	n	一人で避難できる	介助は不要だが同行者が必要である	介助者が1人いれば避難できる	複数の介助者が必要である	わからない	無回答
全体	82 人	54.9%	12.2%	9.8%	4.9%	8.5%	9.8%
18 歳未満	0 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
18～64 歳	60 人	63.3%	10.0%	6.7%	1.7%	10.0%	8.3%
65 歳以上	21 人	33.3%	19.0%	19.0%	14.3%	0.0%	14.3%

【自立支援医療受給者・年齢別】

	n	一人で避難できる	介助は不要だが同行者が必要である	介助者が1人いれば避難できる	複数の介助者が必要である	わからない	無回答
全体	95 人	53.7%	9.5%	4.2%	6.3%	9.5%	16.8%
18 歳未満	1 人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
18～64 歳	46 人	80.4%	2.2%	2.2%	0.0%	6.5%	8.7%
65 歳以上	29 人	31.0%	13.8%	6.9%	10.3%	17.2%	20.7%

(2)避難行動要支援者リストの認知状況

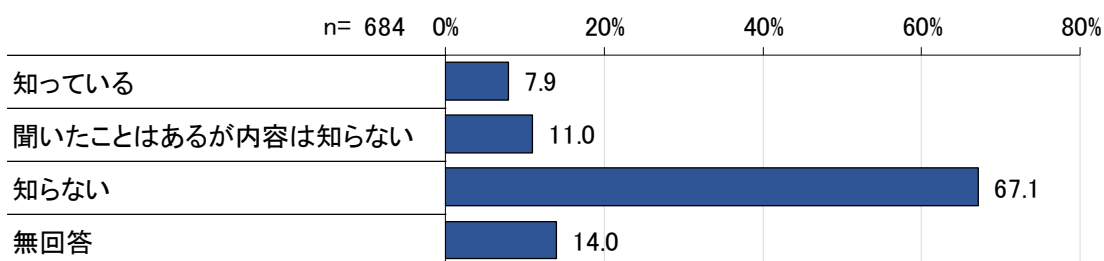
問 50 町の避難行動要支援者リストを知っていますか

(○はひとつだけ)

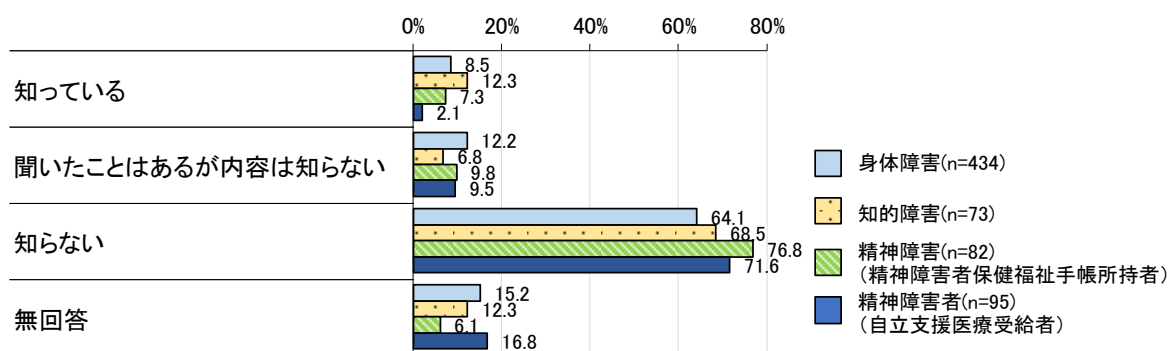
避難行動要支援者リストの認知状況については、全体では「知らない」(67.1%)が最も多く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」(11.0%)、「知っている」(7.9%)が続いています。

障害種別にみると、おおむね全体と同じ比率で回答されていますが、「聞いたことはあるが、内容は知らない」と「知らない」を合わせた“知らない”と回答された方が、精神障害者保健福祉手帳所持者と自立支援医療受給者の両方で8割を超えています。

全 体



クロス集計 (障害種別)



(3)避難行動要支援者リストへの登録状況

問 51 【知っていると答えた方】登録はしていますか

(○はひとつだけ)

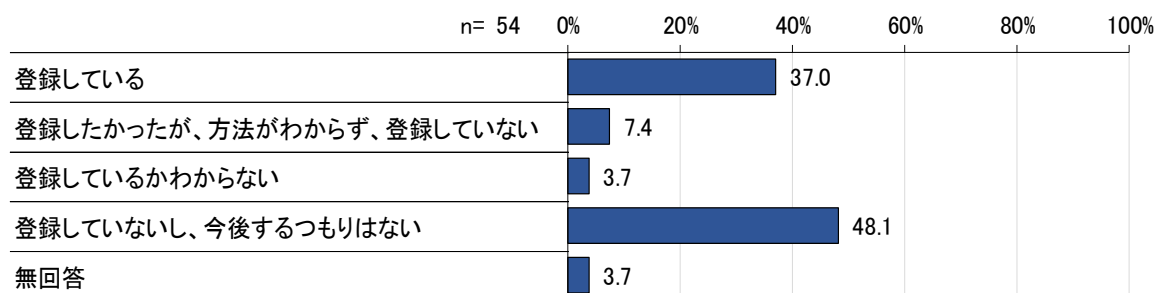
避難行動要支援者リストの登録状況については、全体では「登録していないし、今後するつもりはない」(48.1%)、「登録している」(37.0%)、「登録したかったが、方法がわからず、登録していない」(7.4%)、「登録しているかわからない」(3.7%)の順となっています。

障害種別にみると、知的障害では「登録している」と回答した方が 88.9%と、他の障害種別と比べて高い割合となっています。

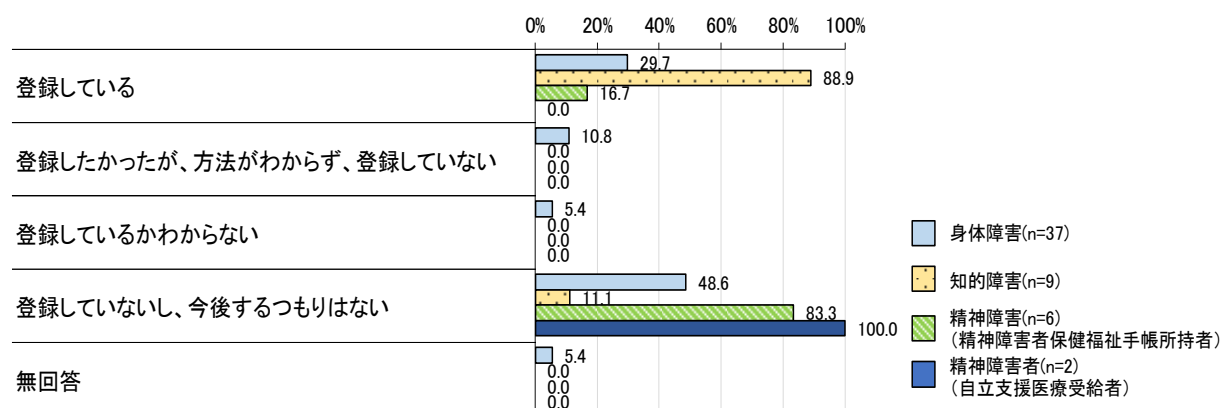
身体障害では「登録している」と回答した方は約3割にとどまり、「登録していないし、今後するつもりはない」(48.6%)と回答した方を下回っています。

精神障害者保健福祉手帳所持者でも、「登録していないし、今後するつもりはない」と回答した方が 83.3%となっています。

全 体



クロス集計 (障害種別)



(4) 近所に助けてくれる人の有無

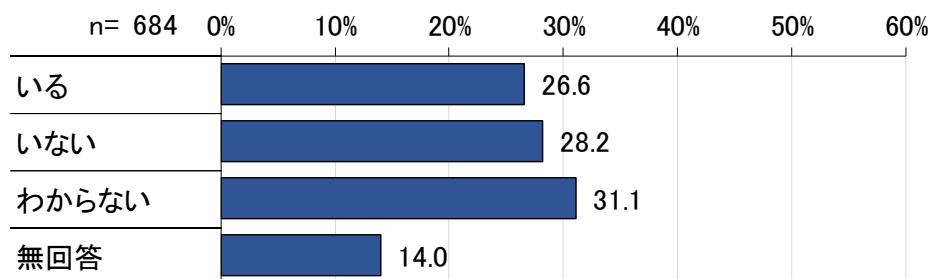
問 52 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか

(○はひとつだけ)

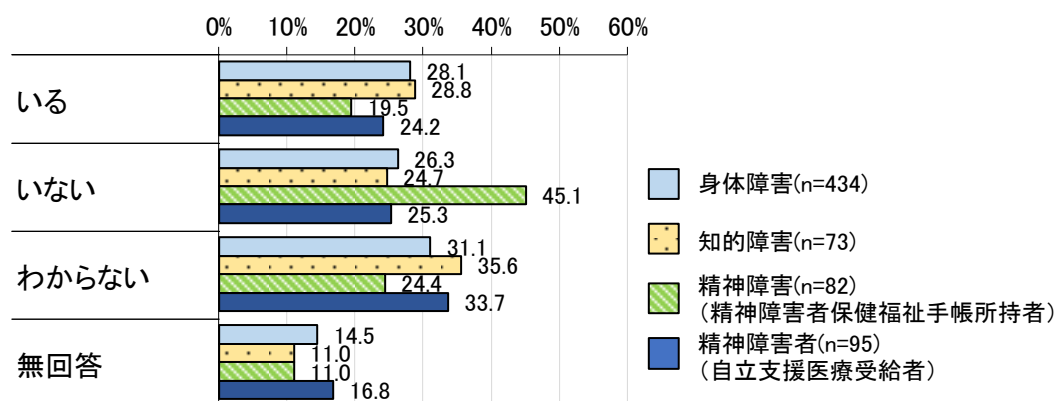
家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所に助けてくれる人がいるかを聞いたところ、全体では「いる」と回答した方が 26.6%、「いない」が 28.2%、「わからない」が 31.1%となっています。

障害種別にみると、いずれの障害種別でも「いる」との回答が3割を下回り、精神障害者保健福祉手帳所持者では「いない」と回答した方が 45.1%と突出しています。

全 体



クロス集計 (障害種別)



(5)災害時の困りごと

問 53 火事や地震等の災害時に困ることは何ですか

(〇はいくつでも)

火事や地震等の災害時に困ることとしては、全体では「避難場所の設備(トイレ等)や生活環境が不安」(46.1%)、「投薬や治療が受けられない」(45.0%)が4割以上を占め、次いで、「安全なところまで、迅速に避難することができない」(37.0%)「停電時の電源の確保」(36.5%)の順となっています。

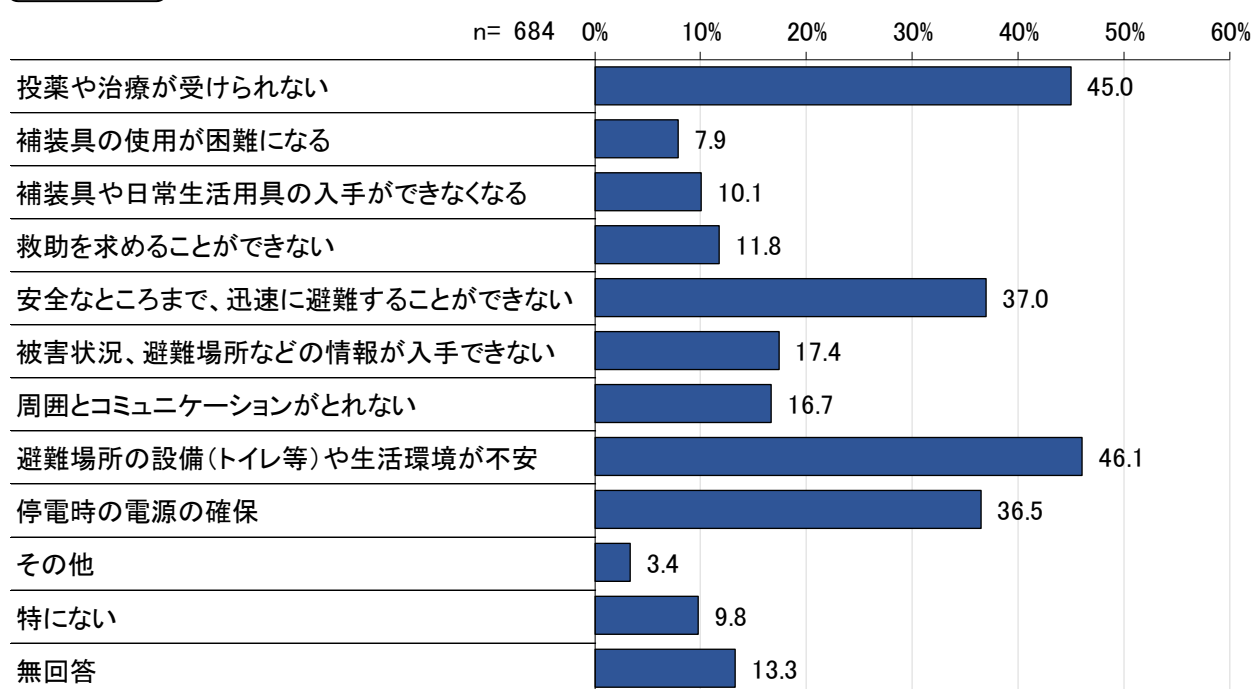
障害種別にみると、知的障害では「避難場所の設備や生活環境が不安」(49.3%)、「周囲とコミュニケーションがとれない」(43.8%)、「停電時の電源の確保」(41.1%)、精神障害者保健福祉手帳所持者では「投薬や治療が受けられない」(59.8%)、「避難場所の設備や生活環境が不安」(47.6%)と回答した方の割合が他の障害種別に比べて高いのが目立ちます。

年齢別にみると「投薬や治療が受けられない」との回答は、知的障害を除く3つの障害の18～64歳でそれぞれ6割以上となっています。

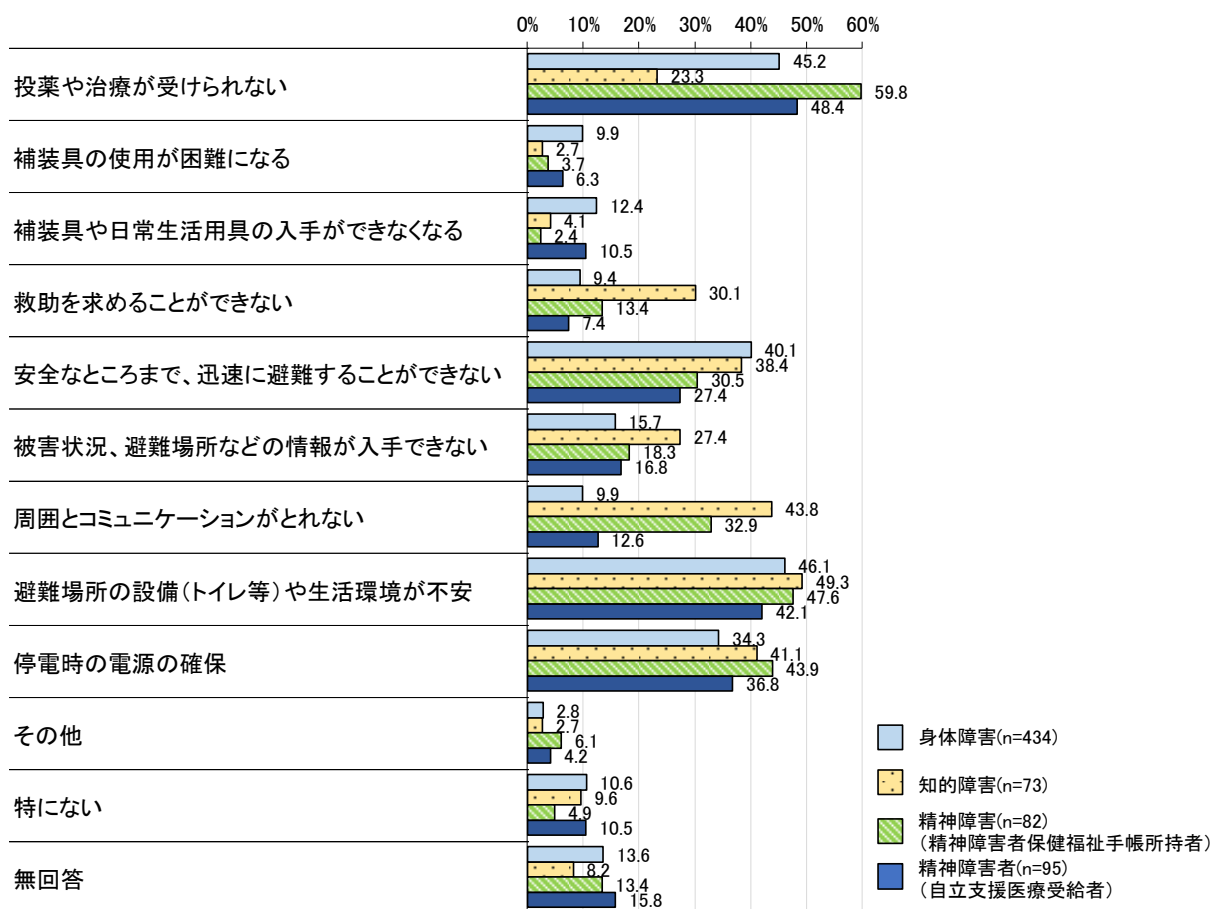
さらに精神障害者保健福祉手帳所持者、自立支援医療受給者の18～64歳では、「避難場所の設備や生活環境が不安」が5割、「停電時の電源の確保」が4割を超えています。

「救助を求めることができない」との回答は、身体障害の18歳未満(25.0%)、18～64歳(12.8%)、知的障害のすべての年齢層(18歳未満:28.6%、18～64:30.4%、65以上:33.3%)、精神障害者保健福祉手帳所持者の18～64歳(16.7%)で高くなっています。

全 体



クロス集計（障害種別）



【身体障害・年齢別】

	n	投薬や治療が 受けられない	補装具の使用 が困難になる	補装具や日常 生活用具の入 手ができなくな る	救助を求める ことができない	安全なところま で、迅速に避 難することがで きない	被害状況、避 難場所などの 情報が入手で きない
全体	434 人	45.2%	9.9%	12.4%	9.4%	40.1%	15.7%
18 歳未満	4 人	50.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%
18～64 歳	78 人	60.3%	17.9%	19.2%	12.8%	41.0%	16.7%
65 歳以上	351 人	41.9%	8.3%	11.1%	8.3%	39.9%	15.1%
	n	周囲とコミュニ ケーションがと れない	避難場所の設 備（トイレ 等）や生活環 境が不安	停電時の電源 の確保	その他	特にない	無回答
全体	510 人	9.9%	46.1%	34.3%	2.8%	10.6%	13.6%
18 歳未満	3 人	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
18～64 歳	93 人	12.8%	47.4%	39.7%	1.3%	7.7%	3.8%
65 歳以上	409 人	9.1%	46.2%	33.6%	3.1%	11.4%	16.0%

【知的障害・年齢別】

	n	投薬や治療が 受けられない	補装具の使用 が困難になる	補装具や日常 生活用具の入 手ができなくな る	救助を求める ことができない	安全なところま で、迅速に避 難することがで きない	被害状況、避 難場所などの 情報が入手で きない
全体	73 人	23.3%	2.7%	4.1%	30.1%	38.4%	27.4%
18 歳未満	14 人	7.1%	0.0%	0.0%	28.6%	35.7%	21.4%
18～64 歳	56 人	26.8%	3.6%	5.4%	30.4%	37.5%	30.4%
65 歳以上	3 人	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%
	n	周囲とコミュニ ケーションがと れない	避難場所の設 備（トイレ 等）や生活環 境が不安	停電時の電源 の確保	その他	特にない	無回答
全体	73 人	43.8%	49.3%	41.1%	2.7%	9.6%	8.2%
18 歳未満	14 人	64.3%	64.3%	35.7%	7.1%	0.0%	7.1%
18～64 歳	56 人	39.3%	46.4%	42.9%	1.8%	12.5%	8.9%
65 歳以上	3 人	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%

【精神障害者保健福祉手帳所持者・年齢別】

	n	投薬や治療が 受けられない	補装具の使用 が困難になる	補装具や日常 生活用具の入 手ができなくな る	救助を求める ことができない	安全なところま で、迅速に避 難することがで きない	被害状況、避 難場所などの 情報が入手で きない
全体	82 人	59.8%	3.7%	2.4%	13.4%	30.5%	18.3%
18 歳未満	0 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
18～64 歳	60 人	68.3%	1.7%	3.3%	16.7%	28.3%	13.3%
65 歳以上	21 人	38.1%	9.5%	0.0%	4.8%	33.3%	28.6%
	n	周囲とコミュニ ケーションがと れない	避難場所の設 備（トイレ 等）や生活環 境が不安	停電時の電源 の確保	その他	特にない	無回答
全体	82 人	32.9%	47.6%	43.9%	6.1%	4.9%	13.4%
18 歳未満	0 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
18～64 歳	60 人	36.7%	51.7%	48.3%	6.7%	3.3%	10.0%
65 歳以上	21 人	19.0%	38.1%	28.6%	4.8%	9.5%	23.8%

【自立支援医療受給者・年齢別】

	n	投薬や治療が 受けられない	補装具の使用 が困難になる	補装具や日常 生活用具の入 手ができなくな る	救助を求める ことができない	安全なところま で、迅速に避 難することがで きない	被害状況、避 難場所などの 情報が入手で きない
全体	95 人	48.4%	6.3%	10.5%	7.4%	27.4%	16.8%
18 歳未満	1 人	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
18～64 歳	46 人	63.0%	4.3%	6.5%	8.7%	19.6%	19.6%
65 歳以上	29 人	34.5%	6.9%	10.3%	3.4%	34.5%	10.3%
	n	周囲とコミュニ ケーションがと れない	避難場所の設 備（トイレ 等）や生活環 境が不安	停電時の電源 の確保	その他	特にない	無回答
全体	95 人	12.6%	42.1%	36.8%	4.2%	10.5%	15.8%
18 歳未満	1 人	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
18～64 歳	46 人	10.9%	52.2%	45.7%	6.5%	10.9%	8.7%
65 歳以上	29 人	13.8%	27.6%	27.6%	0.0%	10.3%	24.1%

7 障害者施策について

(1) 葉山町の暮らしやすさ

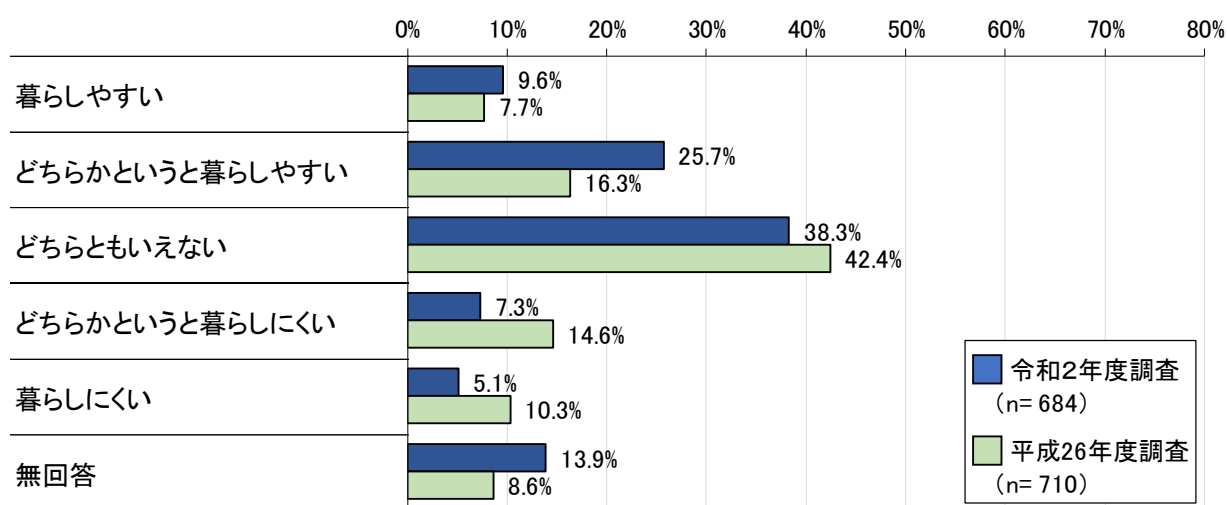
問 55 総合的にみて、現在の葉山町は障害のある方にとって暮らしやすいまち
だと思われますか

(○はひとつだけ)

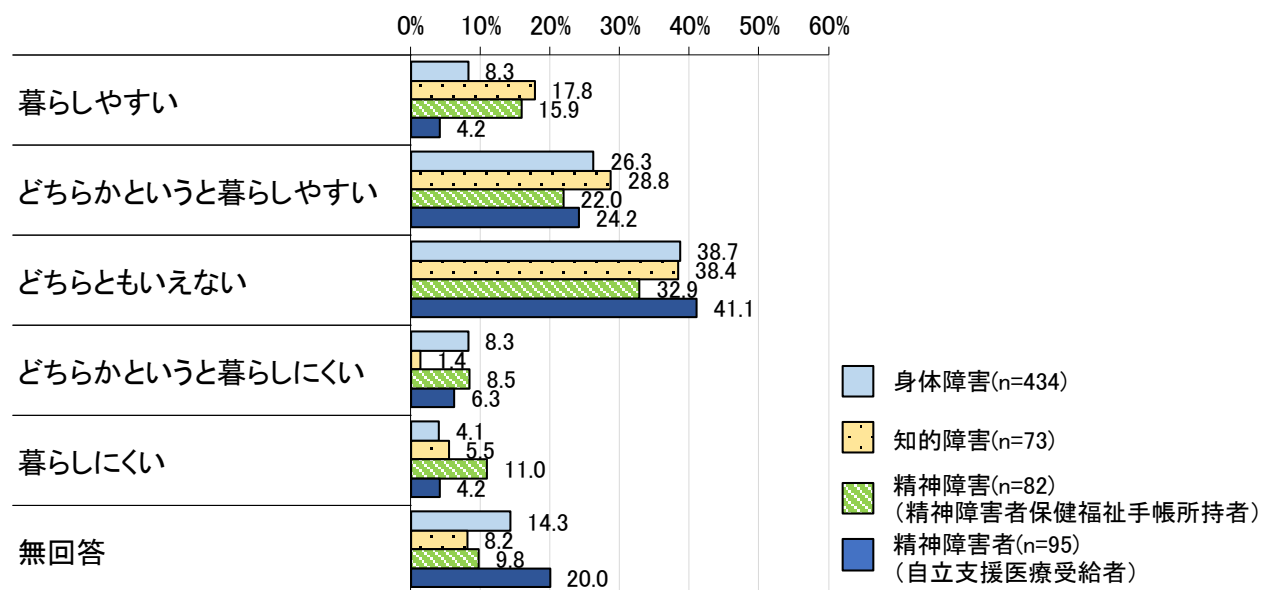
総合的にみて、障害のある方にとって葉山町の暮らしやすさを聞いたところ、全体に関して、「暮らしやすい」と「どちらかというと暮らしやすい」を合わせた、“暮らしやすい”と回答した方は、令和2年度調査では 35.3%、平成 26 年度調査では 24.0%となっており、比較すると 11.3%増加しています。

障害種別に関して、「暮らしやすい」と「どちらかというと暮らしやすい」を合わせた、“暮らしやすい”と回答した方は、身体障害では 34.6%、知的障害では 46.6%、精神障害者保健福祉手帳所持者では 37.9%、自立支援医療受給者では 28.4%となっています。

全 体（経年比較）



クロス集計（障害種別）



(2)障害者施策の充実のための重要な取り組み

問 56 今後、障害者施策の充実を図る上で、重要と思われる取り組みはどのようなことですか

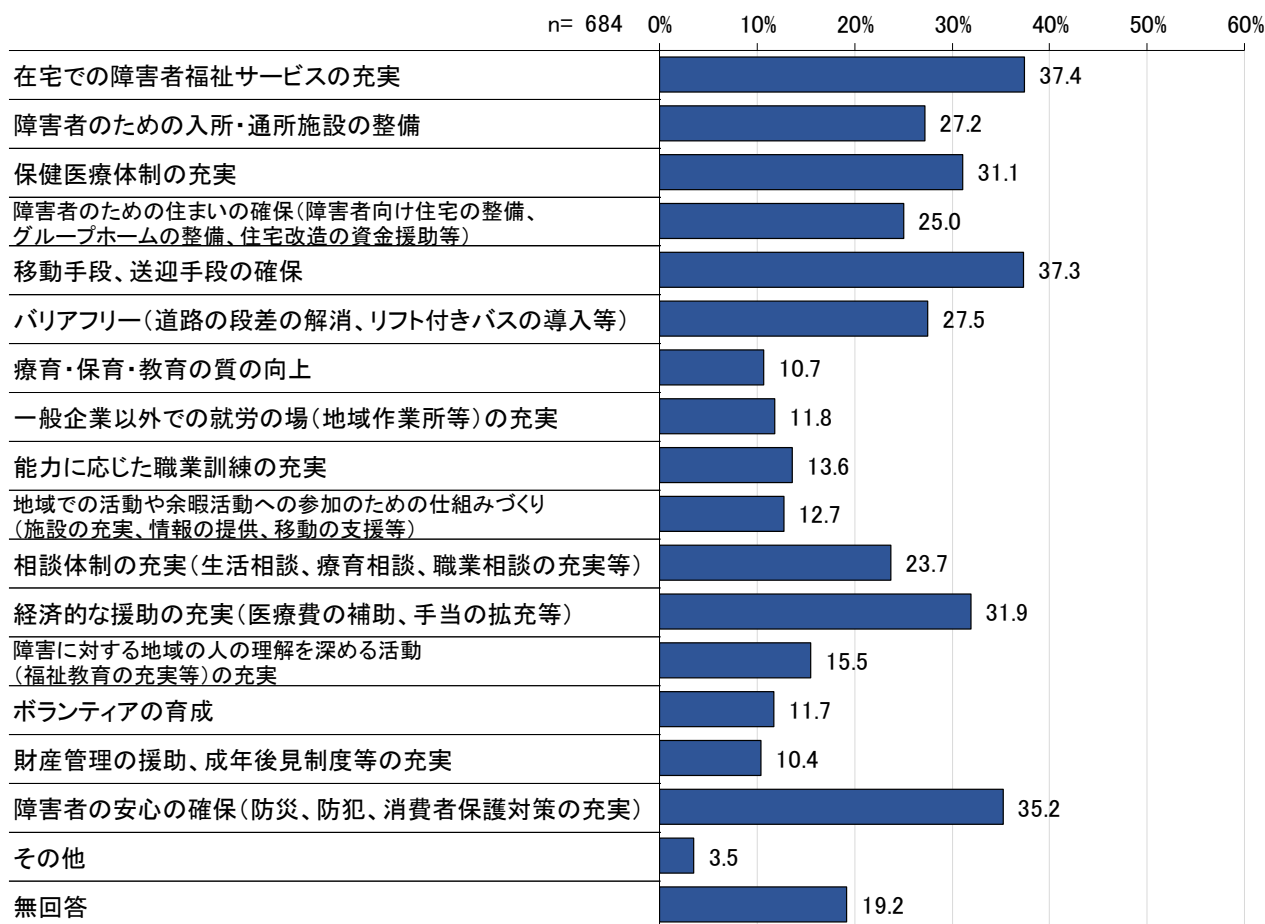
(〇はいくつでも)

今後、障害者施策の充実を図る上で重要だと思われる取り組みとしては、全体では「在宅での障害福祉サービスの充実」が 37.4%で最も多くなっています。

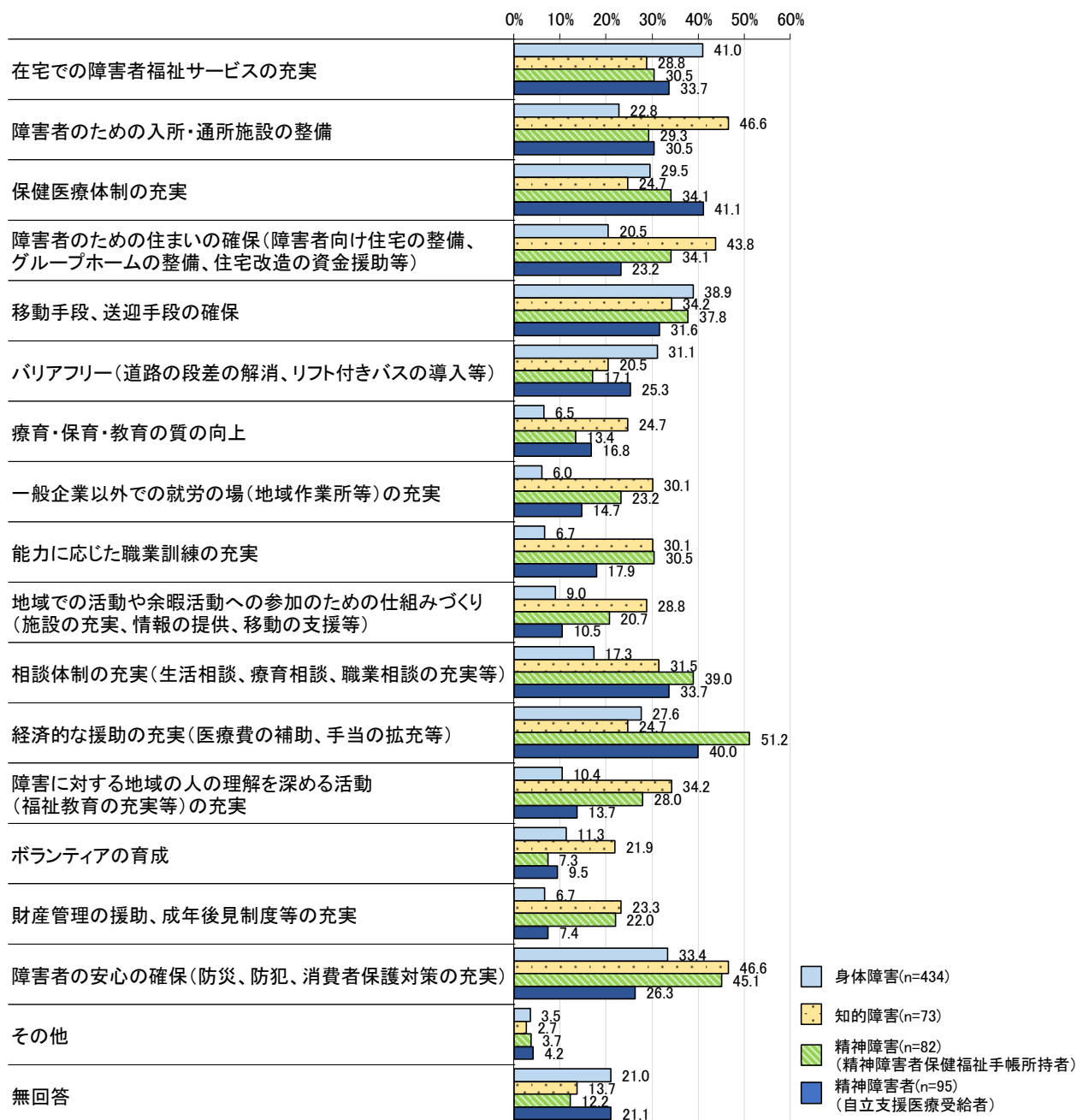
次いで、「移動手段、送迎手段の確保」(37.3%)、「障害者の安心の確保」(35.2%)、「経済的な援助の充実」(31.9%)、「保健医療体制の充実」(31.1%)などが続いています。

障害種別にみると、知的障害では「障害者のための入所・通所施設の整備」「障害者の安心の確保」(各 46.6%)、「障害者のための住まいの確保」(43.8%)と回答した方が他の障害種別に比べて高く、精神障害者保健福祉手帳所持者では「経済的な援助の充実」(51.2%)と回答した方が半数を超えています。

全 体



クロス集計（障害種別）



【身体障害・年齢別】

	n	在宅での障害者福祉サービスの充実	障害者のための入所・通所施設の整備	保健医療体制の充実	障害者のための住まいの確保	移動手段、送迎手段の確保	バリアフリー
全体	434 人	41.0%	22.8%	29.5%	20.5%	38.9%	31.1%
18 歳未満	4 人	25.0%	0.0%	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%
18～64 歳	78 人	35.9%	21.8%	33.3%	30.8%	41.0%	42.3%
65 歳以上	351 人	42.5%	23.4%	28.5%	18.5%	38.7%	29.1%
	n	療育・保育・教育の質の向上	一般企業以外での就労場の充実	能力に応じた職業訓練の充実	地域での活動や余暇活動への参加のための仕組みづくり	相談体制の充実	経済的な援助の充実
全体	434 人	6.5%	6.0%	6.7%	9.0%	17.3%	27.6%
18 歳未満	4 人	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%
18～64 歳	78 人	10.3%	17.9%	11.5%	11.5%	24.4%	42.3%
65 歳以上	351 人	5.1%	3.4%	5.7%	8.5%	15.7%	24.5%
	n	障害に対する地域の人々の理解を深める活動の充実	ボランティアの育成	財産管理の援助、成年後見制度等の充実	障害者の安心の確保	その他	無回答
全体	434 人	10.4%	11.3%	6.7%	33.4%	3.5%	21.0%
18 歳未満	4 人	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%
18～64 歳	78 人	15.4%	14.1%	3.8%	50.0%	3.8%	12.8%
65 歳以上	351 人	9.1%	10.5%	7.4%	29.9%	3.4%	22.8%

今後、障害者施策の充実のために重要と思う取り組みについては、18～64 歳では「障害者の安心の確保」と回答した方がそれぞれ 50.0%と半数を占めており、65 歳以上では、「在宅での障害福祉サービスの充実」をあげた方が 42.5%と高くなっています。

【知的障害】

	n	在宅での障害者福祉サービスの充実	障害者のための入所・通所施設の整備	保健医療体制の充実	障害者のための住まいの確保	移動手段、送迎手段の確保	バリアフリー
全体	73 人	28.8%	46.6%	24.7%	43.8%	34.2%	20.5%
18 歳未満	14 人	28.6%	42.9%	21.4%	42.9%	35.7%	7.1%
18～64 歳	56 人	25.0%	46.4%	25.0%	42.9%	32.1%	23.2%
65 歳以上	3 人	100.0%	66.7%	33.3%	66.7%	66.7%	33.3%
	n	療育・保育・教育の質の向上	一般企業以外での就労場の充実	能力に応じた職業訓練の充実	地域での活動や余暇活動への参加のための仕組みづくり	相談体制の充実	経済的な援助の充実
全体	73 人	24.7%	30.1%	30.1%	28.8%	31.5%	24.7%
18 歳未満	14 人	57.1%	42.9%	57.1%	42.9%	50.0%	14.3%
18～64 歳	56 人	16.1%	25.0%	23.2%	25.0%	25.0%	23.2%
65 歳以上	3 人	33.3%	66.7%	33.3%	33.3%	66.7%	100.0%
	n	障害に対する地域の人々の理解を深める活動の充実	ボランティアの育成	財産管理の援助、成年後見制度等の充実	障害者の安心の確保	その他	無回答
全体	73 人	34.2%	21.9%	23.3%	46.6%	2.7%	13.7%
18 歳未満	14 人	64.3%	21.4%	35.7%	64.3%	14.3%	7.1%
18～64 歳	56 人	26.8%	21.4%	19.6%	41.1%	0.0%	16.1%
65 歳以上	3 人	33.3%	33.3%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%

今後、障害者施策の充実のために重要と思う取り組みについては、知的障害の 18 歳未満では「障害に対する地域の人々の理解を深める活動の充実」「障害者の安心の確保」(各 64.3%)、18～64 歳では「障害者のための入所・通所施設の整備」(46.4%)、「障害者のための住まいの確保」(42.9%)と回答された方が多くなっています。

【精神障害者保健福祉手帳所持者・年齢別】

	n	在宅での障害者福祉サービスの充実	障害者のための入所・通所施設の整備	保健医療体制の充実	障害者のための住まいの確保	移動手段、送迎手段の確保	バリアフリー
全体	82 人	30.5%	29.3%	34.1%	34.1%	37.8%	17.1%
18 歳未満	0 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
18～64 歳	60 人	30.0%	26.7%	36.7%	38.3%	36.7%	20.0%
65 歳以上	21 人	33.3%	38.1%	28.6%	19.0%	38.1%	9.5%
	n	療育・保育・教育の質の向上	一般企業以外での就労場の充実	能力に応じた職業訓練の充実	地域での活動や余暇活動への参加のための仕組みづくり	相談体制の充実	経済的な援助の充実
全体	82 人	13.4%	23.2%	30.5%	20.7%	39.0%	51.2%
18 歳未満	0 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
18～64 歳	60 人	16.7%	28.3%	36.7%	23.3%	45.0%	56.7%
65 歳以上	21 人	4.8%	9.5%	14.3%	14.3%	23.8%	33.3%
	n	障害に対する地域の人々の理解を深める活動の充実	ボランティアの育成	財産管理の援助、成年後見制度等の充実	障害者の安心の確保	その他	無回答
全体	82 人	28.0%	7.3%	22.0%	45.1%	3.7%	12.2%
18 歳未満	0 人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
18～64 歳	60 人	33.3%	8.3%	25.0%	48.3%	5.0%	6.7%
65 歳以上	21 人	14.3%	4.8%	9.5%	38.1%	0.0%	28.6%

今後、障害者施策の充実のために重要と思う取り組みについては、精神障害者保健福祉手帳所持者の 18～64 歳では「経済的な援助の充実」(56.7%)、65 歳以上では「障害者の安心の確保」「移動手段、送迎手段の確保」(各 38.1%)との回答した方が最も多くなっています。

【自立支援医療受給者・年齢別】

	n	在宅での障害者福祉サービスの充実	障害者のための入所・通所施設の整備	保健医療体制の充実	障害者のための住まいの確保	移動手段、送迎手段の確保	バリアフリー
全体	95 人	33.7%	30.5%	41.1%	23.2%	31.6%	25.3%
18 歳未満	1 人	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%
18～64 歳	46 人	41.3%	41.3%	54.3%	28.3%	39.1%	32.6%
65 歳以上	29 人	31.0%	24.1%	27.6%	20.7%	31.0%	13.8%
	n	療育・保育・教育の質の向上	一般企業以外での就労場の充実	能力に応じた職業訓練の充実	地域での活動や余暇活動への参加のための仕組みづくり	相談体制の充実	経済的な援助の充実
全体	95 人	16.8%	14.7%	17.9%	10.5%	33.7%	40.0%
18 歳未満	1 人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
18～64 歳	46 人	28.3%	26.1%	26.1%	19.6%	56.5%	54.3%
65 歳以上	29 人	3.4%	3.4%	13.8%	3.4%	13.8%	27.6%
	n	障害に対する地域の人々の理解を深める活動の充実	ボランティアの育成	財産管理の援助、成年後見制度等の充実	障害者の安心の確保	その他	無回答
全体	95 人	13.7%	9.5%	7.4%	26.3%	4.2%	21.1%
18 歳未満	1 人	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
18～64 歳	46 人	23.9%	17.4%	13.0%	37.0%	2.2%	10.9%
65 歳以上	29 人	3.4%	0.0%	0.0%	17.2%	3.4%	24.1%

今後、障害者施策の充実のために重要と思う取り組みについては、自立支援医療受給者の18～64 歳では「相談体制の充実」(56.5%)、「保健医療体制の充実」(54.3%)、65 歳以上では「在宅での障害者福祉サービスの充実」「移動手段、送迎手段の確保」(31.0%)と回答した方が最も多くなっています。

Ⅲ 一般町民調査結果

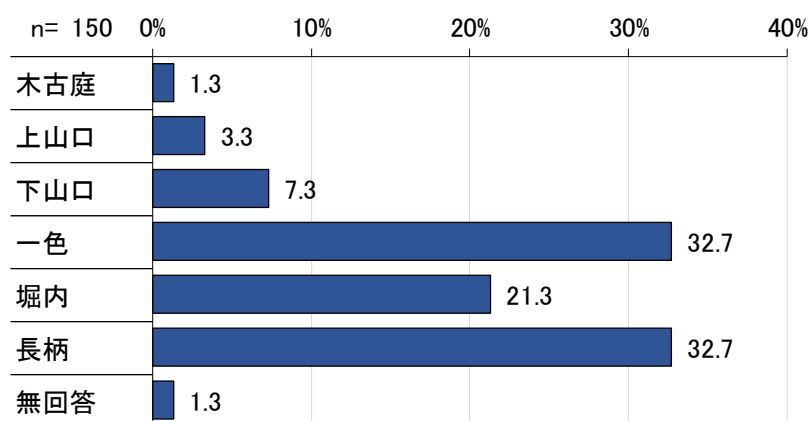
1 基本属性

(1) 居住する地区

問1 お住まいの地区はどちらですか

(○はひとつだけ)

居住地区は、「長柄」「一色」が各 32.7%、「堀内」が 21.3%、他の地区は1～7%となっています。

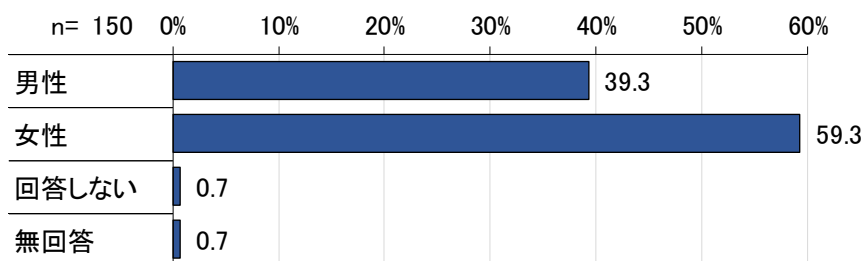


(2) 性別

問2 性別はどちらですか

(○はひとつだけ)

性別は、「男性」が 39.3%、「女性」が 59.3%となっています。

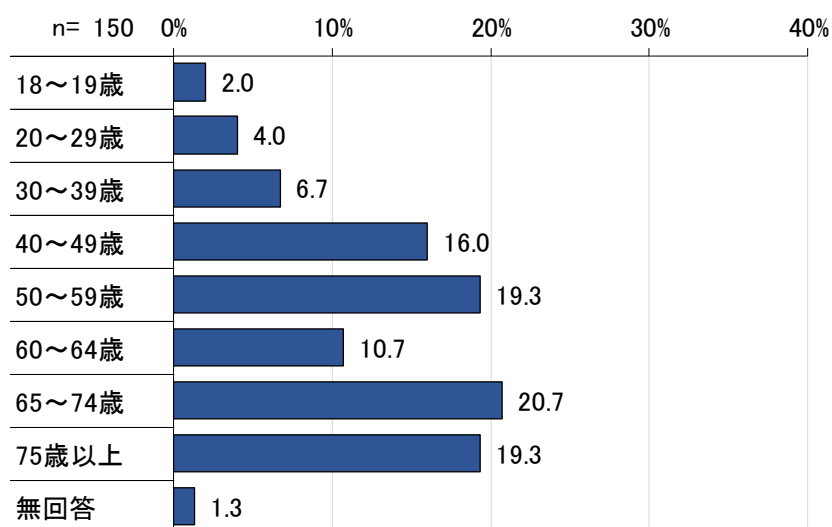


(3) 年齢

問3 年齢はおいくつですか

(○はひとつだけ)

年齢は、「65～74 歳」が 20.7%で最も多く、「50～59 歳」「75 歳以上」が各 19.3%、「40～49 歳」が 16.0%、「60～64 歳」が 10.7%、18～39 歳はそれぞれ1割を下回っています。



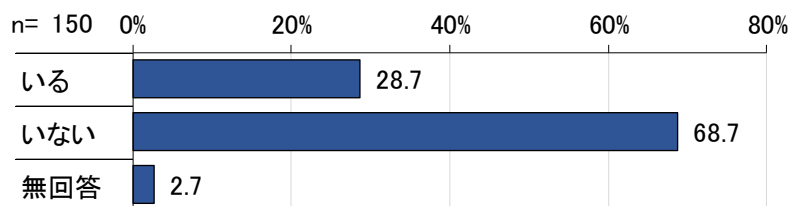
2 障害者との関わりについて

(1) 身近な障害者の存在

問4 まわりに障害のある方はいらっしゃいますか

(○はひとつだけ)

まわりに障害のある方が「いる」と回答した方は 28.7%、「いない」は 68.7%を占めています。

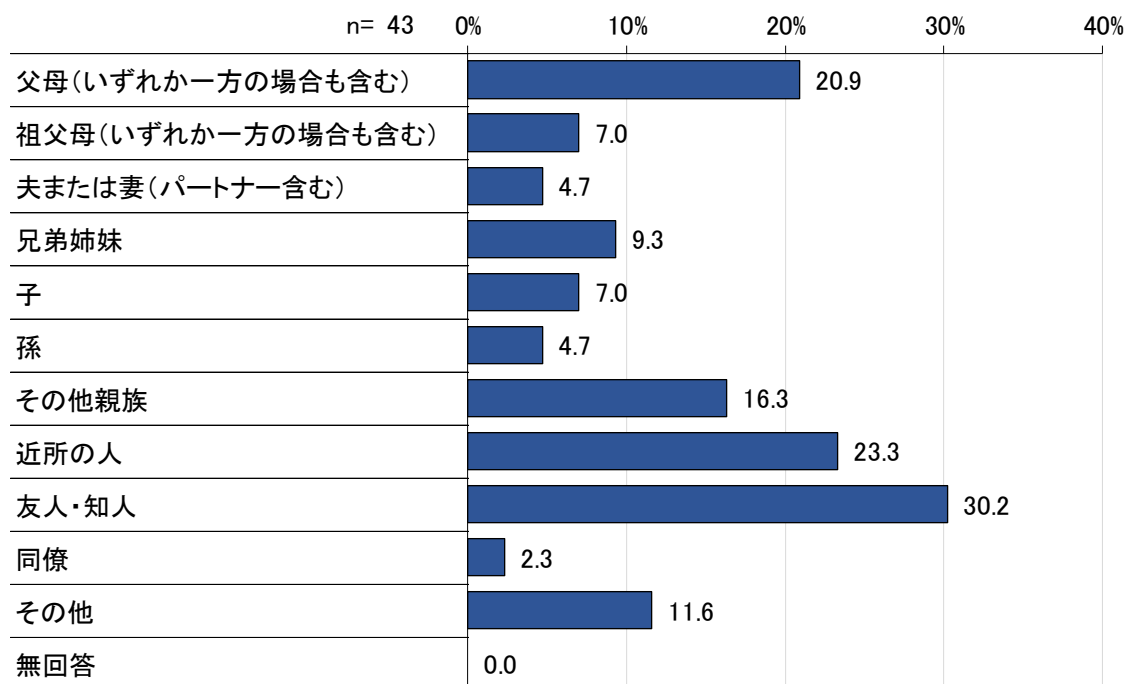


(2) 身近な障害者との間柄

問5 まわりにいる障害のある方はどなたですか

(○はいくつでも)

まわりにいる障害のある方は、「友人・知人」が 30.2%で最も多く、次いで「近所の人」が 23.3%、「父母」が 20.9%、「その他親族」が 16.3%で続いています。

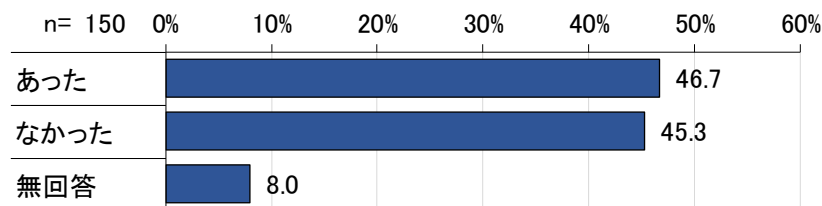


(3)障害者との交流の機会

問6 これまでに障害のある方と交流を持つ機会がありましたか

(○はひとつだけ)

これまで障害のある方との交流を持つ機会が「あった」と回答した方が46.7%、「なかった」と回答した方が45.3%となっています。

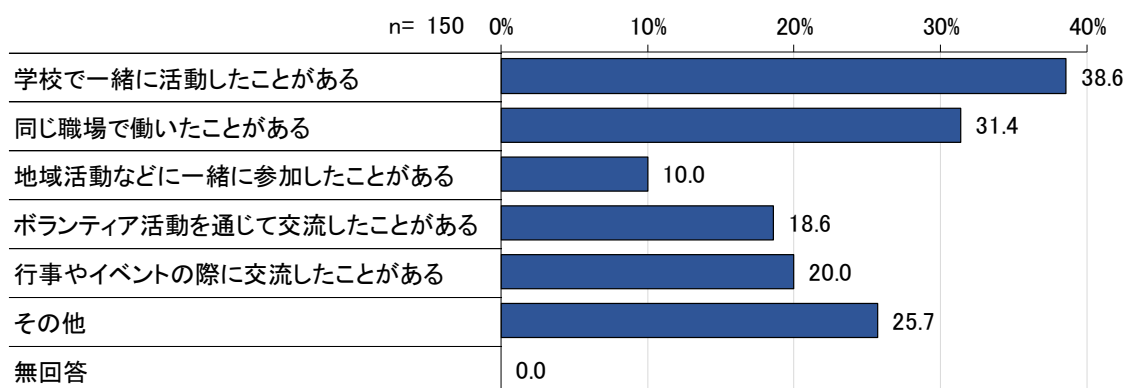


(4)障害者との交流の種類

問7 これまでにどのような交流の機会がありましたか

(○はいくつでも)

これまでに障害のある方と交流した機会としては、「学校で一緒に活動したことがある」が38.6%で最も多く、次いで「同じ職場で働いたことがある」(31.4%)、「行事やイベントの際に交流したことがある」(20.0%)と続いています。

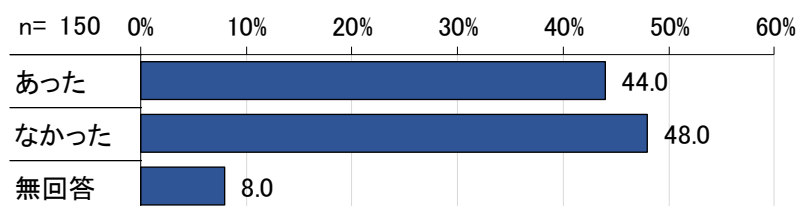


(5)障害者への手伝い・支援の経験

問8 これまでに1回でも、障害のある方に何らかのお手伝いや支援をしたことがありましたか

(○はひとつだけ)

これまでに障害のある方に何らかの手伝いや支援をしたことが「あった」と回答した方は44.0%、「なかった」と回答した方は48.0%とそれぞれ4割台となっています。

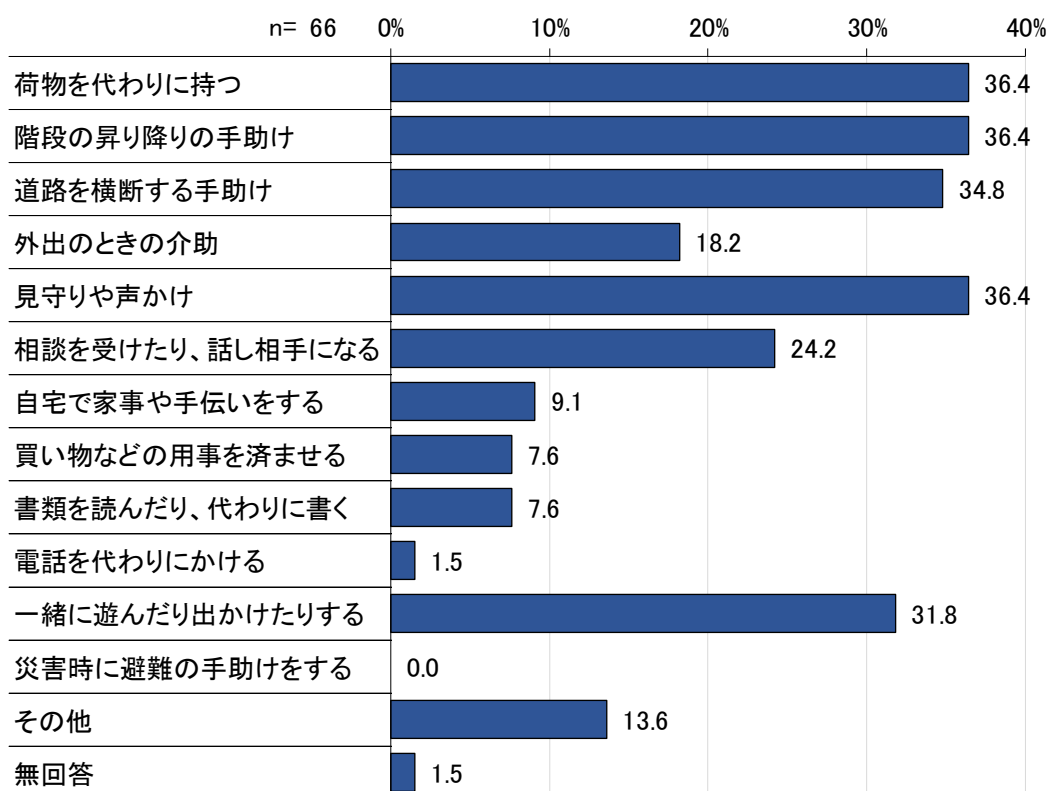


(6)障害者への手伝い・支援の種類

問9 どのようなお手伝いや支援を行いましたか

(○はいくつでも)

これまでにどのような手伝いや支援を行ったかを聞いたところ、「荷物を代わりに持つ」「階段の昇り降りの手助け」「見守りや声かけ」が各36.4%で最も多く、次いで「道路を横断する手助け」(34.8%)、「一緒に遊んだり出かけたりする」(31.8%)と続いています。

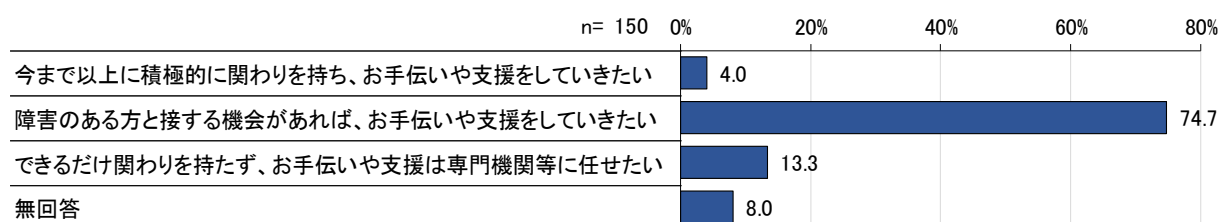


(7) 今後の障害者支援の意向について

問 10 あなたは、今後、障害のある方に対して、積極的にお手伝いや支援をしていきたいと思いますか

(○はひとつだけ)

今後、障害のある方に対しては、74.7%の方が「障害のある方と接する機会があれば、お手伝いや支援をしていきたい」と回答しています。その一方で「できるだけ関わりを持たず、お手伝いや支援は専門機関等に任せたい」と回答した方は 13.3%となっています。

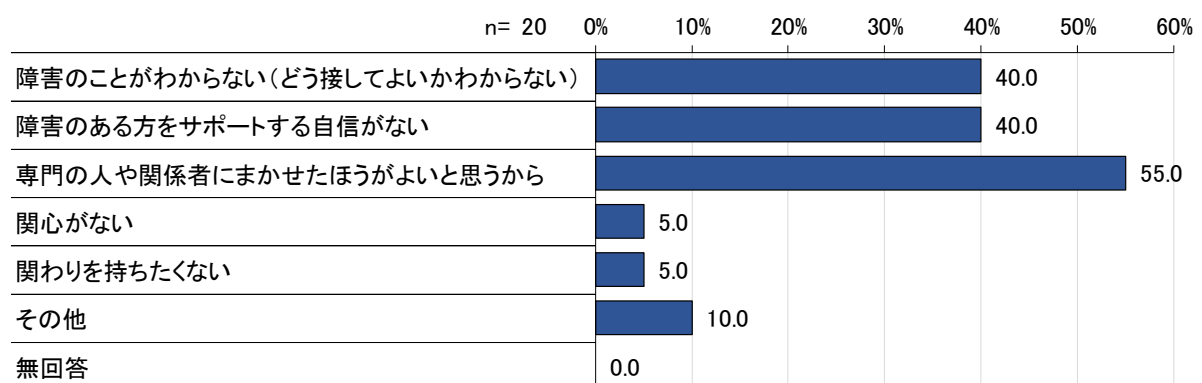


(8) 障害者支援に積極的になれない理由

問 11 障害のある方への支援に積極的になれない理由はどのようなことですか

(○はいくつでも)

障害のある方への支援に積極的になれない理由としては、「専門の人や関係者にまかせたほうがよいと思う」(55.0%)、「障害のことがわからない」「障害のある方をサポートする自信がない」(各 40.0%)の回答の割合が高くなっています。



(9)障害者支援に関心がない理由

問 11 障害のある方への支援に関心がない理由はどのようなことですか

(自由記述)

回答数…1件

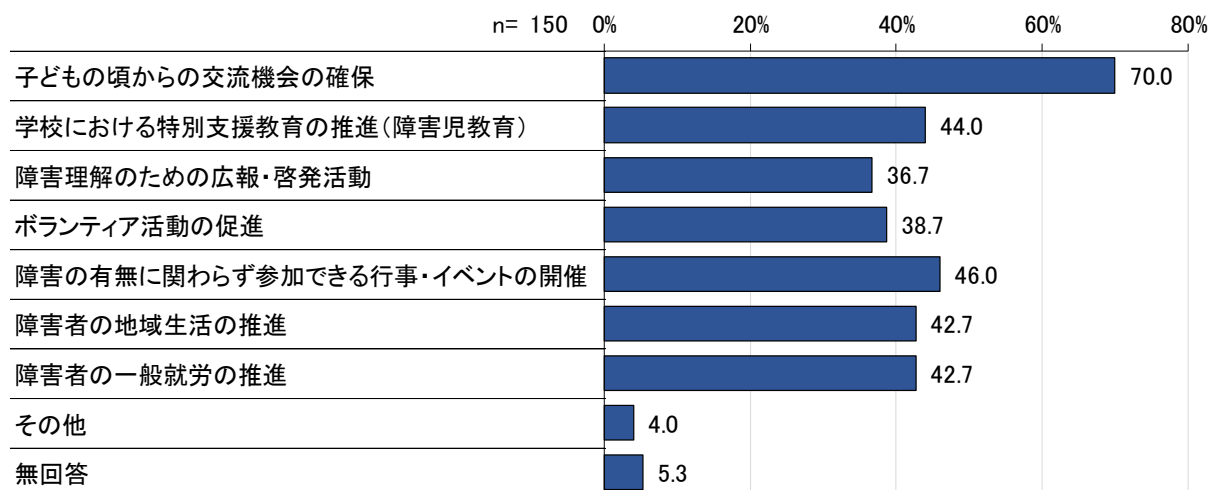
・介護の世話にならず今のところ一人でやっています。「障害者の世話をする余力がない」が全てです。

(10)相互の理解・交流の促進のために大切なこと

問 13 今後、障害のある方とない方が互いに理解を深め、交流を図り、地域共生社会を実現するためにどのようなことが大切だと思いますか

(〇はいくつでも)

今後、障害のある方とない方が相互理解を深め、交流を図り、地域共生社会を実現するにはどんなことが大切と思うかについては、「子どもの頃からの交流機会の確保」と回答した方が70.0%で最も多く、次いで「障害の有無に関わらず参加できる行事・イベントの開催」(46.0%)、「学校における特別支援教育の推進」(44.0%)、「障害者の地域生活の推進」「障害者の一般就労の推進」(各 42.7%)となっています。



3 ボランティア活動について

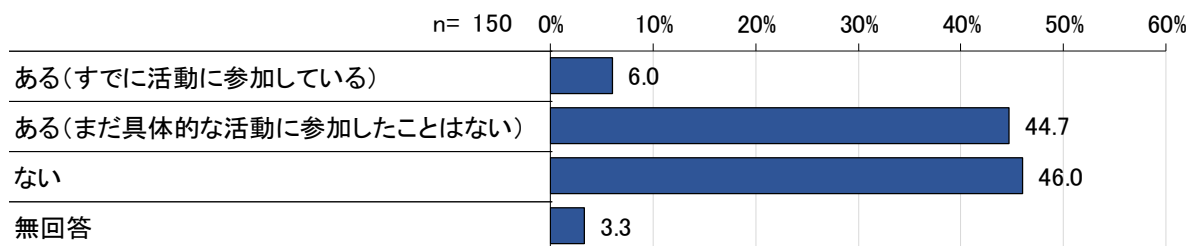
(1) 障害者に関わるボランティア活動への関心

問 14 障害のある方に関わるボランティア活動に関心はありますか

(○はひとつだけ)

障害のある方に関わるボランティア活動への関心については、すでに活動に参加している方、まだ参加されていない方を合計した“関心がある”は 50.7%となっています。

関心がある層が半数を占める一方で、46.0%の方が「ない」と回答しています。

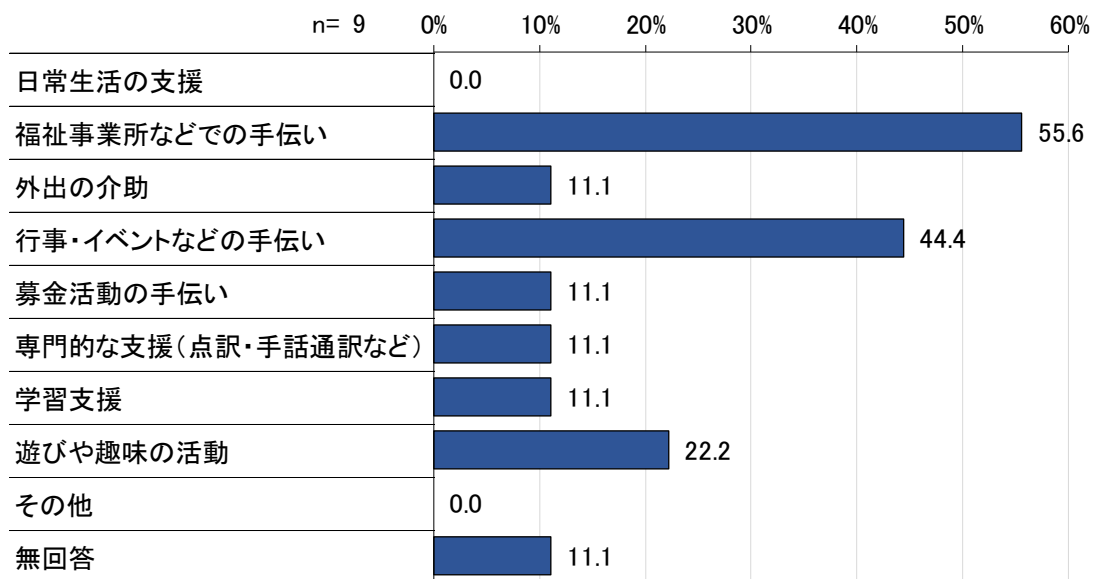


(2) これまでに参加したことの活動

問 15 これまでに参加したことがある活動はどのようなことですか

(○はいくつでも)

これまでに参加したことがある活動は、「福祉事業所などの手伝い」が 55.6%、「行事・イベントなどの手伝い」が 44.4%、「遊びや趣味の活動」が 22.2%となっています。

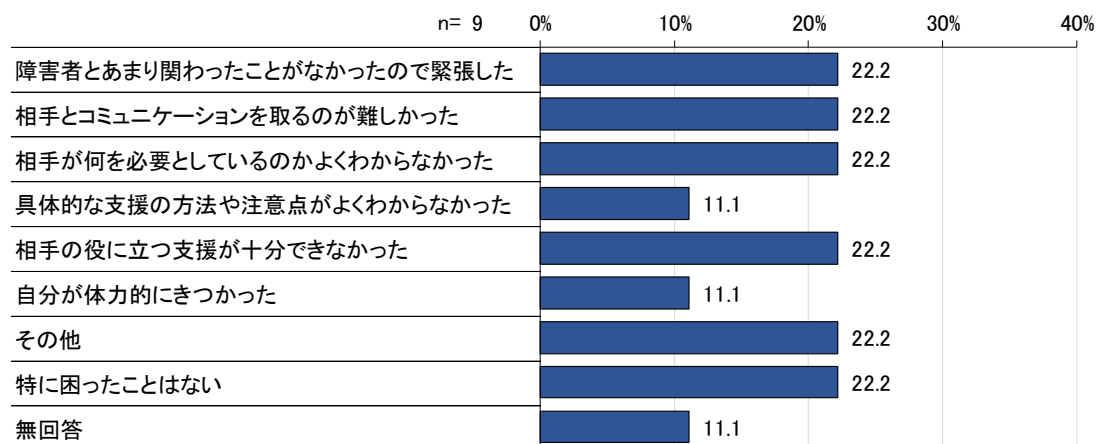


(3) ボランティア活動に参加してみて困ったこと

問 16 実際にボランティア活動に参加してみて、困ったことはありましたか

(○はいくつでも)

ボランティアに参加してみて困ったことについては、それぞれ 22.2%の方が「障害者とあまり関わったことがなかったので緊張した」「相手とコミュニケーションを取るのが難しかった」「相手が何を必要としているのかよくわからなかった」「相手の役に立つ支援が十分できなかった」と回答しています。

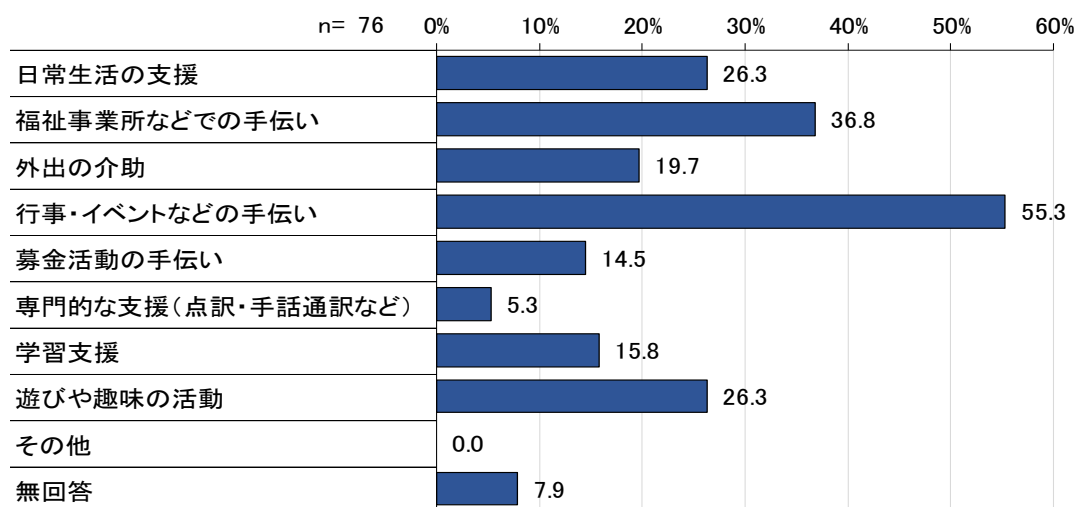


(4) 今後のボランティア活動への参加意向

問 17 すでに参加している活動も含め、今後、どのようなボランティア活動に参加したいと思いますか

(○はいくつでも)

今後ボランティア活動への参加意向については、「行事・イベントなどの手伝い」が 55.3%で最も多く、次いで「福祉事業所などの手伝い」(36.8%)となっています。

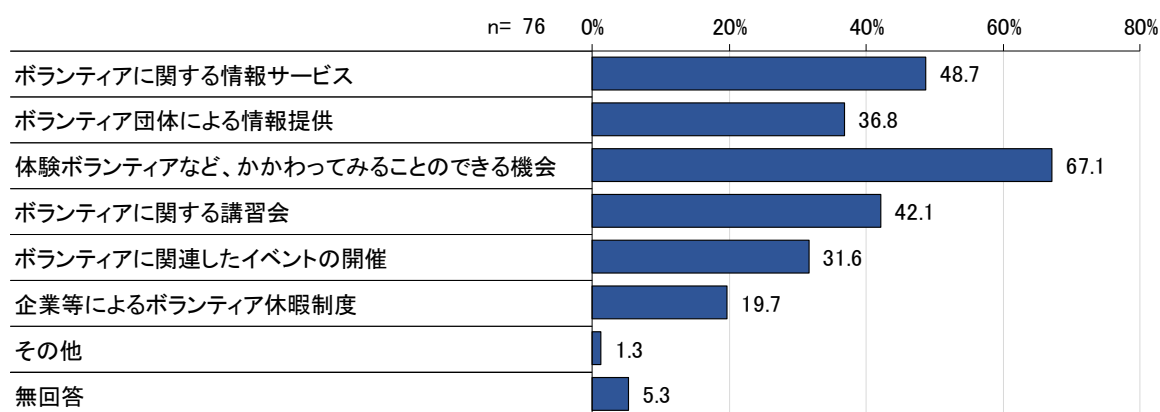


(5) ボランティア活動に参加するために必要なこと

問 18 ボランティア活動に参加するために必要と思えることは何ですか

(○はいくつでも)

ボランティア活動に参加するために必要なこととしては、「体験ボランティアなど、かかわってみることのできる機会」が 67.1%と最も多く、次いで「ボランティア活動に関する情報サービス」(48.7%)、「ボランティアに関する講習会」(42.1%)、「ボランティア団体による情報提供」(36.8%)と続いています。

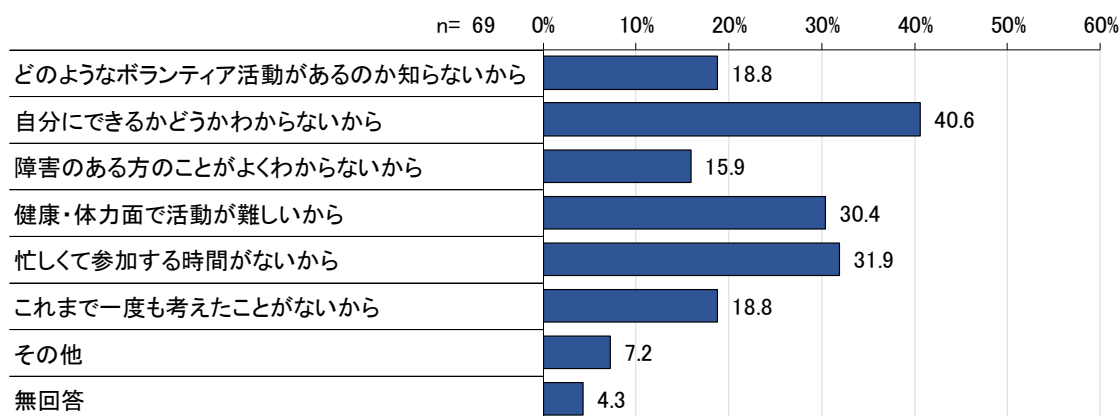


(6) 障害者に関わるボランティア活動への関心がない理由

問 19 障害のある方に関わるボランティア活動に関心がない理由はどのようなことですか

(○はいくつでも)

障害のある方に関わるボランティア活動に関心がない理由としては、「自分にできるかどうかわからないから」と回答した方が 40.6%で最も多く、次いで「忙しくて参加する時間がないから」が 31.9%、「健康・体力面で活動が難しいから」が 30.4%と続いています。



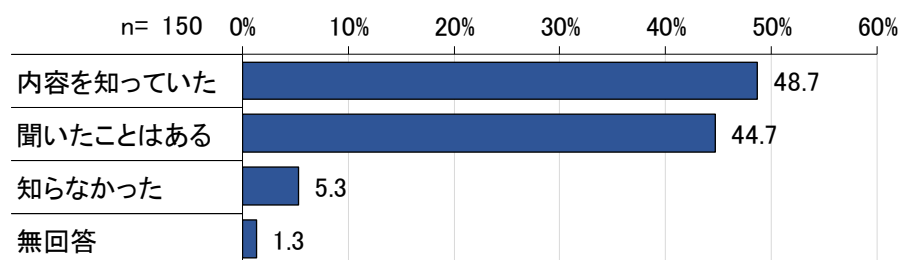
4 障害児の教育について

(1) 発達障害の認知状況

問 20-① 障害児教育に関わる次のような言葉を知っていましたか ①発達障害

(○はひとつだけ)

障害児教育に関わる言葉の周知状況をみると、①発達障害については「内容を知っていた」と回答した方が 48.7%、「聞いたことはある」とした方が 44.7%となっています。

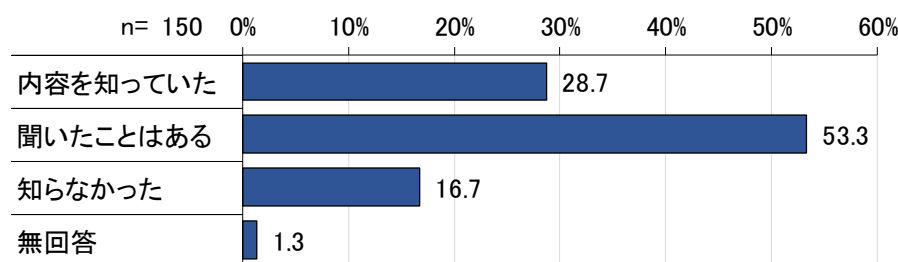


(2) 特別支援教育の認知状況

問 20-② 障害児教育に関わる次のような言葉を知っていましたか ②特別支援教育

(○はひとつだけ)

障害児教育に関する言葉の周知状況をみると、②特別支援教育については「聞いたことはある」と回答した方が 53.3%と最も多く、「内容を知っていた」と回答した方は 28.7%となっています。

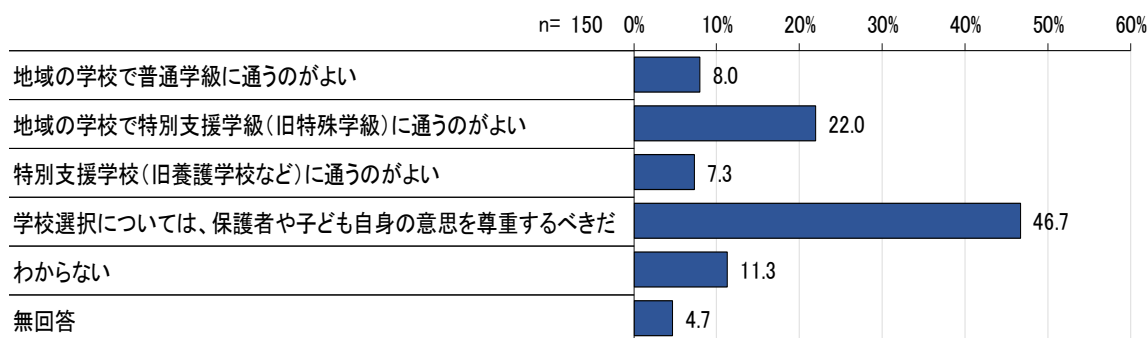


(3)障害児の学びの場について

問 21 障害のある子どもの学びの場についてどのように思いますか

(○はひとつだけ)

障害の学びの場については、「学校選択については、保護者や子ども自身の意思を尊重すべきだ」と回答した方が 46.7%と最も高く、次いで「地域の学校で特別支援学級に通うのが良い」(22.0%)、「地域の学校で普通学級に通うのが良い」(8.0%)と続いています。

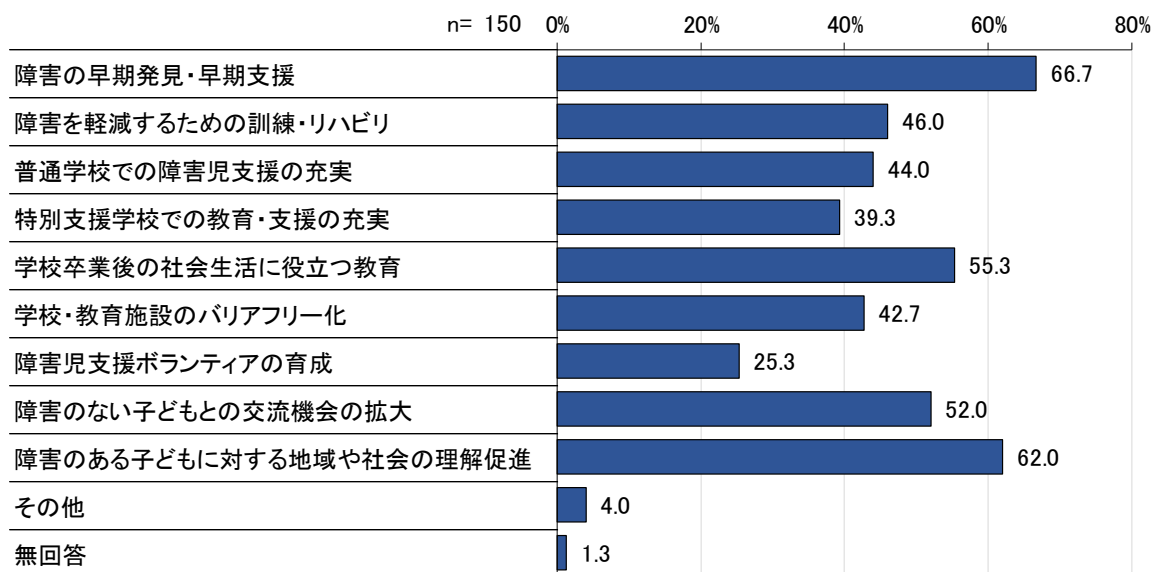


(4)障害児の健全な育成のために必要な取り組み

問 22 障害のある子どもの健全な育成のために、今後どのような取り組みが必要だと思いますか

(○はいくつでも)

障害児の健全な育成のために必要な取り組みについては、「障害の早期発見・早期支援」が 66.7%と最も多く、次いで「障害のある子どもに対する地域や社会の理解促進」(62.0%)、「学校卒業後の社会生活に役立つ教育」(55.3%)、「障害のない子どもとの交流機会の拡大」(52.0%)と続いています。



5 障害者の就労について

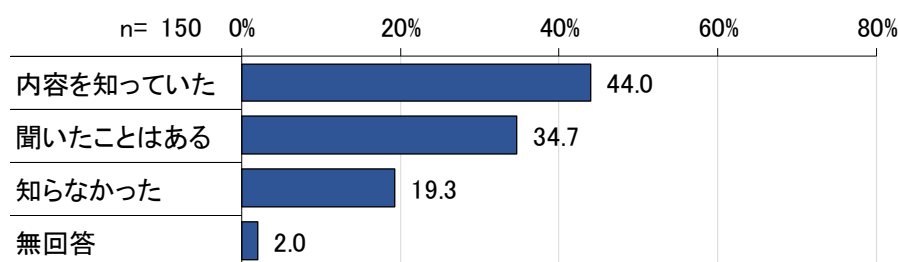
(1) 法定雇用率の認知状況

問 23-① 障害者の就労に関わる次のような言葉を知っていましたか

① 法定雇用率

(○はひとつだけ)

障害者就労に関わる言葉の周知状況をみると、①法定雇用率については「内容を知っていた」と回答した方が 44.0%と最も多く、次いで「聞いたことはある」(34.7%)、「知らなかった」(19.3%)と続いています。



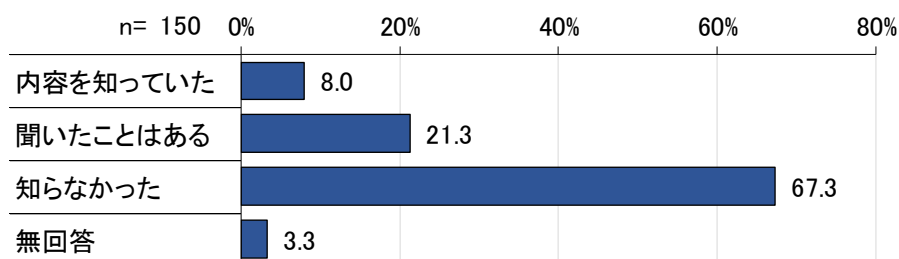
(2) ジョブコーチの認知状況

問 23-② 障害者の就労に関わる次のような言葉を知っていましたか

② ジョブコーチ (職場適応援助者)

(○はひとつだけ)

障害者就労に関わる言葉の周知状況をみると、②ジョブコーチ(職場適応援助者)については、「内容を知っていた」と回答した方は 8.0%に留まり、「知らなかった」は 67.3%となっています。

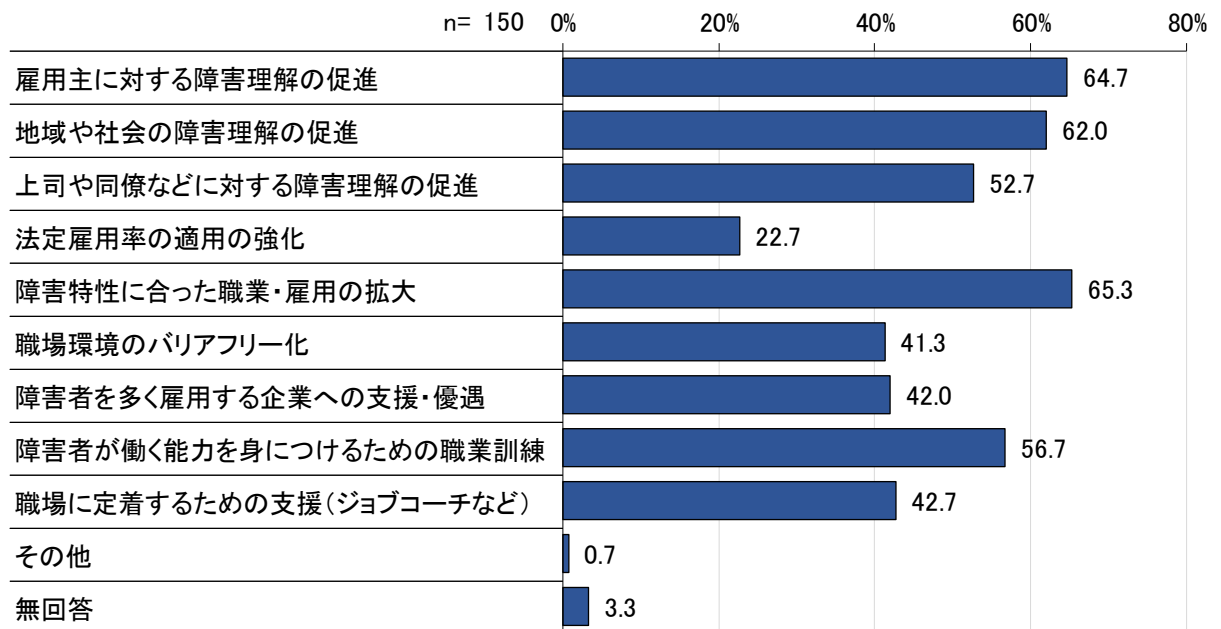


(3)障害者の企業等での就労のために必要な取り組み

問 24 より多くの障害者が企業などで働くために、今後どのような取り組みが必要だと思いますか

(〇はいくつでも)

より多くの障害者が企業などで働くために、今後必要と思う取り組みについては、「障害特性に合った職業・雇用の拡大」と回答した方が 65.3%と最も多く、次いで「雇用主に対する障害理解の促進」(64.7%)、「地域や社会の障害理解の促進」(62.0%)、「障害者が働く能力を身につけるための職業訓練」(56.7%)、「上司や同僚などに対する障害理解の促進」(52.7%)と続いています。



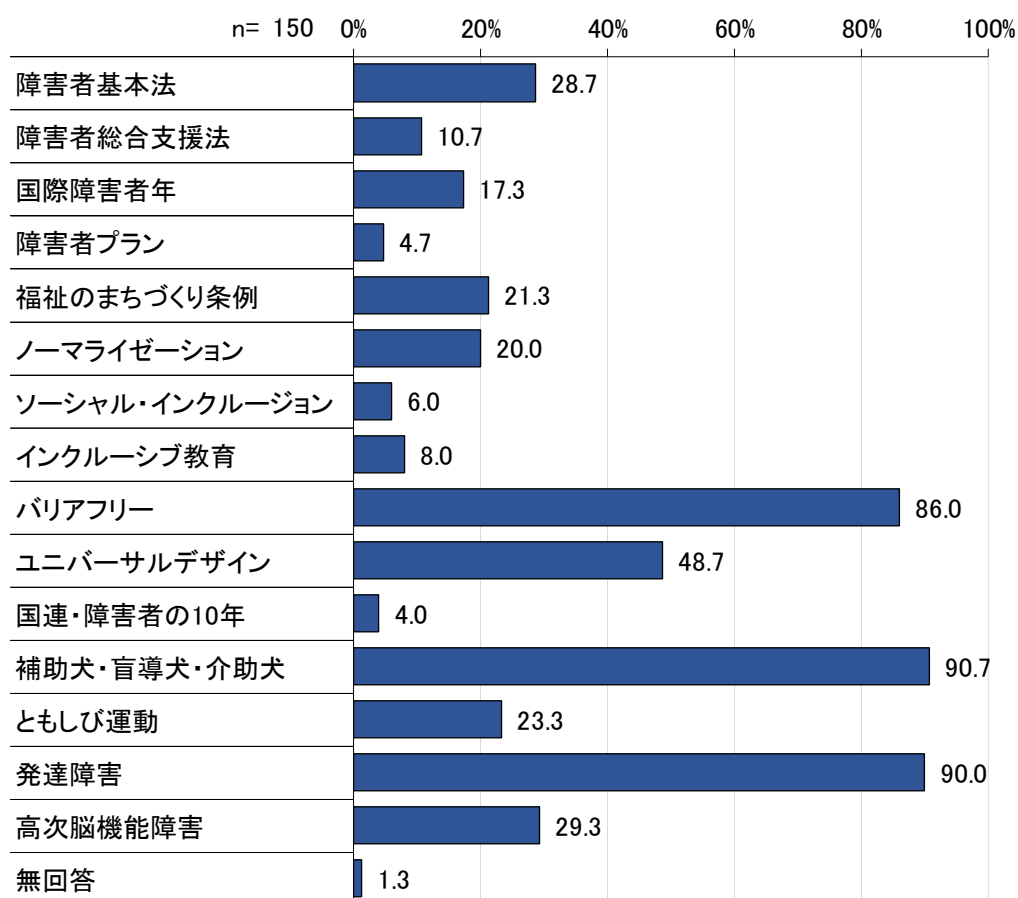
6 障害福祉に対する意識について

(1) 障害福祉に関わる言葉の認知状況

問 25 障害福祉に関わる次のような言葉を知っていましたか

(○はいくつでも)

障害福祉に関わる言葉の認知状況については、「補助犬・盲導犬・介助犬」と回答した方が90.7%で最も高く、次いで「発達障害」が90.0%、「バリアフリー」が86.0%、となっています。

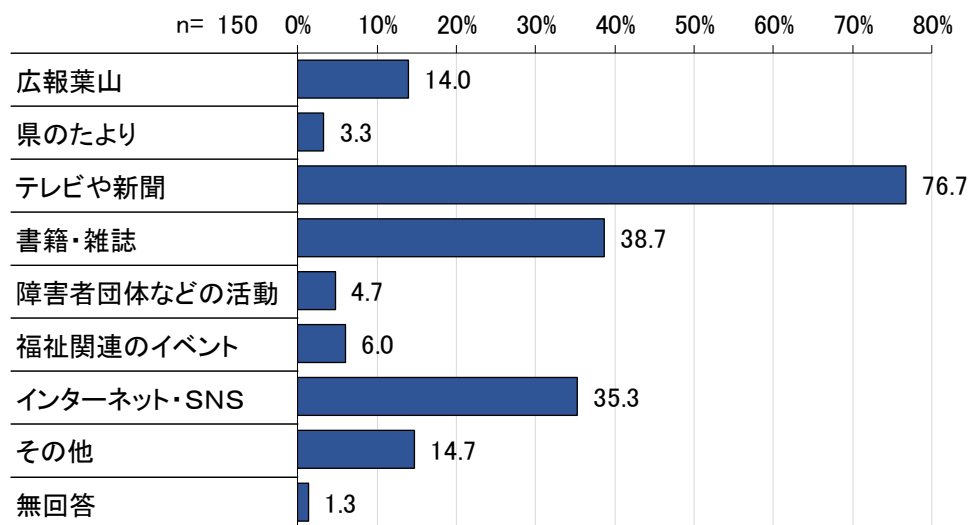


(2)障害福祉に関わる言葉を知った媒体

問 26 何を通じてその言葉を知ったり、聞いたりしましたか

(○はいくつでも)

障害福祉に関わる言葉を知ったり、聞いたのは、「テレビや新聞」が76.7%で最も多く、次いで「書籍・雑誌」(38.7%)、「インターネット・SNS」(35.3%)、「広報葉山」(14.0%)と続いています。

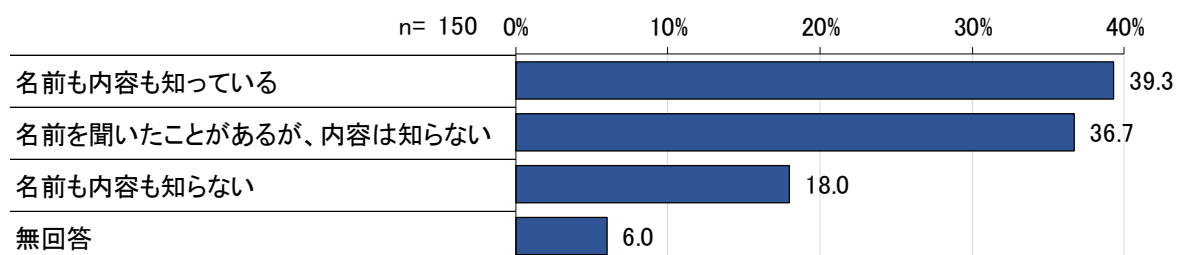


(3)成年後見制度の認知状況

問 27 成年後見制度についてご存じですか

(○はひとつだけ)

成年後見制度の認知状況については、「名前も内容も知っている」と回答した方が39.3%と最も多くなっています。「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」(36.7%)と「名前も内容も知らない」(18.0%)を合わせた“内容を知らない”は54.7%となり、「知っている」を上回る結果となっています。

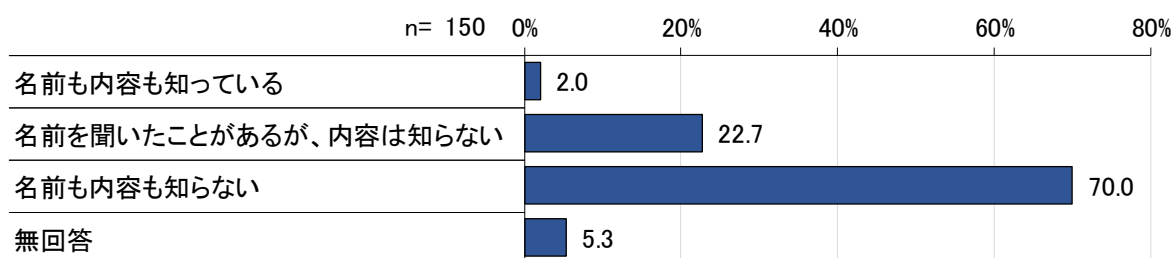


(4) 障害者差別解消法の認知状況

問 28 あなたは「障害者差別解消法」についてご存じですか

(○はひとつだけ)

障害者差別解消法の認知状況については、「名前も内容も知っている」と回答した方が 2.0% となっています。「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」(22.7%)と「名前も内容も知らない」(70.0%)を合わせた9割以上の方が“知らない”という結果となっています。

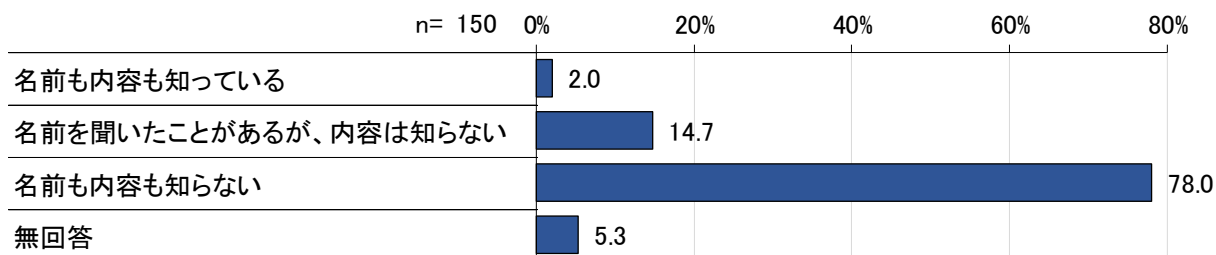


(5) 合理的配慮の認知状況

問 29 あなたは障害者差別解消法で求められる「合理的配慮」についてご存じですか

(○はひとつだけ)

前問の法律で求められる「合理的配慮」の認知状況については、「名前も内容も知っている」と回答した方は 2.0% となっています。「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」(14.7%)、「名前も内容も知らない」(78.0%)と、障害者差別解消法の認知状況と同様の割合となっています。



(6)障害を理由とした差別について

問 30-① 周囲には、障害を理由とした差別があると思いますか

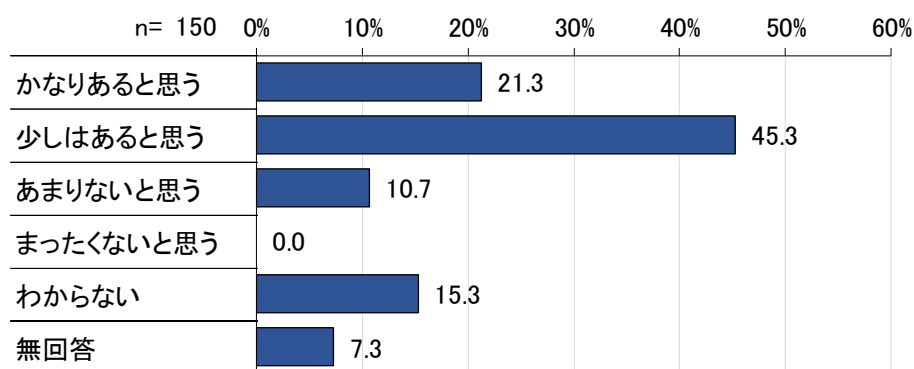
(○は各項目ひとつだけ)

周囲に障害が理由の差別があると思うかについて、①教育・保育機関や②職場では差別が「かなりあると思う」との回答が2割を超え、「少しはあると思う」との回答を合わせると、6割以上の方が“あると思う”と回答しています。

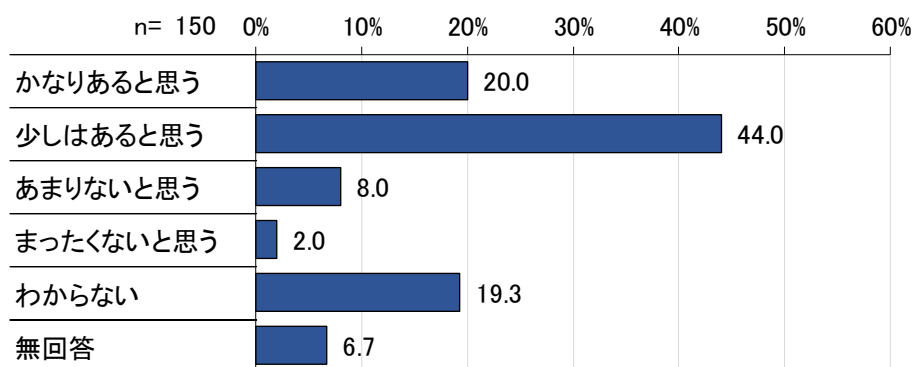
その他“あると思う”と回答した方は、③地域社会は48.6%、④サークル活動・⑤葉山町全体は各36.7%、となっています。

一方で、③～⑤では、「あまりないと思う」と回答された方も2割を超えています。

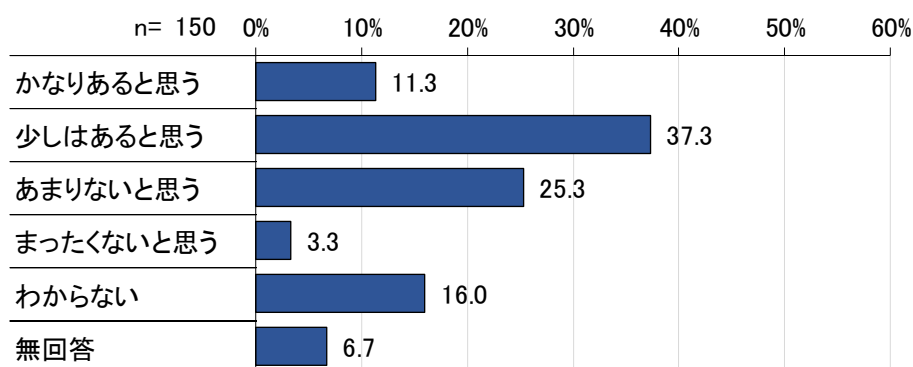
①教育・保育機関での差別



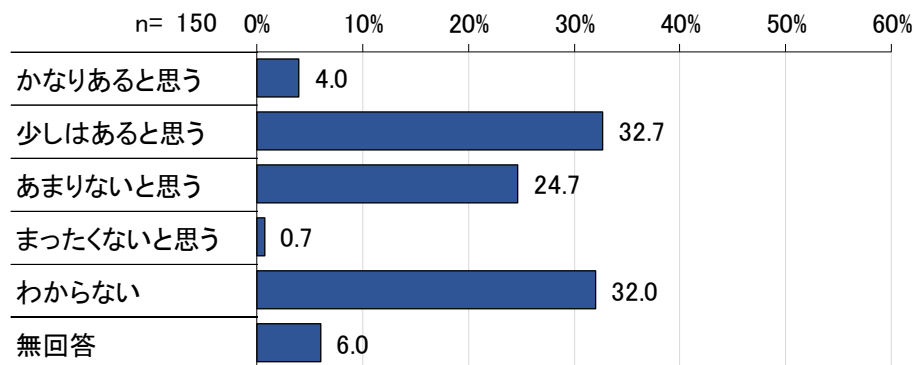
②職場での差別



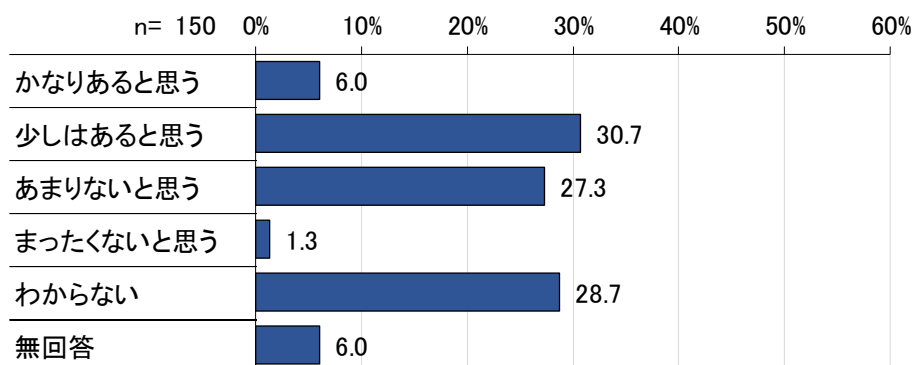
③地域社会での差別



④サークル活動での差別



⑤葉山町全域での差別



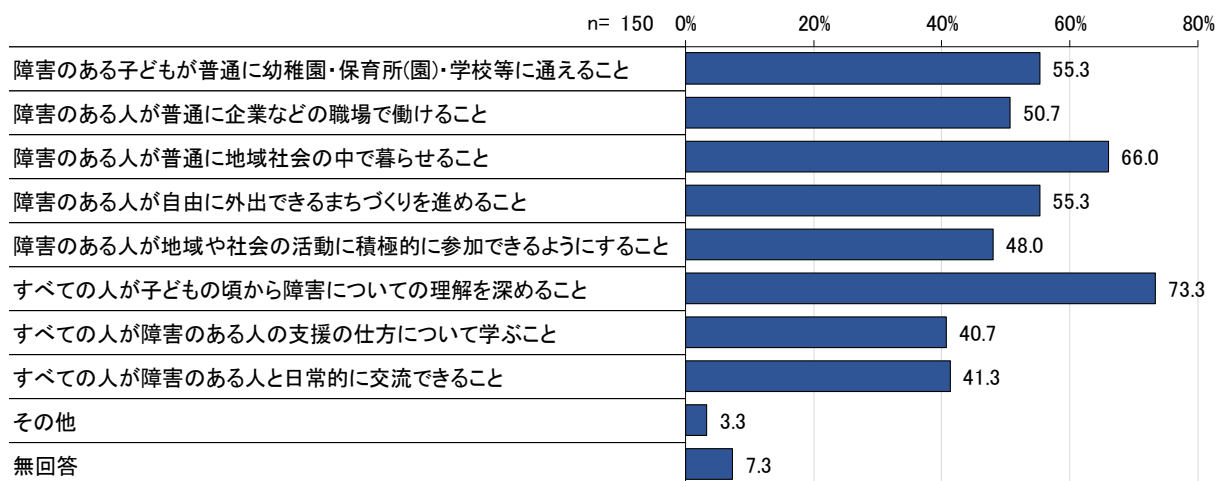
(7)ともに同じ社会で活動していくために大切なこと

問 31 今後、より一層、障害に対する理解を深め、障害の有無にかかわらずともに同じ社会の中で活動していくためには、どのようなことが大切だと思いますか

(〇はいくつでも)

障害に対する理解をより一層深め、ともに同じ社会で活動するために大切だと思うことについては、「すべての人が子どもの頃から障害についての理解を深めること」と回答した方が 73.3%で最も多くなっています。

次いで「障害のある人が普通に地域社会の中で暮らせること」(66.0%)、「障害のある子どもが普通に幼稚園・保育所(園)・学校等に通えること」「障害のある人が自由に外出できること」(各 55.3%)、「障害のある人が普通に企業などの職場で働けること」(50.7%)と続いています。「その他」を除くすべての項目で4割を超える回答が寄せられています。



7 葉山町の障害者施策について

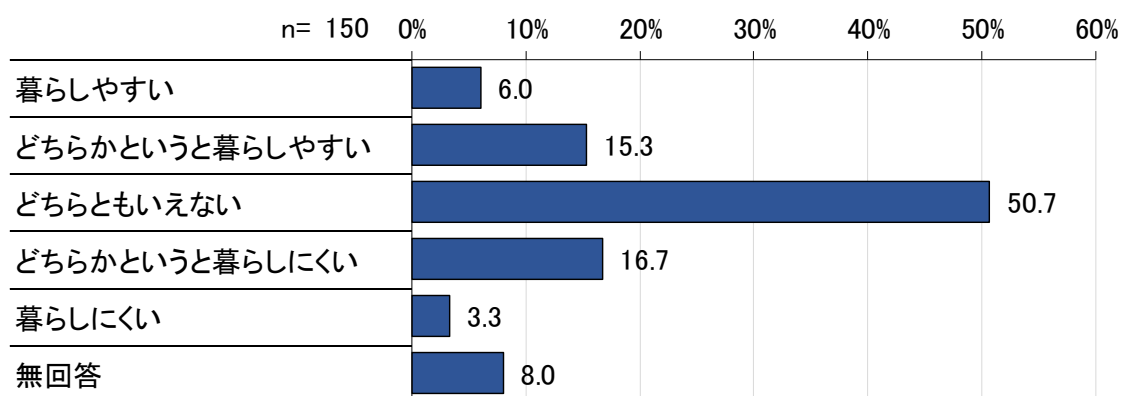
(1) 総合的にみて、障害者が暮らしやすいと思うか

問 32 総合的にみて、現在の葉山町は障害のある方にとって暮らしやすいまち
だと思われますか

(○はひとつだけ)

総合的に、現在の葉山町は障害者の方にとって暮らしやすいと思うかについては、「どちらともいえない」と回答した方が 50.7%と半数を占め、「暮らしやすい」と「どちらかという暮らしやすい」を合わせた“暮らしやすい”と回答した方は 21.3%となっています。

一方で「どちらかという暮らしにくい」と「暮らしにくい」を合わせた“暮らしにくい”と回答した方は 20.0%で、“暮らしにくい”と“暮らしやすい”がほぼ同じ割合となっています。



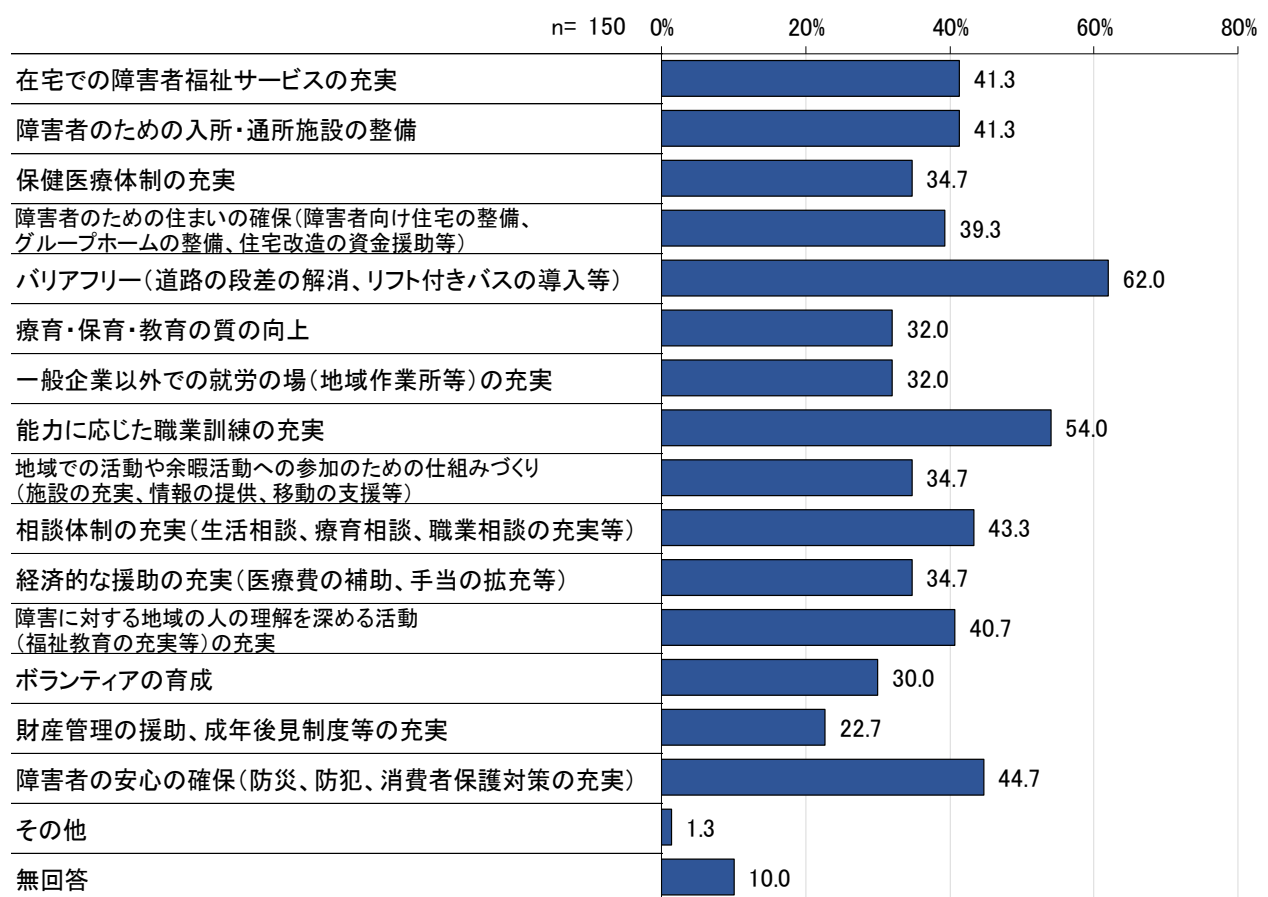
(2)障害者施策の充実のために重要な取り組み

問 33 今後、障害者施策の充実を図る上で、重要と思われる取り組みはどのようなことだと思いますか

(〇はいくつでも)

障害者施策の充実のために重要と思う取り組みについては、「バリアフリー」と回答した方が62.0%で最も多く、次いで「能力に応じた職業訓練の充実」が54.0%、「障害者の安心の確保」(44.7%)、「在宅での障害福祉サービスの充実」「障害者のための入所・通所施設の整備」(各41.3%)と続いています。

「財産管理の援助、成年後見制度等の充実」(22.7%)を除くすべての項目で、3割を超える回答が寄せられています。



IV 事業所調査結果

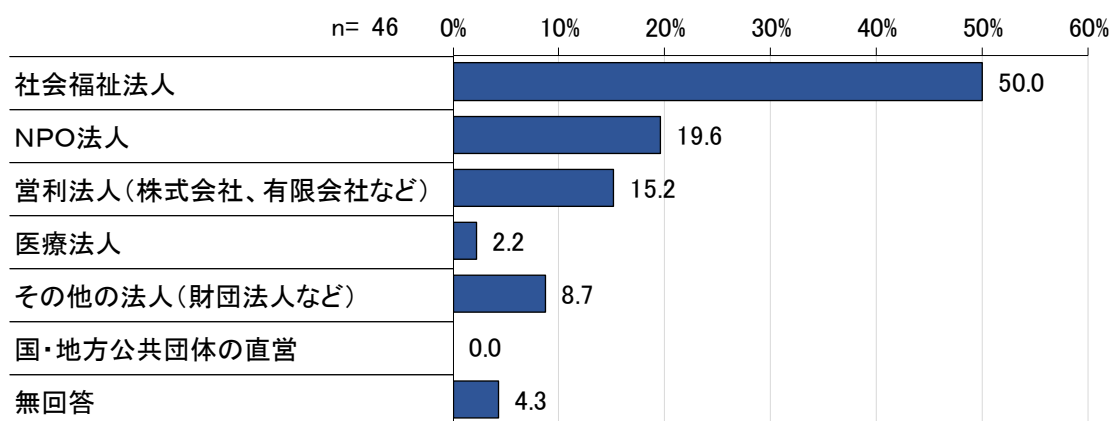
1 事業所の運営状況について

(1) 事業所の種別

問 1 貴法人は、次のうちどれですか

(○はひとつだけ)

法人の種別については、「社会福祉法人」が 50.0%と最も多く、次いで「NPO法人」(19.6%)、「営利法人」(15.2%)となっています。

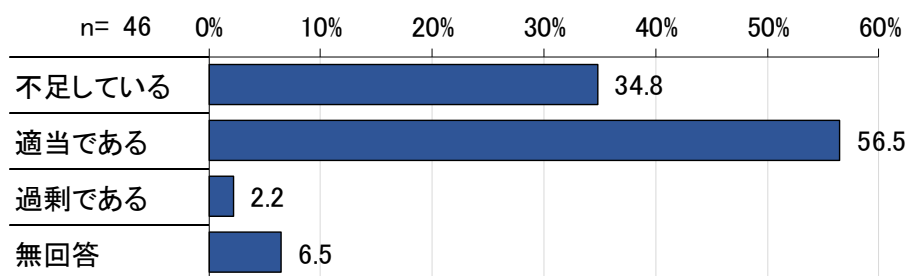


(2) 職員の過不足

問 4 現在の職員の過不足は、次のうちどれですか

(○はひとつだけ)

現在の職員の過不足については、「適当である」との回答が 56.5%と最も多く、「不足している」が 34.8%、「過剰である」は 2.2%にとどまっています。

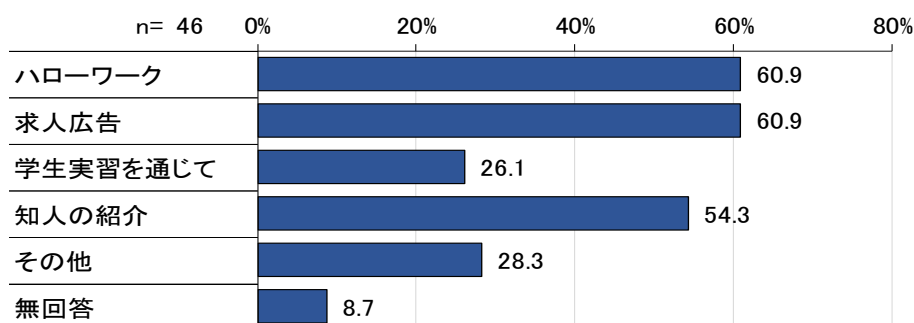


(3) 職員の採用

問 4-2 職員の採用はどのようにしていますか

(○はいくつでも)

職員の採用方法については、「ハローワーク」「求人広告」(各 60.9%)が高い割合を占めています。次いで「知人の紹介」(54.3%)、「学生実習を通じて」(26.1%)、「その他」(28.3%)と続いています。

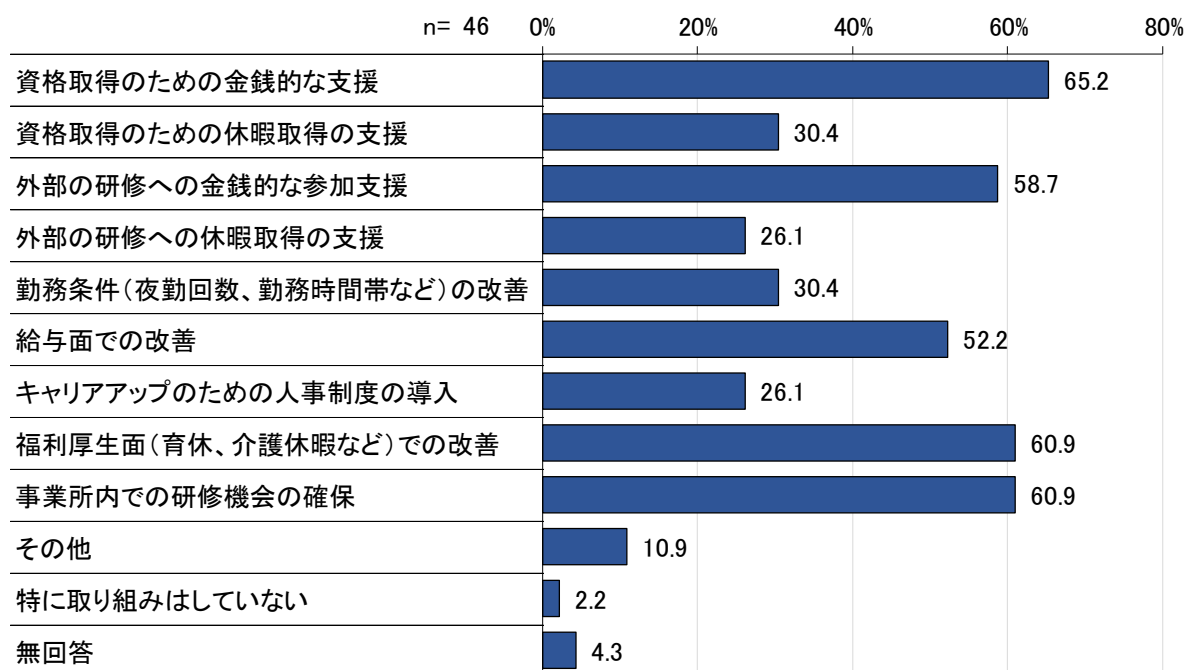


(4) 職員定着のための取り組み

問 5 職員定着のために行っている取り組みは何ですか

(○はひとつだけ)

職員定着のための取り組みについては、「資格取得のための金銭的な支援」が 65.2%と最も高く、「福利厚生面での改善」「事業所内での研修機会の確保」(各 60.9%)、「外部の研修への金銭的な参加支援」(58.7%)、「給与面での改善」(52.2%)と続いています。

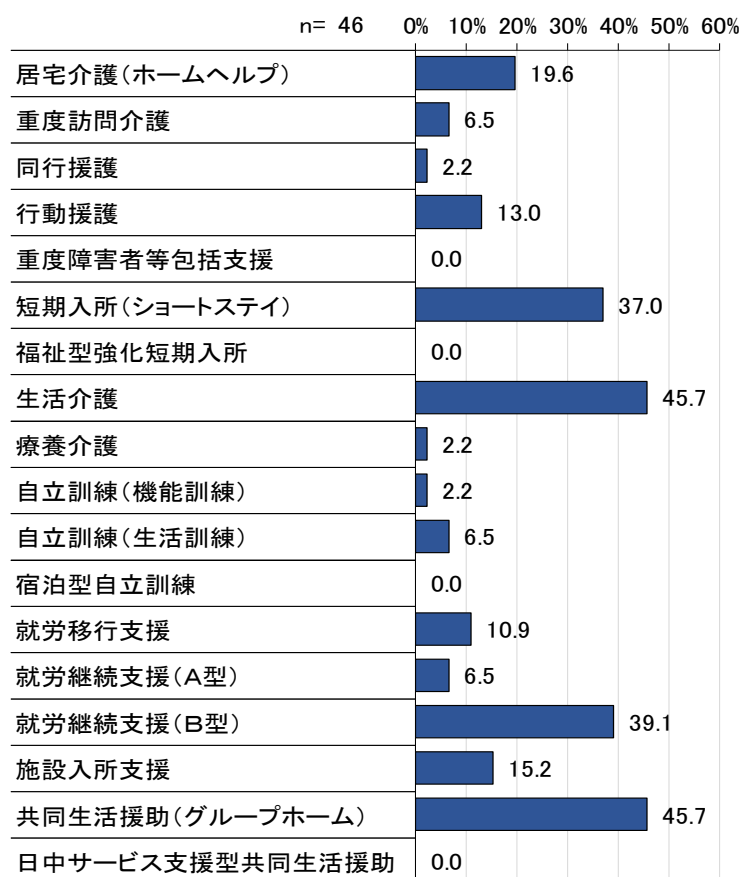


(5) 提供しているサービス内容と新規利用者の受け入れ

問6 現在、貴法人が提供しているサービスについて

(〇はいくつでも)

提供しているサービス内容については、「生活介護」「共同生活援助(グループホーム)」「(各45.7%)が最も多く、次いで「就労継続支援(B型)」「(39.1%)」「短期入所(ショートステイ)」「(37.0%)」「居宅介護(ホームヘルプ)」「(19.6%)、と続いています。



問6-① 新規利用者の受入について

(〇は各項目ひとつだけ)

新規利用者の受入については、1.居宅介護・4.行動援護・19.地域活動支援センター・20.移動支援では「可能」「状況によって可能」との回答が寄せられ、相談の余地が見うけられるのに対し、6.短期入所・8.生活介護・16.施設入所支援・17.共同生活援助・21.日中一時支援・22.特定相談支援(計画相談)・23.地域移行支援・24.地域定着支援などでは、全体に対して大きな割合で「不可能」との回答が多くなっています。

	提供している	利用者の受け入れ (件数)			
		可能	状況によって可能	不可能	無回答
1 居宅介護（ホームヘルプ）	9	0	9	0	0
2 重度訪問介護	3	0	3	0	0
3 同行援護	1	0	1	0	0
4 行動援護	6	2	4	0	0
5 重度障害者等包括支援	0	0	0	0	0
6 短期入所（ショートステイ）	17	4	8	4	1
7 福祉型強化短期入所	0	0	0	0	0
8 生活介護	21	3	11	6	1
9 療養介護	1	1	0	0	0
10 自立訓練（機能訓練）	1	1	0	0	0
11 自立訓練（生活訓練）	3	1	0	1	1
12 宿泊型自立訓練	0	0	0	0	0
13 就労移行支援	5	3	1	0	1
14 就労継続支援（A型）	3	1	1	1	0
15 就労継続支援（B型）	18	7	10	0	1
16 施設入所支援	7	0	2	4	1
17 共同生活援助（グループホーム）	21	2	5	13	1
18 日中サービス支援型共同生活援助	0	0	0	0	0
19 地域活動支援センター	10	5	5	0	0
20 移動支援	10	0	10	0	0
21 日中一時支援	15	1	8	5	1
22 特定相談支援（計画相談）	19	4	7	7	1
23 一般相談支援（地域移行支援）	12	3	3	6	0
24 一般相談支援（地域定着支援）	12	2	3	7	0
25 児童発達支援	3	2	1	0	0
26 医療型児童発達支援	0	0	0	0	0
27 放課後等デイサービス	9	4	1	1	3
28 保育所等訪問支援	0	0	0	0	0
29 福祉型障害児入所施設	1	0	1	0	0
30 医療型障害児入所施設	1	0	1	0	0
31 障害児相談支援	10	1	7	1	1
32 就労定着支援	6	2	2	2	0
33 自立生活援助	0	0	0	0	0
34 居宅訪問型児童発達支援	0	0	0	0	0
35 共生型サービス	0	0	0	0	0

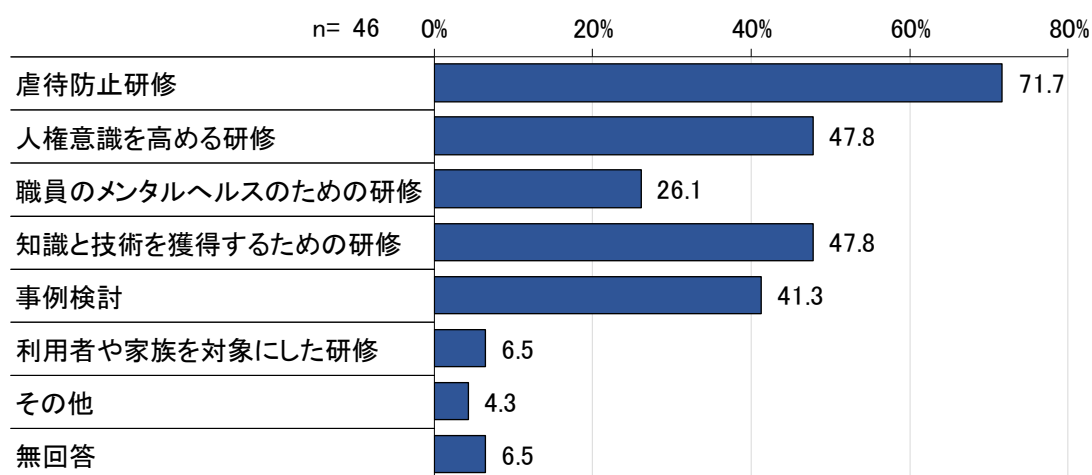
(6) 虐待防止のための、職員研修についての取り組み

問7 障害児者への虐待防止のため、職員の研修について、どのようなことに取り組んでいますか

(〇はいくつでも)

虐待防止のための、職員研修への取り組みについては、「虐待防止研修」が71.7%と最も高く、次いで「人権意識を高める研修」「知識と技術を獲得するための研修」(各47.8%)、「事例検討」(41.3%)となっています。

一方「職員のメンタルヘルスのための研修」は3割を下回り、さらに「利用者や家族を対象にした研修」は1割に満たない回答となりました。

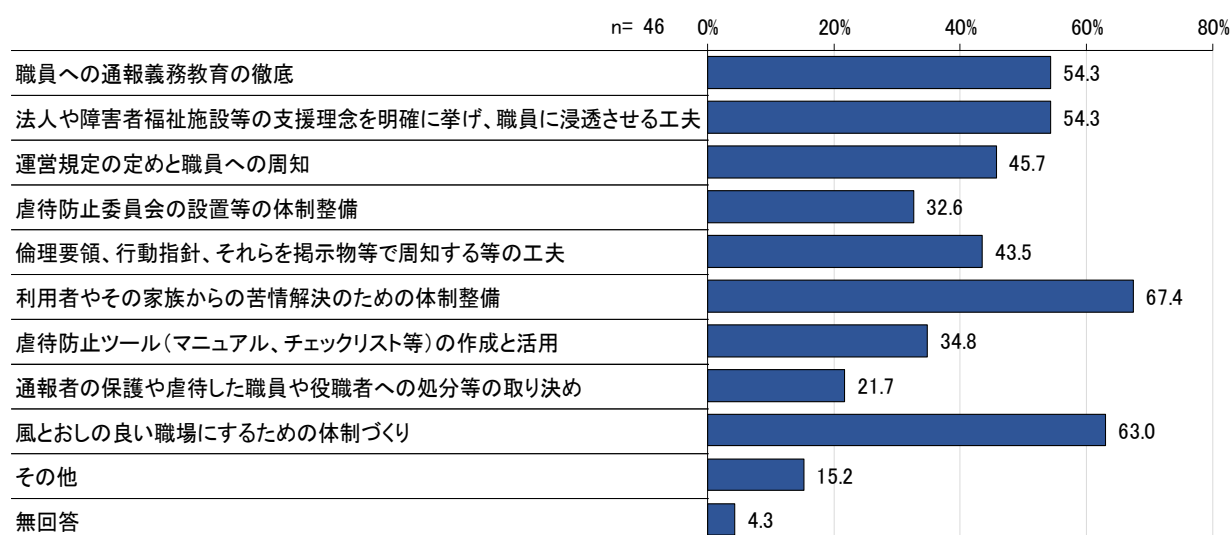


(7) 虐待防止のための、体制づくりへの取り組み

問 8 障害児者への虐待防止のため、どのような体制づくりに取り組んでいますか

(〇はいくつでも)

虐待防止のために取り組んでいる体制づくりについては、「利用者やその家族からの苦情解決のための体制整備」が67.4%と最も高く、次いで「風とおしの良い職場にするための体制づくり」(63.0%)、「職員への通報義務教育の徹底」「法人や障害者福祉施設等の支援理念を明確に挙げ、職員に浸透させる工夫」(各 54.3%)、「運営規定の定めと職員への周知」(45.7%)、「倫理要領、行動指針、それらを掲示物等で周知する等の工夫」(43.5%)、と続いています。



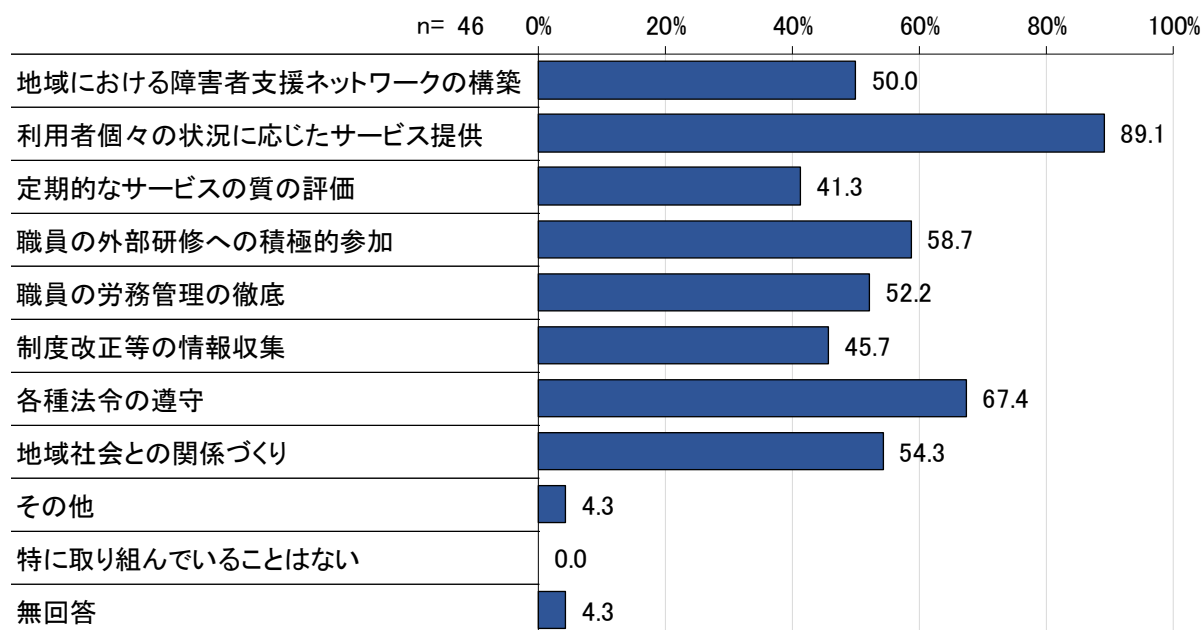
(8)サービスの質の向上・適正な事業運営のための取り組み

問9 提供するサービスの質の向上及び適正な事業運営のため、どのようなことに取り組んでいますか

(〇はいくつでも)

サービスの質の向上、適正な事業運営のための取り組みについては、「利用者個々の状況に応じたサービス提供」が89.1%で最も高く、「各種法令の遵守」(67.4%)、「職員の外部研修への積極的参加」(58.7%)、「地域社会との関係づくり」(54.3%)、「職員の労務管理の徹底」(52.2%)と続いています。

どの項目も4割以上の回答が得られ、「特に取り組んでいることはない」が0%であることから、何らかの取り組みに力を入れていることがうかがえます。



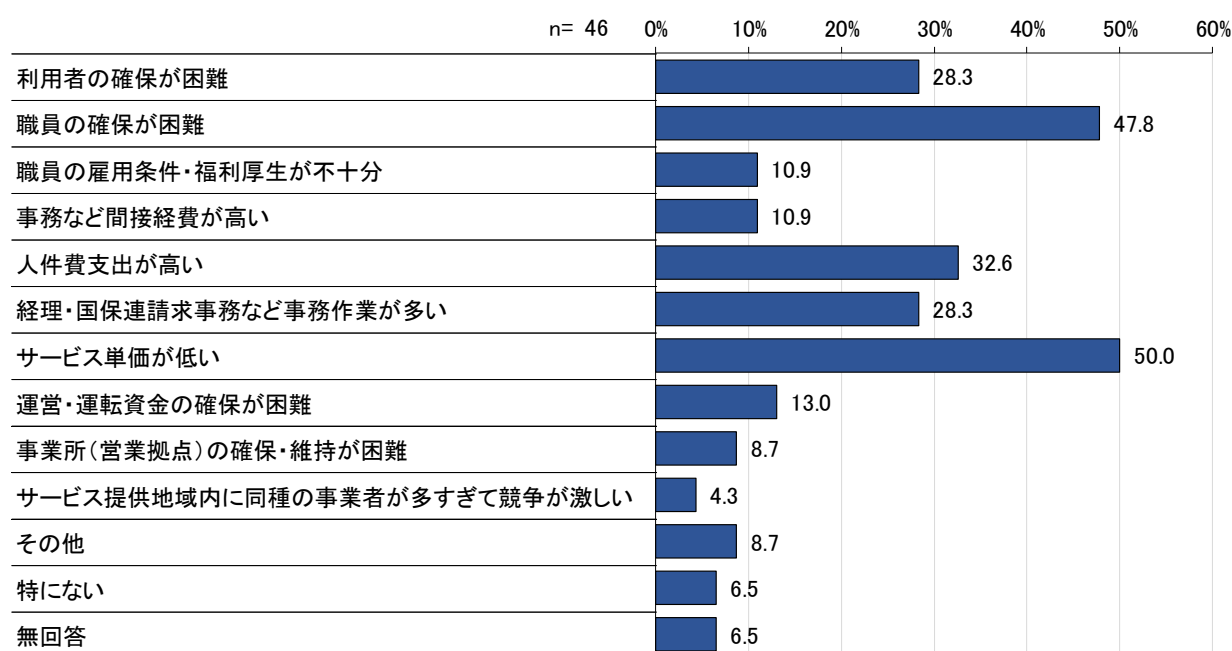
(9)事業運営上の問題点・課題

問 11 事業運営上の問題点・課題はありますか

(〇はいくつでも)

事業を運営する上での問題点・課題については、「サービス単価が低い」が 50.0%で最も高く、「職員の確保が困難」(47.8%)も半数近くを占めています。次いで「人件費支出が高い」(32.6%)、「利用者の確保が困難」「経理・国保連請求事務など事務作業が多い」(各 28.3%)が挙げられています。

また、「運営・運転資金の確保が困難」(13.0%)、「職員の雇用条件・福利厚生が不十分」「事務など間接経費が高い」(各 10.9%)などは上位の項目にも関連していることから、課題は把握しているものの、事業所単位での解決の難しさがうかがえます。



2 事業展開について

(1) 今後のサービス提供の方向性

問 12 現在提供しているサービスも含め、今後のサービス提供の方向性について
お答えください

(○はひとつだけ)

今後のサービス提供の方向性については、総回答数としては「予定なし」が最も多く、次に「現状維持」が続いています。

項目別にみると、「新規」では、居宅介護・重度訪問介護・短期入所など、「拡大」では、行動支援・生活介護・共同生活援助・移動支援など、「現状維持」では、特定相談支援・短期入所・共同生活援助・就労継続支援(B型)など、「縮小」では、短期入所・日中一時支援などで回答数が多くなっています。

「廃止」では、特定相談支援(計画相談)・障害児相談支援が1件ずつ挙がっています。

「予定なし」のうち、他の項目に回答がないものは、重度障害者等包括支援・福祉型強化短期入所・宿泊型自立訓練・医療型児童発達支援・保育所等訪問支援・自立生活援助・居宅訪問型児童発達支援・共生型サービスとなっています。

(件数)

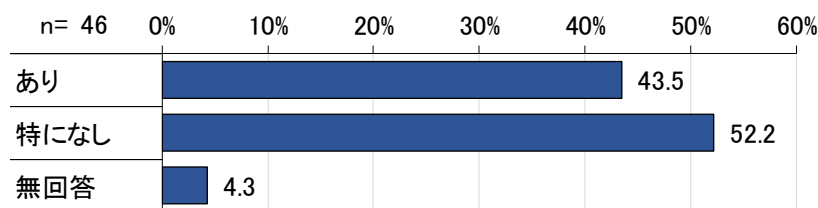
	新規	拡大	現状維持	縮小	廃止	予定なし
1 居宅介護（ホームヘルプ）	5	1	9	0	0	13
2 重度訪問介護	5	1	4	0	0	16
3 同行援護	0	0	2	0	0	23
4 行動援護	0	5	1	0	0	19
5 重度障害者等包括支援	0	0	0	0	0	24
6 短期入所（ショートステイ）	2	0	15	2	0	11
7 福祉型強化短期入所	0	0	0	0	0	24
8 生活介護	0	7	12	0	0	10
9 療養介護	0	2	0	0	0	23
10 自立訓練（機能訓練）	0	0	1	0	0	24
11 自立訓練（生活訓練）	0	2	3	0	0	22
12 宿泊型自立訓練	0	0	0	0	0	24
13 就労移行支援	0	0	6	0	0	20
14 就労継続支援（A型）	0	0	2	0	0	23
15 就労継続支援（B型）	1	2	13	1	0	13
16 施設入所支援	0	0	7	0	0	20
17 共同生活援助（グループホーム）	1	6	14	0	0	10
18 日中サービス支援型共同生活援助	2	2	0	0	0	20
19 地域活動支援センター	0	0	9	0	0	16
20 移動支援	1	5	8	0	0	12
21 日中一時支援	0	0	13	2	0	12
22 特定相談支援（計画相談）	0	3	16	1	1	11
23 一般相談支援（地域移行支援）	0	2	9	0	0	16
24 一般相談支援（地域定着支援）	0	1	10	0	0	16
25 児童発達支援	0	0	3	0	0	22
26 医療型児童発達支援	0	0	0	0	0	24
27 放課後等デイサービス	0	2	8	0	0	18
28 保育所等訪問支援	0	0	0	0	0	24
29 福祉型障害児入所施設	0	0	2	0	0	24
30 医療型障害児入所施設	0	0	2	0	0	23
31 障害児相談支援	0	2	11	0	1	15
32 就労定着支援	0	0	8	1	0	17
33 自立生活援助	0	0	0	0	0	23
34 居宅訪問型児童発達支援	0	0	0	0	0	24
35 共生型サービス	0	0	0	0	0	24

(2)新規参入・拡大を検討したサービス

問 13 直近3年間で、新規参入・拡大を検討したサービスはありますか

(○はひとつだけ)

直近3年間で新規参入や事業拡大を検討したサービスについては、43.5%が「あり」、52.2%が「特になし」と回答しています。



(3)新規参入・拡大にあたっての課題や問題点

問 13-1 【1. ありと答えた方】

サービスの新規参入・拡大を考えた、サービスの種類

サービスの新規参入・拡大にあたっての、課題や問題点

(○は3つまで)

新規参入・拡大を検討したサービスの種類については、「特定相談支援(計画相談)」が6件、「居宅介護」「行動援護」「就労定着支援」が5件、「重度訪問介護」「共同生活援助」「移動援護」など、3件が挙げられました。

新規参入・拡大を検討したサービスの課題や問題点については、居宅介護と行動援護では、「事業運営の採算性」「人員体制の確保」が各5件、特定相談支援(計画相談)では、「事業運営の採算性」が6件となっており、人的にも資金的にも、財源の確保が重要視されていることがうかがえます。

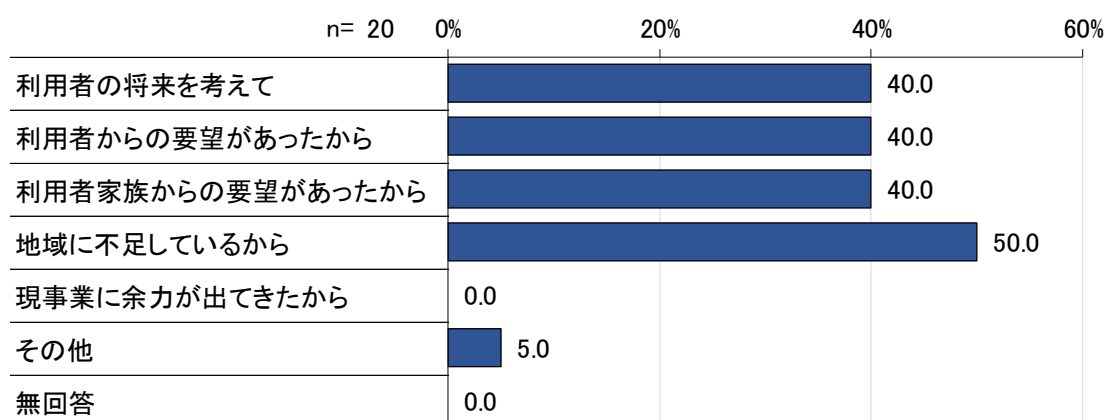
新規参入・拡大を検討したサービス	回答数	課題や問題点	回答数
居宅介護(ホームヘルプ)	5件	事業運営の採算性 人員体制の確保 その他	5 5 5
重度訪問介護	3件	事業運営の採算性 人員体制の確保 その他	3 3 2
行動援護	5件	事業運営の採算性 人員体制の確保	5 5
生活介護	2件	事業運営の採算性 利用者の確保 指定・運営の基準のクリア 人員体制の確保 事業に合う物件(土地・建物)の確保 その他	1 1 1 1 1 1
療養介護	1件	利用者の確保 人員体制の確保	1 1
自立訓練(生活訓練)	1件	事業運営の採算性 初期投資の負担 利用者の確保 指定・運営の基準のクリア 事業に合う物件(土地・建物)の確保	1 1 1 1 1
就労継続支援(B型)	2件	事業運営の採算性 初期投資の負担 利用者の確保 人員体制の確保 その他	1 1 1 1 1
共同生活援助(グループホーム)	3件	人員体制の確保 事業に合う物件(土地・建物)の確保	2 1
移動支援	3件	事業運営の採算性 人員体制の確保	3 3
特定相談支援(計画相談)	6件	事業運営の採算性 初期投資の負担 指定・運営の基準のクリア 人員体制の確保	6 1 2 2
放課後等デイサービス	2件	事業運営の採算性 初期投資の負担 利用者の確保 指定・運営の基準のクリア 人員体制の確保 事業に合う物件(土地・建物)の確保	1 1 1 1 2 1
就労定着支援	5件	事業運営の採算性 人員体制の確保 その他	1 4 1

問 13-2 【1. あり と答えた方】

サービスの新規参入・拡大を考えたきっかけは何ですか

(〇はいくつでも)

サービスの新規参入や事業の拡大を考えたきっかけについては、「地域に不足しているから」が50.0%と最も高く、次いで「利用者の将来を考えて」「利用者からの要望があったから」「利用者家族からの要望があったから」(各40.0%)となっています。「現事業に余力が出てきたから」の回答は0%でした。

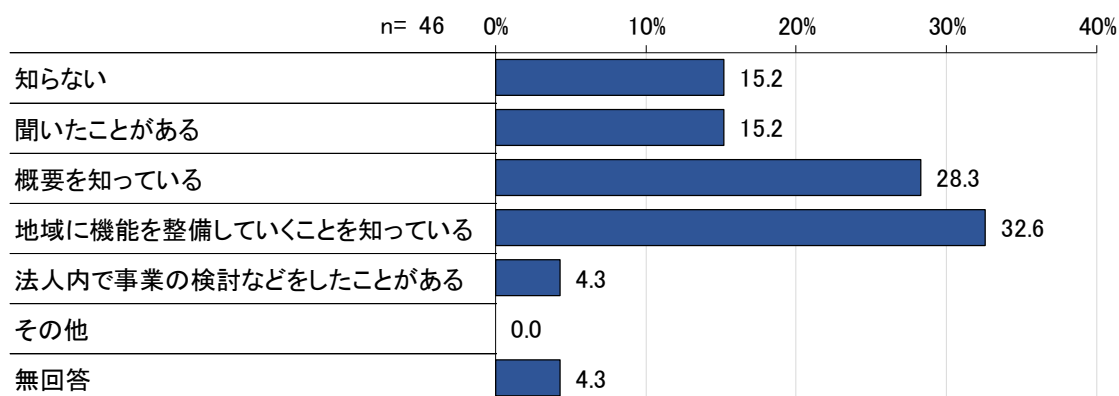


(3) 地域生活支援拠点の認知状況

問 14 地域生活支援拠点を知っていますか

(〇はひとつだけ)

地域生活支援拠点の認知状況については、「地域に機能を整備していくことを知っている」が32.6%で最も高く、次いで「概要を知っている」(28.3%)、「聞いたことがある」「知らない」(各15.2%)、と続いています。一方、「法人内で事業の検討などをしたことがある」の割合は4.3%にとどまっています。

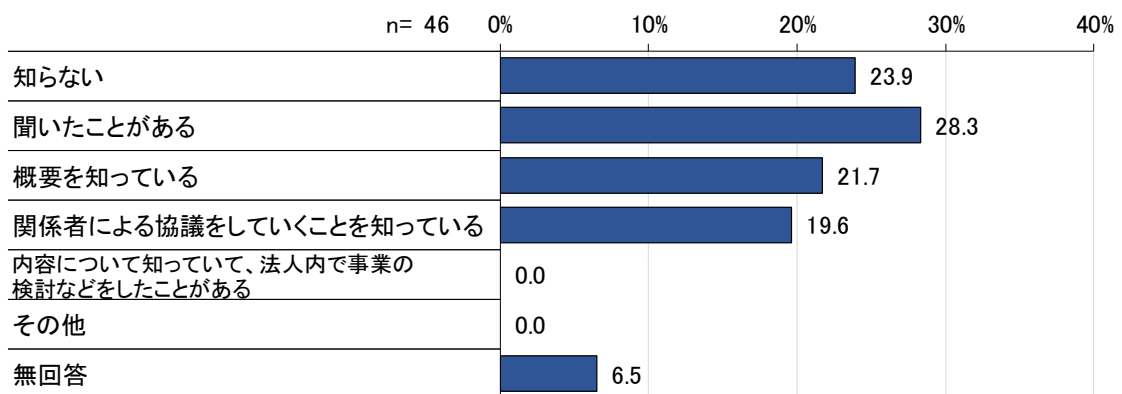


(4) 地域生活支援拠点の認知状況

問 15 令和2年度末までに、市町村が「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の協議の場を設置することを知っていますか

(○はひとつだけ)

今年度末までに市町村が「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の協議の場を設置することの認知状況については、「聞いたことがある」が28.3%と最も高く、「知らない」(23.9%)、「概要を知っている」(21.7%)、「関係者による協議をしていくことを知っている」(19.6%)の順となっています。

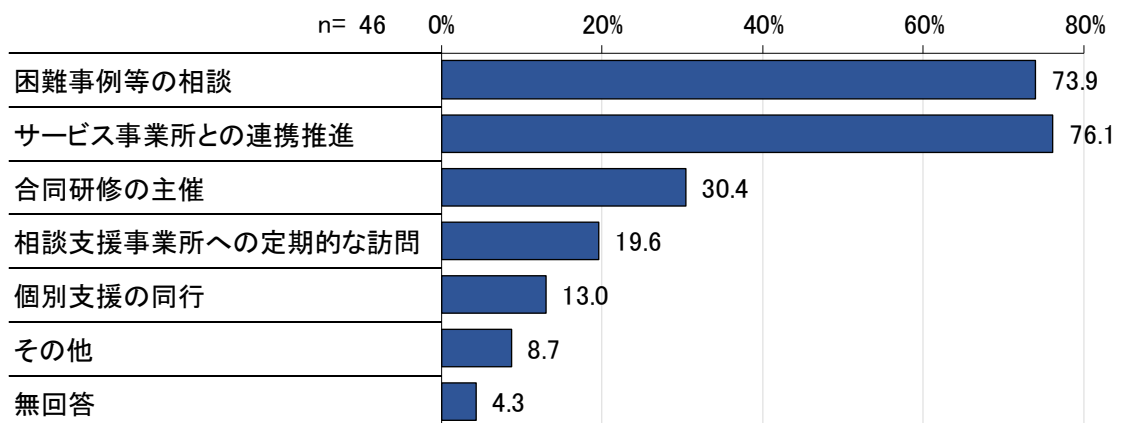


(5) 地域生活支援拠点の認知状況

問 16 地域における相談支援の中核的な役割を担う機関として、総合的な相談支援や地域の相談機関との連携強化等を担う「基幹相談支援センター」について、期待することはありますか

(○はいくつでも)

基幹相談支援センターに期待することについては、「サービス事業所との連携推進」(76.1%)、「困難事例等の相談」(73.9%)が7割を超えていて、大きな枠での連携が重要視されていることがうかがえます。

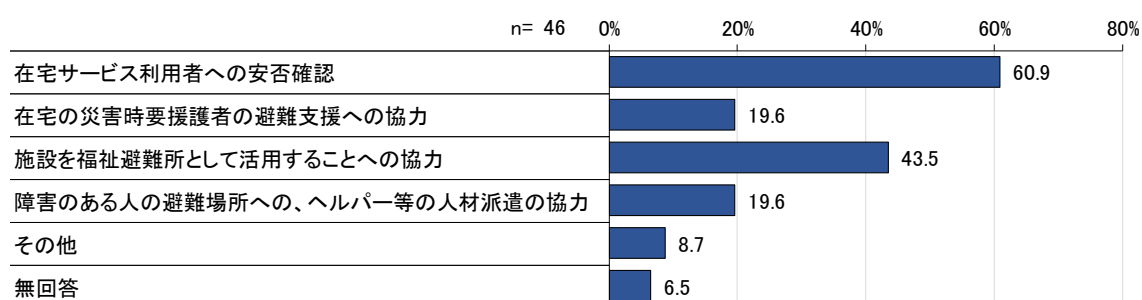


(6)災害時に協力できること

問 17 災害時に事業所として協力できることはありますか

(〇はいくつでも)

災害時に事業所として協力できることについては、「在宅サービス利用者への安否確認」が60.9%と最も高く、次いで「施設を福祉避難所として活用することへの協力」(43.5%)、「在宅の災害時要援護者の避難支援への協力」「障害のある人の避難所への、ヘルパー等の人材派遣の協力」(各 19.6%)となっています。



3 一般就労・地域移行への取り組みについて

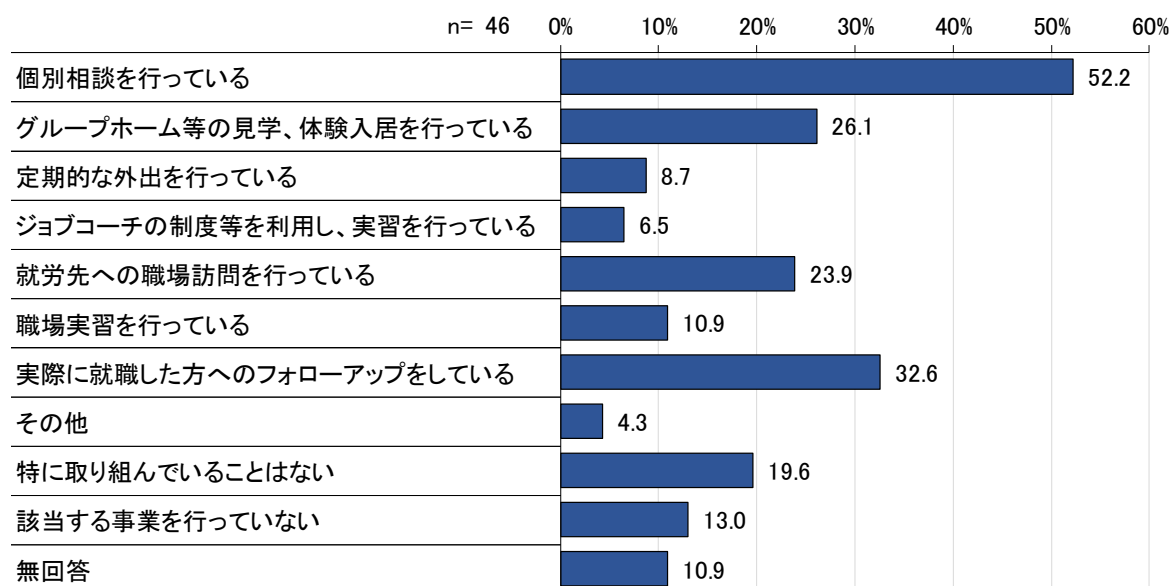
(1) 利用者意識を高めるための動機付け

問 18 一般就労及び地域移行に向けて、利用者の意識を高めるための動機付けについて取り組んでいることはありますか

(○はいくつでも)

一般就労・地域移行に向けて取り組んでいることについては、「個別相談を行っている」が52.2%と最も多く、次いで「実際に就職した方へのフォローアップをしている」(32.6%)、「グループホーム等の見学、体験入居を行っている」(26.1%)、「就労先への職場訪問を行っている」(23.9%)となっています。

その一方で、「特に取り組んでいることはない」(19.6%)、「該当する事業を行っていない」(13.0%)も1割以上の回答が寄せられています。

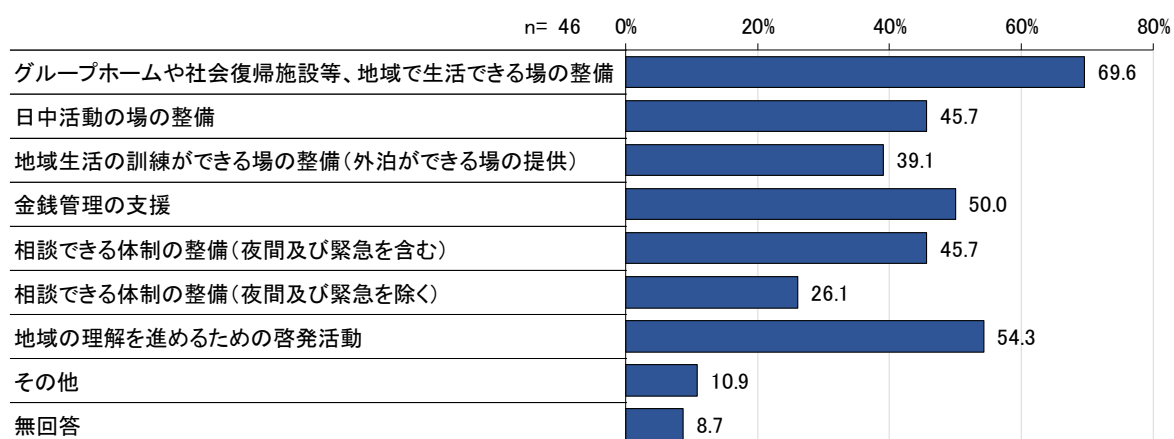


(2) 地域移行に向けての必要条件

問 19 地域移行に向けて、必要な条件は何だと思いますか

(〇はいくつでも)

地域移行に向けて必要だと思う条件については、「グループホームや社会復帰施設等、地域で生活できる場の整備」が 69.6%と最も高く、続く「地域の理解を進めるための啓発活動」(54.3%)、「金銭管理の支援」(50.0%)も5割を超える回答となっています。

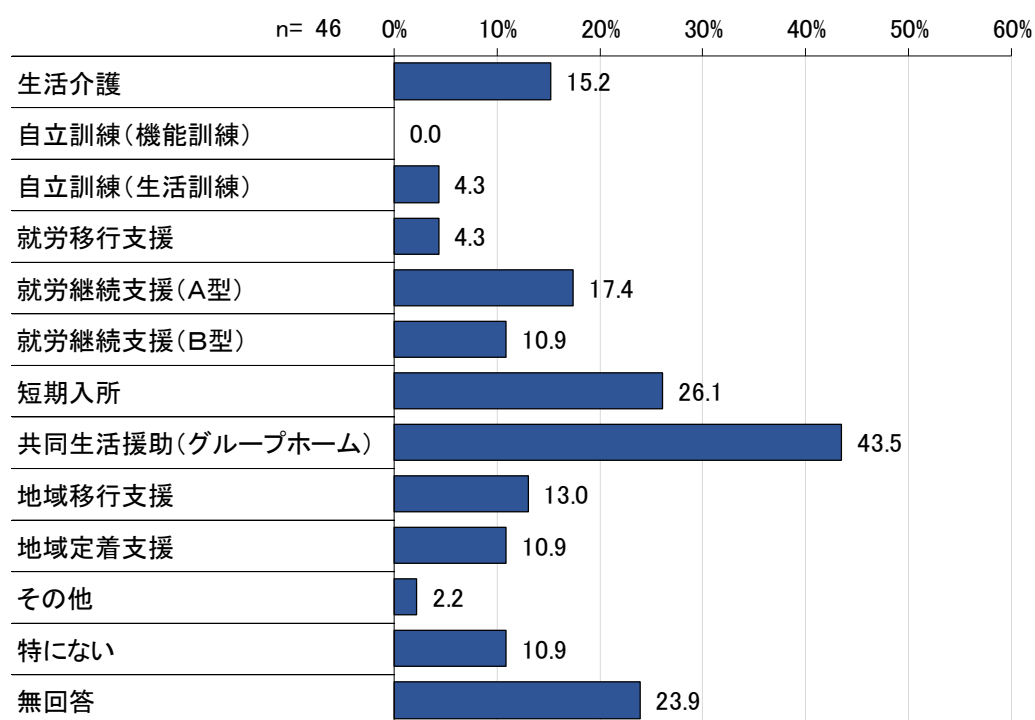


(3) 町内に不足していると感じるサービス

問 20 利用者の一般就労及び地域移行に向けて、貴事業所から見て、町内に不足していると感じるサービスはありますか

(○は3つまで)

一般就労・地域移行に向けて町内に不足していると感じるサービスについては、「共同生活援助(グループホーム)」が43.5%と最も高く、「短期入所」(26.1%)、「就労継続支援(A型)」(17.4%)、「生活介護」(15.2%)の順に続いています。



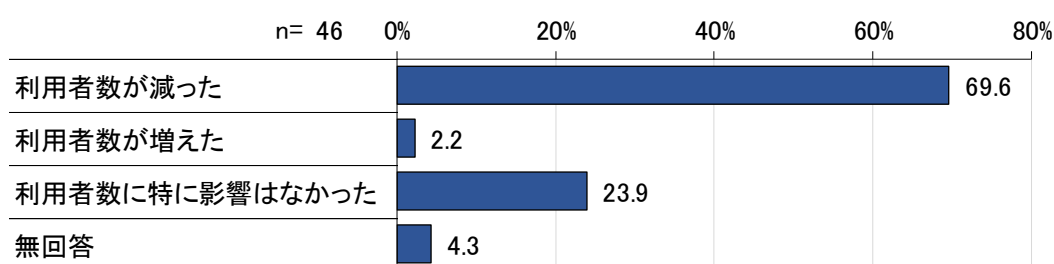
4 新型コロナウイルス感染症の影響について

(1) 利用者数への影響

問 21 新型コロナウイルス感染症拡大により、令和2年2月～5月までの間の利用者数に影響はありましたか

(○はひとつだけ)

新型コロナウイルス感染拡大による利用者数への影響については、「利用者数が減った」が69.6%と7割近くになった一方、「利用者数に特に影響はなかった」も23.9%と、一定のサービス利用が行われたという結果となっています。

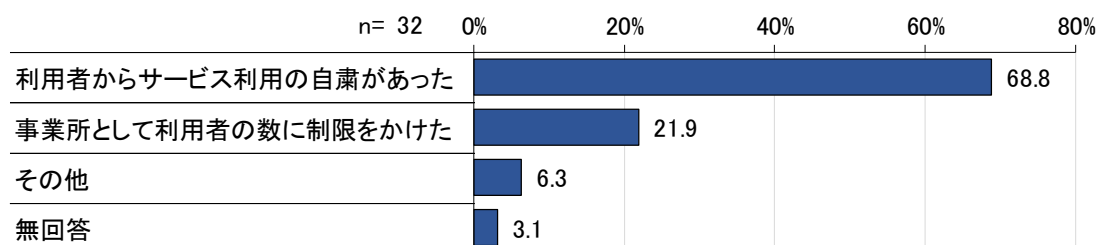


(2) 感染症拡大による利用者数への影響

問 22 【1. 利用者数が減ったと答えた方】
理由として考えられるものはどれですか

(○はひとつだけ)

利用者数が減った理由として考えられるものについては、「利用者からサービスの自粛があった」が68.8%と7割近くを占めており、「事業所として利用者の数に制限をかけた」は21.9%にとどまっています。

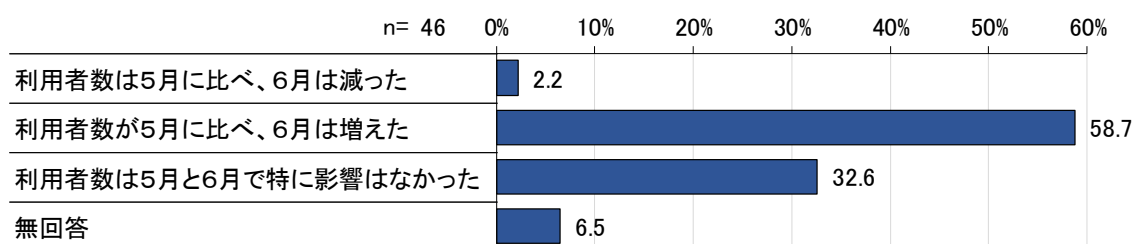


(3) 緊急事態宣言解除後の影響

問 23 緊急事態宣言が解除されたことで、令和2年5月に比べて、6月の利用者数に影響は出ましたか

(○はひとつだけ)

緊急事態宣言の解除の、6月の利用者数への影響については、「利用者数が5月に比べ、6月は増えた」に58.7%の回答が寄せられた一方で、「利用者数は5月と6月で特に影響はなかった」も32.6%と、一定のサービス利用が継続されていたことがうかがえます。

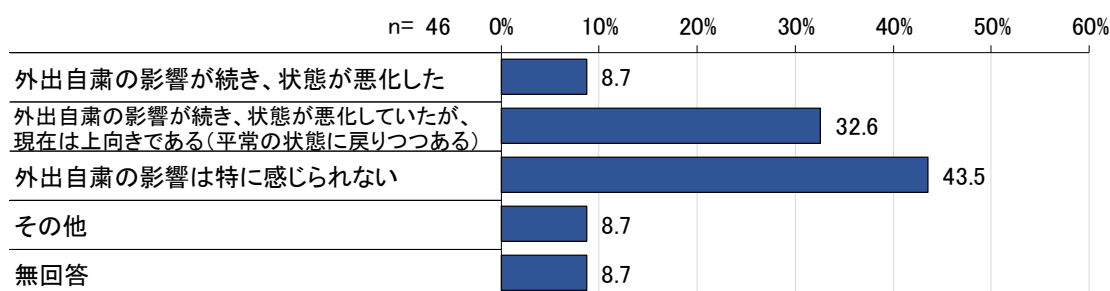


(4) 利用者の状態の変化

問 24 利用者の状態に変化がありましたか

(○はいくつでも)

利用者の状態の変化については、「外出自粛の影響は感じられない」が43.5%、「外出自粛の影響が続き、状態が悪化していたが、現在は上向きである」が32.6%、「外出自粛の影響が続き、状態が悪化した」が8.7%となっています。



状態が悪化した利用者の割合(平均値)

外出自粛の影響が続き、状態が悪化した

→利用者全体の 1.4割 程度

外出自粛の影響が続き、状態が悪化していたが、現在は上向きである(平常の状態に戻りつつある)

→利用者全体の 4.8割 程度

V 自由記述まとめ

1 自由記述のまとめについて

自由記述についてはすべての調査の総数で 193 件の記述がありました。

各回答を回答内容により分類し、主な意見を以下に整理しています。

なお、回答内容の分類に関してはひとつの意見の中にいくつかの趣旨のご意見を記述していただいていることもあるため、複数の分類を行っています。

したがって、分類した意見の件数の合計は、自由記述に回答のあった 193 件を上回っています。

また、回答者の意見を尊重して原文のまま記載しています。

(件数)

分類	計	障害のある方				一般 町民
		内訳				
		身体障 害者手 帳の所 持者	療育手 帳の所 持者	精神障 害者保 健福祉 手帳の 所持者	自立支 援医療 受給者	
1 経済的負担の軽減、経済的支援の充実	18	12	2	4	0	0
2 医療環境の充実	4	1	1	2	0	0
3 就労支援の充実、就労環境の向上	7	1	1	2	2	1
4 就学支援の充実、教育環境の向上	6	1	1	0	1	3
5 移動支援の充実、外出環境の向上	50	31	3	8	6	2
6 日常生活への支援（買物、住まいなど）	9	6	0	2	0	1
7 在宅で利用できる支援サービスの充実	3	2	0	0	0	1
8 入所系サービスの充実	7	2	3	1	1	0
9 障害に対する理解の促進、地域での支え合い	29	5	3	2	4	15
10 介護者への支援の充実、親亡き後への不安	5	1	2	1	0	1
11 行政への要望	45	22	5	5	7	6
12 支援情報の周知の強化、役場の対応の向上	22	13	0	3	6	0
13 相談支援体制の整備	14	4	4	3	2	1
14 その他	72	42	4	12	7	7
分類した件数	291	143	29	45	36	38

1：経済的負担の軽減、経済的支援の充実

18 件

【主な意見】

区分	回答内容	年齢	性別
身体	常に障害者と居る必要があるため、子供の預り、通園補助などの経済的な援助を充実してほしい。	0～5 歳	女性
身体	聴力障害 6 級の認定者です。補聴器が無いと全く不自由な生活です。現在補聴器を着装しておりますが、メンテナンスそして購入には、私にとって非常に経済的負担が重く懸かってっております。北欧諸国では随分援助が優遇されているようです。そのような優遇措置が充実してくると本当に助かります。	65～74 歳	男性
身体	以前は、医療費の控除が、あったが、なくなってしまった。	65～74 歳	男性
知的	もう少し障害者の給付金を増やしてほしいです。	40～49 歳	男性
精神 (手帳)	私達夫婦は 2 人共障害者なので、よく「お金は平気なの？」とか聞かれることが多いです。葉山町は子供のいる家庭には手厚いと聞くのですが、私達のように、子供が持てなくても、2 人で暮らしていけるように安心な経済的な支援があればと思います。今のところ生活は安定していますが、出来れば障害者に対する賃金を優遇していただけると助かります。	40～49 歳	女性
精神 (手帳)	残念なのは、交通費の補助や、手帳の級に応じて受け取れる手当てが近隣の市に比べて少ないことです。	30～39 歳	女性

2：医療環境の充実

4 件

【主な意見】

区分	回答内容	年齢	性別
身体	リハビリ病院で、リハビリを続けてたら、もっと姉はできることが多かったと思います。お金を出せば、リハビリを続けられるようにしてほしいです。在宅では介護できないので。今は、特養に入居して、週 2 回 30 分のリハビリはしていますが、リハビリが少なくなることで、できていたことが、段々できなくなるのを見ていてつらいです。	60～64 歳	女性
精神 (手帳)	葉山町はどうしても病院が少ないです。1 件でもいいので、産婦人科や精神科が増えると良いと思います。	30～39 歳	女性
精神 (手帳)	葉山町は、神奈川県内の他地域と比べて、障害者施策が遅れているという印象がある。例えば、医療機関が極端に少なく、医療費補助も充実していない。	40～49 歳	男性

3：就労支援の充実、就労環境の向上

7 件

【主な意見】

区分	回答内容	年齢	性別
精神 (手帳)	障害があっても介助があればできる仕事もあるので仕事、仕事場の確保、職場の理解が欲しい。	65～74 歳	男性
精神 (自立)	精神病を抱えながら、子育てをしているが、子供を気軽に、安心して預けられる所が少ない為、自身の就労支援に思うように通えない現状がある。	40～49 歳	女性
精神 (自立)	個人としてはとても働きたいと願っておりますので何かしらの形で障害者が働ける場があれば、と思います。業務委託のような在宅でネット環境があれば可能な作業などがあればかなり就業できる人たちが広がるのでは、と思いました。	無回答	無回答
一般	私は 60 歳まで、公立高校の教員をしていました。障害者といっても、身体障害者、知的障害者、精神障害者とそれぞれ対応が違って来るのかと思います。軽度の発達障害がある生徒も入学していたこともありましたが、問題はやはり卒業後の「出口」の確保だなあと感じていました。働くことが出来る障害者の場合、障害者に理解のある経営者・同僚に囲まれて、障害の程度に応じて働ければ、生き生きと安心して日々の生活が送れるのではないかと思います。職場の確保が民間企業だけでは難しいかもしれません。ポイントは「障害者に理解のある経営者・同僚」だと思います。必要なのはわかるのですが、どうすれば増やせるのか中々思い付きません。障害者に対する「差別意識」というものは、数十年前に比べたら大きく変わってきたと思います。むしろ障害者の権利を主張し過ぎる人のニュースが気になることがあるほどです。思っていることを羅列しました。	65～74 歳	男性

4：就学支援の充実、教育環境の向上

6 件

【主な意見】

区分	回答内容	年齢	性別
一般	障害者の特性にあった学校や職を見つけてあげ伸ばしてあげることもできたら良いと思う。	50～59 歳	女性
一般	教育や生活、サービスなど選べることが重要かと思います。例えば、教育では、どのような学びの場が適しているかは、1 人 1 人異なりますので、選択肢が充実していることは、より適した教育が受けられると思われます。	60～64 歳	女性
一般	私自身は、発達障害の子供達に学習支援をしておりますが、全部の事はうまく出来なくても、特定の分野においては、輝くものを持っている生徒さんが沢山おられます。そうした子供一人一人の個性をきちんと伸ばしてやることの出来る仕組みを作っていく事が重要かと思います。現在の葉山町の障害者施策の現状について（特に発達障害児の学習支援など）については、詳しくは存じ上げませんが、グレーゾーンの子供を含めればかなりの数の子供が支援を必要としていると思われますので今後そうした分野の充実を図っていく必要があると考えております。	50～59 歳	男性
知的	言葉が話せなく、学校生活支援が必要な子が、支援級とことば、きこえの教室どちらかしか利用できないのは、少し不便な気がします。病院の言語聴かく士の先生もなかなか通えないので	6～11 歳	女性

5：移動支援の充実、外出環境の向上

50 件

【主な意見】

区分	回答内容	年齢	性別
身体	公衆トイレの洋式化	75 歳以上	女性
身体	バス乗降の時縁石の所へ停車して欲しいです	75 歳以上	男性
身体	高齢で障害を持っていると病院通いが多くなり交通手段が一番困る事です。タクシー券をいただいておりますので大変助かってますが、病院を往復すると現在の券数ではすぐに不足してしまいます。申請してもうすこし多くいただくと助かります。	75 歳以上	女性
精神 (手帳)	路線バスの本数を増やしてほしい。路線バスの本数が増えないのであれば、葉山町でコミュニティーバスの様なものを運行してほしい。	50～59 歳	男性
精神 (自立)	葉山は道巾の狭い所が多く、歩行者用に路側帯なる緑色のペンキを塗っているが、道路の両端は雨水排水のため、勾配がつけられている。ペンキは雨等にぬれるとすべりやすく、危険。又、マンホールや排水ますも、鉄製ですべりやすい。車椅子や歩行器等の前輪は小さく、自由に首を振る作りになっている。低速で進むと、傾斜のある道路や段差のある場所では、前輪が違う方向を向いてしまい大変あぶない。	無回答	無回答
一般	先ずは通行しやすい道に整備していただきたいです。	60～64 歳	女性

6：日常の生活への支援（買物、住まいなど）

9 件

【主な意見】

区分	回答内容	年齢	性別
身体	手話通訳者派遣が大事です。	50～59 歳	男性
身体	ボランティアの方が居て下さると助かります。	75 歳以上	女性
一般	障害にもさまざまな障害があると思います。私が思うのは、ある程度日常生活活動ができるような障害者への自立支援に力を入れ、親がいなくなっても生活できるのが理想です。	30～39 歳	女性

7：在宅で利用できる支援サービスの充実

3 件

【主な意見】

区分	回答内容	年齢	性別
身体	将来、障害が重くなり、1 人暮らしとなった時でも、できれば自宅で生活したいと考えています。日常生活のヘルパーさん、往診して下さる医師、看護師がいてくれたらいいのですが。	50～59 歳	女性
一般	放課後デイサービスも知らない方が多いかと思います。教職などを大学や専門学校で学んだ方などは知っていると思われますが、現状として町でのデイサービスは少ないと思います。	30～39 歳	女性

8：入所系サービスの充実

7 件

【主な意見】

区分	回答内容	年齢	性別
身体	年金で入居できるシェアハウスの様な所があれば年金の多い少ないと問わずに入居できて、3 食食事が出来て（昼は弁当等）風呂が入れて部屋が（広い方が良いが）あって（住居）土日祝休みでウイークデーは働いてと、そういう所が良いと思うね	65～74 歳	男性
知的	葉山町に入所の施設やグループホームが増えると嬉しい	50～59 歳	男性
精神 （手帳）	今まで障害者施設の利用を行ったことがないので家族の助けにたよっているか、家内も高齢なので、いずれ葉山町のお世話になることは明白である。施設の充実を願っている	75 歳以上	男性

9：障害に対する理解の促進、地域での支え合い

29 件

【主な意見】

区分	回答内容	年齢	性別
身体	私は生まれた時からずっと葉山町で過ごしています。不便だな・不安だな・困ったな…。といった事はあまりないです。障害者に対する生活の充実や配慮もしっかりしていただいているので、私は暮らしやすい環境です。葉山町は小さな町ですが、良い人がたくさんいて、自分が困った時は、笑顔で助けてくださった事がいくつかあり、とても感謝しています。聴覚障害（者）を持っている人は少ないと思いますが、少しでも“手話”を知って頂けたら、嬉しいなと思っています。また、聴覚障害は、目で見て分かるような障害ではないので、もし、困っている人がいたら、助けてあげるような環境にしていけたら良いなと心から願っています。これからも宜しくお願いします！！	18～19 歳	女性
知的	葉山町における障害者（障害者手帳）の割合は大変少ない。このため、地域の方は、障害者（特に知的、精神等）を見た事がない人も多い。視覚障害の人は、どういう時に困るのか？知的障害（発達障害等）はどういった障害か？等、よく理解してもらうには、各障害者団体が定期的に集まり、話し合う場を持たないと、良くなれないと思う。	20～29 歳	男性
精神（自立）	「障害者」の定義がわからない。町にどのくらいの障害者がおられ、どのような生活をしておられるのか情報がない。情報と接点がないので無関心になってしまう。	40～49 歳	女性
精神（自立）	支援する人に対する差別をなくして円滑なサービスが行えるよう、ヘルプマークの付けた方への理解と周知が必要だと感じました。	40～49 歳	女性
一般	障害のある方々の声をききたいです。具体的な体験（嬉しかった、困った等）や必要とする物、必要とすることがもっと知ることができたらと思います。	50～59 歳	女性
一般	町としての情報があまりなく、関心のある方のみ活動されていると思います。町全体で啓もう活動を進めて皆が住みやすい町になります様願って居ります。	65～74 歳	女性
一般	今迄、正直云って障害者の方について考えた事がなかった。しかし、今回のアンケートでこれから注意して、まわりを見まわす等、考えて行きたいと思いました。葉山町の取り組みを見ていきたいと思っています。	65～74 歳	女性

10：介護者への支援の充実、親亡き後への不安

5 件

【主な意見】

区分	回答内容	年齢	性別
精神（手帳）	父母が老令期にあり、今後の生活に不安があります	40～49 歳	男性
一般	ご家族のケアも大切と思う。	50～59 歳	女性

11：行政への要望

46 件

【主な意見】

区分	回答内容	年齢	性別
身体	難聴者ですが、町内放送や駅など公共の放送が聴き取りづらく、災害時は不安。	30～39 歳	女性
身体	民生委員（町内会）でしっかり目くばりし、コミュニケーションを取っておられる人、適当にやっている人、差がありすぎる。それは、町、県国の方に問題があると思うが、何も求めることもせずしっかり役割をはたしている、人もいます。ほとんど、何もしない人もいます。やればやる程、たいへんだから手抜きする。やらされている？民生委員の存ざいの重要性、そしてもう少し手当を出す事…。	75 歳以上	女性
知的	土・日など休日に集まって、「散歩の会」とか「折り紙教室」と「バドミントン教室」etc を作って欲しい	50～59 歳	女性
精神（手帳）	当アンケートの結果、改善される点を、明確に公表して欲しい。	40～49 歳	男性
精神（自立）	このアンケートは、とても回答しにくい形式だと思います。私は福祉職として働いていますがこのアンケートからは病気や障害に対する基本的なスタンスが少しズレているように感じます。例えば問 36～「今後 3 年以内の利用予定」とありますが、病気や障害はいつ起きるか分かりません。予定を聞かれたとしても「分かりません」と答えるしかないのではないのでしょうか。「障害」は特別なことではなく、いつ自分に生じるか分からない「自分のこと」として考える必要があるという当たり前の前提がこのアンケートから見て取ることができず、とても残念です。“ご自分が、障害がある状況になったとき、どのようなサービスが必要ですか？”や“どんな気持ちになって、どんなサービスが必要になると思いますか？”など実際にあるサービスとからめて問いを作るなどの工夫があれば良かったのかと思います。	30～39 歳	女性
一般	葉山町議員の皆さんがどのように関わっているのかを知りたいです。（議会以外の場で）	50～59 歳	女性
一般	障害者施策の向上を目的として行動を起こしているのはすばらしいと思います。しかし、行動を起こすことが目的なり、やるだけで満足していませんか？私にはそのように見えました。例えば、こんなにもペーパーレスが主流になっているのに、紙でアンケートをとるのはおかしいと思いませんか？もしくは、思っただけでもだれも何も言いたくないのはひどいと思います。必要な情報を扱いやすい形で入手するのはあたり前です。インターネットを使えば、回答も集計も今までより簡単に行えます。アンケートの質も上がるのではないですか？紙での回答を集計するのに、時間や税金をかけるのはアホらしいとは思いませんか？このようなことに対して疑問を持たなかったり、疑問を持っても改善しようとしらない人達が、本当に障害者施策を改善できるのでしょうか？	20～29 歳	男性
一般	障害には身体障害も精神障害も発達障害も含まれてしまっていますが、これらはまったく異なる対応が求められるのではないかと思います。また障害の程度という側面も大きく、行政や社会の対応等を考えるにあたり、整理が必要ではないかと感じました。	60～64 歳	男性
一般	障害者福祉ばかりでなく、バランスの取れた福祉行政と地に足がついた向上をお願いします。町民のベクトルを 1 つにするためにも、葉山ならではのスローガンは出来ませんか？	75 歳以上	男性

12：支援情報の周知の強化、役場の対応の向上

22 件

【主な意見】

区分	回答内容	年齢	性別
身体	障害者と認定された方に対して行政はもっと積極的な訪問やサービスの説明をしてほしい。	75 歳以上	女性
身体	介護保険サービスとの区別がわかりづらい。（車イスや介護ベッドの購入はどちらの制度にするのか等）	75 歳以上	女性
身体	葉山町で頑丈な建物は小学校の体育館だけですよね 咄嗟の場合はどこへ行けば良いのでしょうか？	75 歳以上	男性
精神 （手帳）	障害者施策の現在の内容が良くわからない。	65～74 歳	男性
精神 （手帳）	いろいろな情報をわかりやすく知らせてほしい。こんな申請をするとこんなサービスが受けられるとか免除や特典があるとか…	60～64 歳	男性
精神 （自立）	アンケートは、只、“聞く、問う”だけでなく（特に病気や福祉に関する事柄であれば）周知・啓発という 1 つのツールとしても活用して頂きたいと感じます	30～39 歳	女性
精神 （自立）	“葉山町の障害者施策”に関してほとんど何も知る機会は今のところありません。“障害者”とはどういった方を対象としているのかも分かりません。葉山町の“障害者”に関する状況ですとか何が課題なのかも知りません。何が問題なのか知る機会があれば住民として考えたいと思います。	40～49 歳	女性

13：相談支援体制の整備

14 件

【主な意見】

区分	回答内容	年齢	性別
身体	障害者が不安をいだかず心おだやかに生活出来る様行政との窓口が開かれている事	65～74 歳	女性
身体	今は一人で何事も出来ていますが後何年か後に一人で病院に行けなくなったり、食事を作るのが出来なくなった場合 子どもはおりますが その他の力が必要になると思います。今からでは分らない所はしるしをつけませんでした。この様なことが起きた場合どこに連絡するのがよいかわかりません。	75 歳以上	女性
身体	相談窓口専門知識をもっている方が少ない。相談した時に一般的な解決でしかなく個々の問題に対応できていないと感じた。	75 歳以上	女性
精神 （自立）	今は、新型コロナのせいで色々な活動が制限されてしまい、外出の機会や地域でのコミュニティも十分ではありません。障害のある方では、オンラインなどで安否を確認するのも難しいです。直接的に当事者の方と関わることでその人のニーズが見えてくるものですので、当事者の困り事にはゆっくりと傾聴することが必要です。また、盲や聴覚障害の方は、ソーシャルディスタンスをとることで支援するわけにはいきません。	40～49 歳	女性

14：その他

72 件

【主な意見】

区分	回答内容	年齢	性別
身体	最近では、何もかも全て行政に相談という様に思われがちですが受けられない事の方が多いのではと思います。自分の事は、自分で出来る事はなるべく自分自身でと思い乍ら生活していますがどうしても出来ない時はあきらめる様にしています。必要以上に何かを求めると、外れた時のショックの方が大きいのでお願いする事もしない様に心掛けています。おかげ様で、安全に暮らしていますので求める事も余り有りません。	65～74 歳	女性
精神 (自立)	このようにアンケートを送って頂けたということで、少なからず目を向けられているのだと感じるきっかけにもなりました。感謝しております。	無回答	無回答
精神 (手帳)	施設、サービスにはとても満足しています。	30～39 歳	女性
知的	アンケートに回答したが漢字にふりがなはあったが問題が難しかった。サービスの利用をしていないと回答すると 3 年以内の理由を聞かれたがまだいつになるかを考えられないので回答が難しかった なるべく今のままの生活をして行きたいと思います	30～39 歳	男性
一般	障害者の方たちの為にもっと住みやすい社会になれるよう願っております。行政も福祉計画の改訂にとりくんでいるそうで期待しております。一人一人が何か出来るのか、皆で考えなくてはいけないと思います。	75 歳以上	女性
一般	一口に障害者といっても、多様であることと、葉山町の取りくみがわからないので、答えづらい部分も多かった。障害者だから…と手厚くするのも良いことだとは思いますが、合理的配慮がされていれば、過剰なサービスは不要と思う。	20～29 歳	女性

**葉山町障害者福祉に関するアンケート調査
結果報告書**

令和 2 年 9 月

**葉山町役場 福祉課 障害福祉係
〒240-0192 神奈川県三浦郡葉山町堀内 2135 番地
電話 046-876-1111 内線 237**

